

# FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.3



# ユーザーズマニュアル

CA92344-0641-01 2014年12月

# まえがき

### 本書の目的

本書では、サーバやストレージなどのICT機器からファシリティ機器 (PDUなど)までを統合的に管理、運用する運用管理ソフトウェアであるFUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager (以降ISMと表記)の導入手順および機能全般を説明します。

### 関連マニュアル

各ハードウェア(PRIMERGYなど)や各ソフトウェア(ServerView Operations Managerなど)のマニュアルについては、「ServerView Suite ServerBooks」、または各ハードウェアのマニュアルページを参照してください。

- ・ ServerView Infrastructure Manager V1.3 スタートガイド
- ・ FUJITSU Server PRIMERGYマニュアル

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/

#### 本書の読者

このマニュアルは、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティ管理 者およびサービス専門家を対象とします。

#### 本書の表記について

#### 表記

#### キーボード

印字されない文字のキーストロークは[Enter] や[F1] などのキーアイコンで表示されます。例えば、[Enter] は Enterというラベル の付いたキーを押すことを意味し、[Ctrl] + [B] は、Ctrl または Control というラベルの付いたキーを押しながら[B] キーを押すこ とを意味します。

#### 記号

特に注意すべき事項の前には、以下の記号が付いています。

## 関 ポイント

		 •••••	• • • • • • • • • • • • • •
ポイントとなる内容について説	明します。		



```
注意する項目について説明します。
```

### 略称

本書では、以下のとおり略称で記載することがあります。

正式名称	略称	
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	Windows Server 2012 Datacenter	Windows
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	Windows Server 2012 Standard	Server 2012
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials	Windows Server 2012 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	Windows Server 2012 R2 Standard	R2

正式名称	略称		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials	Windows Server 2012 R2 Essentials		
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter	Windows Server 2008 Datacenter	Windows	
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise	Windows Server 2008 Enterprise	Server 2008	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Windows Server 2008 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 Enterprise	R2	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 Standard		
Red Hat Enterprise Linux 7.0 (for Intel64)	Red Hat Enterprise Linux	•	
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for Intel64)	Linux		
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for x86)			

### 用語

本書で使用している主な略語および用語は次のとおりです。

略語/用語	意味
ISM	ServerView Infrastructure Manager(本ソフトウェア)。
PMS	ServerView Profile Manager Service。ISMがOSプロファイル適用時に使用するプログラム。
ВМС	Baseboard Management Controller。サーバのベースボード上に搭載され、ボードやファンなどを管理する機構。
iRMC	Remote Management Controller。BMC機能にリモート操作機能などを追加した制御機構。世代に応じてiRMC S3、iRMC S4のように名称が区別されることがある。
SVS	ServerView Suite。FUJITSU Software ServerViewシリーズのソフトウェア製品群。
SVIM	ServerView Installation Manager
SVOM	ServerView Operations Manager <sub>o</sub>
VIOM	ServerView Virtual-IO Manager <sub>o</sub>
SVFAB	ServerView Fabric Manager。コンバージドファブリックスイッチやL2スイッチを管理する。
ММВ	ブレードシャーシに搭載するマネジメントブレード。またはPRIMEQUESTに搭載されるマネジメントボード。
ETERNUS	富士通製ストレージ装置。
vCenter	VMware社が提供する仮想環境管理ソフトウェア。
SCVMM	System Center Virtual Machine Manager。Microsoft社が提供する仮想環境管理ソフトウェア。
Management LAN	iRMC用のLAN。PRIMERGYでは通常のLANコネクターとは別に専用コネクターが用意されている。
管理サーバ	ISMがインストールされているサーバを指す。
対象機器	ISMで操作する機器を指す。
HLCM	Hardware Life Cycle Manager (ISMのメンテナンス支援機能)。
リポジトリ	ファームウェアアップデートやOSインストールに必要なデータを格納するためのフォルダー。プロファ イル管理機能では対象サーバとのデータ送受信のための共有フォルダーとしても使用する。
Profile Manager	プロファイル管理機能または操作するためのGUI画面を指す。

#### 使用上の注意事項

**ISM**登録データ作成時に使用できる文字は、SVOMに準拠します。全角文字や記号("#&~|¥+\*?/;,()など)、空白は使用できません。

ただし、入力項目によっては、半角英数字、全角英数字、全角ひらがな、全角カタカナ、またはJIS第二水準漢字などを使用できます。

例えば、機器の管理ネットワークおよび管理OSのパスワードに対して、引用符(')、二重引用符('')、円記号(¥)、半角スペースを除く ASCII文字を使用できます。

#### 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子 力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療 用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接 生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではあり ません。お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様が ハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士 通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

#### 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただくためには、本製品のご使用にあたり各製品(ハードウェア、ソフトウェア)をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本製品をご使用ください。本書は本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

#### 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

#### 免責事項

本書を無断で複載・転載することを禁止します。本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も 負いかねます。本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

#### 登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および 製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat およびRed Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標 または商標です。

Intel、インテル、Xeonは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

#### 著作権表示

© Copyright Fujitsu Limited 2014 All rights reserved

# 目次

第1章 概要	
1.1 ISMがサポートする機能	
1.1.1 運用シーン別のISM機能一覧	
1.1.2 機能説明	
1.1.2.1 プロファイル管理のサポート機能	
1.1.2.2 ファシリティ管理のサポート機能	
1.1.2.3 メンテナンス支援のサポート機能	
1.2 ISMのシステム要件	
1.3 構成	
1.3.1 ハードウェア構成	
1.3.2 ソフトウェア構成	
1 4 ISM導入, 運用フロー	15
15ライヤンス	17
第2章 設計	
2.1 ログの保存容量の決定	
2.2 リポジトリ作成先の決定	
2.3 IPアドレスの設計	
2.4 機器名/プロファイル名のルール決定	
2.5 運用上の注意事項	
第3章 ISMの構築	
3.1 インストールと設定	
3.1.1 SVOMのインストール	
3.1.2 DHCPサーバ機能の有効化	
3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成	
3.1.4 ISMのインストール	
3.1.4.1 ISMのアップデートインストール	
3.1.4.2 ISMのサイレントインストール	
3.1.5 ライセンス登録	
3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール	
3.1.7 FTPサーバの設定(OS)	
3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備	
3.2.1 概要	
3.2.2 設定手順	
3.3 FTPサーバの設定(ISM)	
3.4 DHCP設定 (ISM)	
3.5 仮想環境管理ソフトの登録情報の準備	
3.6 vCenterまたはSCVMMへのホスト登録機能の利用	
3.6.1 仮想管理ソフト設定	
3.6.2 仮想管理ソフトの登録	
3.7 メンテナンス機能のための設定変更	
笠4音 ISMのコーザー () //	47
<b>第4章 ISMのエーリーインターフェース</b> 4.1 ISMの両売主デーオン(久懋能井通)	
4.1 ISMの回面衣小刀伝(佔懱肥兴迪)	/ 4/
4.2 [Facinity Manager]画面	40 40
4.2.1 [クリンユホート] クノ (宙工通Modulal Data Center (文用時のの衣小)	4۶ 50
+.4.4 [ 見]//	
+.4.4.1 [土 い///(液位) 四田(リー / ソ ハイソテノ ハドビーシノ フテシリティ(液位)	
+.4.4.4 [ノソフアイナフト]画画	
ヰ.4.4.3 [ーイノノ] 四田	5 ت
+.4.4.+ [ノソソ]凹圓	
+.4.4.5 [F118k51g]II]回回	
T.2.5 [ノノアーノー 見]アノ	05 77
ד.ב.ד [א אי – ר]א א	

4.2.5 [しきい値]タブ	
4.2.6 [インベントリ]タブ	
4.2.7 [ログ収集]タブ	
4.2.8 [仮想管理ソフトウェア情報]タブ	
4.2.9 [消費電力制御設定]画面	
4.3 [Facility Browser]画面	
4.4 [Profile Manager] 画面	
4.4.1 [ノードリスト]画面	
4.4.2 [プロファイル]画面	
4.4.3 [イベント履歴]画面	
4.5 [Setup]画面	
4.6 [Maintenance]画面	
4.6.1 [ファームウェアアップデート一覧]画面	
4.6.2 [タスクー覧]画面	
4.6.3 [共通設定] 画面	
第5章 運用	
5.1 各種DVDのデータインポート	
52機器の登録	98
5.2.1 センター情報とラックの登録	
5.2.2 Profile Managerでの機器登録	
52.21 機器検出	106
5.2.2.2 機器登録	110
5.2.2.3 登録解除	113
5.2.3 Facility Managerでの機器登録	
5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細	
5.2.4 アラームルールの設定	
5.3ファームウェア版数の確認とアップデート	
5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ	
5.4.1 プロファイルの作成および管理	
5.4.1.1 サーバ用HWプロファイルの新規作成	
5.4.1.2 OSプロファイルの新規作成	
5.4.1.3 ストレージ用HWプロファイルの新規作成	
5.4.1.4 プロファイルの操作	
5.4.2 プロファイル適用	
5.5 機器の監視・モニタリング	
5.5.1 機器ステータス/情報取得利用	
5.5.2 機器情報表示	
5.5.3レポート表示利用	
5.5.4 消費電力制御(パワーキャッピング)利用	
5.5.5 イベント履歴表示	
5.6 ログ収集機能の利用	
5.6.1 ログ収集対象機器の選択	
5.6.2 定期ログ収集開始時刻の変更	
5.6.3 ログ転送の設定(ホストOSがVMware ESXiの場合)	
5.6.4 ログ転送の設定(ホストOSがWindowsの場合)	
5.6.5 異常通報の設定	
5.6.6 FTPサーバ情報の登録	
5.6.7 通知メッセージ	
5.6.8 異常発生時の対処	
<b>5.6.9</b> ログのダウンロード	
5.6.9.1 収集したログ	
5.6.10 メッセージー覧	
5.6.11 ログ関連コマンド	
5.7 管理	
5.7.1 機器のグループ管理	
5.7.2 プロファイルのグループ管理	

第6章 保守関連操作	
6.1 サービスの起動と停止	
6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア	
<b>6.2.1</b> バックアップ	
6.2.2 リストア	
6.3 ログ情報	
6.4 機器の保守後の操作	190
6.4.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作	
6.5 機器の撤去	
付録4 メッセージー 暫	194
A1メッセージの見方	194
A 2 信報 メッセージ	194
A 2 1 11xxx	194
A.2.2 15xxx	
A.2.3 16xxx	
A.3 警告メッセージ	
A.3.1 31xxx	
A.3.2 35xxx	
A.3.3 36xxx	
A.4 エラーメッセージ	
A.4.1 51xxx	
A.4.2 52xxx	
A.4.3 55xxx	
A.4.4 56xxx	
A.4.5 58xxx	
A.4.6 75xxx	
A.4.7 95xxx	
A.5 システムログに出力されるメッセージ	
A.5.1 情報メッセージ	
A.5.2 警告メッセージ	
A.5.3 エラーメッセージ	210
付録R トラブルシューティング	211
B1メンテナンス支援機能に関するトラブルシューティング	211
B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング	
付録C アンインストール	
付録D SVIMの再インストール	
付録F プロファイル設定項目	225
「」」「「」」「」」」「」」」」」」「」」」」」」」」」」」」」」」」」」	
E.1 9 パローバ田OSプロファイルの設定項目	
E.2 / 「「1005」 ークリイルの扱ん・実日	220
E.2.1 Windows Server 2000 K2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 K2/ $\beta$ = $\gamma$ ) $\gamma$ $\gamma$	231
E 2.3 Red Hat Enterprise Linux $\exists J \exists T \exists T \exists T \forall T$	231
E.2.5 Red The Enterprise Enterp	234
E31 RAID構成タブ	
付録F プロファイル管理機能の補足情報	
F.1 プロファイル利用時の留意事項	
F.2 登録済み機器情報の変更に関して	
F.3 リポジトリフォルダーの変更	

# 第1章 概要

ISMはServerView Operations Manager(以降SVOMと表記)の機能を拡張し、データセンター/サーバルームのICT機器、ファシリティ 機器情報を容易に把握するための機能やプロビジョニング機能を提供します。

ISMはWebベースのグラフィカルユーザーインターフェースを採用し、データセンターを構成するハードウェアとソフトウェアの情報、物理的な構成を反映してグラフィカルに表示し、各機器の構成情報や動作状態の表示、サーバの設定変更などを行います。

ISMはSVOMのアドオン機能としてインストールされます。





構成要素	説明		
管理コンソール	ServerView Infrastructure Managerにアクセスするための操作用端末です。		
管理サーバ	SVOM、ISM、および関連ソフトがインストールされるサーバです。		
	ISMが構成管理、稼働監視、制御する管理対象機器です。		
	・ ICT機器		
管理対象機器	サーバ、ブレードサーバ、スイッチ、ストレージ		
	・ ファシリティ機器		
	インテリジェントPDU、インテリジェントUPS		

# 1.1 ISMがサポートする機能

ここでは、ISMの機能を説明します。

#### 運用シーンで必要とされる機能

#### 構築·導入

ICT機器の初期セットアップ、サーバのOS自動インストールなどを迅速かつ確実に行います。

- サーバ、ストレージの検出と登録
- BIOS/BMC(iRMC)設定
- OSインストール
- ファームウェアアップデート
- ETERNUSストレージ装置のRAID設定

#### 運用

ICT機器、ファシリティ機器の統合的な構成管理、稼働監視、制御を行います。

- 機器搭載位置などのハード構成の管理
- 消費電力、CPU使用率などの監視
- 機器の登録・属性変更などの履歴管理
- ログ収集
- ログのダウンロード、フィルタリング

#### 保守

ICT機器交換時の早期復旧や異常発生時の調査資料自動収集および通報を行います。

- 構築時に設定したBIOS/OSの自動復旧
- ファームウェアアップデート

#### **ISMの各機能**

ISMの機能は、大きく以下の3つに分類できます。

機能の詳細について、「1.1.2機能説明」を参照してください。

#### プロファイル管理機能

サーバやストレージのセットアップ作業を自動的に実施する機能を提供します。これらの機器の一覧表示や過去の作業履歴、設定内容を参照することでセットアップ後の機器管理も容易になります。

#### ファシリティ管理機能

データセンターを構成する各ICT機器、ファシリティ機器の構成情報参照、動作状態参照、サーバの設定変更などを行うための機能を提供します。

#### メンテナンス支援機能

ISMで管理する装置のファームウェアアップデートなどの保守作業を支援するための機能を提供します。 本機能を使用することで複数機器のファームウェア版数管理を1つの画面で行えるようになります。また、個々の装置にログインし なくても、統一したインターフェースで、様々な機器のファームウェアアップデートができます。

### 1.1.1 運用シーン別のISM機能一覧

○:機能あり

シーン	機能	プロファイル 管理機能	ファシリティ 管理機能	メンテナンス 支援機能	説明
構築	サーバ、ストレージの検 出と登録	0			ネットワークに接続されたPRIMERGYサーバ、ストレー ジを検出し、ISMの管理対象機器として登録します。
導入	BIOS設定、BMC (iRMC)設定の変更	0			機器登録した対象サーバのBIOSやBMC(iRMC)の設定を変更できます。BIOSセットアップユーティリティや

シーン	機能	プロファイル 管理機能	ファシリティ 管理機能	メンテナンス 支援機能	説明
					リモートマネージメントコントローラーでの設定と同等の 機能を提供します。
	OSのインストール	0			機器登録した対象サーバのOSをインストールできま す。また、インストールしたサーバをvCenterやSCVMM にホスト登録できます。
	ファームウェアアップ デート	0		0	対象機器のファームウェアをアップデートできます。 主にサーバのセットアップと同時にファームウェアを最 新版にアップデートする場合にプロファイル管理機能 を利用します。
	ETERNUSストレージ装 置のRAID構築	0			ETERNUSストレージ装置上で、RAIDおよびボリュー ムを作成できます。
	機器搭載位置などの ハード構成の管理		0		ファシリティ管理機能でラックやICT機器の構成をグラ フィカルに管理できます。
	消費電力、CPU使用率 などの監視		0		ICT機器ごとに消費電力などのハードウェア状態およ びCPU使用率などのソフトウェア状態をモニタリングで きます。
					消費電力を設定することで、省電力制御が可能です。
運用	機器の登録・属性変更 などの履歴管理	0	0		機器登録、解除機能を使用して、機器の追加や不要 な機器の撤去などを一括管理できます。
	ログ収集		0		ICT機器ごとのログを定期的に収集したり、異常通報したりする機能を提供します。 ログ収集機能を使用するための情報を設定することで、自動的にログ収集されます。
	ログのダウンロード、フィ ルタリング		0		ログ収集機能で収集したログは、機器ごとにアーカイ ブされ、ダウンロードできます。 また、フィルター機能を使用して、警告・異常のOSイベ ントログを表示できます。
促字	構築時に設定した BIOS/OSの自動復旧	0			機器に適用する各種設定のプロファイルとして作成し、 適用することで、機器交換作業を容易にできます。
下山	ファームウェアアップ デート	0		0	対象機器のファームウェアをアップデートします。

# 1.1.2 機能説明

# 1.1.2.1 プロファイル管理のサポート機能

プロファイル管理の機能は以下のとおりです。

機能	概要
管理対象機器の検出	ネットワーク接続された機器を検出して画面上に情報を表示します。
(自動検出、手動検出) 	DHCP設定されたサーバは自動的に検出されますが、サーバ以外の機器や固定IPア ドレスのサーバについては任意のIPアドレスを指定して手動検出します。
機器登録	プロファイル管理を行う前に、検出した機器1台ごとに名称を付けて登録し、管理可能 な状態とします。登録後の機器操作のために固定IPアドレスが必要なため、DHCP設 定のサーバに対しては固定IPアドレスの割当ても同時に行います。
プロファイル作成	機器に適用する各種の設定をプロファイルに記述します。ハードウェア環境の設定を 行うHWプロファイルとOSインストール設定を記述したOSプロファイルの2種類を作成

機能	概要
	します。事前に用意されているプロファイルを流用して新しいプロファイルを作成する こともできます。
プロファイル適用	プロファイルの内容に従って指定した機器に対し、ハードウェア設定、OSインストール、またはETERNUSアレイ構築などを行います。
Web画面呼び出し	Webブラウザを起動し、対象機器のWebベース設定画面を呼び出します。
(iRMC Webインターフェース、MMB Web ユーザーインターフェースなど)	サーバを直接操作するためにビデオリダイレクション機能を起動する場合などにも本 機能を利用できます。
機器情報、操作履歴の表示	プロファイル管理機能全体の操作ログを参照できます。また、特定機器の情報や操作 履歴も表示します。

### プロファイル管理のサポート対象機器

ここでは、プロファイル管理のサポート対象機器を説明します。 ブレードシャーシとMMBは一体で扱われるため、画面上では「シャーシ/MMB」のように表示される場合があります。

機器種類	主なサポート機能	
ラックサーバ PRIMERGY RXシリーズ	・自動/手動検出、IPアドレス設定、登録	
サーバブレード PRIMERGY BXシリーズ	・ファームウェア/BIOSアップデート	
クラウドサーバ PRIMERGY CXシリーズ	・ BIOS/BMC設定	
	・ OSインストール	
	・ iRMC Webインターフェースの呼び出し	
ブレードシャーシ(MMB)	<ul> <li>・手動検出、登録</li> </ul>	
	・ MMB Webユーザーインターフェースの呼び出し	
	<ul> <li>コネクションブレードの検出、ファシリティ管理への登録</li> </ul>	
PRIMEQUEST 2000シリーズ	・MMBの手動検出、登録	
ストレージETERNUSシリーズ	・手動検出、登録	
	・ アレイ/ボリューム構築(DXシリーズのみ)	
	・Web GUIの呼び出し(DXシリーズのみ)	

サポート製品や対応機能等の最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

### プロファイル管理機能を利用したセットアップ

プロファイル管理機能は、サーバやストレージなどの各種機器のセットアップ作業を自動的に実施する機能です。機器の一覧表示や 過去の作業履歴、設定内容を参照することでセットアップ後の機器管理も容易になります。

例えば、次の作業については機器を直接操作しなくても、ISMの画面操作だけで行えます。

- サーバのBIOS設定、iRMC設定の変更
- ・ サーバ、内蔵アレイコントローラーのファームウェア/BIOSの更新
- · OS、Hypervisorのインストール
- アレイ構築

上記作業内容を事前にプロファイルとして記述しておき、このプロファイルを各機器に適用することで指定した作業を行います。 プロファイルとは、各種設定を一括指定したものです。多数のサーバを同一内容でセットアップする場合には、1つのプロファイルを複 数のサーバに対して適用することで、作業の効率化が図れます。セットアップ後のファームウェアアップデート、または各種設定変更な どは、変更したプロファイルを再度各機器に適用することで、一括で実施できます。



### プロファイル

プロファイル管理機能では、ハードウェア設定やファームウェアアップデートの有無、OSインストール時のパラメーターなどを「プロファ イル」と呼ぶ各種定義の集合体に記述しておき、そのプロファイルを実際の機器に対して割り付けることで機器の状態を一括変更しま す。プロファイルは複数作成でき、それぞれ個別の名前を付けて管理します。対象機器1台ごとに異なるプロファイルを適用したり、1 個のプロファイルを複数の対象機器に適用したりできます。

対象がサーバの場合、ハードウェア関連の指定を行うHWプロファイル、およびOSインストールに関する指定を行うOSプロファイルの2 種類を使用して操作します。OSプロファイルを使わずにハードウェアのみを管理することもできます。ただし、OSプロファイルのみの適 用はできません。

ストレージ(ETERNUS)に対しては、HWプロファイルのみを利用します。プロファイルの内容は、サーバ用のHWプロファイルとは異なります。次のようにHWプロファイルおよびOSプロファイルは、任意の組み合わせで対象サーバに適用できます。





### プロファイル適用(ファームウェア/BIOSアップデート)

アップデートが可能なファームウェアおよびBIOSは次のとおりです。

- ・ サーバ本体(システムボード)のBIOS
- ・ サーバ本体(システムボード)のiRMCファームウェア
- サーバに搭載されるアレイコントローラーカードのファームウェア

上記は個々にアップデートすることはできません(例えばBIOSのみアップデートは不可)。

HWプロファイル中にアップデートを指示すると、プロファイル適用処理中にすべてのコンポーネントに対してアップデートが行われます。

ファームウェア/BIOSは、新しい版数に更新することはできますが、古い版数にすることはできません。

#### プロファイル適用(BIOS設定)

サーバのBIOS動作に関する設定を変更します。サーバ上でBIOSセットアップユーティリティを利用して設定する作業と同じです。 HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

### プロファイル適用(BMC(iRMC)設定)

サーバのiRMC動作に関する設定を変更します。リモートマネジメントコントローラーのWebインターフェースを利用して設定する作業と同等です。

HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

### プロファイル適用(OSインストール)

サーバに対して次のOSをインストールします。ただし、インストール先サーバおよび使用するServerView Installation ManagerがサポートしているOSのみインストール可能です。

OSプロファイルでOS種類や各種設定を記述して、プロファイルを適用することでOSのインストールが実行されます。

- Windows Server 2012 /2012 R2 (Standard/Datacenter)(Full/Core)
- Windows Server 2008 R2 (Standard/Enterprise/Datacenter)(Full/Core)
- Red Hat Enterprise Linux 6.x / 7.x
- VMware ESXi 5.5 Update1
- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2

サポートOSに関する最新の情報は弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

#### プロファイル適用(ETERNUSアレイ構築)

ストレージ装置ETERNUS DXシリーズ上で、RAIDおよびボリュームを作成できます。NRシリーズでは本機能は未サポートとなります。

#### プロファイル管理機能使用上の注意事項

プロファイル管理機能を使用する際に注意していただきたい内容を記載します。

(1) エラー発生時の対処

本ソフトウェアを操作中にエラーが発生した場合、または期待する動作結果にならなかった場合は、画面上のメッセージやアイコン などでその内容を確認し、トラブルシューティングを参照して適切な対処を行ってください。詳細は、「B.2 プロファイル管理に関す るトラブルシューティング」を参照してください。

#### (2) DHCPまたはPXEを利用するソフトウェアとの競合

管理ネットワーク内で、ServerView Resource OrchestratorやSystemcastWizardなどのDHCPやPXEを利用するソフトウェアを利用する場合、DHCPまたはPXEの競合が原因で正しく動作しないことがあります。

#### (3) 管理サーバ外のDHCPサーバまたはPXEサーバを利用する場合

ISMは管理サーバ上で動作するDHCPサーバとPXEサーバを使います。これらを準備できない場合、次の制約が発生します。

```
- DHCPサーバ(サービス)
```

Windows標準のDHCP機能を管理サーバ上で有効にできない場合は、新規サーバの自動検出機能は動作しません。サーバの検出は手動で行ってください。

ネットワーク上に有効なDHCPサーバが存在しない場合は、OSプロファイルは使用できません。

また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できません。プロファイル適用を実行するとエラー終了します。

- PXEサーバ(サービス)

管理サーバにServerView Installation ManagerをインストールしてPXEサーバを動作させることができない場合は、OSプロファ イルは使用できません。また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できません。プロファイル適 用を実行するとエラー終了します。

#### (4) 複数のWebブラウザからの同時にログイン

ISMは複数のWebブラウザから同時にログインし、それぞれから操作できます。ただし、異なる操作を同時に行うと、動作の競合が 原因で予期しない動作を引き起こすことがあります。複数ログインでの利用は推奨しません。複数ログイン状態で利用する場合は、 本ソフトウェアの動作を十分理解したうえで利用するか、参照のみに限定してください。

### 1.1.2.2 ファシリティ管理のサポート機能

ファシリティ管理の機能は以下のとおりです。

サポート機器、OSに関する最新の情報は弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

		機能	概要
機器管理		理	監視対象となる機器の一覧やフロア内のラック位置、空調機位置およびラック内の機器構成情報などを表示。また、レポートの設定および表示、しきい値の設定、インベントリを表示。
	簡	易表示	データセンターを構成する機器構成を容易に把握。
		構成管理	PRIMERGYシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッチブレード、電源、MMBなどのハードウェア 構成を表示。また、各サーバブレードまたはサーバに搭載されているCPUやメモリ、HDDなどのハード ウェアの構成、また、ハイパーバイザ上に作成された仮想マシンの一覧などを表示。
		ステータス管理	PRIMERGYシャーシに搭載されている各機器、およびPRIMERGYサーバのステータスを表示。
		レポート	CPU、メモリ、ディスク使用率を表示。
		OSイベントログ	フィルター機能により警告・異常のイベントから最新の20件を表示。
機	- 器	-括登録	ラック、サーバ、ストレージ、スイッチなど機器の属性情報を登録データ作成ツールに設定する。その ツールから出力したcsvファイルをISMに読み込むことで一括登録。
ログ     ログ収集     PRIMERGYシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッチブレード、M       収集     OSログ、ストレージ、外部スイッチのログを定期的(1日1回)に収集する特		ログ収集	PRIMERGYシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッチブレード、MMB、PRIMERGYサーバの OSログ、ストレージ、外部スイッチのログを定期的(1日1回)に収集する機能。
		ログ監視	ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上のソフトウェアのソフト異常を監視して、ログ情報の収集や異常通報を実行する機能。
		異常通報	SVOMのイベントマネージャーの [アクション設定] を利用してTrapやMail通報を行う機能。

### 1.1.2.3 メンテナンス支援のサポート機能

メンテナンス支援の機能は以下のとおりです。

機能	概要
ファームウェア情報表示	登録された管理対象装置に対して、現在動作中のファームウェア版数や、アップデート可能 な版数を一覧表示します。

機能	概要	
	ラック搭載位置や、マシン名、モデル名などSVOM、プロファイル管理機能、およびファシリ ティ管理機能で登録した各種情報もあわせて一覧表示します。これらの情報と各種絞り込み 操作を使用して、各装置のファームウェア版数が確認でき、アップデートの必要性を容易に 把握できます。	
ファームウェアアップデート	ファームウェアアップデートが必要な装置に対して、画面からアップデートを実施できます。 個別の装置にアクセスしなくても最後までファームウェアアップデートを実施します。また、サー バやネットワークスイッチなど装置種別ごとの個別操作は不要で、すべての装置に対して共 通のインターフェースを使用して操作できます。複数の装置に対してまとめてファームウェア アップデートを実施することで、保守作業を効率化できます。	
ファームウェアアップデート状況管理	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況と、過去に実施したファームウェアアッ プデートの履歴情報を一覧表示します。すべての装置に対するファームウェアアップデート の履歴を一元的に管理できます。	

### 監視対象装置ごとに実施可能なメンテナンス支援機能

メンテナンス支援機能では、管理対象の装置の版数表示およびファームウェアアップデートができます。

サポート製品や対応機能などの最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。サポート対象外の機器に対する操作は保証できません。

http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

### 表1.1 管理対象機器の説明

管理対象機器	説明
サーバ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする、PRIMERGYサーバのiRMC/BIOS、PRIMERGYブレードサーバ のマネジメントボード(MMB)、およびPRIMEQUESTの統合ファームウェア(Unified Firmware)のファームウェア 管理を行えます。 サーバのiRMC/BIOSのファームウェアアップデートでは、ISMのプロファイル管理機能を利用します。そのため、 事前にプロファイル管理機能が動作するように環境設定を行う必要があります。
スイッチ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする、コンバージドファブリックスイッチ、PRIMERGYスイッチブレード、 サーバ収容レイヤー2スイッチおよびFCスイッチブレードに対してファームウェア管理を行えます。
	LANスイッチのファームウェアアップデートでは、ServerView Fabric Managerの機能を利用します。そのため、事前にServerView Fabric Managerが管理サーバにインストールされている必要があります。
ストレージ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする機器に対してファームウェア管理を行えます。

### 表1.2 管理対象機器の種類と行える操作

機器の種類	対象装置例	版数表示	ファームウェアアッ プデート
ラックサーバ PRIMERGY RXシリーズ	RX200 S7、RX200 S8、RX300 S7、RX300 S8	○ (iRMC/BIOS)	(iRMC/BIOS)
PRIMERGY BXシリーズ サーバブレード	BX920 S3、BX920 S4、BX924 S3、BX924 S4	○ (iRMC/BIOS)	(iRMC/BIOS)
PRIMERGY BXシリーズ マネジメントブレード(MMB)	BX900 S2/BX400 S1用 マネジメントブレード	0	0
PRIMERGY BXシリーズ FCスイッチブレード	PRIMERGY FCスイッチブレード (8Gbps 18/8)	0	0
PRIMERGY BXシリーズ ネットワークスイッチブレード	PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 36/12) PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 36/8+2) PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 18/6) PRIMERGY スイッチブレード (10Gbps 18/8)	〇 (スイッチモード時、 および EHM 時の み)	〇 (スイッチモード 時、および EHM 時のみ)

機器の種類	対象装置例	版数表示	ファームウェアアッ プデート
PRIMERGY BXシリーズ コンバージドファブリック スイッチブレード	コンバージドファブリックスイッチブレード (10Gbps 18/8+2)	0	0
ネットワークスイッチ SR-Xシリーズ	SR-X526R1、SR-X340TR1、SR-X324T2、SR- X316T2	0	0
コンバージドファブリック スイッチ CFXシリーズ	コンバージドファブリックスイッチ[CFX2000R/ CFX2000F]	0	0
ストレージ ETERNUS DXシリーズ	ETERNUS DX100 S3、DX200 S3	0	0
ストレージ ETERNUS NRシリーズ	ETERNUS NR1000 F2220、F2240、F2520、F2552、 F2554	0	—
サーバ PRIMEQUEST 2000シリーズ	PRIMEQUEST 2400 S Lite、2400 S、2400E、 2800E、2400L、2800L	0	0

# 1.2 ISMのシステム要件

ISM V1.3のシステム要件は以下のとおりです。 なお、SVOMが使用するポート番号については、SVOMのインストールガイドを参照してください。

### 管理サーバのシステム要件

項目	説明	
CPUコア数	2コア以上	
メモリ容量	8 GB以上	
空きディスク容量	50 GB以上 上記に加えて、ログ保存とリポジトリのためにディスク容量を消費します。 (「2.1 ログの保存容量の決定」、「3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」参照)	
ディスプレイ	1280×1024(推奨)、1024×768(最小)	
ネットワーク	100 Mbps以上	
OS	Microsoft Windows Server 2012	
	Microsoft Windows Server 2012 R2	
必須ソフトウェア	SVFAB 2.01以降(ネットワークスイッチのファームウェアアップデート利用時)	
	SVIM 11.14.11以降(プロファイル管理機能利用時)	
	SVOM 6.30 以降	
	Microsoft SQL Server 2008 R2 StandardまたはMicrosoft SQL Server 2012 Standard (管理ノードが500を 超える場合)	
JRE	SVOMに準拠	
Webブラウザ	SVOMに準拠	
使用ポート	<ul> <li>25661、50043、50096(TCP):内部ソケット通信</li> </ul>	
	・動的(TCP): SQLServerBrowser(データベースアクセス)	
	• 21 (TCP) : FTP	
	• 23 (TCP) : TELNET	
	• 67 (UDP) : DHCP	
	• 69 (UDP) : TFTP	

項目	説明	
	• 80 (TCP) : HTTP	
	• 161 (UDP) : SNMP	
	• 135、445、動的(TCP):WMI	
	• 162 (UDP) : SNMPTrap	
	• 443、427 (TCP、UDP)	
	• 443 (TCP) : HTTPS	
	• 445 (TCP) : SMB	
	・ 1099 (TCP) および10099 (TCP) : RMI	
	• 4011 (UDP) : PXE	
	• 623 (UDP) : IPMI	
	・ 5989 (TCP) または5988 (TCP) : CIM	
	・ 25460 (TCP) : HTTPS (SVFABとの通信)	
	<ul> <li>25560 (TCP): HTTPS (メンテナンス支援機能GUI)</li> </ul>	
	<ul> <li>25561 (TCP): HTTPS (メンテナンス支援機能内部通信)</li> </ul>	

# 1.3 構成

# 1.3.1 ハードウェア構成

### ISMと管理対象機器のネットワーク構成

ISMは、原則的に操作対象となる機器とは別に用意したサーバ上で動作します。本書では操作される側の機器を「対象機器」(サーバの場合は「対象サーバ」)と呼び、本ソフトウェアが動作しているサーバを「管理サーバ」と呼びます。多くの場合は1台の管理サーバから多数の対象サーバに設定を行うことになります。両サーバは、管理用のLANで接続します。

複数のネットワーク構成時には、ルータを設定し、各ネットワーク間で通信可能な状態にしてください。



	機器および機能	説明
ネットワーク	管理LAN	ISMが管理対象機器の状態監視、制御、データ転送を行うために、管理対象機器と通信を行うLANです。セキュリティ確保のため、環境に閉じた接続とすることを推奨します。
	業務LAN	サーバとクライアント間で業務データを転送するLANです。管理サーバは 接続しません。
管理サーバ	ServerView Infrastructure Manager (ISM)	本ソフトウェアです。
	SNMP	管理サーバは機器の情報収集のためにSNMPを使用します。 管理対象機器は管理サーバへの障害通知のためにSNMP Trapを使用します。
	DHCP	サーバを管理LANおよび電源に接続したとき、BMC(iRMC)にIPアドレス を付与します。PXEブート時、オンボードLANにIPアドレスを付与します。
	PXE/TFTP	サーバに対して、OSをインストールおよびファームウェアをアップデートす るときに、PXEブート機能で一時的にサーバをブートします。 MMBのファームウェアアップデート時にTFTPを使用します。
	FTP	以下の場合に使用します。
		・ ログ収集機能でETERNUSを監視対象とする場合
		・ プロファイル管理機能でLinuxをインストールする場合
		<ul> <li>メンテナンス支援機能でPRIMEQUEST、FCスイッチブレード、 ETERNUS DX、ネットワークスイッチのファームウェアアップデートを行う場合</li> </ul>

材	機器および機能	説明
管理コンソール		管理LANを経由してISMを操作するためのPCです。
管理対象機器	スイッチ ストレージ	ISMが状態監視、制御の対象とする機器です。
	サーバ	ISMが状態監視、制御の対象とする機器です。BMC(iRMC)とオンボード LANインターフェースを管理LANに接続します。
		ネットワーク接続に関する留意事項については、「ネットワーク接続に関す る留意事項」を参照してください。
周辺機器	Active Directoryサーバ	WindowsのActive Directoryサービスを使用する環境の場合に接続します。 プロファイル管理のSCVMM登録機能を使用する場合は、管理サーバ、管 理対象サーバ共にActive Directoryに参加させる必要があります。
		Active Directory使用時の留意事項については、「Active Directory使用時の留意事項」を参照してください。

### プロファイル管理機能で必要なネットワーク構成

プロファイル管理機能では、サーバに搭載されているiRMCとの通信、またはオンボードLANからのPXEブートを使用してサーバを制 御します。サーバについては、iRMC用のLANポート、およびオンボードのLANポートの両方を管理用LANに接続します。サーバブ レードの場合、シャーシに搭載されているMMB上のポートと、LANスイッチブレード(またはLANパススルーブレード)のオンボードLAN ポートを管理用LANに接続します。その他の機器については、以下を参照してください。

対象機器	必要なネットワーク接続	必要なネットワーク設定
PRIMERGY ラックサーバ (CXシリーズ含む)	iRMC用Management LAN	iRMCのIPアドレス設定(DHCPまたは適切な固定IPア ドレス)(*1)
	オンボードLANの1番目のポート	PXEブートの有効化(*1)
PRIMERGY サーバブレード	MMBのManagement LAN	iRMCのIPアドレス設定(DHCPまたは適切な固定IPア ドレス)(*1)
	各ブレードサーバのオンボードLANの1番 目のポート	PXEブートの有効化(*1)
PRIMERGY ブレードシャーシ	MMBのManagement LAN	MMB用の適切な固定IPアドレス
MMB コネクションブレード		SNMP設定(MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)
PRIMEQUEST	MMBのUSERポート	適切な固定IPアドレス
		SNMP設定(MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)
ETERNUS DX	マスタCMのMNTポート	適切な固定IPアドレス
		SNMP設定(MIB読み込み可能なコミュニティ設定、 Telnet利用許可)(*1)
ETERNUS NR	Management port	適切な固定IPアドレス
		SNMP設定(MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)

\*1: VLANタグは使用できません。

### ネットワーク接続に関する留意事項

ISMでPRIMERGYを管理するためには、BMC(iRMC)は固定IPアドレスに設定されている必要があります。工場出荷時のBMC設定はDHCPになっており、その状態で管理LANに接続するとISMはDHCPサーバのIPアドレスのリースを検知してサーバが新規接続されたことを認識します。ISMにサーバ登録する時点でISMは指定された固定IPアドレスに変更します。

・ ISMのすべての機能を利用するためには、DHCP/PXE/TFTP/FTPの各サーバ機能を管理サーバ上で動作させる必要があります。 管理サーバ外で動作させる場合や、サーバ機能が存在しない場合には利用できる機能が制限されます。詳細は下表を参照して ください。

樟	青成		機能利	用可否
DHCP	PXE/TFTP(*1)	自動検出 【プロファイル管理】	手動検出 【プロファイル管理】	OSプロファイル適用/HWプロファイル適用 【プロファイル管理】
				PRIMERGYのファームウェアアップデート 【メンテナンス支援機能】
管理サーバ上	管理サーバ上	0	0	0
(*2)	なし 管理サーバ外	0	0	×
管理サーバ外	管理サーバ上	×	0	0
	なし 管理サーバ外	×	0	×
なし	-	×	0	×

\*1 PXE/TFTPはServerView Installation Manager (SVIM)をインストールすると、管理サーバ上にインストールされます。

\*2 ISMの[Setup]画面からDHCPのスコープ設定を実施してください。

構成		機能利用可否	
FTP	ログ収集機能で ETERNUS、FCスイッチブ レードのログ収集 【ファシリティ管理】	OSプロファイルでのLinuxイン ストール 【プロファイル管理】	PRIMEQUEST、FCスイッチブレード およびETERNUS DXシリーズの ファームウェアアップデート 【メンテナンス支援機能】
管理サーバ上	○ (*3)	○ (*4)	○ (*4)
管理サーバ外	×	○ (*4)	○ (*4)
なし	×	×	×

\*3 管理サーバ上の指定のフォルダーを指定する必要があります。

\*4 匿名(Anonymous)でログイン可能に設定してください。

- PRIMERGYには、iRMC専用LANポート(Management LAN)をオンボードLANと共有(share)する機能がありますが、ISMを使用 する場合は基本的にオンボードLANと共有せずに、iRMC専用LANポート(Management LAN)を使用してください。 共有設定で使用する場合、サーバの新規接続時や保守交換時にはBIOS設定を手作業で変更しないとISMで検出されません。
- ・ブレードシャーシ(MMB)の場合は、マスタ/スレーブが入れ替わり、マスタ側のポートのリンクが切れると、スレーブ側のポートへ 自動的にパスが切り替わるため、両方のパスを管理サーバに接続しておく必要があります。
- ・オンボードLANの1ポート目を管理用に使用します。本ポートをiSCSI Bootに利用する場合は、OSプロファイル適用、一部のHW プロファイル設定およびファームウェアアップデートの機能は利用できません。

### Active Directory使用時の留意事項

管理サーバおよび管理対象機器を同一AD管理とすることを推奨します。管理対象サーバが異なるADの場合、仮想マシンの情報とイベントログを取得できません。(該当機能:FirstSight、ログ収集)

## 1.3.2 ソフトウェア構成

以下にソフトウェア構成を示します。



機器および機能		説明
管理サーバ	ServerView Infrastructure Manager (ISM)	本ソフトウェアです。
	ServerView Operations Manager	ISMの前提となるソフトウェアです。
	(SVOM)	PRIMERGYサーバの構成情報、異常検知の情報を表示します。ISMからの通知に基づいて、SNMP Trapやメール送信を使用して異常通報を行います。
	ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)	プロファイル管理機能で適用済みのVIOMプロファイル名を表示する際 に必要になります。
	ServerView Fabric Manager (SVFAB)	メンテナンス支援機能を利用してLANスイッチのファームウェア管理を行 う場合に前提となるソフトウェアです。 スイッチを管理します。
	ServerView Installation Manager (SVIM)	プロファイル管理機能でOSをインストールする際に必要となります。
	System Center Virtual Machine Manger(SCVMM) コンソール	ISMを使用してWindowsがインストールされたサーバを SCVMMに登録 するときに必要です。この場合、Active Directoryサーバも別途必要とな ります。
	PXE	サーバに対して、OSをインストールおよびファームウェアをアップデート する際に必要になります。
	JRE	本製品およびServerView Suiteの実行に必要なJavaの実行環境です。
	Windows Server	SNMPサービスを有効にします。必要に応じDHCP、FTP、TFTPの各サービスを有効にします。
仮想管理サーバ	SCVMM、vCenter	プロファイル管理機能でWindowsまたはVMware ESXiがインストールされたサーバを SCVMMまたはvCenterに登録するときに必要となります。
管理対象機器	Windows Server VMware ESXi Linux	業務サーバでWindows Server、VMware ESXiまたはLinuxを動作させる 場合に、OSの自動インストール、OS関連の情報表示やログ収集などの 機能が利用できます。

管理対象サーバで利用可能なOS種類と機能の詳細については、弊社ウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

### 関連ソフトウェアとの連携

プロファイル管理は、ServerView Suite製品やほかのアプリケーションと連携して動作する機能があります。なお、次の機能は連携先ソフトウェアの仕様変更などが原因で利用できなくなることがありますのでご注意ください。

vCenter Server

OSプロファイルの適用によってVMwareをインストールしたサーバは、vCenterの指定したフォルダーまたはクラスタに登録できます。本機能のご利用については、「3.5 仮想環境管理ソフトの登録情報の準備」を参照してください。

- System Center Virtual Machine Manager (SCVMM)
   OSプロファイルの適用によってWindowsをインストールしたサーバは、SCVMMの指定したフォルダーに登録できます。本機能のご利用については、「3.5 仮想環境管理ソフトの登録情報の準備」を参照してください。
- ServerView Operations Manager (SVOM)
   [Profile Manager]画面からサーバ/MMBを登録する際、自動的にSVOMにも登録されます。オブジェクトの種類は、サーバが BMC、MMBがBlade Serverとなります。動作設定によりSVOMへ登録しないように変更することもできます。
- ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)
   [Profile Manager]画面で、サーバに適用済みのVIOMプロファイル名を確認できます。プロファイルの適用/取り外しはVIOMから実行してください。

# 1.4 ISM導入、運用フロー

ISMの導入運用フローは、ISM導入、管理対象機器の初期セットアップ、運用の3つのフェーズで構成されます。

[]内は本マニュアル内で説明が記載されている節項の番号を示します。

ISM 導入 1 設計 ログ保存容量の決定 [2.1] ・リポジトリ作成先の決定 [2.2] ・IP アドレスの設計 [2.3] ・機器名 / プロファイル名のルール決定 [2.4] 2 ISM 構築 ファームウェアアップデート/ SVOM のインストール [3.1.1]OS インストールの準備 [3.2] DHCP サーバ機能の有効化 [3.1.2] FTP サーバの設定(ISM) [3.3] プロファイル適用のための DHCP 設定(ISM) [3.4] リポジトリ作成 [3.1.3]仮想環境管理ソフトの ISM のインストール [3.1.4] 登録情報の準備 [3.5] ライセンス登録 [3.1.5]vCenter または SCVMM への ホスト登録 [3.6] PMS および SVIM のインストール [3.1.6] メンテナンス機能のための 設定変更 [3.7] FTP サーバの設定 (OS) [3.1.7] 次ページへ





<8> 機器増設 <3> 機器登録

<4> ファームウェアアップデート

<5> サーバ・ストレージのセットアップ

# 1.5 ライセンス

ServerView Infrastructure Managerのライセンス体系を示します。 ISMでは、サーバライセンスとノードライセンスの両方の登録が必要です。

#### サーバライセンス

ISM機能を有効にするライセンスです。ISMのインストール直後に管理サーバに登録します。サーバライセンスが登録されていない場合、ISMの機能は使用できません。

#### ノードライセンス

管理対象ノード数に合わせてISM機能を有効にするライセンスです。

管理サーバに登録するタイミングは任意となります。ライセンスの管理対象ノード数を超えた場合、管理対象ノードをISMに追加登録できません。この場合、追加のノードライセンスを登録します。

ISMに登録されている監視対象ノード数およびノードライセンス数は、ISMのGUIから確認できます。確認方法については、「4.2 [Facility Manager]画面」、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

# 関 ポイント

ノード数の数え方については、以下を参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/license/

# 第2章 設計

ISMをインストールする前に設計および決定が必要な事項を説明します。

# 2.1 ログの保存容量の決定

ISMのログ収集機能が使用するためにログの保存先を決める必要があります。ログの保存先は、ISMのインストール時に変更できます。

ログの保存先を変更する場合、ISMインストール前に事前に保存先のディレクトリを作成しておく必要があります。

ログ保存先に必要なディスクの容量と監視可能な最大数は、以下のとおりです。

カテゴリー		収集箇所		収集するログ	容量の目安(単位:メガバイト)
ハードウェア	PRIMERGY(BXジ	MMB		SEL	約10
	リーズ)	LANスイッチブレ-	-F	ログ	約5
		FCスイッチブレー	ž	ログ	ウグ       容量の目安(単位:メガバイト)         約10       約10         約5       約5         約15       約5         (ファブリックを組んだ場合、ログは マスターに含まれます。)         仮想マシンの数×約5         約40         約5         (ファブリックを組んだ場合、ログは マスターに含まれます。)         約30         約30         約130
		コンバージドファフ	リックスイッチブレード	ログ	約5
					(ファブリックを組んだ場合、ログは マスターに含まれます。)
		サーバブレード	VMware	OSのログ	仮想マシンの数×約5
			Windows		約40
	PRIMERGY (RX/CX	シリーズ)	iRMC	SEL	約5
			VMware	OSのログ	仮想マシンの数×約5
			Windows		約40
	LAN集約スイッチ(CF	Xシリーズ、SR-Xシ	リーズ)	ログ	約15
					(ファブリックを組んだ場合、ログは マスターに含まれます。)
	ストレージ (ETERNUS	Sシリーズ)		ログ	約30
ソフトウェア	ISMがインストールさ	ServerView Agent		保守情報	約130
	れているOS	ServerView Fabric	Manager		
		ServerView Infrast	tructure Manager		
		ServerView Opera	tions Manager	]	
		ServerView RAID	Manager		

# 2.2 リポジトリ作成先の決定

プロファイル管理機能やメンテナンス支援機能を使用する際は、管理サーバ上にリポジトリの準備が必要になります。リポジトリにはファームウェアアップデートに使用されるファームウェアデータや、OSインストールに使用されるOSインストールファイルが格納されるほか、プロファイル適用中の対象サーバと管理サーバとの間のファイル送受信にも使用されます。

ここでは以下の内容を決定します。

- ・ リポジトリの必要容量の見積もり
- リポジトリアクセスアカウントおよび共有フォルダ設定の決定
- ・ リポジトリ用のフォルダ作成先決定

### リポジトリの必要容量の見積もり

インストールするOSの種類やインポートするUpdate DVDの数に応じて必要な容量は異なりますが、通常は10GB以上が使用されます。下表を参照して必要な容量を見積もってください。

用途	操作	必要容量
ファームウェアデータの格納	Update DVDのインポート	Update DVD 1枚あたり7GB程度 最低1枚のインポートが必須
	その他のファームウェアデータのインポート	インポートデータに依存
OSインストールメディアのファイル格納	Windowsインストールメディアのインポート	OS1種あたり3~8GB程度 使用するOS種のみインポートが必要
	VMware ESXiインストールメディアのインポート	OS1種あたり0.5GB程度 使用するOS種のみインポートが必要
作業用ファイルの作成・保管	特になし	0.5GB程度

# 関 ポイント

Linuxをインストールする場合はFTPサーバにOSインストール媒体のデータを格納します。

管理サーバ上でFTPサーバを動作させる場合はその容量についても考慮してください。

### リポジトリアクセスアカウントおよび共有フォルダ設定の決定

リポジトリは管理対象のサーバからアクセスできるようにするため、外部から読み書き可能な共有フォルダとして設定します。共有名や アクセス時に使用するアカウントを決定します。

### リポジトリ用のフォルダ作成先決定

リポジトリは対象サーバからの共有フォルダとしてのアクセスのほか、ISMが直接ファイル読み書きを行うため、管理サーバのドライブ上に作成する必要があります。ISMインストール先と異なるドライブに配置することもできます。

# 2.3 IPアドレスの設計

サーバ導入時に必要になるDHCPサーバ、iRMC、オンボードに割り当てるIPアドレスを設計します。

プロファイル管理機能では、サーバの管理に以下の2種類のネットワークを使用します。

・ iRMC Management LANに接続するネットワーク

主にサーバのコントロールやBIOS/iRMC設定などに使用します。

・ オンボードLANに接続されるネットワーク

主にOSインストールやOSインストール後の接続などに使用します。

また、スイッチやストレージ管理用のネットワーク接続も必要です。それらは物理的/論理的に分割することも、1つに統合することも可能です。

# 関 ポイント

業務に利用するネットワークは、これらの管理用ネットワークとは別に用意することを推奨します。

プロファイル管理機能では、上記ネットワークのIPアドレス範囲を事前に設定しておき、その設定に従って動作します。

特にプロファイル管理機能は、DHCPを利用してサーバの自動検出とプロファイル適用中のPXEブートの制御を行うため、DHCPとして使用するIPアドレス範囲を設定することが重要な要件となります。設定方法の詳細は、「3.4 DHCP設定(ISM)」を参照してください。

DHCP設定画面の構成を「図2.1 IPアドレス範囲の定義例」に示します。図内A~Dに4種のIPアドレス範囲を設定します。加えてDHCPサーバに設定するためのゲートウェイ、DNSサーバ、DNSドメイン名を入力します。DNSサーバとDNSドメイン名の入力は任意です。その他は必須入力項目です。

本画面で設定した内容はDHCPサーバに設定されます。DHCPサーバに対して、さらに詳細な設定が必要な場合は、本画面の設定を行ったあと、直接DHCPサーバ上で設定してください。

	スコーア名: サフネットマ人ク:	Scope ' 251 251 251 0	
A>	管出IFPドレス範囲;	182 , 158 , 1 , 240 ~ 132 , 168 , 1 , 248	11111111111111111111111111111111111111
	ネットワーク番号:	192.164.1.0	
	ゲードウェイ:	102 . 138 . 1 . 1	
B>	BMC(IRMC)固定IPアドレス範囲	1	
		182 , 158 , 1 , 2 ~ 132 , 168 , 1 , 100	
	サーバ管理LAD回宅DPアドルス別	9 <b>29</b> :	
	/	192 , 150 , 1 , 101 ~ 132 , 160 , 1 , 199	
C>	システム管理IPアドルス協同:		
		192 . 138 . 1 . 280 ~ 132 . 168 . 1 . 289	
9	DNSサー/i:		
	DNSド外小治:		
			942

範囲	設定項目名	プロファイル管理 機能が想定する ネットワーク種別	利用形態	DHCPサーバに 対する設定	プロファイル管理機能での用途
А	貸出IPアドレス	iRMC	DHCP	DHCPによるリー	サーバの自動検出に使用されます。
	範囲			ス範囲として設 定されます。	DHCPで新しくIPアドレスがリースされたとき、そのIPアドレス接続先がiRMCの場合は、新規サーバの検出として扱われます。
					DHCP設定の機器が接続されると、それがiRMCであるか どうかにかかわらず、DHCPサーバはIPアドレスを割り当 てます。ここで設定した範囲(IPアドレスの数)が少ない と、新しいサーバを接続した際に割り当てるIPアドレスが 不足していて、自動検出ができなくなる可能性がありま す。
					ネットワーク内にDHCP設定の機器(ポート)が多数存在 する場合は、余裕を持った範囲設定を行ってください。
В	BMC(iRMC)固 定IPアドレス範	iRMC	固定IPアド レス	DHCPのリース 外として設定さ	サーバをプロファイル管理機能に登録するとき、iRMCの IPアドレスは固定IPアドレスになっている必要があります。
	囲			れます。	検出したサーバがDHCP設定の場合は、登録画面上で 変更後のIPアドレスを入力しますが、その際にここで設 定した範囲が画面に表示されます。
					事前に手作業でiRMCのIPアドレスを固定IPアドレスに 変更してから手動検出を行う場合も、ここで指定した範 囲に変更してください。
C	システム管理IP アドレス範囲	オンボード	動的 (DHCP)	通常はDHCPの リース外として設 定されますが、	サーバに対してHWプロファイルまたはOSプロファイルを 適用する際には、PXEブートを使って対象サーバ上で一 時的にOSを起動させます。
				ブロファイル適   用中にリース用	ここではPXEブート時にオンボードLANに割り当てるIPア ドレスの範囲を指定します。プロファイル適用動作は最

範囲	設定項目名	プロファイル管理 機能が想定する ネットワーク種別	利用形態	DHCPサーバに 対する設定	プロファイル管理機能での用途
				IPアドレスに設 定されます。	大10台まで同時に実施できますが、ここで範囲指定した IPアドレスの数が少ない場合は、プロファイルを同時適 用する数が制限されることがあります。
					サーバにOSプロファイルを適用しようとするとき(適用済 みの場合やHWプロファイルとの同時適用も含む)、OS インストール後に設定するオンボードLANのIPアドレスを 指定する欄に固定IPアドレスが設定されている場合は、 そのIPアドレスがPXEブートに使われます。
D	サーバ管理 LAN固定IPアド	オンボード	固定IPアド レス	DHCPのリース 外として設定さ	OSプロファイル中で指定するオンボードLANの固定IPア ドレスの範囲を設定します。
	レス範囲 			れます。 	OSプロファイル中の設定が本範囲以外の場合、プロファ イル適用はエラー終了します。

A~Dの各設定項目のIPアドレス範囲は重複しても設定できます。ただし、範囲Aと範囲Cとを重複させることはできません。

IPアドレス範囲を重複して設定した場合、利用者の責任で重複したIPアドレスを正しく扱ってください。例えば「IPアドレス範囲の定義例」の設定例では192.168.1.100は範囲A、B、Dに含まれますが、範囲A(DHCP)に利用されるため、範囲B(iRMCの固定IPアドレス)および範囲D(オンボードの固定 IPアドレス)として指定すると正しく動作しない場合があります。



### 図2.1 IPアドレス範囲の定義例

そのほかの設定例を「図2.2 そのほかの定義例」に示します。

(1)各範囲を独立させ、IPアドレスが重複しないように設定した例

- (2)範囲B(固定IPアドレス)と範囲D(固定IPアドレス)の一部だけが重複した例
- (3)範囲B(固定IPアドレス)に範囲A(DHCP)と範囲C(動的範囲)が重複した例
- (4)サブネットの全範囲を固定IPアドレスとして設定した例

### 図2.2 そのほかの定義例



斜線部分:固定IPアドレスとしての使用は不可

# 関 ポイント

MMB、ETERNUSなどのPRIMERGYサーバ以外の管理用ポートはここで設定する範囲外においても動作します。ただし、範囲Aと範囲Cに含まれないように設定してください。

# 2.4 機器名/プロファイル名のルール決定

サーバ導入時に必要になるサーバ名およびプロファイル名のルールを決定します。

対象機器を登録するときは、1台ごとに固有の機器名を付けます。機器が検出された直後は、自動的にシリアル番号を基にした機器 名が割り当てられていますが、管理しやすい名称に変更することを推奨します。

機器名には最大64文字の英数字またはハイフン(-)、アンダースコア(\_)が使用できます。



一度登録した機器名は変更できないため、将来的なサーバ増設なども見据えて命名ルールなどを決めておくことをお勧めします。 またファシリティ管理やServerView Operations Managerに対しても同名称が使われるため、これらとの重複も考慮してください。

また、プロファイルにも固有の名称を付けて管理します。プロファイルは一度サーバに適用すると変名や編集ができなくなります。プロファイルの内容を一部変更してサーバに適用しなおす場合は、既存プロファイルを流用作成して別名で保存してください。プロファイル名に版数や日時を含めるなど、流用作成なども考慮しておくことを推奨します。

# 関 ポイント

プロファイル名はHWプロファイル、OSプロファイル、プリセットなどすべてのプロファイルの中で固有でなければなりません。同一名称 のプロファイルはHWプロファイルとOSプロファイルのそれぞれには作成できません。

.....

# 2.5 運用上の注意事項

### プロファイル適用(OSインストール)時の動作について

• Windowsのインストール

Windowsのインストールは、[設定] 画面で停止した状態で終了します。Microsoft社インストールメディアの場合は、その直前のプロダクトキー入力画面で停止する場合もあります。ビデオリダイレクションや実機画面を操作してインストール処理を進めてください。Windowsへログイン後に残りのインストール作業が実行されます。



・ Red Hat Enterprise Linux 7.0のインストール

Red Hat Enterprise Linux 7.0のインストール時にX Windowを設定した場合は、インストールが完了して対象サーバが再起動され たタイミングでOSプロファイルの適用は完了しますが、対象サーバは再起動後に言語選択の画面で停止します。ビデオリダイレク ションや実機画面を操作してインストールの最終作業を進めてください。

### プロファイル管理機能使用時の利用可能文字について

機器名やコンピュータ名などの文字列入力で使用可能な文字は、原則として半角英数、ハイフン(-)、アンダースコア(\_)です。その他の記号類は使用できません。

パスワードやDNSなどでは、その他の文字も入力可能となっている場合がありますが、全角文字や一部の記号が使用できない場合があります(バックスラッシュ、¥、ダブルクォーテーションほか)。

入力時にエラーメッセージが表示された場合は、画面表示に従って変更してください。例えば、OSプロファイルの作成時などに目的の記号が利用できない場合は、OSをインストールしたあとに別途手作業で変更してください。

### 処理時間の目安

下表に示す処理には、数分から数十分の処理時間を要します。処理時間の目安については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。

分類	処理内容
検出・登録	サーバの自動検出
	各種機器の手動検出
	ノード登録、登録解除

分類	処理内容
	vCenterへのホスト登録
	SCVMMへのホスト登録
プロファイル適用	HWプロファイル適用(ファームウェアアップデート)
	HWプロファイル適用(BIOS設定)
	HWプロファイル適用(iRMC設定)
	HWプロファイル適用(ETERNUS RAID構築)
	OSプロファイル適用(Windows)
	OSプロファイル適用(Linux)
	OSプロファイル適用(VMware)
インポート	Update DVDのインポート
	WindowsインストールDVDのインポート
	VMwareインストールDVDのインポート
	Cloud Ready Blocks Update Supplementのインポート
	FC Switchblade Firmware DVDのインボート
その他	サーバの保守後操作

# 第3章 ISMの構築

ここでは、ISMを使用するために、ISMおよび関連ソフトのインストールと設定を説明します。 また、各機能を利用するために必要な設定を説明します。

# 3.1 インストールと設定

### インストールの流れ

インストールは、以下の流れで行います。詳細手順は、各参照先を確認してください。

- SQL Server 2008 R2 Standard またはSQL Server 2012 Standardのインストール(状況に応じて) 管理ノードが500以下の場合は、SVOMに同梱されているSQL Serverを使用できます。
- 2. SVOMのインストール

3.1.1 SVOMのインストール

3. DHCPサーバ機能の有効化

「3.1.2 DHCPサーバ機能の有効化」

4. ISMのインストール

```
「3.1.4 ISMのインストール」
```

ISM V1.2がインストールされている状態では、アップデートインストールが行われます。

「3.1.4.1 ISMのアップデートインストール」

5. ライセンス登録

ISMを使用するためには、サーバライセンスの登録と管理対象ノード数に応じたノードライセンスの登録を行う必要があります。 「3.1.5 ライセンス登録」

6. PMSおよびSVIMのインストール

「3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール」

7. FTPサーバの設定

「3.1.7 FTPサーバの設定(OS)」



Administrator権限のアカウントで作業を行ってください。

## 3.1.1 SVOMのインストール

管理サーバにSVOMをインストールします。

SVOMインストールの詳細は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録、または以下URLの「ServerView Suite のマニュアル」にて公開 されているインストールガイドを参照してください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/

管理ノードが500以下の場合は、SVOMに同梱されているSQL Serverを使用できます。 管理ノードが500を超える場合は、SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardを使用してください。SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardは、SVOMのインストール前にインストールしておく必要があります。

## 

# 3.1.2 DHCPサーバ機能の有効化

管理サーバ上DHCPサーバを動作させます。

ISMのインストール前にWindowsの「役割と機能の追加」を利用して「DHCPサーバ」を有効にしてください。

ネットワーク構成上などの理由でDHCPサーバを管理サーバ上で動作させられない場合の影響については、「ネットワーク接続に関する留意事項」を参照してください。

# 3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成

プロファイル適用に必要なファイルの保存先および適用中の対象サーバと管理サーバ間でのファイル送受信のためのリポジトリ領域が必要になります。

管理サーバ上で共有フォルダーとそこにアクセスするためのアカウント(ユーザー)を作成し、[Setup]画面上で情報を設定しておきます。 作成した共有フォルダーおよびアカウントは、プロファイル適用動作設定画面に設定してください。詳細は、「3.2.2 設定手順」を参照し てください。また、アカウントはSVIMのインストール時にも指定します。詳細は「3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール」を参照してくだ さい。

共有フォルダー

任意のフォルダー名および共有名で共有フォルダーを作成します。指定したアカウントで外部から読み書き可能に設定します。また、ISMサービスから読み書き可能に設定します。

• アカウント

任意のユーザー名およびパスワードでアカウントを作成します。[ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要]を無効化し、[パスワードを無期限にする]を有効化します。

Windows上のコマンドライン操作例を示します。

「C:¥ismshare」という名前の共有フォルダーを作成し、「ismuser」という名前のアカウントでアクセスする場合を示します。使用する環境 に合わせて適切に変更してください。

net user ismuser \* /add (パスワードの入力) wmic useraccount where "Name='ismuser'" set PasswordExpires=FALSE mkdir "C:¥ismshare" icacls "C:¥ismshare" /grant "ismuser:(OI)(CI)(F)" net share ismshare="C:¥ismshare" /GRANT:"ismuser,FULL"

関 ポイント

実行する環境や入力文字列に応じて、ダブルクォーテーションやシングルクォーテーションの必要性が異なる場合があります。

# 3.1.4 ISMのインストール

ISMは、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に同梱されています。 以下の手順でインストールします。

# 関 ポイント

• ISMは、[ServerViewインストールフォルダー]配下の¥ServerView Suite¥plugins¥にインストールされます。デフォルトでは以下となります。

C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥

- ・インストールは、SQL Serverへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントで実施してください。
- インストールを途中でキャンセルした場合、インストールの進捗によっては「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager」、「FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checker」、「FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager」がインストールされて残ってしまう場合があります。再インストールする場合は、これらをアンインストールしたあとに再イン ストールしてください。

- ・ ISM V1.2がインストールされている状態でインストールを実行すると、アップデートインストールが行われます。詳しくは、「3.1.4.1 ISMのアップデートインストール」を参照してください。
- ・インストール時にSNMPのサービスが自動で再起動します。
- 1. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダーにある「index.html」を開きます。
- 2. 「ServerViewInfrastructureManager.exe」をクリックします。

エクスプローラーが起動するので、「ServerViewInfrastructureManager」を実行します。

- 3. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Managerをインストールします]で、[OK]ボタンをクリックします。
- 4. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Managerセットアップへようこそ]で、[次へ]ボタンをクリックします。
- 5. [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checkerセットアップへようこそ]で、[次へ]ボタンをクリックします。
- 6. ログ保存先を選択するダイアログボックスで、ログの保存先をツリーから選び、[OK]ボタンをクリックします。

ログ保存先のパスは、「5.6.3 ログ転送の設定(ホストOSがVMware ESXiの場合)」の「ログ受信側の設定」で使用しますので、必ずメモを取ってください。

FUJITSU Software ServerView LogColll ログ収集場所を選択してください。 パス(P):	7	
Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SV	cc¥Lo	gs
ServerView Suite     Serv		•
< III	>	
OK ‡	ヤンセル	,

FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checkerのセットアップが完了すると、完了画面が表示されます。

7. 完了画面で [完了]ボタンをクリックします。

続いて、ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストーラが起動します。

8. [FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle ManagerのInstallShield Wizardへようこそ]で、[次へ]ボタンをクリックしま す。

9. [インストール準備の完了]で、[インストール]ボタンをクリックします。

ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールが完了すると、完了画面が表示されます。

10. ServerView Hardware Life Cycle Managerの完了画面で [完了]ボタンをクリックします。

ISMのインストール完了画面が表示されます。

11. ISMのインストール完了画面で[完了]ボタンをクリックします。

## 関 ポイント

ISMのインストール後、イベントログに以下のメッセージが出力されることがありますが、問題はありません。

- Source:SNMP
- Event ID:1102
- Level:警告

#### Description:

拡張エージェントdll %SVlcc\_INSTALLPATH%lib¥svlccsagt.dllが足りないか、または正しく構成されていないので、SNMP サービスはそれを無視しています。

- 12. インストール後、ServerView Infrastructure Manager ServiceのログオンアカウントをローカルシステムアカウントからAdministrator に変更します。

Windowsの[サービス]一覧から、ServerView Infrastructure Manager Serviceのプロパティ画面を開き、[ログオン]タブ内でアカウントとパスワードを設定してください。

13. インストール完了後、管理サーバを再起動します。



ServerView LogCollect and Checker、ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストール中、キャンセルは行わないでください。

インストールをキャンセルした場合、一度ServerView Infrastructure Manager、ServerView LogCollect and Checker、ServerView Hardware Life Cycle Managerをアンインストールし、再度インストールする必要があります。

### 3.1.4.1 ISMのアップデートインストール

ISM V1.2がインストールされている状態でインストールを実行すると、アップデートインストールが行われます。



- アップデートインストールは、Administrator権限を持つアカウントで実施してください。
- アップデートインストール前にProfile Managerの[ノードリスト]画面を開き、プロファイルの適用が行われていないことを確認してください。

- ・ 万一のトラブルに備えて、アップデートインストール前にISMデータベースのバックアップを実行しておくことをお勧めします。
- ・ アップデートインストール時に「イベントビューアー」を起動している場合、「Windows Event log」の再起動、またはOSの再起動の ポップアップが出力されます。

# 関 ポイント

アップデートインストール時にSNMPのサービスが自動で再起動します。

- 1. VMware ESXi上の仮想マシンを管理している場合、[サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector]サービス(\*)を停止します。
  - \*:ESXiの版数により、[VMware Syslog コレクター]など、サービスの名前表記が異なる場合があります。
- 2. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダーにある「index.html」を開きます。
- 3. 「ServerViewInfrastructureManager.exe」をクリックします。

エクスプローラーが起動するので、「ServerViewInfrastructureManager」を実行します。

- 4. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Managerをインストールします] で、[OK] ボタンをクリックします。
- 5. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Managerセットアップへようこそ] で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 6. [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checkerアップデート] で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 7. 続いて、ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストーラが起動します。

[FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager アップデート] で、[次へ] ボタンをクリックします。

8. アップデートが完了すると、完了画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックします。



アップデートインストール完了時に、コンピュータ再起動のメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された場合はOS再起動を行ってください。

9. 古いJavaアプレットをキャッシュから削除します。

Windowsのコントロール パネルから、「Java」のコントロール・パネルを開き、一時ファイルの設定で「キャッシュされたアプリケーションおよびアプレット」を削除してください。



本手順を行わない場合はISMが正しく動作しません。

10. VMware ESXi上の仮想マシンを管理している場合、[サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector]サービス(\*)を起動しま す。

手順8でOS再起動をした場合は、本手順は不要です。

\*:ESXiの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。



#### ISM V1.2からISM V1.3以降へアップデートインストールした後の注意点

- V1.2でバックアップしたデータはV1.3へリストアできません。リストアが必要な場合は、一度V1.3をアンインストールし、V1.2をインストールした状態を実施してください。また、アップデートインストール後にはISMデータベースのバックアップを取得しておくことをお 勧めします。
- ログ収集機能でアップデートインストール後、監視対象機器を再登録する必要があります([Setup]-[ログ収集設定]画面で登録)。
   再登録後にログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動してください。
- ・ プロファイル管理機能で以下の作業が必要です。
  - OSプロファイル中でインストール先ドライブとしてアレイ構築を選択していなかった場合、アップデート後は「既存アレイ構成を 利用する」が選択されます。オンボードSATAドライブ等を利用する場合はプロファイルを変更してください。
  - OSプロファイル中でデフォルトゲートウェイを指定していなかった場合、アップデート後も指定されない状態となりますが、その ままプロファイル適用するとエラーとなります。ゲートウェイアドレスを入力してください。
  - [Setup] 画面でOSプロファイル適用後のvCenterへの自動ホスト登録を設定していた場合、V1.3ではOSプロファイル内に記述 する方式に変わったため、OSプロファイルを変更してください。
  - [Setup] 画面の「プロファイル適用動作設定」でログインユーザ名とパスワードを設定してください。
  - V1.2でインポートされていたOSインストールメディアはそのまま利用できません。再度インポートを実施してください。
  - V1.2でインポートされていたServerView Suite DVDのデータは消去されません。
  - V1.2でインストールしたPXE Serverはアンインストールしてください。コントロールパネルから「プログラムと機能」を開き、"FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager PXE Server"をアンインストールしてください。
  - PMSとSVIMを新規にインストールしてください。

### 

### 3.1.4.2 ISMのサイレントインストール

ISMをサイレントインストールする手順は、次のとおりです。

1. コマンドプロンプトを起動し、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」をセットしたドライブの¥PROGRAMS ¥ISMフォルダーへ移動します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
start /w ServerViewInfrastructureManager.exe /s /f1".¥ism_silent.iss"
```

```
インストールが完了すると、コマンドプロンプトに制御が戻ります。
```

### 3.1.5 ライセンス登録

ISMを使用するためには、サーバライセンスの登録と管理対象ノード数に応じたノードライセンスの登録を行う必要があります。 ここでは、ライセンスの登録方法および登録済みライセンスの削除方法を説明します。

## 関 ポイント

サーバライセンスが登録されていない場合、ServerView Infrastructure Manager Serviceは起動されず、イベントログに以下が記録され ます。

...........

- Source:ServerView Infrastructure Manager
- Event ID: 325
- ・ Level:エラー
- Description: 3.25.0 Server License is not registered. Service was stopped.

#### ライセンス登録

- 1. 管理サーバにAdministratorユーザーでログインします。
- 2. スタートメニューからISM Licence Managerを起動します。
- 3. [新規にライセンスを登録する]ボタンをクリックします。

新規にライセンスを登録する	ライセンスキー	ライセンスタイプ	登錄日時	ノード数
登録演みライセンスを削除する				
合計ノード数 0				

- 4. ライセンスキーを入力するダイアログボックスにライセンスキーを入力し、「了解」ボタンをクリックします。
- 5. [ライセンスキーの登録]ダイアログボックスでキーに誤りがないか確認し、[はい]ボタンをクリックします。
- 6. ライセンスキーおよびライセンスタイプがLicence Manager画面に表示されていることを確認し、[終了]ボタンをクリックします。

#### ライセンス削除

管理サーバをほかのシステムに移行する場合は、現在登録しているライセンスを削除します。

1. 管理サーバにAdministratorユーザーでログインします。

2. スタートメニューからISM Licence Managerを起動します。

icence Manager				
Water - Carl - T & Ballack -	ライセンスキー	ライセンスタイプ	业绿日時	ノード数
軌規にライセン人を室録する	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	Node	2014/05/15	100
登録演みライセンスを削除する	mmmmmmm	Server	2014/05/15	-
合計ノード数 100				
7				

- 3. 一覧から削除するライセンスキーを選択し、[登録済みライセンスを削除する]ボタンをクリックします。
- 4. [ライセンスキーの削除]ダイアログボックスでキーに誤りがないか確認して、[はい]ボタンをクリックします。
- 5. サーバライセンスを削除する場合は、再度[ライセンスキーの削除]ダイアログボックスが表示されます。 キーに誤りがないか確認して、[はい]ボタンをクリックします。
- 6. 選択したライセンスキーがLicence Manager画面から削除されていることを確認し、[終了]ボタンをクリックします。

### 3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール

以下のいずれかの機能を利用する場合はPMSおよびSVIMのインストールが必要です。

利用する機能	備考
プロファイル管理でプロファイル適用を行う	Update DVDのインポートも必要です。
(ファームウェアアップデート/BIOS設定/OSインストールなど)	
メンテナンス支援機能でPRIMERGYサーバのファームウェアアップデートを行う	Update DVDのインポートも必要です。

PMSのインストールモジュールは「FUJITSU Software ServerView Suite Infrastructure Manager DVD」に同梱されています。 SVIMはISMには添付されません。ServerView Suite DVDを準備してください。

## 関 ポイント

操作対象となるサーバ本体、搭載されるオプションおよびインストールするOSをサポートしたServerView Suite DVDを使用してください。複数バージョンの該当DVDが存在する場合は、なるべく最新版を使用することをお勧めします。DVDに含まれるドライバやパッチ類がOSインストール時に使用されます。

SVIMを新しいバージョンまたは古いバージョンに入れ替える場合は、「付録D SVIMの再インストール」に従って操作してください。 SVIMのインストールに関する詳細についてはSVIMの取扱説明書を参照してください。

以下の手順でインストールします。

- 1. 「FUJITSU Software ServerView Suite Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダにある「Index.html」を開きます。
- ServerView Profile Manager Service」欄の「Setup」をクリックします。
   エクスプローラが開きます。
- 3. Setupフォルダーとその中身を管理サーバ上のハードディスクの任意の場所にコピーします。
- 4. 「ServerView Suite DVD1 Installation」(DVDの1枚目)をドライブにセットします。
- 5. 手順3.でコピーしたフォルダー内の「setupSVPM.exe」を実行します。

「Please specify the location of the ServerView Suite DVD」と表示されたファイル選択のウインドウが開きます。

6. 手順4.でDVDをセットしたドライブを選択して[OK]ボタンをクリックします。

以下の画面が表示されます。

S ServerView			FUJ๊กรม
	ServelView Suite Products	Version on DVD	Version Installed
	ServerView Proteie Manager Service     ServerView Operations Manager     ServerView Installation Manager     Judita Stiff Bassice	7.00.05	7.00.03
	ServerView PXE Mass Update Tools     ServerView Update Manager CLI     ServerView Virtual-IO Manager	2.10.02 7.00.04 3.3.09	7.00.03
		Ok	Cancel

- 7. 次の3項目にチェックを付けて、[Ok]ボタンをクリックします。
  - 「ServerView Profile Manager Service」
  - 「ServerView Installation Manager」
  - [Update SVIM libraries]

インストールが開始されます。特に指定がない限り画面に従ってデフォルト設定でインストールを進めます。

- 8. PXE Server機能のインストール途中で、IPv4とIPv6の使用有無を選択する画面が表示されます。 「IPv4 Only」を選択して [次へ] ボタンをクリックします。
- 9. PXEサービスが使用するLANカード(IPアドレス)を選択する画面で、管理LANとして管理対象サーバとの通信に使用するIPアドレスを選択して[次へ]ボタンをクリックします。

岁 Fujitsu ServerView Installation Manager PXE Server - I	nst ×
LANカードの選択(IPv4)	บ)๊เรรบ
DeploymentServiceで使用するLANカード(IPアドレス)を選択してください。 APIPAで割り当てられるリンクローカルアドレスは表示されません。	
[1] "イーサネット" - 10.25.2.31	^
[2] <nothing> [4]<nothing> [5]<nothing> [6]<nothing> [8]<nothing> [9]<nothing> [10]<nothing> [11]<nothing> [12]<nothing> [12]<nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing></nothing>	
InstalShield (전문자(P) (사이지) 네	
( MeSAD/ /X* VIO/ /	FYZE/V

- 10. DHCPサーバに対するオプション設定画面で、以下を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
  - 管理サーバ上でDHCPサーバを動作させる場合=[はい]
  - 別サーバ上でDHCPサーバを動作させる場合 = [いいえ]

11. SVIMのインストール途中で、リポジトリにアクセスするためのユーザアカウントを入力する画面が表示されます。

「3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成」で作成したアカウント情報を入力します。

SVIMの版数により、画面は下図と異なる場合があります。

B Fujitsu ServerView Installation Manager Data pa	c – 🗆 🗙
データハックージ にアクセスするためのユーサアカウント リモートインストールを設定する解決に データパックージ にアクセスするための ユーザアカウントを指定してくださし、	FUĴĨTSU
ネットワーク上からユーザを選択する場合は、【参照】を外っクしてください。 ユーザ名は「トゾイン名¥ユーザ名」と指定してください。	ドルの場合、
2-#%	参照
ハウスワート:	]
新しいユーザのパド的、 ヒント リモートインストールを設定する際に データパッケージ にアクセスするためのユ 定する必要があります。ユーザアカウンの指定を引き続き、次ページ13 データパックージ は、自動的に共有されます。	ーザアカン小を指 こて行います。
Wise Installation Wizard (R) <戻る 次へ>	キャンセル

- 12. 動作に必要なファイアウォールを無効にするかどうかを確認するウインドウが表示された場合、[OK]ボタンをクリックします。
- 13. Profile Manager Serviceのインストール途中でVIOM (ServerView Virtual-IO Manager)の動作IPアドレスを入力する画面が表示 されます。環境に応じて、以下の操作を行います。
  - VIOMがインストールされていない場合

何も変更せずに、[Next>]ボタンをクリックします。

- VIOMがインストールされている場合

[Select]ボタンをクリックして管理LANとして使用しているIPアドレスを選択した後、[Next >]ボタンをクリックします。

😥 Fujitsu ServerView Profile Manager Service Setup	- 🗆 X
Select Address VIOM IP	FUĴĨTSU
Please select the Address under which the VIOM Manager could be reached: Currently selected: 0.0.0.0:	
<mark>≤ <u>B</u>ack</mark> <u>N</u> ext >	Cancel

14. 画面表示に従ってインストールを完了させます。



手順3.でコピーしたファイルは不要です。必要に応じて削除してください。

### 3.1.7 FTPサーバの設定(OS)

以下の機能を使用する場合は、FTPサーバの設定が必要です。

- ・ ログ収集機能でETERNUS DXシリーズ、FCスイッチブレードのログ収集を行う場合
- ・ プロファイル管理機能でLinuxをインストールする場合
- メンテナンス支援機能でPRIMEQUEST、FCスイッチブレード、およびETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートを行う 場合

FTPサーバは、ISMがインストールされているOS上に設定します。

また、対象の機器がFTPサーバとは異なるネットワークに存在する場合、ルータを設定するなどして対象の機器とFTPサーバが各ネットワークで通信可能な状態にしてください。

#### FTPサーバのインストール

- 1. Windowsのサーバーマネージャーを起動し、画面左側で[ローカルサーバー]を選択します。
- 2. 画面右上のメニューで [管理] [役割と機能の追加] を選択します。
- 3. [開始する前に] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 4. [インストールの種類の選択] 画面で [役割ベースまたは機能ベースのインストール]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [対象サーバーの選択] 画面で [サーバープールからサーバーを選択] を選択し、[サーバープール] からISMのインストール先のサーバを選択します。
- 6. インストール先のサーバが正しいことを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 7. [サーバーの役割の選択] 画面で、[Webサーバー(IIS)] チェックボックスをオンにします。
- 8. 「Webサーバー(IIS)に必要な機能を追加しますか?」という確認ダイアログボックスが表示された場合は、[機能の追加]ボタンを クリックします。
- 9. [次へ] ボタンをクリックします。
- 10. [機能の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 11. [Web サーバーの役割(IIS)] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 12. [役割サービス選択] 画面で、[FTPサーバー] と [FTPサービス] のチェックボックスをオンにし、[次へ]ボタンをクリックします。
- 13. [インストールオプションの確認] 画面でインストールオプションを確認し、[インストール] ボタンをクリックします。 続けて、FTPサーバを追加します。
- 14. サーバーマネージャーの画面右上のメニューで [ツール] [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャー] を選択します。

インターネットインフォメーション サービス(IIS) マネージャーが起動します。

15. 画面左側で、<ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を選択します。

16. 以下のダイアログボックスが表示されたら、[いいえ] ボタンをクリックします。



- 17. <ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を右クリックして表示されるメニューで [FTPサイトの追加] をクリックします。
- 18. [サイト情報] 画面で、[FTPサイト名] と [コンテンツディレクトリ] を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

	FTP サイトの追加	? ×
● サイト情報		
FTP ታイト名(F):		
コンテンツ ディレクトリ 物理/(ス(H):		
	照に戻る(P) 次へ(N) 終了(	(F) ギャンセル

項目	設定値
FTPサイト名	任意の名前
物理パス	C:¥inetpub¥ftproot

19. [バインドとSSLの設定] 画面で、[FTPサイトを自動的に開始する] チェックボックスがオンになっていることを確認します。[SSL] は [無し] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

t−⊦(0): 1			
f−⊦(0): 1			
(			
1			
~	選択(S)		标(V)
-====	(A))	10.7/01	twite a
	v に戻る(P) 次	✓ 選択(S) 選択(S)	✓ 選択(S) 零 減死(S) 零

項目	設定値
IPアドレス	すべて未割り当て
ポート	21(変更不可)
[仮想ホスト名を有効にする] チェックボックス	オフ
[FTPサイトを自動的に開始する] チェックボックス	オン
SSL	無し

20. [認証および承認の情報] 画面で、[認証] は[匿名]および[基本] チェックボックスをオンにして、[アクセスの許可] でアクセスを許可するユーザーを指定します。[アクセス許可] は、[読み取り] と[書き込み] のチェックボックスをオンにして、[終了] ボタンをクリックします。

	FTP サイトの追加	? ×
認証および承認の情報		
総証 ・ 蛋名(A) ・ 蛋本(B)  承認   アクセスの許可(C):   指定されたユーザー   Administrator   アクセス許可   ・ 読み取り(D)    ・ 書き込み(W)	•	
	前に戻る(P) 次へ(N)	終了(F) キャンセル

項目	設定値
[匿名] チェックボックス	オン
[基本] チェックボックス	オン
アクセスの許可	指定されたユーザー、管理者権限のあるユーザー名
[読み取り] チェックボックス	オン
[書き込み] チェックボックス	オン

- 21. 画面左側で、作成したFTPサーバを選択し、画面右側から[FTPの承認規則]を実行します。
- 22. 規則を追加し、「すべての匿名ユーザー」に対して読み取りアクセスを許可します。
- 23. メニューで [ファイル] [終了] を選択します。

インターネットインフォメーション サービス(IIS)マネージャーが終了します。

## 3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備

### 3.2.1 概要

メンテナンス支援機能によるファームウェアアップデートまたはプロファイル適用時に、リポジトリ内に必要なファイルを準備します。

#### ServerView関連ファイルのインポート

プロファイル管理機能は、ServerView Update Managerの一部ファイルを利用して動作します。プロファイル管理機能を利用する場合は、ISMのインストール後にUpdate DVDのインポートを行ってください。操作方法の詳細は「5.1 各種DVDのデータインポート」を参照してください。

• Update DVD

```
最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。
http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/
```

#### ファームウェア/BIOSデータのインポート

ファームウェア、BIOSのアップデートを行う場合は、適用する版数のファームウェアまたはBIOSを含むUpdate DVDから、必要なデータを管理サーバ上に取り込んでおきます。

#### • Update DVD

最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。 http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/

## 関 ポイント

プロファイル適用時にアップデートする版数を指定できません。過去にインポートしたデータのうち最新の版数がアップデートに使用さ れます。

#### OSインストール媒体のインポート

Windows、VMwareなどのOSインストールを行う場合は、インストールするOSのインストールメディア内にあるファイルを、事前に管理サーバのハードディスク上にインポートしておきます。プロファイル管理はインポートされたファイルを使用してOSインストールを行います。

インポート可能なOSインストールメディアの種類は次のとおりです。

- Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter
- · Windows Server 2012 Standard / Datacenter
- · Windows Server 2008 R2 Standard / Enterprise / Datacenter
- VMware ESXi 5.5 / Update1
- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2

LinuxのインストールメディアはFTPサーバからファイルをダウンロードできるように準備する必要があります。作業内容の詳細は、「Linux インストール媒体の準備」を参照してください。

## 関 ポイント

• Windows Server 2012 R2およびWindows Server 2012を利用する場合、メディアの種類(Standard用/Datacenter用)を正しく指定してください。

・ VMwareの場合は、富士通から提供されているPRIMERGY向けメディア(イメージ)を使用してください。

#### Linuxインストール媒体の準備

Linuxをインストールする場合は、インストールメディアをFTPサーバからダウンロード可能にしておきます。 管理サーバ上または別のサーバ上でFTPサーバを動作させ、匿名 (anonymous) でログイン可能に設定してください。 インストールするOS種類に応じて、下表に示すフォルダーをFTPサーバの中に作成し、インストールメディアの中のファイルをすべてコ ピーしておいてください。

OS種類	フォルダー名
Red Hat Enterprise Linux 7.0 (for Intel64)	svism/RH7064
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for Intel64)	svism/RH6564
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for x86)	svism/RH6586

例えば、C:¥inetpub¥ftprootをFTPログイン時のルートフォルダーに設定した場合のフォルダー構造は下図のようになります。

C: L inetpub L ftproot Svism HR7064 L RH6564

#### メンテナンス支援機能で使用する媒体のインポート

メンテナンス支援機能で使用するファームウェアデータを必要に応じてインポートします。 対象となる媒体は以下の2種類です。

Cloud Ready Blocks Update Supplement

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks用の機器のファームウェアが収録されています。 ご利用の際は、事前に「Cloud Ready Blocks Update Supplement」と同じ版数のUpdate DVDをインポートしておく必要があります。

(例:「Update DVD 11.14.04」と「Cloud Ready Blocks Update Supplement 11.14.04」)

・ FC Switchblade Firmware DVD(PRIMERGYファイバーチャネルスイッチブレード用ファームウェアDVD)

PRIMERGYファイバーチャネルスイッチブレードのファームウェアが収録されています。

### 3.2.2 設定手順

対象サーバに対するプロファイル適用中は、管理サーバ上に用意した共有フォルダーを利用して必要なデータの送受信が行われます。 また、このフォルダーには各種DVDからインポートしたデータも格納されます。本フォルダーをリポジトリと呼びます。 ここでは共有フォルダーのパス名やアクセス方法を設定します。

## 関 ポイント

- ・ 共有フォルダーとアクセス用のアカウントは事前に作成しておいてください。詳細は、「3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成」を参照してください。
- ・リポジトリにはファームウェアデータやOSインストールに必要なファイルなど多くのファイルがコピーされるため、使用量が20 GB以上になることがあります。空き容量に注意してフォルダーを作成してください。
- ・リポジトリには多数のフォルダーが階層的に作成されます。Windowsのフォルダー名の長さ制限を超えないようにするため、リポジ トリパスはできるだけ短く設定してください(最大30文字程度を推奨)。

プロファイル適用中の動作を設定する手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

- 2. [Setup]画面の左側で [プロファイル適用動作設定] をクリックします。
- 3. 画面右側で各設定項目を入力します。

項目名	意味
管理サーバIPアドレス	ISMが動作しているサーバに割り当てられている管理ネットワーク上のIPアドレスを指定 します。管理サーバのネットワークポートが1つの場合はデフォルトで入力されているIP アドレスを使用できますが、ネットワークポートが複数存在する場合は正しいIPアドレスで あるか確認してください。
リポジトリパス	管理サーバ上に作成した共有フォルダーのパス名を指定します。全角文字(日本語など)は使用できません。
	例: "C:¥ismshare"
	デフォルトで上記フォルダー名が入力されていますが、ISMインストール時には本フォル ダーは作成されません。

項目名	意味
リポジトリ共有名	対象サーバからリポジトリにアクセスする際に使用する共有名を指定します。
	例:"ismshare"
	デフォルトで上記共有名が入力されていますが、ISMインストール時には共有設定は行われていません。
アクセスアカウントユーザ名	対象サーバから共有フォルダーへアクセスする際に使用されるアカウント名を入力しま す。管理サーバ上で作成したユーザー名になります。
アクセスアカウントパスワード	対象サーバから共有フォルダーへアクセスする際に使用されるパスワードを入力します。 管理サーバ上で作成したユーザーのパスワードになります。
アクセスアカウントパスワード(確 認)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力します。
httpポート	httpを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力します。 通常は「80」。
	nttpsを利用する場合は、何も八刀しません。
httpsポート	httpsを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力します。 通常は「443」。 httpを利用する場合は、何も入力しません。
ログインユーザ名	ISM画面を起動する際に、最初にServerView Operations Managerのサインオン画面(「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」の手順2参照)に入力するユーザ名を入力します。 「Administrator」ロールを持つユーザ名を入力してください。
ログインパスワード	上記ログインユーザ名に対するパスワードを入力してください。
ログインパスワード(確認用)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力します。

4. [登録] ボタンをクリックします。

# 関 ポイント

プロファイル適用動作設定画面でhttp/httpsのポート番号を変更する場合は、すべての対象サーバのiRMCポート番号を変更してください。なお、iRMCのhttpポート番号を変更すると、ISMのサーバプロパティ画面からBMC(iRMC)Webを起動できなくなります。

## 3.3 FTPサーバの設定(ISM)

OSプロファイルを使ってLinuxをインストールする場合、およびメンテナンス支援機能でファームウェアアップデートを行う場合に、FTP サーバが使用されます。

FTPサーバへのアクセスに関する設定手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

- 2. [Setup]画面の左側で [FTPサーバ設定] をクリックします。
- 3. 画面右側で各設定項目を入力します。

項目名	意味
FTPサーバ IPアドレス	FTPサーバのIPアドレスを指定します。 Linuxインストールおよびメンテナンス支援機能の該当機能を使用しない場合は設 定不要です。
ログインアカウントユーザ名	FTPサーバへログインするためのアカウントのユーザー名を入力します。 Linuxインストール時は匿名 (anonymous) でアクセスするため、メンテナンス支援機 能の該当機能を使用しない場合は設定不要です。

項目名	意味
ログインアカウントパスワード	FTPサーバヘログインするためのアカウントのパスワードを入力します。 Linuxインストール時は匿名 (anonymous) でアクセスするため、メンテナンス支援機能の該当機能を使用しない場合は設定不要です。
ログインアカウントパスワード(確認)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力しま す。

4. [登録]をクリックします。

## 3.4 DHCP設定(ISM)

各管理機器が使用するIPアドレスを事前に用途別に範囲指定しておきます。範囲の定義などの詳細は、「2.3 IPアドレスの設計」を参照してください。



管理サーバ上でDHCPサービスを利用しない場合、本設定は行いません。

DHCPを設定する手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

- 2. [Setup]画面の左側で [DHCP設定] をクリックします。
- 3. 画面の右側で、次の操作を行います。
  - 新規設定または追加設定:[新規追加]ボタンをクリック
  - 既存スコープを変更:変更対象をチェックし、[編集] ボタンをクリック
  - 既存スコープを削除:変更対象をチェックし、[削除] ボタンをクリック
  - 既存スコープの有効化/無効化:操作対象のスコープをチェックし、[有効化]または[無効化]をクリック

ServerVlew?						<b>⊐</b> -#	administrator (	12722E RUITSU
サーバリスト 登場者会定	サーバテータ イベント	サーバ監視	アップテート	4275	セネュリ	<del>7</del> 1		くして
				インフラダ	112			
Batte 29 インフラ管型								
Facility Manager   Facility	Browser   Profile Manager	Setup Ma	stenance			ServerV	iew Infrastructu	re Manager V1.20.01
* 酸尿 ● <mark>因和可能发展</mark> ● プロファイル 適用動作数定	DHCP型SE DHCPサービス状態:	正常			1016			最新の状態に更新
<ul> <li>テーシロボード東洋</li> <li>食児留理シク目状室</li> <li>ログモ集球室</li> </ul>	23-38 /	余化/服功	2,9-50	+s+	2-5重章	9,549193.5	₹-1211	ノード管理合数
			a det	80%. 161210		152	育物化	展幼化
	DHGP9-ビスの設定を ・ 利用でDHGP	光/ます。 3日-25話題を注	2個令· 19週週間台		製造剤で	(5%)		

#### スコープの新規作成/追加手順詳細

- 1. 画面右側の [新規追加] ボタンをクリックします。
- 2. 画面下部にスコープ名、貸出IPアドレス範囲などを入力します。

アポイント スコープ名はDHCPサービスの管理のために使用される名称です。プロファイル管理機能では利用しません。

- 3. 各項目を入力し、[確定] ボタンをクリックします。 追加の設定項目が表示されます。
- 4. 必要な項目を入力し、[登録] ボタンをクリックします。 画面上部に登録したスコープが表示されます。

23-78:	Scope1	
サブネットマスク:	255.255.255.0	
貸出127ドレス範囲:	192 . 168 . 1 . 240	~ 192 . 168 . 1 . 249 mm AMR
ネットワーク番号:	192.163.1.0	
ゲードウェイ:	192 , 168 , 1 , 1	
BMC(iRMC)固定IPアドレス	, WEAREN :	
	192 . 168 . 1 . 2	~ 192 . 168 . 1 . 100
サーバ管理LAN固定IPアド	レス範囲:	
	192 . 168 . 1 . 101	~ 192 . 168 . 1 . 199
システム管理IPアドレス範囲	l:	
	192 . 168 . 1 . 230	~ 192 . 168 . 1 . 239
DNSサーバ:	1	
NASKAP -8-		

- 5. 追加したスコープをチェックし、[有効化] ボタンをクリックします。
- 6. 複数のサブネット(スコープ)を利用する場合、手順2から手順5を繰り返します。



- ・ DNSサーバとDNSドメイン名の指定は任意、その他の項目は必須となります。
- スコープの新規作成/追加は、手動検出およびノード登録/解除の各処理が実行中ではない場合に行えます。
   処理中の場合は完了を待ってから行ってください。
- スコープの追加または編集の際、[貸出IPアドレス範囲]および[システム管理IPアドレス範囲]のIPアドレスの範囲に、すでに[管理可能][管理中]となっている機器が存在する場合、設定ができません。
   該当する機器を削除するか、[貸出IPアドレス範囲]および[システム管理IPアドレス範囲]の設定を確認してください。

#### 既存スコープの編集/削除/無効化時の注意

スコープの編集/削除/無効化は、以下の処理が実行中ではない場合に行えます。

- 自動検出(\*1)
- 手動検出
- ・ノード登録/解除
- ・ プロファイル適用

処理中の場合は完了を待ってから、スコープを操作してください。

\*1:ここでの自動検出とは、ISMが新しい機器を発見した場合に、管理対象機器かどうかを確認する処理を指します。自動検出は 画面操作とは関係なく、バックグラウンドで定期的に行われています。 ネットワークに新しい機器を接続した直後は、自動検出中のためにスコープの操作がエラーになる場合があります。この場合は30 秒ほど待ってから再度操作してください。

## 3.5 仮想環境管理ソフトの登録情報の準備

vCenterやSCVMMへのホスト登録機能を利用する場合は、登録先の情報などを事前に設定しておきます。 SCVMMの場合は次の操作も必要です。

#### vCenterへのホスト登録を行う場合

- 1. vCenter上でデータセンターを作成し、その配下にホスト登録先のフォルダーまたはクラスタを準備します。
- 2. [仮想管理ソフト設定] 画面でvCenter稼働サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。 詳細は、「3.6.1 仮想管理ソフト設定」を参照してください。

## 関 ポイント

vCenter Serverのバージョンは、登録するVMwareサーバに対応したものを使用してください。

#### SCVMMへのホスト登録を行う場合

- 1. SCVMM上でホスト登録先のフォルダーを準備します。
- 2. 管理サーバをActive Directoryに所属させます。
- 3. 管理サーバ上にSCVMMのコンソールをインストールします。



管理サーバにインストールするSCVMMコンソールは、登録先のSCVMMサーバに対応したものを使用してください。 管理サーバにSCVMM2012のコンソールがインストールされているが、登録先のSCVMMサーバがWindows Server 2008 R2で あるなど、SCVMMコンソールとSCVMMサーバの種類が異なる場合の動作はサポート対象外となります。

- 4. 管理サーバを再起動します。
- 5. [仮想管理ソフト設定] 画面でSCVMM稼働サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。 詳細は、「3.6.1 仮想管理ソフト設定」を参照してください。

## 関 ポイント

SCVMMのバージョンは、登録するWindowsサーバに対応したものを使用してください。

## **3.6 vCenterまたはSCVMMへのホスト登録機能の利用**

vCenterまたはSCVMMへのホスト登録機能を使用する場合、必要な情報を事前に設定します。

ISMが扱うvCenterサーバやSCVMMサーバが複数存在する場合は、それらをすべて登録してください。また、同一サーバであっても登録先フォルダーが異なる場合は、それらも各々登録しておきます。

### 3.6.1 仮想管理ソフト設定

仮想管理ソフトを設定する手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

2. [Setup]画面の左側で [仮想管理ソフト設定] をクリックします。

Facility Manager   Facility Brows	er   ]	Profile Manager	Setup   Mainten	lance	ServerView Infrastruct	ture Manager V1.3.0
	仮た	想管理ソフト設定				最新の状態に更新
<ul> <li>プロファイル適用動作設定</li> </ul>	IPアドレス / 利用ソフト		利用ソフト	管理者ユーザ名	ホスト登録先フォルダ名	
● データインポート実行		192.168.1.100	vCenter	administrator	svismvc	
		192.168.1.5	System Center	localdomain¥Administrator	group 1	
<ul> <li>■ FTPサーバ設定</li> </ul>		192.168.2.46	vCenter	administrator@vsphere.local	cluster 1	
				<u></u>	規道加	削除
	仮想 →谷	<ul> <li>         ・新規に登録先(         ・新規に登録先         ・既存の登録先         ・既存の登録先         ・既存の登録先         ・既存の登録先         ・既存の登録先         ・         ・既存の登録先         ・         ・         ・</li></ul>	D設定を行います。 の追加を行う場合、新行 の変更を行う場合、対 の削除を行う場合、対 が表示されます。複数)	現追加ボタンを押下して登録を行って、 象を選択して編集ボタンを押下し、登 象を選択して削除ボタンを押下してくだ 選択した場合は表示されません。	ください。 録を行ってください。 さい。	<u>^</u>

- 3. 新しくホスト登録先を作成する場合は、[新規追加] ボタンをクリックしたあと、画面表示に従って設定値を入力します。
  - VMware利用時の場合

登録先はvCenterとなります。

項目名	意味
IPアドレス	vCenterがインストールされているサーバのIPアドレスを入力します。
管理者ユーザ名	vCenterへログインする際のユーザー名を入力します。
管理者パスワード	vCenterへログインする際のパスワードを入力します。
管理者パスワード(確認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力しま す。
ホスト登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名を入力します。Profile Managerでは、日本語など(全角文字)を含む名称を指定できません。 フォルダーが階層的に作成されている場合、最下層のフォルダー名を指定します。 同一名称のフォルダーがほかに存在する場合は、意図した場所へ登録されない ことがあります。
httpsポート番号	ホスト登録処理中、httpsを利用して通信を行います。このとき利用するポート番号を入力します。通常は「443」です。

- Hyper-V(Windows)利用時の場合

登録先はSCVMMとなります。

項目名	意味
IPアドレス	SCVMMがインストールされているサーバのIPアドレスを入力します。
SCVMMログインユーザ名	SCVMMへログインする際のユーザー名を入力します。
SCVMMログインパスワード	SCVMMへログインする際のパスワードを入力します。
SCVMMログインパスワード (確認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力しま す。
ホスト登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名を入力します。
ドメイン管理者 ユーザ名	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのドメイン名とユーザー名 を入力します。
ドメイン管理者 パスワード	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのパスワードを入力しま す。
ドメイン管理者 パスワード(確 認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力しま す。

- 必要な設定を入力したあと、必要に応じて [通信テスト] ボタンをクリックし、仮想管理ソフトと通信できることを確認します。
   通信テストはスキップできます。
- [登録] ボタンをクリックします。
   画面上部に登録内容が一覧表示されます。

## 関 ポイント

- ・ すでに登録されている情報を変更または削除する場合は、画面上部の一覧で対象の登録先にチェックを付けたあとに[編集] ボ タン、または[削除] ボタンをクリックします。
- ・ 本画面で設定した情報が、ファシリティ管理機能の「4.2.8 [仮想管理ソフトウェア情報]タブ」内に表示される内容になります。

### 3.6.2 仮想管理ソフトの登録

### 関 ポイント

OSプロファイル適用済みのサーバに対して実行できます。本機能を利用する際は、事前に仮想管理ソフト登録設定を行ってください。 詳細は、「3.6.1 仮想管理ソフト設定」を参照してください。

仮想管理ソフトを登録する手順は次のとおりです。

- 機器のプロパティ画面を表示します。
   詳しくは、「5.5.2 機器情報表示」を参照してください。
- [仮想管理ソフト登録] ボタンをクリックします。
   登録先情報が表示されます。
- 3. 登録先に問題なければ [OK] ボタンをクリックします。

仮想管理ソフトの登録が開始されます。

登録中は装置状態を示すアイコンが「処理中」となり、[ノードリスト]画面の機器一覧表内の進行バーが「登録中」となります。

4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

作業が完了するのを待ちます。

	9408	建备交	相界之 /	T.P 52	HIGTOTRACE	CS202w/II.	m	適用項目		
	10,000	1012-C 1005-	W99-C	1/11-24	HW2022170	03/0////	IL.	F%	BIOS BMD	36
b	登録中	PRIMEROM ROODO S8	3VN3012845	Met2	HW_Mgmt_F0/2008_	03_Mgm(_RX2003	2			

### 3.7 メンテナンス機能のための設定変更

#### tftp設定ファイル

マネジメントブレードのファームウェアアップデートを行う場合に本設定が必要になります。 以下の設定ファイルを編集して、ServerView Infrastructure Managerが動作している管理サーバのIPアドレスを設定します。

・ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svhlcm¥etc¥global¥ipaddr.ini (デフォルト: C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svhlcm¥etc¥global¥ipaddr.ini)

#### ・修正箇所

[ipaddress]	
# ftp=192.168.1.1	
# tftp=192.168.1.1	

[tftp]の定義行行頭の「#」を削除してコメントアウトを解除し、IPアドレスを編集します。IPアドレスは、管理サーバのIPアドレスのうち、ファームウェアのアップデートの対象とするマネジメントブレードからアクセスできるIPアドレス(管理用ネットワークのIPアドレス)を設定します。

修正後の例を示します。

[ipaddress] # ftp=192.168.1.1 tftp=10.21.10.11

#### ポート番号変更

メンテナンス支援機能で使用するサービスのポート番号を変更する場合は、OSのServices定義ファイルを編集します。

・ファイル名

C:\Windows\System32\drivers\etc\services

・修正箇所

[svhlcm-controller]および[svhlcm-firmmgr]の定義行のポート番号を編集します。

修正後の例を示します。

svhlcm-controller 35560/tcp #SVHLCM Controller svhlcm-firmmgr 35561/tcp #SVHLCM Firmware Manager

ファイルの編集後、メンテナンス支援機能のサービスの再起動が必要です。

OSの管理ツールの[サービス]から[SVHLCM Service]を選択し、再起動します。

#### ファイアーウォール

以下のポートを、管理コンソールから管理サーバへ通信が有効になるように設定します。

ポート番号(初期値)	名称	説明
25560	svhlcm-controller	メンテナンス支援機能のGUIからサービス間の通信に使用

#### SVFAB設定ファイル

ファブリックマネージャーのサービスのポート番号設定を変更した場合、以下の定義ファイルを編集します。スイッチ機器(L2スイッチ、 コンバージドファブリック)を取り扱わない場合、およびファブリックマネージャーのサービスのポート番号設定を変更しない場合は、編 集は不要です。

・ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svhlcm¥etc¥global¥svfab.ini (デフォルト: C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svhlcm¥etc¥global¥svfab.ini)

#### ・編集箇所

OSのServicesの定義に合わせて、[svfab-controller]および[svfab-psmgr]の定義行のポート番号を編集します。

修正後の例を示します。

[svfab access] ipAddress=127.0.0.1 svfab-controller=35460 svfab-psmgr=35461

#### SVFABの設定

コンバージドファブリックやL2スイッチの登録作業を実施します。

登録作業については、『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management 取扱説明書』の「第3章 管理対象の登録」 を参照してください。

# 第4章 ISMのユーザーインターフェース

# 4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)

ISMの画面を表示する方法は以下のとおりです。

1. ブラウザを起動し、以下のURLを入力します。

https://<システム名>.<ドメイン名>:3170/sv\_www.html

SVOMが開始されます。

SVOMが正常に開始されないなどの問題が発生した場合は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMのインストールガイドを参照し、設定に問題がないか確認してください。

2. [ユーザ]と[パスワード]を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

ServerView		คปที่ทรม
		~10
	FUJITSU Software ServerView Suite Central Authentication Service	
	サインオン	
	ユーザ パスワード ログイン	
	・ ServerAmeのサラムがのユーザとパワフ・ドのへんせえ、ことなる参称してださい。 ・ バスワードの先期能力は未開にスペースを入れたことはできません。 ・ サージの価値を参加される可能性があるため、ロアフリト語のアラセスが了時日は、ロデイン面配に外はウェブナラウザを呼下することを経営します。	
C Fully Technics Stations 2077-27	114 AB rights belanved	

3. SVOMのスタートページで[インフラ管理]をクリックします。



4. ISMの[Facility Manager]画面が表示されます。

S'ServerView				a-	1): edministrati	n párát	คมมีกรม
サーバルス3 管理音動定 サーバアータ イイント	サール版現 アップブート 🛶	22 E#4974			_	_	Not
	0	7)増増					
Hornoro of Control Facility Manager   Facility Browser   Profile Masa	ager   Setup   Maintenance			Server	View Infrastroc	ture Manager	V1.20.01
Rest (192)	Rudk-1 Radk-2	Reck 3	Rode-4				
► 38-7-¥ ► 18-5 ► 18-5							- ini
► CACUN ► CACUN ► DSUM							Si .

初期状態では[Facility Manager]画面が表示されます。

画面上部の [Facility Manager] / [Facility Browser] / [Profile Manager] / [Setup] / [Maintenance] のリンクボタンをクリックすると、リンク ごとにWebブラウザが起動し、ウィンドウを切り替えながら操作できます。

- [Facility Manager] 画面
- [Facility Browser] 画面
- [Profile Manager]画面
- [Setup]画面
- [Maintenance]画面

### 4.2 [Facility Manager]画面

ISMの画面上部のメニューから [Facility Manager] をクリックするとファシリティ管理の画面が表示されます。

ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

[Facility Manager]画面には、データセンターのフロアおよびラックに搭載されている機器の情報が表示されます。

画面左側のツリーエリアと右側のワークエリアに分かれていて、ツリーエリアには、表示または設定する情報に応じて次のタブが用意されています。

- ・ ダッシュボード
- 一覧
- グループー覧
- ・ レポート
- しきい値
- インベントリ
- ・ログ収集
- ・ 仮想管理ソフトウェア情報

タブを切り替えると対応する画面が表示されます。

タブごとの画面のツリーエリアで表示対象を選択すると、ワークエリアの内容が切り替わります。

#### 状態(ステータス)アイコン一覧

アイコン	説明
0	正常に動作しています。
1	警告の状態です。
8	異常の状態です。
0	無応答の状態です。または、FirstSightでは未サポートの機器です。
•	アクセスプロトコルで認証エラーが発生しています。
•	情報収集中です。

#### メッセージー覧

メッセージ	説明
通信不可	対象のサーバと通信不可
対象外	対象のサーバでは対象外の機能
情報取得中	対象のサーバは情報取得中

### 4.2.1 [ダッシュボード] タブ(富士通Modular Data Center使用時のみ表示)

[Facility Manager]画面の[ダッシュボード]タブは、富士通Modular Data Center使用時のみ表示されます。

[ダッシュボード]タブをクリックして表示される画面では、PUE、消費電力、空調機の情報などが一目で確認できます。

ServerView				f. administrator D070E	ruinsu
ー」のノスト 管理者設定 ・	サーバデータ管理 イベル管理 サ	- パ温液 アップデート管理	インフラ セキュリティ		140
			インフラ管理		
ene >> インフラ管理					
cility Manager   Facility Bros	rogi Relichhager DHERMA			a Viewlaineana a Managari	14.40400
ダッシュボード	1				-
コノラナダッシュボード	コンテナ全体の総計				. 1
	PUE	消費電力(KW)	785	は力(トルð	1) E
		1.64	13.33	13.30	. 8
	1 13 20 23 30	23 0 20 20	, , , , , ,	20 20 20 40 50	- 1
	Fill (PWR@7)(KW)SA859CL	教(C)- 結死温度設定値(C)= 差	(C) RAI開発温度(C)CPWRUB開出	(7)(KWOOA外氨基酸(C)AF氨量(M	A00
	9-JSAM	サーバ日晩	2004AR	2009#	
	PWR: 6.61	PWR:1.51	PWR:1.82	PWR: 3.19	
	0 2 4 6 8 20	0 2 4 6 8 50	0 2 4 6 6 50	0 2 4 6 8 30	
	Cooling	Cooling?	Cooling8	Cooling4	1
	SA: 24.2 - 27.0 = -2.8	SA: 18.0 - 18.0 = 0.0	SA: 21.3 - 22.0 = -0.7	SA: 20.3 - 18.0 = 2.3	
	0 10 20 20 40 50	0 10 20 20 40 50	0 10 20 20 40 50	0 90 20 20 40 50	
	RA: 24.2	RA: 24.0	RA : 21.6	RA: 23.5	
	0 10 20 20 40 10	0 20 20 30 40 50	0 10 20 30 40 10	0 30 20 30 40 50	
	CPWR:0.0	CPWR : 10.1	CPWR:0.0	CPWR: 3.2	
		0 20 20 30 40 50			
	0A : 22.9	0A:23.4	OA : 23.3	0A : 23.3	
		A =1 10 10 41 41			
	AF : 5000.0	AF : 5000.0	AF : 7000.0	AF : 3000.0	
-1				0 24 46 64 66 204	- 8
L#-1-	Rack-1	Rack-2	Rack-3	Rack-4	
LECHE	PWR : 0.0	PWR:: 0.0	PVVR : 0.06	PWR: 0.0	

・ [コンテナ全体の総計]

PUE、消費電力、冷却能力が表示されます。

・[詳細]

以下の機器について計測データが表示されます。

- 電力系統ごと:消費電力
- 空調機ごと:給気温度、還気温度、冷却能力、外気温度、給気風量
- ラックごと:消費電力

異常、警告を検出した機器については、状態(ステータス)を示すアイコンが表示され、表示色が以下のように変更されます。

- 赤:異常
- 黄:警告

アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」参照。

### 4.2.2 [一覧]タブ

[Facility Manager] 画面の[一覧] タブには、Facility Managerに登録されている各種機器がツリー形式で表示されます。

ツリーで選択した項目に応じて、ワークエリアに表示される内容が切り替わります。

以下に、ツリーの項目ごとに画面を説明します。

### 4.2.2.1 [全ての機器]画面(サーバ/スイッチ/ストレージ/ファシリティ機器)

[全ての機器]画面には、ツリーで選択したICT機器およびファシリティ機器の状態が表示されます。



No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わります。
		選択した機器(サーバ/スイッチ/ストレージ/ファシリティ機器)で、登録されているものの一覧がツリーに 展開され、ワークエリアに表示されます。
		[全ての機器]を選択した場合には、登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧が ワークエリアに表示されます。
		ラックを右クリックして表示されるメニューで [消費電力制御設定]をクリックすると、[消費電力制御設定] 画面が表示され、ICT機器の電力モニタリングと省電力制御の設定や実行ができます。
		詳しくは、「4.2.9 [消費電力制御設定]画面」を参照してください。
(2)	フィルタ	ワークエリアの一覧に表示される項目の値を指定して、[フィルタ]ボタンをクリックすると、一覧の情報が 絞り込んで表示されます。
(3)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧を表示します。一覧に表示される項目は以下のとおりです。

No.	項目	説明
		<ul> <li>・状態(ステータス):機器の状態(ステータス)を示すアイコン</li> <li>アイコンについては、「状態(ステータス)アイコン一覧」を参照してください。</li> </ul>
		<ul> <li>[機器名]:Web i/f(URL)が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたアプリケーション (各機器のWeb GUIなど)が起動</li> </ul>
		• [IPアドレス]
		・ [モデル]
		• [S/N]
		・ [ラック]:搭載したラック番号
		・ [搭載位置]:ラックの搭載したユニット番号と使用ユニット数
		・ [ローカルノート]

ワークエリアに表示される一覧の各行を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

プロパティの表示

選択した機器のプロパティが表示されます。

	ICT機器	空調ユニット	分電盤	その他	ラック	コンテナ
コンテナ名	×	×	×	×	×	0
ラック番号	×	×	×	×	0	O
ラック名	×	×	×	×	O	×
コンテナ設置場所	×	×	×	×	0	0
機器名	0	0	0	0	×	×
S/N	0	0	0	O	×	×
型名	0	O	0	0	0	0
導入(設置)年月日	0	0	0	0	0	0
IPアドレス	0	0	0	O	×	×
モデル名	0	O	0	0	×	×
システム名	0	0	0	O	×	×
機器タイプ	0	0	0	0	×	×
ベンダ名	0	0	0	0	0	0
コミュニティ名	0	O	0	0	×	×
アカウント	0	0	0	0	×	×
パスワード	0	O	0	0	×	×
ローカルノート	0	O	0	0	0	0
接続PDU	0	×	×	×	×	×
Web i/f(URL)	0	0	0	O	0	0
サブURL	0	0	0	O	×	×
識別灯	0	×	×	×	×	×
センサー情報	$\bigtriangleup$	0	0	$\bigtriangleup$	0	×
パワーキャッピング	×	×	×	×	0	×
制御設定	×	O	×	×	×	×

	ICT機器	空調ユニット	分電盤	その他	ラック	コンテナ
設定温度	×	O	×	×	×	×
風量設定	×	O	×	×	×	×
運転状態	×	O	×	×	×	×

◎:書込可、〇:表示のみ、△:機器に応じて表示、×:非表示

画面を開く

Webインターフェース(URL)およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。 設定されたURL(機器のWeb GUIなど)が起動されます。

削除

選択した機器の情報を削除します。

移動

ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動できます。

移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから[移動]を選択すると、[機器移動]画面がポップアップ表示されます。 現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。

・ 状態クリア

選択したICT機器またはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信し、[状態(ステータス)]に異常また は警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が表示されます。 異常または警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が表示されます。

異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから[状態クリア]を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

### 4.2.2.2 [ラックレイアウト]画面

富士通Modular Data Center以外の場合に表示されます。

[ラックレイアウト] 画面では監視対象として登録されているラックの配置が表示されます。

[編集]ボタンをクリックすると、画面下部に「編集モード」と表示され、ラックの位置を編集できる編集モードとなります。

#### 図4.1 [ラックレイアウト] 画面(編集モード)



編集モードで画面を右クリックすると[ラック登録]メニューが表示され、[ラックレイアウト]画面に表示されていない登録済みのラックを画面に配置できます。

また、編集モードではすでに設置してあるオブジェクトをドラッグして位置を変更できます。

### 4.2.2.3 [コンテナ]画面

富士通Modular Data Center使用時に表示されます。

[コンテナ]画面には、コンテナ全体を上から見た図が表示され、各ファシリティ機器の概要を確認できます。



No.	項目	説明
(1)	[コンテナ]	クリックすると、コンテナを上から見た図がワークエリアに表示されます。
(2)	ワークエリア	コンテナを上から見た図が表示されます。
(3)	温度/湿度	オプションの温度/湿度センサーが設置された場合に温度/湿度が表示されます。
(4)	照明操作(天井灯)	[ON]ボタンまたは[OFF]ボタンをクリックしてコンテナの天井灯のオン/オフを操作します。コンテナ内の天井灯スイッチの操作が優先されます。
(5)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各機器の詳細情報が表示されます。
		機器ごとの詳細情報は「表4.1 [コンテナ]画面-機器ごとに表示される詳細情報」参照。
(6)	ラック	クリックすると、[ラック]画面に切り替わります。
		搭載している機器のどれかに、無応答、警告(しきい値超過含む)、異常(しきい値超過含む)が検出 されている場合、状態が色(白:無応答、黄:警告、赤:異常)で表示されます。
(7)	空調ユニット	ユニット番号は、分電盤側から1~4となります。無応答、警告(しきい値超過)、軽故障(*1)、異常(し きい値超過)、重故障(*2)が検出されているユニットがある場合、状態が色(白:無応答、黄:警告/軽 故障、赤:異常/重故障)で表示されます。
(8)	分電盤	無応答、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)が検出されている場合、状態が色(白:無応答、 黄:警告、赤:異常)で表示されます。
(9)	冷却、消費電力	消費電力(コンテナ全体)、冷却出力(コンテナ全体)、PUE(Power UsageEffectiveness)が表示されます。
		PUEは正時ごとの消費電力量から算出されます。

\*1: 軽故障とは、温度が設定値範囲に入らないが空調ユニットの運転が継続可能な異常要素を指します。

\*2: 重故障とは、空調ユニットが停止、または停止の可能性が大きい、または制御システムは動作継続しているが冷却できない異常状態を指します。

#### 表4.1 [コンテナ]画面-機器ごとに表示される詳細情報

項目	表示される項目
ラック	名称、ステータス
	ステータスには、ラックに搭載している機器の状態に応じて、正常、警告、異常、無応答のどれかが表示されます。
空調ユニット	名称、ステータス、給気(SA)温度、還気(RA)温度(℃)、冷却出力(kW)
	外気(OA)温度( $\mathbb{C}$ )、給気(SA)風量設定(m3/h)、給気(SA)温度設定( $\mathbb{C}$ )、運転操作(ON/OFF)、 重故障(*2)、軽故障(*1)、操作場所(リモート/ローカル)
	ステータスには、正常、警告(軽故障/しきい値超過)、異常(重故障/しきい値超過)、無応答のいず れが表示されます。
分電盤	名称、ステータス、電力(kW)、電力量(kWh)、需要電力(kW)
	ステータスには、正常、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)、無応答のどれかが表示されます。

\*1: 軽故障とは、温度が設定値範囲に入らないが空調ユニットの運転が継続可能な異常要素を指します。

\*2: 重故障とは、空調ユニットが停止、または停止の可能性が大きい、または制御システムは動作継続しているが冷却できない異常状態を指します。

### 4.2.2.4 [ラック]画面

[ラック]画面には、ラックに搭載されているICT機器の情報が表示されます。



No.	項目	説明
(1)	[ラック]	機器の状態(ステータス)を示すアイコンと名称が表示されます。
		アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」参照。
		クリックすると、ラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに表示されます。

No.	項目	説明
(2)	ワークエリア	ラックに搭載されている機器の情報が表示されます。
(3)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各詳細情報が表示されます。
		機器ごとの詳細情報は「表4.2 [ラック]画面 - 機器ごとに表示される詳細情報」参照。
<ul><li>(4) ラック搭載機器</li><li>[ICT機器]</li></ul>		サーバ、ストレージ、スイッチの搭載位置などが表示されます。
		青いラベルに、機器の種類(SV:サーバ、ST:ストレージ、SW:スイッチ)が表示されます。
		Web i/f(URL)が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたアプリケーション(各機器のWeb GUI)が起動されます。

#### 表4.2 [ラック]画面 - 機器ごとに表示される詳細情報

項目	表示される項目		
ラックサーバ、ブレードサーバ/マルチノー ドサーバ(*1)	名称、ステータス、モデル名、IPアドレス、搭載位置、接続PDU、CPU温度、 吸気温度、消費電力、LED(*2)		
ストレージ、ネットワークスイッチ	名称、ステータス、モデル名、IPアドレス、搭載位置、接続PDU、 吸気温度、消費電力、LED(*2)		

\*1:ブレードサーバまたはマルチノードサーバをクリックした場合、ワークエリア内にシャーシ画面を表示します。

\*2:電源、エラー、CSS、識別灯のLED状態を表示します。 機種によって表示されるLEDの種別が異なります。詳細については弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

電源、エラー、CSSのLED状態変更が検出された場合、以下のメッセージがアプリケーションログに出力されます。 電源LEDの状態変更が検出された場合、「イベントID:5050(情報)」でのみメッセージが出力されます。

項目	説明
ソース	ServerView Infrastructure Manager
イベントID	5050(情報):LEDが正常(Off)となった場合 5051(警告):LEDが警告(On)となった場合 5052(異常):LEDが不明(Unknown)となった場合 5053(エラー):LEDがエラー(Blink)となった場合
メッセージ	Status has changed at {0} ({1}), {2} STATE: {3} PREVIOUS STATE: {4}.         {0}: ファシリティ名         {1}: IPアドレス         {2}: LED種別 (電源、エラー、CSS)         {3}:現在のLED状態         {4}: 直前のLED状態

ワークエリアに表示される各オブジェクトを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。 コンテキストメニューの項目と実行できる機能は次のとおりです。

・ プロパティ

各機器のプロパティを参照、編集する[機器プロパティ]画面が表示されます。 表示される項目については、「表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目」参照。



[FirstSight]画面が表示された状態で機器プロパティの値を変更しても、変更内容は[FirstSight]画面に反映されません。機器プロパティの値を変更する場合、編集する前に[FirstSight]画面を閉じてください。[FirstSight]画面を表示したまま機器プロパティを変更した場合、[FirstSight]画面をいったん閉じて表示し直すと、変更内容が反映されます。

・ 画面を開く

Webインターフェース(URL)およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。 設定されたURL(機器のWeb GUIなど)が起動されます。

・ <グループ定義名>

[FirstSight]画面を表示します。 詳細については、「4.2.2.5 [FirstSight]画面」を参照してください。

削除

選択した機器の情報を削除します。

移動

ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動できます。 移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから[移動]を選択すると、[機器移動]画面がポップアップ表示されます。 現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。

・ 状態クリア

選択したICT機器またはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信し、異常または警告を示すアイコン が表示されている場合にメニュー項目が表示されます。

異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから[状態クリア]を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

タブ名称	項目	説明	
プロパティ	機器名	機器名が表示されます。	
	ベンダ名	ベンダー名が表示されます。	
	型名	型名を表示/変更できます。	
	S/N	シリアル番号を表示/変更できます。	
	モデル名	モデル名を表示/変更できます。	
	システム名	システム名を表示/変更できます。	
	機器タイプ	機器タイプが表示されます。	
	導入(設置)年月日	導入(設置)年月日が表示されます。	
	IPアドレス	IPアドレスを表示/変更できます。	
	MACアドレス	MACアドレスを表示/変更できます。	
	アカウント	アカウントを表示/変更できます。	
	パスワード	パスワードを変更できます。(入力したパスワードは*で表示されます)	
	パスワード(確認)		
	コミュニティ名	コミュニティ名を表示/変更できます。	
	Web i/f (URL)	機器をダブルクリック、または[画面を開く]-[Web i/f]を選択した場合に表示されるWeb インターフェースのURLを表示/変更できます。	
拡張	サブURL	サブURLの名称およびURLを表示/変更できます。 ここで設定したサブURLは、コンテキストメニュー[画面を開く] に追加されます。	
	ローカルノート	ローカルノートを表示/変更できます。	
	接続PDU	未サポートです。	
センサー	センサー情報	ステータスアイコン、センサー名称、測定値が表示されます。 表示されるセンサーは選択した機器に応じて異なります。	
		詳しくは、「表4.4 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー)」を参照し てください。	

表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目

タブ名称	項目	説明
管理OS	HOST名	HOST名を表示/変更できます。
(サーバ、サーバブ レードを選択した場合 のみ)	OS種別	OSを表示/選択できます。
	IPアドレス	OSのIPアドレスを表示/変更できます。
	アカウント	OSアクセスに使用するアカウントを表示/変更できます。
	パスワード	OSアクセスに使用するパスワードを変更できます。(入力したパスワードは*で表示さ
	パスワード(確認)	れます)

#### 表4.4 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー)

機器	センサー
シャーシ	消費電力(W)
サーバ、サーバブレード	識別灯、CPU温度(℃)、吸気温度(℃)、消費電力(W)、LED
Converged Fabric Switch	消費電力(W)、Fabric/Domain/Switch、吸気温度(℃)
Converged Fabric Switch Blade	消費電力(W)、Fabric/Domain/Switch
ストレージ(*1)	消費電力(W)、吸気温度(℃)、LED
スイッチ、FCスイッチ (*2)	吸気温度(℃)または筐体温度(℃)、消費電力(W)、LED

\*1:コントローラーエンクロージャーのみ。ドライブエンクロージャーにはセンサーは表示されません。

\*2: 消費電力は富士通製スイッチの場合のみ表示されます。また、Cisco製スイッチの一部機種では筐体温度取得が未サポートとなります。Cisco製スイッチのWeb i/fで温度が表示されない機種では温度が取得されず、ISMのユーザーインターフェース上では常に「0」(℃)と表示されます。

### 4.2.2.5 [FirstSight]画面

[FirstSight]画面では、ハードウェアの情報、ソフトウェアの情報、仮想マシン、レポートおよびイベントログ、消費電力などを1つの画面 で管理できます。

[ラック]画面の機器コンテキストメニューからFirstSightまたはグループ名を選択し、[FirstSight]画面を表示します。

FirstSightの最新サポート環境については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

#### 1)サーバ

ここでは、[FirstSight]画面を機種ごとに説明します。

### 🕑 ポイント

[FirstSight]画面は、[グループ一覧]タブのワークエリアで[グループ設定]メニューを表示して操作することで表示できます。詳しくは、 「4.2.3 [グループ一覧]タブ」を参照してください。

. . . . . . . . . . . .

# G 注意

- ・ [FirstSight]画面の表示には1分程度かかります。
- ・ SNMPサービスで使用するコミュニティ名は、システム内で同一にしてください。
- ・ 未サポート機器の場合、情報は保証されません。直接、MMB・iRMCなどに接続して確認してください。
- ・ 監視対象サーバにアクセスできない場合、情報は表示されません。

情報を表示するためには、[ラック]画面 - 機器プロパティ項目で設定される情報(IPアドレス、コミュニティ名など)および管理OS項目で設定される情報(IPアドレス、アカウントなど)などが正しく設定されている必要があります。 機器プロパティ項目から設定値を変更した場合には、[FirstSight]画面を表示し直してください。

- ・ 管理用サーバからADサーバ/NTPサーバ/DNSサーバなどに接続できない場合、情報が表示されないことがあります。
- FirstSight表示可能機器(サポート機器)を選択しても「FirstSight未サポート機器です」と表示された場合、モデル名が誤っている 可能性があります。該当機器のモデル名が正しく登録されているか確認し、誤っている場合には該当機器の[機器プロパティ]画面 で修正してください。
   [機器プロパティ]画面は、[ラック]画面のワークエリア上の機器を右クリックして表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」を 選択すると表示されます。
   モデル名は大文字、小文字が区別されます。また、適切な位置に半角スペースが入力されている必要があります。
   (例: PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100 S3、PRIMEQUEST 2400S)

 $(\mathbb{P}!.\mathsf{FKIWERU1}\mathsf{KA200}\mathsf{56},\mathsf{E1EKNU5}\mathsf{DA100}\mathsf{55},\mathsf{FKIWEQUES1}\mathsf{24005})$ 

#### 図4.2 PRIMERGY BXシリーズ



レポート イベントログ				
メッセージ	タイプ	日付と時刻	ユーザー	
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-14 10:04:82	root	*
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-14 10:03:18	root	
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-14 10:02:05	root	
root9192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-13 22:02:06	root	
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-13 22:00:54	root	
root9192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-13 21:59:42	root	_
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2010-11-10 21:58:29	root	
root@192.168.200.119 にログインできません	8	2018-11-13 21:57:16	root	
root@192.168.200.119 にログインできません	0	2018-11-13 21:56:03	root	
root@192.168.200.119 にログインできません	0	2018-11-13 21:54:53	root	
	0	0010 11 10 01.00.00		¥

#### 図4.3 PRIMERGY RXシリーズ

9		FirstSight		- D K
7	F0/20058-1		(4)	黑纤
(1)		3次752047 3次7520-0754番号 5次7520-0754番号 5次754巻写 32754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754巻写 12754 12755 12754 12755 12754 12755 12755 12754 127555 1275555 12755555 127555555 127555555555555555555555555555555555555	FRAMERAV FOSEC 38 VIN Exercic - Latisu 3986 2883 - DOSC2+A-1X 39504000 (13890/500 UCE) 15 80 20088 413,0150 0890-214 2008 413,0150 0890-214 2009 Wincero Server 2012 RC Standard Even	etten
(3)	済費電力(W) 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	500 402歳 30歳 モント CPUI きかの CPUI きかの CPU使用中(約) の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	間が3 6 15em/10 2*L EF-2438 3/0 2254 . 22311 メモリ使用容(%) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2014 

I

(5)

メッセージ	タイプ	日付と時刻	ユーザー	
rnnH019216814081にログインできません	8	2613-11-23 1843:56	root	+
raot@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1842:27	rcot	
root@192.168.140.81 に口グインで含ません	8	2013-11-28 1841:08	rcot	
raot@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 18:10:04	rcot	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1838-56	rcot	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 18:37:46	rcot	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1836:24	rcot	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1833:42	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1832:24	rcot	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1831:20	root	
raot@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-28 1830:07	rcot	
A REAL PROPERTY AND A REAL PROPERTY OF THE ADDRESS OF T	100			_

#### 図4.4 PRIMERGY CXシリーズ

	dan af	A LAND A COMPANY				
Ψ		CX400M1-3	_	(4)		更新
-• 00/400M1-3	(1)	Edi	Slot1			-
			システムタイプ	PRIMERGY RU2526 M1		
	(2)	背面	システムシリアル番号	YL5K860826		
	(2)		52.7ム製造元	FUJETSU		
		CI I I I I I I I I I I I I I I I I I I	教達名/モデル名	DOINS COMMINS		
		3 1	orecまち シリアル番号	40808290		
			ハードウェア酸酸	W0542-0552		
			810-S&R&R	V4.854 R180 for D0169-A	fa:	
			iPIMC#肝管性	2.834		_
			OSORE IN	Microsoft Windows Server	,012 Standard	
			O SOLAR	12,8289		
			E CRU(2) 0			
			HOFOCO			
		治費電力(約)	(4) U푸U (4) @			*
		2000	INSTANCE IN CONTRACTOR	UT WILL		
		1700	CD IST	東(4) していは市田市	(#) 711-	≥%称用w/w
	(2)	1900	100 CP-0122 H	や(か) メモリセノ田平	(%) XH/-	21使用400
	(3)	0	90	8	90	
		1250	10	3	10	
		1,000	40	0 10	80	
		70	ő	n ê	** 30	30 35 30
		540 510 540	2 15 15		10 20	
		250	10 10 10	10 10 10	10 10	
			14.42 14:0	15.03 14.43 14.53	15.00 14.43	1453 15
		14:43 14:53 15:03				
				200		_
				(5)		
		レポートイベント	ゴブ			
		\$47-5		タイプ 日付と時刻	7-#-	
		root@192.168.200.119 (2 D	ヴインできません	2013-11-14 10:04:82	root	*
		root@192.168.200.119 (;; p	ヴインできません	2013-11-14 10.02.18	root	
		root@192.168.200.119 (; T	ガインできません	2013-11-14 10.02.05	root	
		root@192.168.200.119.07.0	ガインできません	2013-11-18 22 02 06	root	
		mat@192.168.200.119.010	パインでお手仕ん	2013-11-13 220054	mot	
		month 192 169 200 119 (- r	パインアキャサム	2010-11-12 25044	root	_
		rooter192.108.200.119 (; [	パインしてみどか	2010-11-10 210942	root	
		10000192.108.200.11912	5/12C23.2%	2013-11-13 210829	7001	
		rdo09192.168.200.11912.E	D1.CEREA	2013-11-13 21:57:16	root	
		rdott@192.168.200.119 (;; [	ジョンできません	2013-11-13 21:56:03	root	
		root@192.168.200.119 (¿ [	ロシインできません	2013-11-13 21:54:53	root	
		Enclose 400 000 400 000 840 75 m	V 11 de la 20 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20	0010 11 10 01 FARMA	los at	

#### 図4.5 PRIMEQUEST 2000シリーズ

9° FirstSight				
¥	PQ2000	(4)		更新
(1)	i i	MMD: <u>#1 #1</u>		
		MMEMO	T.10	
	CONCOULDOT	空気は数	正命 (0.0	
(2)	日一〇 税費価額	3.85	MWR#I	
(2)	E MMB	モザル	MMEU	
	MMEED MMD+1	10.5-8	FUUITSU LIMITED	
	B-O SB	5月アル香号	PP14388255	
	UCI 💁 🐵	MACTIFLE	20:D###F0:97:34	
	B ODU	ファームウェアパージョン	2.11	
	- PSU/FANU			
	- 🖉 Fan			
	Participe			
	- ranion			
	(省要型-力()(4)			
(3)	7830.4677(447			
	6.00			
	4,000			
	2000			
	580 600 580			
	08:53 08:54 08:55			
1		1		

図中の(1)~(5)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	正面	・ PRIMERGY BXシリーズの場合
		PRIMERGY BXシリーズのシャーシの正面に搭載されているサーバの構成が表示されます。 マウスカーソルを合わせると、名称が表示されます。
		機器画像(サーバブレードまたはストレージブレード)またはスロットを選択すると、選択した機器またはスロットの情報が「(4)詳細情報表」、「(5)レポート/イベントログ」に連動して表示されます。
		・ PRIMERGY RXシリーズの場合
		PRIMERGY RXシリーズの外観が表示されます。
		・ PRIMERGY CXシリーズの場合
		PRIMERGY CXシリーズの外観が表示されます。 機器画像(サーバノードの背面図)もしくはスロットを選択すると、選択した機器、またはスロット の情報が「(3)消費電力」、「(4)詳細情報表」、「(5)レポート/イベントログ」に連動して表示さ れます。
		アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」参照。
(2)	背面、機器情報ツリー	・ PRIMERGY BXシリーズの場合
		PRIMERGY BXシリーズのシャーシの背面に搭載されているサーバの構成が表示されます。 マウスカーソルを合わせると名称が表示されます。
		・ PRIMERGY CXシリーズの場合
		機器画像(サーバノードの背面図)もしくはスロットを選択すると、選択した機器、またはスロット の情報が「(3)消費電力」、「(4)詳細情報表」、「(5)レポート/イベントログ」に連動して表示さ れます。 電源がONの場合、ノード背面外観の電源を示すLED部分が緑色に点灯し、状態(ステータ ス)を示すアイコンが表示されます。電源がOFFの場合、背面外観の電源を示すLED部分が 消灯します。
		<ul> <li>PRIMEQUEST 2000シリーズの場合</li> </ul>
		機器情報ツリーを表示。このツリーで選択した項目に応じて、「(4)詳細情報表」に表示される 詳細情報が切り替わります。
		各機器には、状態(ステータス)を示すアイコンが表示されます。
		アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」参照。
(3)	消費電力(W)	10分間に消費されたシステム平均消費電力が表示されます。
		履歴は10分ごとに記録され、最大3件表示されます。
		グラフの縦軸(目盛りの最大値)は100V電源に接続した場合の最大消費電力が表示されます。
(4)	詳細情報表	選択した機器の詳細情報が表示されます。
		表示される項目については「表4.5 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表」参照。 表示される項目は選択された機器に応じて異なります。また、機種に応じて表示されない項目もあ ります。
(5)	レポート イベントログ	CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%)のレポートと、イベントログが表示されます。
		CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%)のレポート情報は、[FirstSight]画面表示開始から10分ごとに最大3件を表示します。
		Red Hat Enterprise Linuxの場合は、ユーザーが使用したCPU使用率、システムが使用したCPU使用率の2種類が表示されます。 ストレージ使用率は、OSによって以下のとおり表示されます。

No.	項目	説明
		・ Windowsの場合:ドライブごと
		・ VMwareの場合:Data Storeごと
		• Red Hat Enterprise Linuxの場合:マウント位置ごとに最大3件
		イベントログは、OSのイベントログ(ホスト)のOSによって以下のとおり表示されます。
		・ Windows/VMwareの場合:警告、異常のカテゴリーから最新の20件
		・ Red Hat Enterprise Linuxの場合:最新の20件
		OS側で出力形式を変更した場合、イベントログ情報が表示されない場合があります。 イベントログ情報の表示には20秒程度かかる場合があります。イベントログにマウスカーソルを合 わせると、メッセージがポップアップされます。

# G 注意

- 消費電力情報が表示されるタイミングと、レポート情報が表示されるタイミングは同期しない場合があります。
- ・ 監視対象サーバのOSと通信できない場合、レポート、イベントログなど表示項目中の一部の情報は取得できません。「表4.3 [ラック]画面 機器プロパティ項目」の「管理OS」項目が正しいかどうか確認してください。
- ・ イベントログを正常に取得できないとき、収集中の状態が続く場合があります。10分以上続く場合は、Facility Managerのすべての 画面を閉じたあと、再度表示してください。
- ・ サーバおよびブレードサーバの電源がOFFになっている場合は、非搭載と表示される場合があります。

. . . . . . . . . . . . . . . . . .

#### 表4.5 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .

項目	説明
製造モデル	製造モデルを表示(*1)
製造元	製造元を表示(*1)
製造名	製造名を表示(*1)
ユニット図番	ユニット番号を表示(*1)
システムタイプ	システムタイプを表示(*1)
システムシリアル番号	システムシリアル番号を表示(*1)
システム製造元	システム製造元を表示(*1)
製造名/モデル名	製造名/モデル名を表示(*1)
製造モデル	製造モデルを表示(*1)
部品番号	部品番号を表示(*1)
シリアル番号	シリアル番号を表示
識別シリアル番号	識別シリアル番号を表示(*1)
ファームウェア版数	ファームウェア版数を表示(*1)
BIOS版数	BIOS版数を表示
ハードウェア版数	ハードウェア版数を表示
iRMC版数	iRMC版数を表示(*1)
OSの種類	OSの種類を表示
<b>OS</b> の版数	OSの版数を表示
CPUの情報	ソケットの位置、状態、モデル、周波数を表示
メモリの情報	ソケットの位置、状態、種類(*1)、容量を表示

項目	説明
メザニンカードの情報	搭載位置、状態、種類(*2)を表示
PCIアドインカードの情報	状態、種類(*2)を表示
ディスクドライブの情報	ベイ、状態、容量、種類を表示
仮想マシンの情報	名前(*3)、状態(*3)を表示
電源·FAN	搭載位置(*1)、状態(*1)、種類(*1)を表示
パーティションの情報	名称、電源状態、システム状態、コア/最大コア数、メモリ容量を表示

\*1: 機種によっては表示されません。

\*2: 本ソフトウェア出荷時にサポートされている場合

\*3: Red Hat Enterprise Linuxの場合は対象外

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocksをご使用の場合、PRIMERGY SX980 S2ストレージブレードを選択すると、[FirstSight] 画面 - 詳細情報表項目説明には以下の内容が表示されます。

#### 表4.6 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表 (FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocksをご使用の場合)

	説明
製造モデル	製造モデルを表示
製造元	製造元を表示
製造名	製造名を表示
그ニット図番	ユニット番号を表示
シリアル番号	シリアル番号を表示
識別シリアル番号	識別シリアル番号を表示
ファームウェア版数	ファームウェア版数を表示
ハードウェア版数	ハードウェア版数を表示
ストレージ/ディスクドライブ	ベイ、状態、容量、種類を表示

### 関 ポイント

ストレージブレード選択時に表示されるディスクドライブの情報は、選択されたSlotに関係なくシャーシに搭載されているすべてのディ スクドライブ情報が表示されます。

ストレージブレード選択時は、CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、イベントログは対象外と表示されます。



[ディスクドライブの情報]や[PCIアドインカードの情報]を表示するための注意事項は、以下のとおりです。

事前にServerView RAIDや、ServerView ESXi CIM Providerなどのインストールおよび設定が必要です。

VMware ESXiの情報を表示する場合は、管理サーバ上のServerView RAIDで設定してください。

また、ServerView RAIDをホスト名で登録すると、通信不可と表示され、ディスクドライブの情報やPCIアドインカードの情報は取得できません。

Red Hat Enterprise Linuxの情報を表示する場合は、net-SNMPなどのパッケージを事前にインストールして、管理サーバとSNMPで通信できる状態にする必要があります。

#### 2)サーバ以外

ETERNUS DXシリーズなどのサーバ以外の機器の情報を表示します。 機器名、ベンダ名、型名、S/N、モデル名、システム名、IPアドレスが表示されます。

#### 3)グループ定義された機器

[FirstSight]画面では、グループごとに機器構成を管理できます。 グループ設定を使って機器構成を定義するためには、事前にグループを定義しておく必要があります。

グループの定義方法について詳しくは、「4.2.3 [グループー覧]タブ」を参照してください。 [ラック]画面の機器コンテキストメニューからグループ名を選択し、[FirstSight]画面を表示できます。

9		FirstSight	_ 🗆 X
( T	CFX2000R-1		
E-B GroupA	機器名	CFX2000R-1	
E-CEX2000R-1	ベンダ名	Fujitsu	
• RX200S8-2	型名	PY-CFX20R	
<ul> <li>RX200S8-1</li> <li>DX100S3</li> <li>BX900S2</li> <li>BX400</li> </ul>	S/N	00003	
	モデル名	CFX2000R	
	システム名		
	IPアドレス	192.168.181.200	
	J.		
	(0)		
(1)	(2)		

[FirstSight]画面の(1)、(2)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明	
(1)	ツリーエリア	ここで選択したラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに表示されます。	
(2)	ワークエリア	選択した項目に応じて、表示される内容が異なります。	
	グループ名	グループに所属しているラックリストが表示されます。	
		表示イメージは「図4.6 [FirstSight] 画面 - ラックリスト」参照。	
	サーバ	監視対象サーバの情報が表示されます。	
		詳細については「1)サーバ」参照。	
	その他機器 (ETERNUS DXシリー ズなど)	サーバ以外の監視対象の情報が表示されます。 詳細については「2)サーバ以外」参照。	

### 図4.6 [FirstSight] 画面 - ラックリスト

4	EXP_Group	- 0 X
▼ FirstSieM	ንቃወሀスト	
CRE ROULES     CRE ROUL     FOILESEI     FOILESEI     FOILESEI     FOILESEI     FOILESEI     FOILESEI     FOILESEI	CRB_70239-1 CRB_79/280-2	

## 4.2.3 [グループー覧]タブ

[Facility Manager]画面の[グループ一覧]タブには、ユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。

ここで作成したグループを、消費電力制御の対象としたり、[FirstSight]画面に表示したりできます。

ServerView			ユーザ: ●	dministrator 05795	FUโกรม
サーノリスト 管理者設定 サーノ	マデータ イベル サーノ湯	調 アップデート インフラ	セキュリティ		~ud
		1275	治理		
Home >> インフラ管理					
Facility Manager   Facility Brow	mer   Profile Manager   Set	up   Maintenance	ServerView	Infrastructure Manager	V1.20.01
► -¥	ガルーブー覧				
* 5/6-7-1	7%-7%	1950 C	「油酸電力率開発の定	FRASIM	
(1) FS	FS	Rack-1_CFX2000R_1 Rack-1_CFX2000_12 Rack-1_CFX2000_12 Rack-1_CV20053 Rack-1_CV20053 Rack-1_CV200512	-	8470th	
					(2)
<ul> <li>■ Lボート</li> <li>■ しきい値</li> <li>■ インベンド</li> <li>■ 05将集</li> </ul>		Ē	(3)	(4) (4)	5)

No.	項目	説明
(1)	[グループ]	クリックすると、ワークエリアにユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。
		グループを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。
No.	項目	説明
-----	-----------	---
		メニューから「消費電力制御設定」を選択すると、[消費電力制御設定]画面が表示され、ICT機器の電 カモニタリングと省電力制御の設定や実行を行えます。
		詳しくは、「4.2.9 [消費電力制御設定]画面」を参照してください。
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。
		また、作成したグループを右クリックすると[グループ設定]メニューが表示され、グループに対して「消費電力制御設定」を行う、または「FirstSight表示」を行うかを設定できます。
		・「消費電力制御設定」を行う場合
		[消費電力制御設定]画面が表示されます。詳しくは、「4.2.9 [消費電力制御設定]画面」を参照し てください。
		・「FirstSight表示」を行う場合
		[FirstSight]画面が表示されます。グループに含まれる機器がすべてFirstSight未サポート機種の 場合には以下の警告メッセージが表示されます。
		グループ設定されている機器が全てFirstSight未サポートです。
		詳しくは、「4.2.2.5 [FirstSight]画面」を参照してください。
(3)	[新規作成]ボタン	クリックすると、グループを新規作成するための[グループ作成]画面が表示されます。
(4)	[変更]ボタン	作成したグループを選択した場合に使用できます。
		クリックすると、グループを修正可能な[グループ作成]画面が表示されます。
(5)	[削除]ボタン	選択しているグループが削除されます。

### [グループ作成]画面



No.	項目	説明
(1)	グループ	グループ名を全角/半角32文字以内で入力します。 グループの変更を行う場合、グループ名は変更できません。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器を選択します。選択すると、該当する機器が「(3)ファシリティ機器リスト」に表示されます。

No.	項目	説明
(3)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧が表示されます。 [Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(4)	[選択]ボタン	以下のボタンでグループに追加する機器の選択、選択の取消を行います。
		• [>]
		「ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象とします。
		・ [すべて>>]
		「ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを対象とします。
		・ [<<すべて]
		「グループ対象ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを取り消します。
		• [<]
		「グループ対象ファシリティ機器リスト」で選択した機器を取り消します。
(5)	グループ対象ファシリティ機 器リスト	グループ対象とする機器の一覧が表示されます。
(6)	[キャンセル]ボタン	グループ設定を取り消し、画面を閉じます。
(7)	[保存]ボタン	グループ設定を保存し、画面を閉じます。

# 関 ポイント

. . . . . . . . . . . . . . .

[FirstSight]画面でPRIMERGY BXシリーズの表示を行う場合、グループ対象ファシリティ機器リストにはシャーシを追加してください。 サーバブレードのみ追加しても[FirstSight]画面には表示されません。

# 4.2.4 [レポート]タブ

. . . . . . . . . . . . . . . .

[レポート]では、ユーザが任意に選択したセンサー(温度、消費電力など)のデータをグラフとして表示したり、CSVファイルとしてエクスポートすることができます。

[Facility Manager]画面の [レポート]タブには、ユーザーが作成したレポートの一覧が表示されます。 レポートの新規作成、レポートの削除、グラフ表示などができます。

	(ノフラ治理
Browner   Profile Manager   Setup   Maintenance	ServerView Infrastructure Manager V1.20.01
14-1-X	
1#-16	10/79/21
CPUTemp	PC4890399-2 CPU温度 PC4890399-1 CPU温度 PD2MLB CPU温度
PackPower	Rack-1 (消費量7)0.W) Rack-2 (消費量7)0.W) Rack-3 (消費量7)0.W) Rack-4 (消費量7)0.W) Rack-5 (消費量7)0.W)
	v Browner   Peofile Manager   Setup   Maintenance [d=1-5] CPUTeng RadiRower

No.	項目	説明
(1)	[レポート]	[レポート](ルート)をクリックすると、現在設定されているレポートの一覧がワークエリアに表示されます。レポートは最大255個定義できます。
		個別のレポートをクリックすると、[レポート]タブ(グラフ表示)に表示が切り替わります。
(2)	ワークエリア	現在設定されているレポートの一覧が表示されます。 レポート名と選択したセンサーリストが表示されます。
(3)	[新規作成]ボタン	クリックすると、レポートを新規作成するための[レポート設定]画面が表示されます。
(4)	[変更]ボタン	クリックすると、一覧で選択したレポートの設定内容を読み込んだ[レポート設定]画面が表示されます。
(5)	[削除]ボタン	一覧で選択しているレポートが削除されます。

### [レポート設定]画面



No.	項目	説明
(1)	レポート名	レポート定義名を全角/半角32文字以内で入力します。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器のタイプ (PRIMERGY、PRIMEQUESTなど)を選択します。
		選択すると、該当する機器が「(4)ファシリティ機器リスト」に表示されます。
(3)	センサータイプ	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当するセンサーのタイプ(CPU温度、消費電力など)に絞り込んで表示されるので、表示するセンサーのタイプを選択します。
(4)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧が表示されます。
		[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(5)	センサリスト	「(4)ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象として、「(3)センサータイプ」で選択されたセンサーに一致するセンサーの一覧が表示されます。
		[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(6)	[選択]ボタン	以下のボタンで「(5)センサリスト」と「(7)レポート対象センサリスト」間で対象の選択、選択の取 消を行います。
		• [>]
		「(5)センサリスト」で選択したセンサーを対象とします。

No.	項目	説明
		・ [すべて>>]
		「(5)センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とします。
		・ [<<すべて]
		「(7)レポート対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り消します。
		• [<]
		「(7)レポート対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消します。
(7)	レポート対象センサリスト	レポートで表示対象とするセンサーの一覧が表示されます。 最大24個までセンサーを指定できます。
(8)	[キャンセル]ボタン	レポート設定を取り消し、画面を閉じます。
(9)	[保存]ボタン	レポート設定を保存し、画面を閉じます。 単位の異なるセンサーが選択されていると、警告メッセージが表示され保存できません。

### [レポート選択]画面



No.	項目	説明
(1)	レポート(個別)	個別のレポートをクリックすると、レポートを選択した状態になります。
		開始日時、終了日時、プロット間隔を指定し、[表示]ボタンをクリックすると、ワークエリアにグラ フが表示されます。
(2)	ワークエリア	初期状態([表示]ボタンがクリックされるまで)では、操作ガイダンスが表示されます。 [表示]ボ タンをクリックすると、現在選択しているレポートのグラフが表示されます。 表示イメージは、「図 4.7 [レポート選択]画面 - グラフ表示」を参照してください。
		グラフ上で、マウスを使用して範囲を指定すると、拡大・縮小できます。
(3)	開始日時	グラフを表示する開始日時を指定します。
(4)	終了日時	グラフを表示する終了日時を指定します。
(5)	プロット間隔	グラフのプロット間隔を、「1分」、「10分」、「1時間」、「1日」、「1ヶ月」から選択します。開始日時 と終了日時の範囲で自動的に初期値が決定されます。
		~30日:10分
		31~90日:1時間

No.	項目	説明
		91日~365日:1日
(6)	[エクスポート]ボタン	グラフを表示しているレポートがcsv形式で出力されます。
(7)	[表示]ボタン	クリックすると、指定した表示期間のグラフが表示されます。

### 図4.7 [レポート選択]画面 - グラフ表示



# 関 ポイント

レポートに定義されているセンサー数、グラフ表示時に選択した期間、プロット間隔によっては、以下のメッセージがポップアップされる場合があります。

JavaVMのヒープメモリ容量が不足しています。 期間またはプロット間隔を変更してください。

本メッセージが表示された場合は期間を短くする、またはプロット間隔を長くしてグラフ表示を行ってください。

## 4.2.5 [しきい値]タブ

[しきい値]では、ユーザが任意に選択したセンサー(温度、消費電力など)に対して任意のしきい値を設定し、しきい値を超過した場合に通知を行うことができます。

[Facility Manager] 画面の[しきい値]タブには、ユーザーが作成したしきい値の一覧が表示されます。

使用意料面 ワーパワーク イベント ワーパ気液 アッグサート 4222 セキルワイ インフ治剤 のストリ のの用意味「 Profile Manager   Schip   Maintenance Server View Infrastru はよい後一類 この、後日 と思想素 93 上現素素 93 上現素素 93 Collonge Collage ###	A stare Manager VI.20 2.9–92.
インフラ地理 mager   Facility Browser   Profile Manager   Setup   Maintenance ServerView Infrastru	cture Manager VI.20
22月日 mager   Eacliny Browser   Profile Manager   Setup   Maintenance ServerView Infrastru 1点い第一覧 2条/項名 したい道 対象センター したい部門目前 上原業素 903 上原業素 903 上原業素 903 上の時ののかっている業 965	cture Manager VI.20
anager   Eachity Browser   Profile Manager   Setue   Maintenance Server View Infrastru はんいはーデー ないほろ。 しんいは アロをセンター しんいほどは 上が見るための 上が見る。 Restroom-2 chulker POwerp CPUmerp Restroom-2 chulker Wet	cture Manager V1.20
	29-92
	ステータス
上現真來 193 上原書來 193 PUterp CPUterp CPUterp	
wwwThreakhold 下胡管管 6.0 Pocolog.B.CPU温度 下弦樂家 6.0	ок
上球集末         15.0           上球型音         10.0           PowerThreshold         上球型音           予防響音         0.0           Pack=1 法管電プ3.00           Pack=2 法管理プ3.00           Pack=3 法管理プ3.00           Pack=5 法管電プ3.00           Pack=5 法管電プ3.00           Pack=5 法管電プ3.00           Pack=5 法管電プ3.00           Pack=5 法管電プ3.00	ок (2)

No.	項目	説明
(1)	[しきい値]	クリックすると、ユーザーが作成したしきい値の一覧がワークエリアに表示されます。最大255個のしきい値を定義できます。
		ツリービューを開き、表示されるしきい値名を選択すると、ワークエリアには、選択したしきい値 のみ表示され、しきい値設定を変更できます。
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したしきい値の一覧が表示されます。
		しきい値名、設定されているしきい値、監視対象のセンサーリスト、しきい値の監視単位(単体 値、合計値)、ステータス(通常=OK、しきい値超過検出=NG)が表示されます。
(3)	[新規作成] ボタン	クリックすると、しきい値を新規作成するための[しきい値設定]画面が表示されます。
(4)	[変更] ボタン	「(1)しきい値」で、既存のしきい値を選択すると使用できるようになります。
		クリックすると、既存のしきい値を変更するための[しきい値設定]画面が表示されます。
(5)	[削除] ボタン	表示されているしきい値(「(1)しきい値」で選択したしきい値)が削除されます。

### [しきい値設定]画面



No.	項目	説明
(1)	しきい値名	しきい値の監視定義名を全角/半角32文字以内で入力します。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器のタイプ(PRIMERGY、PRIMEQUESTなど)を選択します。 選択すると、該当する機器が「(4)ファシリティ機器リスト」に表示されます。
(3)	センサータイプ	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当するセンサーのタイプ(CPU温度、消費電力など)に絞り込んで表示されるので、表示するセンサーのタイプを選択します。
(4)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧が表示されます。
		[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(5)	センサリスト	「(4)ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象として、「(3)センサータイプ」で選択さ れたセンサーに一致するセンサーの一覧が表示されます。
		[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(6)	[選択]ボタン	以下のボタンで「(5)センサリスト」と「(7)しきい値対象センサリスト」間で対象の選択、選 択の取消を行います。
		• [>]
		「(5)センサリスト」で選択したセンサーを対象とします。
		・ [すべて>>]
		「(5)センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とします。
		・[<<すべて]
		「(7)しきい値対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り消します。
		• [<]
		「(7)しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消します。
(7)	しきい値対象センサリスト	しきい値の監視対象とするセンサーの一覧が表示されます。 最大255個までセンサーを指定できます。
(8)	上限異常しきい値/上限警告しき い値	センサーの計測値が上昇した場合、最初に警告として通知するしきい値を「上限警告し きい値」で指定します。
		そのまま上昇を続けた場合、異常として通知するしきい値を「上限異常しきい値」で指定 します。

No.	項目	説明
		しきい値の監視対象外とする場合、0を指定します。
		単位は以下のとおりです。 温度:℃、電力、消費電力:kW、冷却出力:kW、消費電力量:kWh、 電圧:V、電流:A
(9)	下限警告しきい値/下限異常しき い値	センサーの計測値が下降した場合、最初に警告として通知するしきい値を「下限警告し きい値」で指定します。
		そのまま下降を続けた場合、異常として通知するしきい値を「下限異常しきい値」で指定 します。
		しきい値の監視対象外とする場合、0を指定します。
		単位は以下のとおりです。 温度:℃、電力、消費電力:kW、冷却出力:kW、消費電力量:kWh、 電圧:V、電流:A
(10)	通知設定	しきい値超過を検出した場合の通知の重要度を指定。「異常」、「警告」、「正常」から任 意に指定できます。
		初期値は以下のとおりです。
		・「上限異常しきい値」:異常
		・「上限警告しきい値」:警告
		・「下限警告しきい値」:警告
		・「下限異常しきい値」:異常
(11)	しきい値監視間隔	60~3600(秒)の範囲で指定します。
(12)	しきい値の監視単位	「(7)しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーの計測値を、単体で監視するか、合計値として監視するか選択します。
(13)	[キャンセル]ボタン	しきい値設定を取り消し、画面を閉じます。
(14)	[保存]ボタン	しきい値設定を保存し、画面を閉じます。

# 4.2.6 [インベントリ]タブ

[Facility Manager] 画面の[インベントリ]タブには、管理している機器を登録・更新・削除した履歴情報が表示されます。

- ・ 登録:ISMに機器を登録した日時
- ・ 更新:プロパティ情報が更新された日時
- ・ 削除:機器を削除した日時

ワーフリスト 管理者設定	ワーパデータ イベル	サーバ温泉	アップデート	4/75	セキュリティ	_	_	_	~5	2
				12754	ent					
Home >> インフラ管理										
Facility Manager   Facility	Browser   Profile Manager   S	ietup				ServerV	iew Infrastru	cture Man	ager V1.10	14
<ul> <li>∮yja#=K</li> </ul>	100万余 - 円(つ)()									
►-X	Brt	HEYY	485	177FL2	MACFFL3	1748	S/N	595No	154103	т
* LS-1-1-	2014-02-20 18:22:01	更新	R0(27R72128	192.161.35.11		PRIMERGY R	MAAQ007170	7	29 U	1
T.C.C.MI	2014-02-12 11:26:18	64h	R027LAB010	192.168.100.12		PRIMEROY R	W.Doccox	1	2.0	8
	2014-02-04 114940	更新	R0(27R72114	192.168.100.8		PRIMERGY R	MAAQ007172	7	14 U	1
8 9-5	2014-02-04 1144.44	更新	Rt27LAB010	192 108 100.14		PRIMEROY R	W.Doccox	1	10	÷
8 2499	2014-02-04 1143-48	更新	R027LAB018	192 168 35 30		PRIMERGY R	W.Doros	1	10	з
8 2H-9	2014-02-04 114331	更新	R027LAB010	192.198.35.131		PRIMEROY R	W.Doosoox	1	10	:
<ul> <li>新鮮相關概要</li> </ul>	2014-02-00 1754/22	更新	F0/07F80044	192 168 35 102		PRIMERGY R	MAAR001989		17 U	н
E	2014-01-24 113840	更新	R027LAB010	192.198.1.13		PRIMEROY R	W.Doccox	1	10	1
	2014-01-24 10:20:16	更新	SRR10240	192 168 35 14		SR-XHOTED	00000411	1	40 U	:
	2014-01-24 10:27:35	更時	SRR10245	192.168.100.7		SR-XMUTR1	00000445	1	42 U	8
	2014-01-24 10:20:07	更新	SRR01240	192.168.05.11		SR-XHOTED	00000410	3	47 U	1
	2014-01-24 10:12:00	更時	R0288894	192.168.108.12		PRIMEROY R	MALO001128	1	10	1
	2014-01-24 10:11:04	更新	R017R83010	192.168.100.8		PRIMERGY R	MAUG011122	8	2 U	з
	2014-01-24 10:11:00	更新	R007R80812	192.168.100.14		PRIMEROY R	MALO001121	1	90	:
	2014-01-24 10:10:07	更新	Rx17R83013	192.168.05.00		PRIMERGY R	MALG0011119	8	18 U	3
	2014-01-24 10:10:09	更新	R007R00H1	192.168.25.121		PRIMEROY R	MAAR002009	1	11.0	1
	2014-07-24 10:09:40	更新	R0(37R83645	192.168.35.132		PRIMERGY R	MAAR002042	8	10 U	
	2014-01-24 10:09:13	更新	R037R83043	192.168.1.10		PRIMEROY R	MAAROIII968	1	15 U	8
	2014-01-24 10:08:47	更新	R037R83844	192.188.35.14		PRIMEROY R	MAAR001969	8	17 U	
	2014-01-24 10:00:00	更新	R007R80046	192.168.100.7		PRIMEROY R	MAAP002040	1	19 U	1
	2014-01-24 10/07/09	EB	F0(37R83842	192 168 108 11		PROMERCY R	MAAR002041	8	21 U	1

No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わります。
		選択した機器(サーバ/スイッチ/ストレージファシリティ機器)で、登録されているものの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示されます。
		[全ての機器]を選択した場合には、登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧が ワークエリアに表示されます。
		[削除機器履歴]を選択した場合は、削除した機器の一覧が表示されます。
(2)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧が表示されます。
		一覧に表示される項目は以下のとおりです。
		・ [日付]:操作を行った日付
		・ [操作]:「登録」、「更新」、「削除」のどれか
		・ [機器名]:管理対象の機器名
		・ [IPアドレス]
		・ [MACアドレス]
		<ul> <li>[モデル名]</li> </ul>
		• [S/N]
		・ [ラックNo]:搭載したラック番号
		・ [搭載位置]:ラックの搭載したユニット番号
(3)	[エクスポート]ボタ ン	ワークエリアに表示されている一覧がcsv形式で出力されます。

ワークエリアに表示される一覧の各行を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

• 履歴

選択した機器の[操作履歴] 画面がポップアップ表示されます。

### [操作履歴]画面

10.25.1.150		塔載577個報				_
public		2226	Flack 1			
[		222番号	1			
AP8541		ラック語教位置	61			
		補続PDU				
皇詩 P0U1-1	10253.150		AP8541		1	-
	public A/10411 98/13 48/85-5 92/19 FOUT-1	public AP10541 98/15 4885-5 372/F6-2 92/1 4885-5 372/F6-2 92/1 1925-1.150	public         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           292%         292%           202%         202%	public         2026         [Fack 1]           AP8841         2026年         1           AP8841         2026年         51           機能POU         単純化         68           特性         6855         1927Fb22         MAC27Fb22         45%-65           使計         FOUT-1         11255.159         A26543	public         292%         Plack 1           292%         F         1           292%         51         520番号         1           292%         S1         51         51           202%         MAC2FU.2         CFA-6         S/N           202%         MAC2FU.2         CFA-6         S/N           202%         MAC2FU.2         CFA-6         S/N           202%         FOUT-1         10253.159         A42841	public         292%         (Fack 1)           292%         1

No.	項目	説明
(1)	属性情報	機器名、IPアドレスなど、管理情報を表示されます。
		情報が変更された箇所は赤文字で表示されます。
(2)	操作履歴	操作内容(登録、変更)と操作した日付などの履歴が表示されます。
(3)	[履歴削除]ボタン	「(2)操作履歴」で選択した履歴が削除されます。
(4)	[エクスポート]ボタン	「(2)操作履歴」の内容がcsv形式で出力されます。
(5)	[閉じる]ボタン	画面を閉じます。

### 4.2.7 [ログ収集]タブ

[Facility Manager]画面の[ログ収集]タブでは、ログ収集の対象とする機器を選択し、収集したログをダウンロードできます。画面および操作については、「5.6.9 ログのダウンロード」を参照してください。

## 4.2.8 [仮想管理ソフトウェア情報]タブ

[Facility Manager] 画面の[仮想管理ソフトウェア情報] タブには、vCenterまたはSystem Centerと連携してESXiホスト、Hyper-Vホストおよび仮想マシンの情報が表示されます。

本機能を使用するためには、[Setup] 画面の[仮想管理ソフト設定]で[VMWare利用時の仮想管理ソフト]または[Hyper-V利用時の仮 想管理ソフト]が登録されている必要があります。登録されていない場合、「仮想管理ソフトが登録されていません」と表示されます。

S ServerView	_			_	ユーザ: administrate	סי <u>בלדט</u> <b>דטוווזגט</b>
サーバリスト 管理者設定 サーバ	『データ イベ	ント サーバ監視	アップデート	-1275-	セキュリティ	ヘルプ
				且次	-   <u>このマネージャのヘルブ</u>   <u>この画面のヘルプ</u>	リンク   バージョン情報
<u>Home</u> >> インフ <del>フ管理</del>						
Facility Manager   Facility Brow	rser   Profile N	Manager   Setup	Maintenance		ServerView Infrast	ucture Manager V1.3.0
▶一覧	仮想管理ソフトウ	ェア情報				
▶グループ一覧						
▶ L#~ト						
▶ しきい値						
▶ わべりや						
► ログ収集			仮想管理ン	ワトが登録され	れていません	
▼ 仮想管理ソフトウェア情報						
····・						

登録方法の詳細については、「3.6.1 仮想管理ソフト設定」を参照してください。

vCenterまたはSystem Centerの情報が登録されている場合、登録されている仮想管理ソフト数が表示されます。

S ServerView		ユーザ: administrator <u>ログアウト</u> FUJITSU
サーバリスト 管理者設定 !	ナーバデータ イベント サーバ監視 アップデート インフラ セキュリティ	ヘルプ
	インフラ管理	
<u>Home</u> >> インフ <del>フ管理</del>		
Facility Manager   Facility B	rowser   Profile Manager   Setup   Maintenance	ServerView Infrastructure Manager V1.3.0
▶→覧	仮想管理ソフトウェア情報	
▶ グループ一覧		
▶ Uボート		
▶ しざい10		
■ 1.2(2)(2) ■ n//lin/生	vCenter登録数 2	
▼ 仮想管理ソフトウェア情報	System Center登録数 1	
●         ●		

画面左側のツリーエリアには、vCenter、System CenterのIPアドレス一覧が表示されます。

ツリーエリアからvCenter、System Centerを選択した場合に表示される情報は以下のとおりです。

項目	説明
vCenter	vCenterバージョン、ビルド番号、IPアドレス
System Center	サーバ名、SCVMMバージョン、プロダクトID、IPアドレス

S Serverl	/iew							ユーザ:	administrator 고성	<u>701  </u>	FUĴĨTSU
サーバリスト	管理者設定	サーバデー	タ イベント	サーバ監視	アップデート	-1275-	セキュリティ				ヘルプ
						インフラ管	理				
<u>Home</u> >> インフ	這理										
Facility Man	ager   <u>Facility</u>	Browser	Profile Mana	iger   <u>Setup</u>	Maintenance			ServerV	iew Infrastructure	e Manage	r V1.3.0
▶→覧		仮想	管理ソフトウェア情	<b>幸</b> 屁							
▶ グループ一覧											
▶ レボート   ▶ L おいは											
			System Center								
▶ Dグ収集			ታ	ーバ名 SC	VMM1.ismct.test	t					
▼ 仮想管理ソフ	ウェア情報		SCVMM/ (~	-ジョン 8.2	2.7510.0						
□	עולי		プログ	/クトID 03	536-089-600201	5-02448					
🖻 🐌 vCen	ter		IP7	パドレス 19	2.168.10.6						
	92.168.10.8 92.168.10.10										
🖻 퉩 Syste	em Center										
•••	92.168.10.6										
1											

vCenter、System Centerを選択し、画面右下にある[詳細表示]ボタンをクリックすると、詳細画面が表示されます。

詳細画面では、vCenterまたはSystem Centerの管理下にあるホストがインストールされたサーバの物理位置情報が表示されます。



サーバブレードにホストがインストールされている場合、ラック内のシャーシをクリックすると、シャーシ内の情報が表示されます。





ホストがインストールされたサーバがISMに機器登録されていない場合、そのサーバの物理位置情報は表示されません。

また、ホストがインストールされたサーバに対してOSのIPアドレスが設定されている必要があります。[一覧]画面の該当機器のプロパティよりOSのIPアドレスを設定してください。

# 関 ポイント

ツリーエリアでフォルダーやデータセンター(フォルダーアイコン)を選択すると、そのフォルダーやデータセンターに属するホストのみ に絞り込んだ物理位置情報を表示できます。

ツリーエリアでホストを選択すると、ホストの物理搭載位置とSystemCenterから取得可能な簡易的なホスト情報が表示されます。



表示されるホスト情報は次のとおりです。

#### vCenterの場合

項目	説明
ESXiホスト名	ESXiホストマシンの名称。 DNS設定していない場合はIPアドレスが名称となります。
電源ステータス	サーバの電源状態。 パワーオフの場合通信不可となり電源状態が取得できないため不明となります。
OS種別	ESXiのOS名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。
ベンダー名	ホストマシンのサーバベンダー名。

項目	説明
モデル名	ホストマシンのサーバモデル名。
シリアル番号	ホストマシンのサーバシリアルナンバー。
プロセッサ名	プロセッサのメーカーとタイプ。
ソケット数	ホストのメインボードにあるプロセッサソケットの数。
コア数	プロセッサソケット当たりのCPUコアの数。
NIC数	ホストマシンに設置されたNICの数。
メモリ容量	ホストマシンのメモリ容量。
メモリ消費量	ホストマシンで使用されたメモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。

また、ホスト情報の下にはデータストア情報が表示されます。

項目	説明
データストア名	データストアの名称。
容量	データストアの最大容量。
空き容量	データストアの未使用領域の容量。

#### System Centerの場合

項目	説明
ホスト名	ホストサーバのコンピュータ名。
ステータス	ホストサーバの状態。
仮想化ソフトウェア	ホストの仮想化基盤のタイプ。Hyper-Vなど。
OS種別	ホストのOS名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。
CPU名	CPUの名称。
論理コア数	ホスト上のCPU論理コア数。
CPU平均	ホストマシンのCPU使用率平均值。
メモリ合計	ホストマシンのメモリ容量。
使用可能なメモリ	ホストマシンの未使用メモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。

また、ホスト情報の下にはハードディスクドライブ情報が表示されます。SCVMM2008 R2使用時には表示されません。

項目	説明
ディスク名	ハードディスクドライブの名称。
ステータス	ハードディスクドライブのステータス。
容量	ハードディスクドライブの最大容量。
空き容量	ハードディスクドライブの未使用領域の容量。

ツリーエリアで仮想マシンを選択すると、ホストの物理搭載位置とSystemCenterから取得可能な簡易的な仮想マシン情報が表示されます。



表示される仮想マシン情報は、次のとおりです。

#### vCenterの場合

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
電源ステータス	仮想マシンの電源状態。
ゲストOS種別	仮想マシン上にインストールされているオペレーティングシステム名。
コンピュータ名	この仮想マシンに割り当てられているDNS名。
ゲストIPアドレス	この仮想マシンに割り当てられたプライマリーIPアドレス。
VMwareToolsステータス	VMware Toolsのステータス。 実行中ではない場合、コンピュータ名とゲストIPアドレスが取得不可になる場合があります。
仮想コア数	仮想マシン上のプロセッサの数。
最大ホストCPU	仮想マシンに割り当てられたホストマシンのCPUリソースのクロック数。
消費されたホストCPU	消費されたホストCPU。
割当ゲストメモリ	この仮想マシンに割り当てられているメモリ容量。
消費されたホストメモリ	仮想マシンが使用しているホストマシンのメモリの容量。
アクティブなゲストメモリ	使用されている仮想マシンのメモリの容量。
プロビジョニングしたストレージ	データストア上の仮想マシンに確保されているストレージ容量。
共有されないストレージ	1台の仮想マシンによって占有され、ほかの仮想マシンとは共有していないデータストア容量。

項目	説明
使用済みストレージ	構成およびログファイル、スナップショット、仮想ディスクなどの仮想マシンファイルによっ て実際に占有されたデータストアの容量。
ESXiホスト名	ホストマシンの名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのOS IPアドレス。

#### System Centerの場合

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
ステータス	仮想マシンのステータス。
ゲストOS種別	仮想マシン上にインストールされているオペレーティングシステム名。
コンピュータ名	この仮想マシンに割り当てられているDNS名。
ゲストIPアドレス	この仮想マシンに割り当てられたプライマリーIPアドレス。SCVMM2008 R2あるいはSCVMM 2012使用時には常に「取得不可」と表示されます。
CPU数	仮想マシン上のプロセッサの数。
CPU平均	ゲストCPU使用率平均値
起動メモリ	仮想マシンに割り当てられた起動メモリ容量。
割当メモリ	仮想マシンに割り当てられているメモリ容量。
必要なメモリ	仮想マシンで使用されているメモリ容量。
ホスト名	ホストマシンのコンピュータ名。

また、System Centerの場合、仮想ディスク情報が表示されます。

項目	説明
仮想ディスク名	仮想ディスクの名称。
容量	仮想ディスクの容量。
使用容量	仮想ディスクの使用中容量。

### 4.2.9 [消費電力制御設定]画面

ISMでは、ICT機器ごとの消費電力を1分ごとに計測し、計測したデータを元に、電力モニタリングと省電力制御を実現できます。 [消費電力制御設定]画面では、これらの機能を使用するための情報を設定したり、機能を実行したりします。

## 関 ポイント

- サーバおよびサーバブレードの消費電力、吸気温度を取得、表示するためには、消費電力制御設定が必要です。
- グループに対する消費電力制御設定を行うためには、グループに所属するすべての機器で、事前にラックに対する消費電力制 御設定を行う必要があります。

### 電力モニタリング

[Facility Manager]画面で機器を選択して表示されるツールチップやレポート機能で、次の情報を確認できます。

- ・各ICT機器の消費電力値
- ・ ラック/グループごとの消費電力値

また、表示されるラック/グループごとの消費電力値は、以下の3通りから選択できます。

1. インテリジェントPDUで計測

ラックに搭載したインテリジェントPDUで計測した消費電力値を計測します。ラックに複数のインテリジェントPDUが搭載されている場合は、その消費電力値を合計します。ラック/グループごとの搭載機器での計測より精度は高くなります。

2. ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計

消費電力制御設定に従い、各ICT機器の消費電力を計測し、その値を合計します。計測した消費電力値の精度は各機器の仕様に依存します。

インテリジェントPDUでの計測より精度が下がります。

3. 計測機器を使用する(富士通Modular Data Centerのオプション)

富士通Modular Data Centerでラックごとのブレーカーで消費電力を計測するオプションを選択した場合に使用します。高精度の 値を計測できます。

初期状態では「2. ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計」の情報が表示されます。

変更する場合、以下のファイルを編集し、ServerView Infrastructure Manager Serviceサービスを再起動します。

・ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥SvfmConfig.properties
(デフォルト: C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥SvfmConfig.properties)

#### ・編集箇所

#TotalPowerConsumptionMode TotalPowerConsumption=X

[TotalPowerConsumption]の値(Xの部分)を、表示する消費電力値に応じて、次のどれかに修正します。

- インテリジェントPDUで計測
- ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計
- 計測機器を使用する

#### 省電力制御

ラック/グループに対して消費電力の上限値を設定し、サーバの省電力制御が行えます。

例えば、ラックの消費電力の上限値を10 kWと指定した場合、ラックに最大消費電力が400 Wのサーバが30台搭載されていると、最大 12 kWの消費電力となる場合が考えられます。

このとき、30台のサーバの優先度を設定しておくと、各サーバの消費電力状況をモニタリングしながら、トータルで10kWを超えないように、パワーキャッピングの比率を変えて、省電力制御を行います。

また、ICT機器の吸気温度/CPU温度のしきい値超過検出やファシリティ機器からのイベント受信を契機に、すべてのサーバの消費 電力を最小値にできます。

[消費電力制御設定]画面を表示するためには、[Facility Manager]画面で次のどちらかを選択し、右クリックして表示されるメニューで [消費電力制御設定]をクリックします。

- ・ [一覧]タブのツリーに表示されるラック
- ・ [グループ一覧]タブのツリーに表示されるグループ

[消費電力制御設定]画面は、[カタログ]タブ、[ポリシー]タブ、[スケジュール]タブから構成されます。

初期状態では[カタログ]タブが表示され、設定内容に応じて、[ポリシー]タブ、[スケジュール]タブが有効になります。

### [消費電力制御設定 画面-[カタログ]タブ

	Rack	-6 消費電力制	御設定		x
カタログ ポリシー スケジュー	-16 I				
機器	最大消費電力	固定電力値	消費電力	優先度	_
SV EX400S1	300	1		Ŧ	-
SV BX920S2-01	300			Medi 💌	
SV BX920S2-02	300			Medi 💌	
SV BX920S3-1	300			Medi 💌	
ST SX980S2-1	300	V		Ÿ	
ST SX98052-2	300	<b>√</b>		Ψ.	
SV CX250S1-1	300			Medi 💌	
SV CX250S1-2	300			Medi 🔻	
SV CX250S1-3	300			Medi 🔻	
SV CX250S1-4	300			Medi 💌	-
습밝:	3300 w	1200 w	1200 v	,	

項目	説明
機器	選択したラック/グループに搭載されているICT機器が表示されます。
最大消費電力	ICT機器の最大消費電力を入力します。
[固定電力値]チェック	チェックボックスをオンにすると、最大消費電力で指定された値を消費電力値として扱われます。
ボックス	消費電力を計測できない装置が搭載されている場合に使用します。
	消費電力を計測できない機器として、FCスイッチ(Brocade製)などがあります。
消費電力	計測した消費電力値が表示されます。
優先度	省電力制御を実行する場合の優先度を選択します。IAサーバのみ有効です。
	・ Critical:業務優先度が高く、性能を確保する場合に指定。
	・ High: Criticalよりは性能低下が許容できる場合に指定。
	・ Middle:Highよりも性能低下が許容できるが、Lowほどは積極的に行わない場合に指定。
	・Low:ラック全体の状況を見ながら、積極的に省電力制御を行う対象とする場合に指定。
合計	最大消費電力、固定電力値、消費電力の合計が表示されます。
[デフォルト] ボタン	表示されているすべての機器に対して最大消費電力の値が300Wに設定されます。
[設定] ボタン	指定した値で、各機器の情報が設定されます。 設定すると[ポリシー]タブが有効になります。
[閉じる] ボタン	画面を閉じます。

# 関 ポイント

ICT機器の最大消費電力については、各機器のカタログなどを参照してください。 また、PRIMERGYの場合にはサーバ消費電力/質量計算ツールを使用し最大消費電力を計算できます。 http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/technical/calculate/

### [消費電力制御設定] 画面-[ポリシー]タブ

About Million Jack	ल वी	Rack-1 消費	電力制得	明設定	X
カタログ ホリンー   スケ	シュール!	固定值		設定値	
为入身厶1	8000 w	- 900	₩ =	7100 w	実行
<i>ከ</i> እቃሬ2	6000 w	- 900	₩ =	5100 w	実行
スケジュール用	6000 w	- 900	w = [	5100 w	実行
≷_≂⊿					実行
<u></u>					
					設定開切る

項目		概要
カスら	721	
	上限値	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定します。 固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン/[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。
		クリックすると、「カスタム1」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。
		[解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行] に戻ります。
カスら	242	「カスタム1」とは別の要因で省電力制御を行う場合に使用します。
	上限值	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定します。
		固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン/[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。
		クリックすると、「カスタム2」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。
		[解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行] に戻ります。
スケジュール用		スケジュールを設定して省電力制御を実行する場合に使用します。 実行スケジュールは、[設定]ボタンをクリックし、[スケジュール]タブで設定します。
	上限值	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定します。 固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン/[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。

	項目	概要
		[スケジュール]タブで実行スケジュールを設定し、[実行]ボタンをクリックすると、スケ ジュール設定に従って「スケジュール用」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン 名称が [実行]から[解除] に切り替わります。
		[解除]ボタンをクリックすると、スケジュール設定が解除され、ボタン名称が[解除]から [実行]に戻ります。「スケジュール用」の上限値で省電力制御が実行中の場合は停止 されます。
バニマ	<i>۲</i> Δ	
	[実行]ボタン/[解除]ボタン	クリックすると、省電力制御可能なすべてのサーバの消費電力値が最小値に変更され、ボタン名称が [実行]から [解除] に切り替わります。
		[解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行] に戻ります。
[設定	[]ボタン	入力値を設定。設定すると[ポリシー]タブが有効になります。
		「カスタム1」、「カスタム2」、「スケジュール用」で入力した上限値を設定し、省電力制御 を実行可能にします。「スケジュール用」の上限値を入力した場合、[スケジュール]タ ブが有効になります。
		実行するためには、各項目の[実行]ボタンをクリックします。
[閉じ	る]ボタン	画面を閉じます。

### [消費電力制御設定] 画面-[スケジュール]タブ

Rack-1 消費電力制御設定	×
カタログ   ポリシー   スケジュール   開始時間   00 _ · :   00 _ · 終7時間   00 _ · :   00 _ ·	
•#E	
「日朝祖日 「月曜日 「火曜日 「水曜日 「木曜日 「全曜日 「土曜日	
	lRE
	閉じる

項目	説明
開始時間、終了時間	省電力制御を行う開始時刻と終了時刻を指定します。
曜日	スケジュール設定を使用した省電力制御を行う曜日を指定します。
	チェックボックスをオンにした曜日で、指定した時間に省電力制御が行われます。

項目	説明
[設定]ボタン	指定した時間と曜日を実行スケジュールに設定します。
[閉じる]ボタン	画面を閉じます。

## 4.3 [Facility Browser]画面

ISMの画面上部のメニューから [Facility Browser] をクリックすると監視対象の機器を登録する画面が表示されます。 ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

[Facility Browser] 画面は、監視対象の機器を登録するための画面です。

ISMの管理者権限を持つユーザーのみ操作できます。

監視対象の機器を、構成情報定義ファイルを使用して一括登録します。

ServerView							tat
サーバリスト	管理者設定	サーバデータ	イベント	サーバ濫視	アップデート	1275	セキュリティ
						インフラ管	理
<u>Home</u> >> インフ	ラ管理						
Facility Man 一括登錄	ager   Facility	Browser   Pro	ofile Mana	uger   <u>Setup</u>   I	Maintenance		
				774)	レを開入 ( )	1)	
(2) (2)	生確12.	<u>登</u> 禄 (3)			版表示[]](4	1)	

図中の(1)~(4)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	[ファイルを開く] ボタン	ー括登録用の構成情報定義ファイルを選択するための画面が表示されます。 選択したファイル名が、左のボックスに表示されます。
(2)	[整合性確認] ボタン	構成情報定義ファイルに記載された情報のうち、IPアドレス、登録名称、ラック搭載位置 (スロット番号)(*1)の重複がないかを確認します。 異常が見つかった場合、警告を表示します。
(3)	[登録]ボタン	整合性を確認した構成情報定義ファイルの内容を登録します。
(4)	[登録数表示]ボタン	ノードライセンス数とISMに登録済みのノード数が表示されます。

\*1: PRIMERGY BXシリーズについては、シャーシ内でスロット位置の重複がないかを確認する。

## 4.4 [Profile Manager]画面

ISMの画面上部のメニューから[Profile Manager]をクリックするとプロファイル管理の画面が表示されます。 ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

ここでは、プロファイル管理を行うための[Profile Manager]画面の操作方法を説明します。



プロファイル管理機能を使用する場合は、SVOMにログインする際に「Administrator」ロールのユーザーでログインしてください。

画面左側のツリーエリアと右側のワークエリアに分かれていて、ツリーエリアには、表示または設定する情報に応じて次のタブが用意されています。このタブを切り替えて、操作を行います。

- ・ ノードリスト
- ・ プロファイル

• イベント履歴

## 関 ポイント

[Profile Manager]画面では、ツリーエリアのタブと、ワークエリアにもタブが表示されます。 本書ではツリーエリアのタブで表示される名称で、[ノードリスト]画面、[プロファイル]画面、[イベント履歴]画面と表記します。

#### 画面更新操作

プロファイル管理では、画面表示内容は自動更新されません。

次の操作を行ったあとで作業進行状態を確認する、または処理結果を画面に表示させる場合は、画面右上の[最新の状態に更新]ボ タンをクリックし、画面表示内容を最新状態に更新してください。

画面更新が必要な場面	備考
機器の自動検出/手動検出	新しいサーバを接続したあと、または手動検索を開始したあとで、画面に機器が表示されること を確認します。
機器の登録処理 (登録解除も含む)	登録ボタンをクリックしたあと、機器状態が「管理可能」になることを確認します。
プロファイルの適用 (プロファイル解除も含む)	プロファイル適用を開始したあと、プロファイル適用が完了してサーバのステータスが「管理中」 になることを確認します。
仮想管理ソフトへの登録	登録を開始したあと、登録が正常終了して、サーバのステータスが「管理中」になることを確認します。
DVDからデータインポート	[インポート開始]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」になることを確認します。
	また、インポート元DVDの代わりにisoイメージファイルをマウントする場合は、マウント操作を行って新しいドライブが追加されたあとに [最新の状態に更新] をクリックします。
インポートされたデータの削除	[削除]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」になることを確認します。
イベント履歴の表示	[イベント履歴]画面の表示ログを最新にする場合に操作します。

## 4.4.1 [ノードリスト]画面

[ノードリスト]画面は、機器操作の基本となる画面です。Profile Managerの起動直後に表示され、主に次のことができます。

- 機器の検出と登録
- ・ プロファイル適用操作と状態確認
- ・ 機器情報やプロファイル適用履歴の確認
- ・ IDランプ(識別LED)の制御や仮想管理ソフトへの登録

[ノードリスト]画面左側(1)で[ノードリスト(収容位置別)]または[ノードリスト(種類別)]を選択すると、[ノードリスト]画面の機器一覧表 が表示されます。

	ServerView				고~맛: əd	lministrator 🖽	rz⊴⊾ <b>ru∥nsu</b>
	サーバリスト 管理者設定 サー	・バデータ イベント サ	ーパ艦旗 アップデート	インフラ セキュリティ			~117
				インフラ管理			
	<u>Home</u> >> インフ <del>フ信頼</del>						
	Facility Manager   Facility Beer	<u>vser</u>   Profile Manager	Setup Maintenance		ServerView I	infrastructure N	Manager V1.20.01
(1)	▼ノー 拘え K(収容位置別)	ノードリスト					最新の状態に更新
	日-10 金でのノード 日-日 Reck-1	金人卡 秋田 物理可能	e (2)				
	Storage-01	表示対象					
	ー III Rack-2 日- A 位便不調人-ド	ラックサーバ	サーバブレード MMB	LANスイッチ	FGZ197 ZHU-	-9	
	E- CH4J001558	P ■ (0(\$)	12 🖉 (2(9) 12 💷	(1#) E = (0#)	V - (0#) V	(1)%)	
	SVDF001849	(収523)(ステータス)		叙达逊		-	
		秋出	管理可能 管理中	達用中	エラー		
		(2)4)	🗆 😑 (16#) 🗆 📿 🥝	(114)	(1件) □ 😋 (0件)		
		状態	積極名	積體名 /	32/21-98	BMC(iRMC) IPアドレス	管理LAN IPアドレス
		<b>4</b>	PRIMERGY EX410 S1	CH4J001558		192.168.1.10	
		1/5	ETERNUS D060 S2	Storage=01		192.168.1.11	
		2	PRIMERGY EX920 S4	SV1324MY10887		192.168.1.202	
		10	PRIMERGY EX024 S3	SVDF001848	W2N1100	192.168.1.46	192.168.1.111
	▶ ノー 内スド(種類的の	í .					
	► 707r46						しポート町四峰
	► イペン I 服歴						

画面左側には、登録または検出されている機器がツリー形式で表示されます。[ノードリスト(収容位置別)]ではツリーが物理搭載位置 情報をベースとして表示され、[ノードリスト(種類別)]ではツリーが機器種別でまとめて表示されます。

画面右側には、機器が表形式で一覧表示されます。表示される機器は、ツリーの選択に応じて絞り込まれます。また、画面上の[表示 対象]や[絞込み]を使用しても絞り込まれます。

画面右側(2)の4つのタブを切り替えることで、機器状態による表示の絞り込み、表示される情報、またはボタン類が切り替わります。作業目的に応じてタブを適切に切り替えて操作してください。

タブ名	表示される機器	主な使用場面、および可能な操作
全ノード	登録済み、および検出中のすべての機器	すべての機器の一覧や、各機器の詳細を参照します。
検出	検出されただけで、まだ登録されていない機器	機器の登録を行います。手動検出で新しく機器を検出します。
管理可能	プロファイル適用前の機器	プロファイル適用を開始します。機器登録を解除します。
管理中	プロファイル適用済みの機器	適用済みプロファイルを変更します。 適用済みプロファイルを削除します。 ハードウェア保守後に必要な操作を実施します。



来サポート予定です。

・ 適用可能なプロファイルが存在しない装置(シャーシ、ETERNUS NRシリーズなど)は、管理中状態にはなりません。

- ・表示対象の絞り込み設定欄や、ノードリスト(種類別)には、LANスイッチ、およびFCスイッチが表示されますが、これらの機器は将
- ・ 全ノード以外のタブでは、画面下部に[入力クリア]ボタンがあります。画面上で操作した内容で、登録および適用が行われる前の 内容は[入力クリア]ボタンでリセットして、以前の状態に戻すことができます。

#### 機器アイコン

機器の種類や状態は、[ノードリスト]画面の機器一覧表上のメッセージ表示と共に、アイコン種別で表示されます。

アイコンの形状に応じて機器の種類を示し、機器アイコンの右下の記号で状態を示します。

サーバの場合のアイコンと、その状態は次のとおりです。

アイコン (サーバの場合)	状態	備考
	検出状態	機器が検出されているが、登録されていない状態。
<b>E</b>	管理可能状態	登録が完了し、プロファイル適用が可能になった状態。
1	管理中状態	プロファイルが適用された状態。シャーシ(MMB)はプロファイル適用操作がないため、本 状態にはならない。
	処理中	プロファイルを適用中、または適用解除中。機器を登録中、または登録解除中。
9		プロファイル適用中や機器登録中に異常が発生した状態。
	エラー	エラー状態を解除するためには、プロファイルを適用しなおすか、プロファイルの解除また は機器の登録解除を行う。

## 4.4.2 [プロファイル]画面

[プロファイル]画面は、プロファイルの操作や参照を行うための画面です。主に次のことができます。

- プロファイルの新規作成
- ・既存プロファイルの削除、変名、流用作成などの操作
- 既存プロファイルの内容参照
- ・ 適用済みプロファイルの適用先一覧表示

画面左側(1)で [プロファイル]を選択すると、[プロファイル]画面が表示されます。

画面右側には、プロファイル内の設定項目が表示されます。プロファイル種類に応じたタブが表示され、各タブ内の設定を参照したり、 変更したりできます。

サーバリスト 管理者設定 サー	バデータ イベント サーバ監視	アップデート インフラ	セキュリティ		
		インフラ管理			
ome >> インフラ管理			_		
acility Manager   Facility Brows	er   Profile Manager   Setup   Mainte	enance	Server	View Infrastructure Manager	: V1
・ノードリスト(収容位置80				最新の	状態:
- Z- PUXPORTIND - TROACIL	HWプロファイル名: HW-BX92454-1			サーバ種類: BXサーバ	
2 42 F 10F	FW7977-1 BIOS BINC(RING) 707-	(元/香井田			
B- 🔒 Н₩7079-(Ль	OPU Configuration				
<ul> <li>HW-F0(20058-1</li> <li>HW-F0(20058-1</li> </ul>	E Honer-Threading:	C Enabled	@ Disabled		
• 0S707r1%	Execute Disable Bit:	Finabled	C Disabled		
	Intel Virtualization Technology:	Enabled	C Dipabled		
→ 力セット	Intel(R) VT-d:	Enabled	C Disabled		
B- B- Hunters- (II	Power Technology:	C Energy Efficient	C Custam	C Disabled	
HW-RX-Standard	Enhanced SpeedStep:	C Enabled	C Disabled		
<ul> <li>OSプロファイル</li> <li>OS-Windows2012R22</li> <li>OS-ES365.5</li> </ul>	Turbo Mode:	C Enabled	C Dipabled		
田 🔒 ストレージ 品 グルーフ 一品 DW1	Memory configuration				
	DDR Performance:	C Low-Voltage optimized	C Energy optimized	Performance optimized	
	₽ NUMA:	Enabled	C Disabled		
	Onboard Device Configuration				
	Conboard SAS/SATA (SCU):	C Enabled	Disabled		
	SAS/SATA OpROM:	C Enabled	C Disabled		
	SAS/SATA Driver:	C LSI MessaRAID	C Intel RSTe		
	Server Management				
	Syno RTC with Mgmt. Blade:		d		
	Adjust Date/Time:	C Local Time C UTO			
	Option ROM Configuration				
	E louis studies sources	C Excluded	C Disabled		

## 4.4.3 [イベント履歴]画面

[イベント履歴]画面は、プロファイル管理上で行った操作およびその動作結果をログ形式で参照するための画面です。 画面および操作については、「5.5.5 イベント履歴表示」を参照してください。

# 4.5 [Setup]画面

ISMの画面上部のメニューから [Setup] をクリックするとセットアップの画面が表示されます。 ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

[Setup]画面は、プロファイル管理の動作設定や準備作業を行う画面です。 画面左部メニューから次の各種画面を切り替えて使用します。

ServerView					ユー <del>ザ</del> :
サーバリスト 管理者設定 サー	バデータ デプロイン	イベント イベント	サーバ監視	アップデート 🔤	(ンフラ セキュ
				1	インフラ管理
<u>Home</u> >> インフラ管理					
Facility Manager   Facility Brows	ser   Profile Manage	r   Setup   <u>Main</u>	tenance		Server
<ul> <li>         BRE     </li> <li> <b>DHCP設定</b> </li> <li>         プロファイル適用動作設定     </li> <li>         データインボート実行     </li> <li>         仮想管理ソフト設定     </li> <li>         Oグ収集設定     </li> <li>         CTUTH (1) 原定     </li> </ul>	DHCP設定 DHCPサービス状態: スコープ名 / SCOPE1	正常 有効/無効 悪効	ステータス 正常	開始 ネットワーク番号 192.168.1.0	サブネットマスク 255.255.255.0
<ul> <li>● ノード登録設定</li> </ul>			編集		5÷

面面名称	キカ使用場面 および可能な操作
DHCP設定	管理ネットワーク内のIPアドレス使用範囲を用途別に分けて定義します。 詳細は、「3.4 DHCP設定(ISM)」参照。
プロファイル適用動作設定	プロファイル適用動作時に使用されるポート番号や、管理サーバと対象サーバとの間でのデータ送受 信に利用する共有フォルダーを設定します。 詳細は、「3.2.2 設定手順」参照。
データインポート実行	OSインストールメディアの取り込みや、プロファイル適用動作に必要なファイルをDVDから取り込む操作を行います。また取り込まれたデータを削除します。 詳細は、「5.1 各種DVDのデータインポート」参照。
仮想管理ソフト設定	vCenter、SCVMMに対するホスト登録処理の動作を設定します。 詳細は、「3.6.1 仮想管理ソフト設定」参照。
ログ収集設定	ログ収集機能の対象となる機器を登録します。 詳細は、「5.6.1ログ収集対象機器の選択」参照。
FTPサーバ設定	FTPサーバのIPアドレスやアカウントを設定します。
ノード登録設定	ノード登録の際にSVOMのサーバリストにも登録するかどうかを設定します。

# 4.6 [Maintenance]画面

ISMの画面上部のメニューから [Maintenance] をクリックするとメンテナンス支援機能の画面が表示されます。 ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

メンテナンス支援機能の画面は、以下の3つから構成されます。初期状態では[ファームウェアアップデート一覧] 画面が表示され、画面上部のタブを選択すると、画面が切り替わります。

7-2	en) 842	ice D Riteit	2 7-1	17-2 41	ch   9~/	3231 7×5	7-1 1/22 3:47-2	04,077	3-7: Administ	Nation (1)272-21	nfra Nd		
_	_			_			-C/7984						
2	21	6225984						_	_	_	_		
te H	N/A	Savager Each	And Beau	ser Profile	Geneter S	ctup Mainter	Mace	_		_	_		_
<u>C-1/</u>	$(2\pi)$	77979	10.04	LECTRON .			Homes	S.C.	1.40.18				
110	23			-			nome -	-1/	ノノ管理				
	-		- ITTLA	MMD	1447.4		14 1 1 1 1 1 1 1			-			-
				- 60	10 CT - CT	(14) (14)	Facilit	v Ma	nager	Facil	ity Br	owser	Prot
	×	B (94) B	0240	2.00	0 X-	190 20	(24)						
-	-	_					7	5-77		E*	bab I	E	-
245	19-				_		JY-LX	JIYY	ツノノート	一見	870-1	筧	版定
								_					
	- 1	KAN CR	NOVAN				++47	1+-00					
_	-				_		- 718S	22.757 -					
-	-	1				antes a first start							
-					210051	COND 1 [Ubdate	040 113485			-	2.00		
		212	日本に変	24-2	7,094	211	47.6	79-6/27	現代パークシレ	更新使パーラビ	74-7		
C X					Blade12	8>94452-1-42	80/824 54	Server Blade	7.13F63.36/V/	AVERA FOLD	76-7		
<u>_</u>  8	99				Diade03	80/06052-1-03	ED021 53	Server Blade	\$28563.38/V. 82	2056336/16/1485.	54-7-		
	9		_	_	Blade14	800002-1-04	8033123	Cerver Blade	A SECOND DOM: NO	285833829483.	26-7.		
							Statistics of the second	6440	Carbon core . Ca	-	Sec. 10.		
	1.0			-	600	E.	PRMERGY EX300 Management Bia.	NONE	522 53	22	56-7.		
	2				C00	E	PRMERGY EX300 Management Bia. PY CE FC Switch 80b 18/8 14 (Bro. PY CE FC Switch 80b 18/8 14 (Bro.	FC SW blade	\$22 \$3 v7.87b	22	56-7. 56-7.		
Ē	•	CPB ROM-2	10	CHG0011541	C85 C84	-	PRMERGY British Management Bia, PY CB FC Switch Kib 18/1 H (Bro. PY CB FC Switch Kib 18/1 H (Bro. PRMERGY British Management Bia.	PC SW blade FC SW blade	6.22 6.2 v7.8.7b v7.8.7b	22	05-7. 05-7. 05-7. 05-7.		
		CP8,70200-2	12	CHG0101561	C05 C04 - Bladed1	CHODERISES,	PRMERGY Britis Management Bia. PY CB FC Switch K& III/II 14 (Bro- PY CB FC Switch K& III/II 14 (Bro- PRMERGY Britis Management Bia. Britis 54	NME FC SW blade FC SW blade	5.22 53 v7.5.15 v7.5.15 7.896 at 36.7V	22	34-7. 34-7. 34-7. 34-7. 34-7.		
		CP8,70200-2	12	CHG001561	CED CEA Elude11	снаритил.	PRMERGY EXXX Management Bia. PY CB FC Switch RCb 16/1 14 (Dro. PY CB FC Switch RCb 16/1 14 (Dro. PRMERGY EXXX B100 Management Bia. EXXX 54	NOR FC SW blade FC SW blade Server Blade #MC	5.22 5.2 v7.8 % v7.8 % v7.8 % 7.8 %	22 ANK&& RULE	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CP8,70200-2	19	CHG0001581	CED CEA - Blade11	CHGBORISKI.	PROKEDY EX30 Management Bis. PY OB FC Switch KOb II/1 H (Do- PY OB FC Switch KOb II/1 H (Do- PYOB FC Switch KOb II/1 H (Do- PROKERCY EX30 Management Bis. BIO34 54	NONE FC SW blade FC SW blade Server Blade JANC BIOS	5.22 5.2 v7.6.35 v7.6.35 - 7.89545336/V, v/ 7.89545336 vk6.54 R15.80 VA	22 AAREEK RUID KREEK RUID	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CP8,70200-2	19	CHG0001581	COS COS COS COS COS COS COS COS COS COS	CHGBORISHT.	PROMPROV EX100 Management Bin. PY CB FC switch KD II/11 H (Dis- PY CB FC Switch KD II/11 H (Dis- PROMPROV EX100 Management Bin. BY034 54 BY034 54	NNE FC SW blade FC SW blade Server Blade MNC BIOS Server Blade	5.22 52 v7.8.76 v7.8.76 	22 Annor Riji Ngga Riji Angga Riji	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CF8,70200-2	19	CHG0001581	COD COD COD COD COD COD COD COD COD COD	сновентил. сновентил.	PROBENCY EXCERNMENT Da. PY CO FC Switch KOL 10/1 H (Do- PY CO FC Switch KOL 10/1 H (Do- PYOR) CS Switch KOL 10/1 H (Do- PYOR) CO K Switch KOL 10/1 H (Do- PYOR) SWITCH (DO Management Da. BOOH S4 BOOH S4	NNE FC SW blade FC SW blade Server Blade MNC BIOS Server Blade Server Blade	5.22 5.2 v7.8.76 v7	22 AMAGER PULLO MAGER PULLO AMAGER PULLO	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CF8,70200-2	17	CHG0001581	Riade04 Biade05 Biade05	снововтял. снововтял. снововтял. снововтял.	PR06502 5008 Management Bis PY CB FC Switch RDs 10/1 H Cho- PY CB FC Switch RDs 10/1 H Cho- PY CB FC Switch RDs 10/1 H Cho- PR06FC/Y (2008 Management Dis. 00014 54 00014 54 00014 54	MNB FC SW blade FC SW blade FC SW blade HINC BENS Server Blade Server Blade Server Blade	8.22 82 v7.8 % v7.8 % 7.8 % 7.8 % 7.8 % 7.8 % 7.8 % 7.9 % 6.8 % 7.9 %	22 AXX65X R138 AXX65X R138 AXX65X R138 AXX65X R138 AXX65X R138	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CF8,70200-2	17	CHG0101581	CBI CBI CBI F BladeII BladeII BladeIS BladeIS BladeIS BladeII	Сноровтяна, Сноровтяна, Сноровтяна, Сноровтяна, Сноровтяна,	PR06502 5000 Management Bio PY CB IC Switch KDs 10/1 14 Obo- PY CB IC Switch KDs 10/1 14 Obo- PY CB IC Switch KDs 10/1 14 Obo- PY065702 ID 000 Management Dis. BIOIN 54 BIOIN 54 BIOIN 54 BIOIN 54	MRB FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC BROS BROS Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade	8.32 83 v7.8 % v7.8 % r2.8% 8 r2.9% 83.9% v r2.9% 83.9% v r2.9% 83.4% v r2.9% 200	22 AVK654 RU10 AVK654 RU10 AVK654 RU10 AVK654 RU10 AVK654 RU10 AVK654 RU10	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CAB,R1200-2	12	CHG0101561	COS COS COS - Bladel1 Bladel4 Bladel5 Bladel5 Bladel5 Bladel1 Bladel1	- Снаровтал, Снаровтал, Снаровтал, Снаровтал, Снаровтал, Снаровтал,	PRAER/VF ID30 Management (Ba. PF CD FC Senich XOL IV/1 FLOS PF CD FC Senich XOL IV/1 FLOS PF CD FC Senich XOL IV/1 FLOS PROMISED ID315 54 ID3315 54	MKB FC SH blade FC SH blade FC SH blade ADC BO'S Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade	8-22 8-2 V7.8 % V7.8 % V7.8 % 7.8 % 7.8 % 7.8 % 8.8 % 7.8 % 8.2 % 7.8 % 8.2 % 7.8 % 8.2 % 7.8 % 8.2 % 7.8 % 8.2 % 7.8 % 7.9 % 7.8	22 AKREA RIJE AKREA RIJE AKREA RIJE AKREA RIJE AKREA RIJE AKREA RIJE AKREA RIJE	56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7. 56-7.		
		CP8,90299-2	17	CHG0101581	COS COS COS - Bladel1 Bladel4 Bladel5 Bladel5 Bladel5 Bladel1 Bladel4 Bladel4 Bladel4	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	PRAFENY ISSUE Management (Ba. PY C B TC Samba KGE 11/71 11 (Ba. PY C B TC Samba KGE 11/71 11 (Ba. PY C B TC Samba KGE 11/71 11 (Ba. BY CB TC Samba KGE 11/71 11 (Bb. BY CB TC SAmba KGE 11/71	MHB FC SH blade FC SH blade FC SH blade ANC BROS Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade	5.22 5.2 v7.8 % v7.8	22 AVKR54 R110 AVK854 R110 AVK854 R110 AVK854 R110 AVK854 R110 AVK854 R110 AVK854 R110 AVK854 R110	54-7. 54-7. 54-7. 54-7. 54-7. 54-7. 54-7. 55-7. 55-7. 55-7. 55-7. 55-7. 55-7. 55-7. 55-7.		
	00000000	CP8,90209-2	17	CHG0101561	COS COS COS COS COS COS COS COS COS COS	- C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581,	PROFENSION ID000 Monacement (Bin, Pri C B TC Sinkin, KOL H/V1 10 (Bin, Pri C B TC Sinkin, KOL H/V1 10 (Bin, Pri C B TC Sinkin, KOL H/V1 10 (Bin, PROFENSION Management (Bin, BIO315 S4 BIO315 S4	NHE FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade	522 53 73.85 73.85 73.95 74.55 74.55 74.55 75.55 7	22 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130 AVK654 R130	5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7 5%-7.7		
		CP8,90209-2	17	CHG0101511	COD COD COD COD COD COD COD COD COD COD	Сновоетова, сновоетова, сновоетова, сновоетова, сновоетова, сновоетова, сновоетова, сновоетова,	PROFERVI 5030 Monagement (En. Pr C 6 17 Sinkh KD 11/11 (CD) Pr C 6 17 Sinkh KD 11/11 (CD) Pr C 6 17 Sinkh KD 11/11 (CD) PROFERVI 51000 Management (En. 8031 54 8031 54 80315	Helig FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade Server Blade	222 52 v78.5 v78.5 v78.5 v86.5 v86.55.813.8 v86.55.85.85.8 v86.55.85.85.85.85.85.85.85.85.85.85.85.85.	22 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 AVK65X R110 22 25	54-7. 54		
		CP8/0200-2	9	CHGDIE1561	COS COS COS - Bladel1 Bladel4 Bladel5 Bladel5 Bladel5 Bladel1 Bladel4 Bladel1 Bladel4 Bladel1 Bladel4 Bladel5 Bladel5	- C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581, C+G8001581,	PROFERE/C 2010 Monagement (Ex. PC 01 FC Samin, KOL H/11 (CM) PC 01 FC Samin, KOL H/11 (CM)	MIG FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade Server Blade	522 52 73.5 73.5 738735 73874535 73874535 73874535 73874535 73874535 73874535 73874535 73874535 73874535 739745355 739745355 739745355 739745355 739745355 739745355 739745355 739745355 739745355 7397455 73974555 73974555 7397455 739755 739755 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 7397555 73975555 73975555 73975555 73975555 739755555555555555555555555555555555555	22 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 AVKREA R130 Z2 Z2 Z2 Z2	5%-7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,		
		CP8,/028-2	12	CHGOREISEI	COD COD COD COD COD COD COD COD COD COD	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	PROFENCY EDGI Monagement (En. PY C ET C Sinkh XOL 11/11 (CM) PY C ET C Sinkh XOL 11/11 (CM) PY C ET C Sinkh XOL 11/11 (CM) PROFENCY EDGI Management (En. EDGI 54 EDGI 54	MHQ FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade Sever Sever Se	222 52 v78.5 v78.5 v78.5 v88.5 v	22 AVKR54 FL10 AVK854 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 AVK54 FL10 Z2 Z2 Z2	54-7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.		
		CP8,920-2	13	CHG0101541	CB3 CB4 - Blade04 Blade04 Blade04 Blade04 Blade04 Blade04 Blade14 Blade14 Blade14 Blade14 Blade14 Blade14 Blade14 Blade14 -	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	PROFENSION Management (Bis Profile To Sanka Kols H/H 1600 Profile To Sanka Kols H/H 11600 Profile To Sanka Kols H/H 11600 Profile To Sanka Kols H/H 11600 Broth 54 Broth 5	MHG FC SH blade FC SH blade FC SH blade FC SH blade AMC BOS Server Blade Server Server S	522 52 73.55 738/53.56 739/63.56 739/63.58 740/63.58 740/63	22 AVKREA RELED AVKREA RELED AVKREA AVK	54-7. 54		

画面名	説明
[ファームウェアアップデートー 覧]画面	管理対象装置に対するファームウェアの現行版数とリポジトリに登録されている版数の差 分情報が一覧表示されます。管理対象装置に対してファームウェアアップデートを実施す る際は、この画面から操作します。
[タスク一覧]画面	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況、および過去に実施したファームウェ アアップデートの履歴情報が一覧表示されます。
[共通設定]画面	メンテナンス支援機能を利用するために必要となる各種情報を登録します。

# 4.6.1 [ファームウェアアップデートー覧]画面

管理対象装置に対するファームウェア情報が一覧表示されます。 条件を指定した情報の絞り込み表示や、ファームウェアアップデートの実行ができます。

verview							ユーザ Admir	nistrator 022	P21-	FUITS
-パリスト 曽	28設定	サーバデータ	4/0015	サーバ監視	アップテート インフラ ネッ	トワーク セ	キュリティ			へいび
					インフラ管理					
1 やインフラ原	-	_	_	_		_	_	_	_	
lity Manager	Facility B	rowser Prof	ile Manage	r   Setup   Main	abenance		ServerView.	Infrastructure	Manag	er V1.2.0
レウェアアップデート	-N DAT	N RIARS	200	10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-1						
- BUE			_			_				
and and and			2 N.					(1)		
9999-11	4-101h	-F 1418	LA	4NQ19 <del>5</del> F	0219¥ 2H-9			(1)		
(\$H\$) 🖩 🟹	R 🖗 (H		F(214)	2 - (2(†) I	区 — (0(4) 区 副 (0(4)					
aiż										
				(2)						
④ 全運税	· 差分のあま	57.								
and the second sec										
		280 L.						(3	)	(4)
	-1	285						(3	)	(4)
	5)		23	1897年37月9 : 🔃	are CVD 1114.82			(3	)	(4) 286
<b>21799722</b>	5)	5 <del>4</del> -5	200+	捕りボジトリ: 100	ate 200 111432 E74	<i>71−L</i> 9179.	現代バージョン	(3	) 	(4) 1816
201794702 ( 3%5 CR8_RK2	5) Riferona	54-5 CH4J011705	21 7,09 F	増りポジトリ : <u>155</u> マジン -	NG DUD 113432 モデル PRIMERGY EXHID Management Blad.	7 <i>r-11</i> 0179.	- 現得/5-542	(3 ))))) )) ))) )))	) - -	(4) Elfi
※1987年 995 CRB_RX2 日●	5) 10.000.000 2	59-5 CH4J01702	21 ADPF Blade01	t酸1ポジドリ: <u>155</u> マシン - CH4J101702	ere DVD 111412 EFA PRIMERGY BXHD Menagement Bled. BXX03 53	2v−L0179. - Server Blade	- 529083114/V.	(3	) 311-	(4) 101
<ul> <li>()</li> <li< td=""><td>5)   Hill BR (0.02)   2</td><td>59-5 CH4J01702</td><td>23 2.09 F Blade01</td><td>1歳9月分月 : 100 マラン - CH4J101702</td><td>44 DVD 111412 EFA PRIMERGY EX410 Management Blad. BXX21 S3</td><td>7<i>r-L0</i>179. - Server Blade RMO BDOS</td><td></td><td>(3 20040.16/V. 620040.16/V. 620660.18 Via662.62.24.6</td><td>) 514-</td><td>(4) Elfi</td></li<></ul>	5)   Hill BR (0.02)   2	59-5 CH4J01702	23 2.09 F Blade01	1歳9月分月 : 100 マラン - CH4J101702	44 DVD 111412 EFA PRIMERGY EX410 Management Blad. BXX21 S3	7 <i>r-L0</i> 179. - Server Blade RMO BDOS		(3 20040.16/V. 620040.16/V. 620660.18 Via662.62.24.6	) 514-	(4) Elfi
<ul> <li>()</li> <li< td=""><td>5) Filerioze 2</td><td>5-9-5 CH4J011702</td><td>21 2.09F Blade01 Blade05</td><td>1803#5749 : 100 7552 CH4J801782- CH4J801782-</td><td>ENCORE 11412</td><td><i>3y−L0179.</i> - Berver Blade RMO BIOS Server Blade</td><td>- - - - - - - - - - - - - -</td><td>(3 20040.18/V-04. 420040.18/V. 420040.18/V. 420040.18/V.</td><td>) 314-</td><td>(4) 1816</td></li<></ul>	5) Filerioze 2	5-9-5 CH4J011702	21 2.09F Blade01 Blade05	1803#5749 : 100 7552 CH4J801782- CH4J801782-	ENCORE 11412	<i>3y−L0179.</i> - Berver Blade RMO BIOS Server Blade	- - - - - - - - - - - - - -	(3 20040.18/V-04. 420040.18/V. 420040.18/V. 420040.18/V.	) 314-	(4) 1816
20199700 ( 995 CR8_FN2. E ●	5)   FileRecolle 2	5w-5 CH4J081702	21 2.09F Blade01 Blade05	1803/#3749 : 100 7552 CH4J801782 CH4J801782	NY DUO 111432 774 PE[MERCY EX403 Management Blad. EXX20 53	7y-LO179. - Sever Blade RMO BOS Sever Blade RMO		(3 RIGEN/5-0a, - 628683.18/V. 628683.18/V. 628683.18/V. 628683.18/V. 628683.18/V.	) 311-	(4) 1816
3819878 ( 995) 098,842 H ●	5) FileRoom 2	59-5 CH4J001703	21 2.09F Blade01 Blade05	1001#37H9 : 1000 7555 CH43801782 CH43801782	EFA FIAEROY EXHID Management Blad. EXXIII S S	7r-L/tr79. - Serve Blade RMC BOS Serve Blade RMC BOS BOS		(3 20063.16/V. 628063.18/V. 628063.18/V. 628063.18/V. 628063.18/V. 628063.18/V.	) 700-	(4) Elfi
201798702 (( 5%) CPB_Ro2 E E E	5) FileRoom 2	5-9-5 CH4J011702	23 2.02F Blade01 Blade05 MMB	1801#32H0 : 1200 7950 Сняциотлас- сняциотлас-	ENCOUNTENENT ETA PERMETROY EXAMIN Management Blad. ENVER 53 PERMETROY EXAMIN Management Blad.	7P-LO279. - Serve Blade RMC BIOS Serve Blade RMC BIOS MMB wwn		(3 23068318/V-54 23068318/V 22668318 V4853782248 22668318 V48537823 2465378248 2465378248 2465378248	) 710-	(4) <u>Rh</u>
28798792 (( 9⇒5 CR8_R42. ≥ =	5) Riekow 2	54-5 CH4J011702	21 2,09+ Eliade01 Bliede05 MMB MMB MMB	1803#3749 : 100 7552 Сняциот702 сняциот702	HE DUD TITLER EF74 PRIMERGY EXHID Management Blad. EXXUD 53 PRIMERGY EXHID Management Blad.	79-LO279. - Barve Blade RMC BDS Serve Blade RMC BDS MMB MMB MMB MMB	80/9/1-3a2 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V.	(3 20045316/V-04 20045316/V- 2004516/V- 2004510/V- 2004516/V- 2	) 311-	(4) <u>Rh</u>
201788.742	5)   Hill Britton (1)   2	5-9-5 CH4J081703	21 2,09+ Filede01 Bilede05 MMB MMB1 MMB2 CB1	tillion#5049 : 1000	HE COULTEAR EFA PEMERGY EXHID Management Blad. EXX28 53 PEMERGY EXHID Management Blad. PY CE En Switch/BP 108 15/1704	7r-LO279. Server Blade RMO BDS Server Blade RMO BDS MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB	829080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V. 529080.14/V.	(3 20043.16/V-54. 520043.16/V- 520040.10/V-	) 314-	(4) RH6
3007 000 000 000 000 000 000 000 000 000	5)   Rition 2	5-9-5 CH4J081703	21 7,00+ Blade01 Blade05 MMB MMB2 CB1 CB2	10017827-0 1 100 	HT DUD 1114.00 E774 PE(MERGY EX40) Management Blad. EXX00 50 EXX00 50 PEDMERGY EX400 Management Blad. PY CB En Switch/BP 106 55/120H. PY CB En Switch/BP 106 55/120H.	7P-LO279 - Serve Blade RMO BIOS Serve Blade RMO BIOS MMB MMB MMB LAN SW LAN SW	8899/5-3a2 - 525088.14/V/ 525088.14/V/ 44.5.8 R2189 525088.14 V4.5.8 R2189 562088.14 V4.5.8 R2189 562 563 563 563 563 563 563 563	(3 EBN(82/5-5a) 529585318/V 629585318/V 629585318/V 629585318/V 629585318/V 629585318/V 629585318/V 639563182 639 639 639 639 639 639 639 639	) 311-	(4) RH6
3995 0788,R42. H H H H H	5)   151.000.000 2	5	71 7.029 9 804601 804605 99482 050 050 050 050 050 050 050 050	tights#5/H9 :	EFA PEMERGY EX10 Management Blad. INSOR 53 PEMERGY EX10 Management Blad. PY C8 En Switch/IBP 108 IS/1204. PY C8 En Switch/IBP 1086 IS/1204. PY C8 En Switch/IBP 1086 IS/1204.	7P-LO279 - Serve Blade RMC BDS Serve Blade RMC BDS MMB MMB LAN SW LAN SW LAN SW Rack Server	WHY/5-Da2-           525088.14/V.         525088.14/V.           525088.14/V.         525081.14/V.           525088.14/V.         525081.14/V.           525088.14/V.         525085.14/V.	(3 216(8)(-5) 226(63.16/V) 226(63.16/V) 226(63.16/V) 226(63.18 246(63.16)(-7) 226(63.18) 246(63.16)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7) 246(7)(-7)(-7) 246(7)(-7)(-7)(-7)(-7)(-7)(-7)(-7)(-7)(-7)(	) 011-	(4) Rh
300 500 008,802 H ● H ● H ● H ●	5) Filencia 2	5-4-5 CH4J0017702	71 2,029 Blade01 Blade05 MMB MMB MMB MMB CB1 CB1 CB2 -	180175749 : 100 1007702- CH4,001702- CH4,001702- CH4,001702- CH4,001702- Latourpso-te.	HT DUO 111432 PEMERGY EX40 Management Blad. EXX03 53 PEMERGY EX40 Management Blad. PY C8 Ein Switch/38P 108 55/1204. PY C8 Ein Switch/38P 108 16/1204. PX 68 57	2P-LO279. Server Blade RMC BDS Server Blade RMC BDS MMB MMB LAN SW LAN SW LAN SW Rak: Server RMC	RHY/S-Dab     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14/V.     S25083.14     Vos.05.14     S51483.14     S51483.14     S51483.24	(3 EBR/8//5a 529063.18/V- 529063.18/V- 529063.18 V4653 F524.8 529063.18 V4653 F524.8 529063.18 V4653 F524.8 5390 539 539 539 5390 53000 5300 53000 5300 53000 53000	) 311-	(4) <u>R</u> 6 <u>7</u>
328799778 (( 9990) 8 0 8 0 8 0 8 0 8 0 8 0	5)   Fillerio.m   2	5	2/09/1 2/09/1 Blade01 Blade05 MMB MMB1 MMB2 CB1 CB1 CB2	1801/85749 1 122 2555 CH6J801782 CH6J801782 CH6J801782 CH6J801782 CH6J801782 CH6J801782 CH6J801782 Katowpoo-te.	PEDID 1114.02 EF7.4 PEDID SY EX403 Management Blad. EXX20 53 PEDIDED 54 PEDIDED 54 P	2P-LO173 - Serve Blade RMC BOS Serve Blade RMS MMB MMB LAN SW LAN SW LAN SW ROC BOS	10017/15-542- 525035114/V. 525035114/V. 525035114/V. 525035114/V. 525035114/V. 525035114/V. 525045114/V. 550455114/V. 551455204/V. 551455204/V.	(3 2006/20/5-53a 2006/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/	511- - - -	(4) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
	5) Remoge 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	244-5/ CH4-J0417Va	2(2)+ 2(2)+(	цёрая́УНр : Цее	TO DUO 1114.00 E7.4 PENEROV EX40 Management Blad. EXX08 50 PROMERCY EX400 Management Blad. PY C8 Efs Switch/38P 103b 16/12/ML RX08 57 PROMERCIEST 28005	79-L/2279. Serve Blade AMO BDS Serve Blade AMO BDS MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MM	881975-5427 - 52503514747 52503514747 52503514747 52503514747 52503514747 52503514747 52503514747 52503514747 52513521747 5251352217 5251352217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 525152217 5251522217 5251522217 5251522217 5251522217 52515222 525152222 525152222 52515222 52515222 52515222 5251522 5251522 5251522 5251522 5251522 5251522 52515 525152 52515 52515 52515 52515 52515	(3) 2004/80/5-514 5 200451/16/V- 6 200451/1	511- 	(4) <u>Rh</u>
	5) Riterio 2 2 20	2w-5 CH4J001703	21 3(2)+ - Blade01 Blade05 MMB MMB1 MMB2 CB1 CB1 CB2 - - -	1801/85749 1: 2000 1950 CHIKUDO1702 CHIKUDO1702 CHIKUDO1702 CHIKUDO1702 CHIKUDO1702 KATSURDED-16- PREMOUEST	Her DOD 1114.32     EF7.4     PROMERCY EX400 Management Blad.     DIVIDE 53     PROMERCY EX400 Management Blad.     PY CB En Switch/30P 100 IS/1204.     PY CB EN SWITCH/30P IS/1204.	3y-L/3278. - Server Blade AMO BDS Server Blade AMO BDS Server Blade AMO BDS Server Blade AMO BDS MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MM	WHY/L-DL2           -         -           5250483 H4/VL         5250483 H4/VL           5250483 H4/VL         525048 H4/VL           525048 H4/VL         525048 H4/VL           525048 H4/VL         525048 H4/VL           525048 H4/VL         525048 H4/VL           525048 H4/VL         525048 H4/VL           565         565           565         565           567         565           568         566           569         567           567         562           567         562           567         562           568         567           569         567           568         567           569         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567           567         567	(3) 2004810/-04 52004810000000000000000000000000000000000	511- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(4) 7

No.	項目	説明
(1)	対象装置	チェックボックスをオンにした管理対象装置の情報のみ「(5)ファームウェア情報一覧」に表示 されます。
		一覧に表示する管理対象装置を絞り込む場合に使用します。
(2)	フィルタ	[差分のみ表示]を選択すると、現在動作中のファームウェア版数とリポジトリに登録されている版数に差分がある情報のみ「(5)ファームウェア情報一覧」に表示されます。
		一覧に表示する管理対象装置をファームウェアの差分情報の有無で絞り込む場合に使用し ます。
(3)	対象リポジトリ	プロファイル管理機能でインポートしたリポジトリの一覧から、ファームウェアアップデートに使用するリポジトリを選択します。
		各装置のファームウェア情報で「更新後バージョン」に表示されるファームウェア版数には、こ こで選択したリポジトリに登録されている版数が表示されます。
(4)	[更新] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」に表示された情報を最新に更新します。
		管理対象装置について情報が変更された場合に使用します。
(5)	ファームウェア情報一覧	管理対象の装置のファームウェア情報が一覧表示されます。
		現在動作中のファームウェア版数とリポジトリに登録されているファームウェア版数に差分があ る装置については、「現行バージョン」と「更新後バージョン」が赤い文字で表示されます。ま た、行頭のチェックボックスをオンにすることで、ファームウェアアップデートを行う対象を選択 します。
(6)	[選択解除] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」の行頭のチェックボックスをすべてオフにします。
(7)	[ファームウェアアップデート 開始] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」で選択した対象装置に対してファームウェアアップデートを実施します。



リポジトリに登録されているファームウェア版数が、現在動作中の版数よりも古い場合においても差分ありとして、「現行バージョン」と 「更新後バージョン」が赤い文字で表示されます。装置に対してファームウェアアップデートを実施する前に、適用するファームウェア 版数が意図したものであるか確認してください。

# 4.6.2 [タスクー覧]画面

ierverView					a	ーザ. Administrator ログ	22E RUÍTSU
サーバリスト 管理者	111日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11	ーバチータ イベン	ント「サーバ監視」ア	ップチート インフラ	ネットワーク むち	ユリティ	~117
and the second second				インフラ管理			
mg >> インフラ数型	-						
cility Manager   Fa	acility Bee	wser Profile Mar	ager   Setup   Mainter	nasce	Se	erverView Infrastructur	e Manager V1.2.0
7-10175977-1-1	925-1	C ADDRESS OF				(1) Zm [Cal	(2)
92912F	_						
351-500	/	ターゲット		27-92	建設	15%	7 89
Famware Update		MMD .	propert		6/1	2314-05-31 68	1628
Fanware Update		MIR	Faled		2.8	2014-05-29 10:	20.56
reneware upcere		710	Completed		- AL	2010-00-20 101	W11
編計92254編編							
福祉シスクル(第148 5ック	SMOR	(w-2)	2001	8/1	3817	Murrents <	12-80
第752201章348 2772 CF81,P2011-2 	Secon	54-5 Recently 1444000	2.00+ H4622	811	3012 423	@66/2014/001 < (2014-05-01 0016/43	17-11日 11-11日
ส์สีของ2011สัมส 579 เคริม (2011-2	5602	(200-1) (200-1) (200-2)	2.00+ 14452	¥///	湖(約 	御いた思知(4月5) < (2314-35-31 08 16 43	12-80
สัสรร2011มิมส 370 (คย	50 M (1) 2	299-52 (2004 85 1444 802	2,021 )19452	- 4///	3813 473	御いた男月(4月5) < (2314-25-31 08 16:43	12-週13
載すめ320の載品線 	Sero.z	200-52 (2008-85 1464-800)	200+ )++62	800	20115 473	#46204951 < (2314-35-31 081643	12-82
สร้าง32544 379 (ค.ศ. 1903) 	SMAR	(yy-y) (2058-05 1464 100)	2091 14462	1997	2015 473	#46/2014-05-11 (616-42	17-82
¥2±32.50.0¥¥# 373 (688,78031-2) -	Secar	2/9-5/ (2020.05.1440.002	2.091 (M462		2013 475	@64520144501 < (2016-05-01 001640	17-82
877522008248 272 168_P0031-2	55 M (1) Z	(/y =// (2014 85 1444 802)	2.021 )14452	- 4/1/	381/3 425	<b>864512764951</b> < (2314-35-31 0816-43	12-50
8399320008748 372 5780,790081-2	ST MAD IT	04-5 2014 85 1404 800	2001 14462		2017 473	<b>Ø4458294951</b> < 2314-35-31 681643	
ชีริช32345ชัสส 373 (ค.ศ. 2003) - 2	55400.X	(vy-/) (2058/85 146/800)	209+ )++62	899	3810 475	\$4628949514 < 2314-35-31 (81643	12-82

メンテナンス支援機能では、[ファームウェアアップデート一覧]画面で対象装置を選択して[ファームウェアアップデート開始]ボタンを 押した単位を、1つの「タスク」として管理します。

[タスク一覧]画面では、この「タスク」単位でファームウェアアップデートの結果が一覧表示されます。

また、一覧からタスクを選択することで、そのタスクでファームウェアアップデートを実施した装置ごとの詳細なファームウェアアップデート結果を確認できます。

No.	項目	説明
(1)	[更新]ボタン	クリックすると、「(4)タスクリスト」と「(5)選択タスクの詳細」の情報が最新の情報に更新されます。
(2)	[自動更新] チェックボック ス、更新間隔	ファームウェアアップデート実施中のタスクについて、進捗情報を自動で更新するかしないか、 自動で更新する場合はその間隔を指定します。
		チェックボックスをオンにして更新間隔を選択すると、指定した間隔で自動的に表示が更新されます。
(3)	タスクリスト	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況と、過去に実施したファームウェアアップ デートの履歴情報が、タスクごとに一覧表示されます。
(4)	選択タスクの詳細	「(3)タスクリスト」で選択したタスクについて、対象装置ごとの詳細な結果が表示されます。1つのタスクで複数の機器に対して操作した場合、機器ごとに結果が表示されます。

### 4.6.3 [共通設定] 画面

アカウント情報が必要な各管理対象装置について、情報を設定/管理します。FCスイッチブレード、またはストレージごとに個別のアカウントを設定する「アカウント個別設定モード」と、装置の種類ごとに共通のアカウントを設定する「アカウント共通設定モード」を切り替えられます。

### 몓 ポイント

ブレードサーバのMMBのアカウント情報は、ファシリティ管理機能で登録するアカウント情報が使用されます。
サーバ(ラックサーバやサーバブレードなど)のアカウント情報は、プロファイル管理機能で作成するiRMCのアカウント情報が使用され
ます。

ServerView								ユーザ: Administrator	<u>02701</u> N
サーノのスト	管理委会定	サーバデータ	1754	サー/活躍	アップデート	1/05 4-0-	ク セキュリティ		~0
						インフラ相関			
ome >> インプ	784	_							
acility Manu	ager   Facility	Browser   Pro	ofile Manay	eer Setup 1	Maintenance			ServerView Infrastru	cture Manager V1.
w-1.0±7793	17-1- <b>1</b> 27	STATISTICS	1						
アカウント研究		(1)							
FOスイッチブレー	ドアカウント	□ 全ての思想に5	司、設定を使用	545					
590	17	都位置			2001	795	ユーザ名	/00-F	確認用パスワード
Rack2	2	CHC	30106	ICB3		-	fouser1		
Rack.1	1	CH	30105	082			fouser2		
Rack1	1	CHD	30105	(CB1			fourer3		
		(2)							
ストレージアガウン	14	□ 全ての樹静に所	同じ設定を使用	595					
590	17	100E	54-5		7.091	790	ユーザ名	/027-F	補助用ルスワード
Rack2	10	-		-		ETERNUS DX 200 S3	AAAA		
Rack2	20	-		-		ETERNUS DX 100 S3	AAAA		

No.	項目	説明
(1)	FCスイッチブレードアカウン	各装置に接続可能なアカウント情報(ユーザ名/パスワード)を設定します。
	ト情報一覧	[全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオフにすると、アカウント個別設定モードとなり、管理対象のFCスイッチブレード装置の一覧表で、「ユーザ名」、「パスワード」、「確認用パスワード」の各項目のセルをクリックして情報を入力します。
		[全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオンにすると、アカウント共通設定モードとなります。アカウント情報の入力欄が1つになるので、各FCスイッチブレード装置共通で使用する情報を入力します。
		メンテナンス支援機能でFCスイッチブレードを管理対象装置とする場合に使用します。
(2)	ストレージアカウント情報一	各装置に接続可能なアカウント情報(ユーザ名/パスワード)を設定します。
	覧	[全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオフにすると、アカウント個別設定モードとなり、管理対象のストレージ装置の一覧表で、「ユーザ名」、「パスワード」、「確認用パスワード」の各項目のセルをクリックして情報を入力します。
		[全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオンにすると、アカウント共通設定モードとなります。アカウント情報の入力欄が1つになるので、各ストレージ装置共通で使用する情報を入力します。
		メンテナンス支援機能でストレージを管理対象装置とする場合に使用します。
(3)	[保存] ボタン	「(1) ストレージアカウント情報一覧」で設定した情報を保存します。

# 第5章 運用

# 5.1 各種DVDのデータインポート

次のDVDやCD(またはisoイメージ)の中身を管理サーバのハードディスク上にコピーします。 Update DVDは、必ずインポートを行います。OSのインストールDVDについては利用するOSのみインポートが必要です。

DVD種類	備考
Update DVD	必ずインポートしてください。
	最新ファームウェアやBIOSにアップデートする場合は、それらを含むDVDから再 度インポートが必要です。
	サポート版数はV11.13.10以降。
Windowsインストールメディア	Windowsをインストールする場合にインポートが必要です。
	富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア(イメージ)、また はマイクロソフト社が提供するインストールメディア(イメージ)を使用します。
VMware ESXi インストールメディア	VMware ESXiをインストールする場合にインポートが必要です。
	富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア(イメージ)を使用 します。
Cloud Ready Blocks Update Supplement	メンテナンス支援機能で使用します。
FC Switchblade Firmware DVD	メンテナンス支援機能で使用します。

各種DVDのデータをインポートする手順は次のとおりです。

- 1. プロファイル適用動作設定を完了していない場合は、最初に設定を行います。 詳細は、「3.2.2 設定手順」を参照してください。
- 2. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

3. [Setup]画面の左側で [データインポート実行] をクリックします。

▼投定	デーラインボード実行							最新が状態に更新
<ul> <li>DACRESE</li> <li>DACRESE</li> <li>DACRESE</li> <li>DACRESE</li> <li>RESERVED APA:</li> <li>DATE</li> <li>DATE</li> </ul>	テージャサー/2:10% ドインボート元ドライブ: 種類: りポジドリパス:	5.8ます。開た11755.85 竹竹を場合が80ます。	東みの場合、」  H¥  Serve  C¥ia	er View Suite	£4.		*	リボジャー覧
				L.R. 18.5	1100	1		1.200 - mepu
	際地目時	林了日時	ステータス	15-252	種類	12/ボート元-	エラー内容	
	2114-05-18 112728		心水-仲		VMWare ESXI \$3	F¥		
	2814-05-10 11:22:01		心滞一种	11.14.82	Update DVD	0.9		
	2814-05-10 11:26:40	2114-05-10 11:27:25	完了	11.14.84	ServerView Suite DVD	HW		
								通用

4. コピー元になるDVDを管理サーバ上のドライブにセットする、またはisoイメージをマウントしてドライブに割り当てます。



- リモート接続されたWebブラウザでプロファイル管理を操作している場合、コピー元ドライブは接続先の管理サーバ側に存在 する必要があります。

- Linuxのインストールメディアは本画面でインポートしません。「Linuxインストール媒体の準備」を参照して、別途用意したFTP サーバにファイルを保存してください。
- 5. 画面右側の [インポート元ドライブ] 欄をクリックし、ドライブ名を選択します。

ドライブ名が表示されない場合は、[最新の状態に更新]ボタンをクリックしてください。

- 6. [種類]欄をクリックし、インポートするDVDの種類を選択します。
- 7. [インポート開始]ボタンをクリックします。インポートを開始します。
- 8. [最新の状態に更新]ボタンをクリックし、ログ表示欄でコピーが完了するのを待ちます。
- 9. 複数のDVDからコピーする場合は、手順3から手順8を繰り返します。

Update DVDのインポートは必須です。

- 10. 最後に[適用]ボタンをクリックします。
- 確認のダイアログボックスが表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
   適用が開始されます。正常終了すると作業は完了です。

関 ポイント

- ・ 適用開始から完了までは数分かかります。
- ・適用中は共有フォルダー(リポジトリ)に対して、一時的にネットワークドライブが割り当てられます。
- すでにインポートが完了したあとでプロファイル適用動作設定を変更した場合も、インポート操作が必要になります。
   すでにインポートが完了した状態から、共有フォルダー名(リポジトリパス)を変更した場合は、すべてのインポート作業を行ってください。共有フォルダー名(リポジトリパス)以外を変更した場合は、データインポート実行画面で[適用]ボタンをクリックしてください。

### インポート済みデータの削除

Update DVDおよびCloud Ready Blocks Update Supplementについては、すでにインポート済みのバージョンと異なるバージョンのDVD をインポートすると、以前インポートしたバージョンはすべて保持されたまま、新しくインポートしたバージョンが追加されます。 そのため、複数のバージョンがインポートされた状態となります。

不要になったバージョンは次の手順で削除します。

- 1. データインポート画面の種類選択欄で削除するDVDの種類を選択し、[リポジトリー覧]をクリックします。
- 2. [リポジトリー覧]ダイアログボックスが開き、インポートされているバージョンが一覧表示されます。

	ServerView Infrastructure	Manager	×
リポジドリー覧			
利用料したUV「ージョンを選択」 利用料引着:Update DVD、C	、夏季後求女ンを押してください。 Joud Ready Blocks Update Supplement		
禮號: Update DVD			
パージョン	日付	ステータス	
11.14.12	2014-05-27 21 88.44	充了	
11.13.10	2014-05-22 14:45:47	完了	
	<b>8</b> ₩¢ <u>5</u> +>±4	1	

3. 削除するバージョンのチェックボックスをオンにして [削除] ボタンをクリックします。

4. [データインポート実行] 画面に戻ります。[最新の状態に更新] ボタンをクリックし、削除が正しく完了したことを画面上の作業履歴で確認します。削除が成功すると履歴のステータスに「削除済」と表示されます。



—

Update DVD、Cloud Ready Blocks Update Supplement以外は複数の種類や版数を保存できません。

[種類]が同一のDVDを複数インポートした場合は、最後にインポートしたデータだけがリポジトリに残ります。ISM操作画面から インポートしたデータの削除はできません。削除が必要な場合は、リポジトリから下表に示すフォルダー内のファイルを削除して ください。

OS種類	フォルダー名
Windows Server 2012 R2 Datacenter(富士通媒体)	W12R20DF
Windows Server 2012 R2 Standard(富士通媒体)	W12R20SF
Windows Server 2012 R2(マイクロソフト社媒体)	W12R20_M
Windows Server 2012 R2(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W12R20_V
Windows Server 2012 Datacenter(富士通媒体)	W120DF
Windows Server 2012 Standard(富士通媒体)	W120SF
Windows Server 2012 (マイクロソフト社媒体)	W120_M
Windows Server 2012 (マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W120_V
Windows Server 2008 R2 Datacenter + SP1(富士通媒体)	W08R21DF
Windows Server 2008 R2 Enterprise + SP1(富士通媒体)	W08R21EF
Windows Server 2008 R2 Standard + SP1(富士通媒体)	W08R21SF
Windows Server 2008 R2 + SP1 (マイクロソフト社媒体)	W08R21_M
Windows Server 2008 R2 + SP1 (マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W08R21_V
Windows Server 2008 R2 Datacenter(富士通媒体)	W08R20DF
Windows Server 2008 R2 Enterprise(富士通媒体)	W08R20EF
Windows Server 2008 R2 Standard(富士通媒体)	W08R20SF
Windows Server 2008 R2 (マイクロソフト社媒体)	W08R20_M
Windows Server 2008 R2(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W08R20_V
VMware ESXi 5.5 Update 1(富士通媒体)	ESXI55U1
VMware ESXi 5.5(富士通媒体)	ESXI55U0
VMware ESXi 5.1 Update 2(富士通媒体)	ESXI51U2
VMware ESXi 5.1 Update 1(富士通媒体)	ESXI51U1

## 5.2 機器の登録

ISMで機器を管理するためには、最初に対象機器をISMに登録する必要があります。機器登録には以下に示す2種類の方法があります。

- ・ Excelファイル上で機器のデータを入力して、Facility Manager ([Facility Browser]画面)から読み込ませる。
- Profile Managerで機器検出を行って登録を行う。

原則としてProfile Managerがサポートしている機器はProfile Managerから登録し、それ以外の機器はFacility Managerから登録します。



Profile Managerで機器を登録すると、Facility Managerにも同一機器が登録されます。

Facility Managerで機器を登録した場合は、Profile Managerには登録されません。プロファイル管理機能を使用する際はProfile Manager からも登録する必要があります。

.....

機器登録の作業の流れを以下の図に示します。

	凡例	ISM で行う操作	ISM 以外で操作			
最初にラックを登録	Microsoft Excelが動作する環境で登録データ作成ツールを使用してセンター情報 とラックを登録し、facility_list.csvファイルを出力する。					
	Facility Browser画面でfacility_list,csvファイルをイン	ポートする。				
$\neg$	5					
Profile Managerで機器を登録						
<ul> <li>複数の機器を一度に登録可能。</li> <li>サーバブレードを登録する際は、事前または同時にMMBの登録が必要。</li> <li>ブレードシャーシに搭載されているコネクションブレードは Profile Managerには登録しないが、 Profile Manager画面からFacility Managerへ登録可能。</li> </ul>						
	SetupメニューのDHCP設定でスコーブの設定を行う	(自動検出の場合	≙).			
	登録対象機器で固定IPアドレスの設定を行う(手動検出	出の場合)。				
	Profile Managerで機器を検出する。					
	Profile Managerでラック上の搭載位置を指定して、[	ノード登録]をす	行する。			
Facility Manager で機器を登録	登録対象機器にアクセスして、登録に必要な情報を確認 ・モデル名、シリアル番号など	ಔする.				
<ul> <li>複数の機器を一度に</li> <li>登録可能。</li> <li>機器によっては</li> <li>SVOMへ登録</li> </ul>	1の機器を一度に 阿能。 Microsoft Excelが動作する環境で登録データ作成ツールを使用して機器 によっては facility_list,csvファイルとserver_list,csvを出力する。 OMへ登録					
できない。	Facility Browser画面でfacility_list.csvファイルのイン	ポートする。				
	SVOMのサーバリスト画面でserver_list.csvをインポ	ートする。				
機器ごとの設定	Facility Managerのラック画面から監視対象機器のログ ード、SNMP コミュニティ名などを設定する。	ブインアカウント	- /パスワ			
	監視対象機器のSNMPトラップ送信先を管理サーバに	設定する。				
SVFABへスイッチを登録(メンテナンス支援機能を使用する場合)						
	SVFABに管理対象のスイッチを登録する。					
登録完了 - 機器登録後も、随時 追加登録が可能。	登録が完了したことを以下に従って確認する。 - Facility Managerに機器が登録され、ラックビュール - Profile Managerに機器が登録され、ノードリストの 管理中タブ内に表示される。 - SVOMのサーバリストに機器が登録される。	こ表示される。 )管理可能タブが	<b>a</b> または			

ISMの一部機能はSVOMのサーバリストへの機器登録情報を利用して動作するため、サーバリストへの登録も必要です。 上記の操作によってサーバリストにも機器が登録されます。登録内容の編集や不要な登録の削除が必要な場合は、SVOMの画面から行ってください。

登録方法	対象機器				
	ブレードサーバ関連 (PRIMERGY)	ブレードサーバ以外の サーバ	スイッチ類	その他	
Profile Manager	<ul> <li>サーバブレード</li> <li>ブレードシャーシ (MMB)</li> <li>コネクションブレード (LAN/FCスイッチブ レード)</li> </ul>	<ul> <li>PRIMERGY ラック サーバ/クラスタサー バ</li> <li>PRIMEQUEST(*1)</li> </ul>	_	ETERNUS DXシリーズ (*1)	
Facility Manager (Facility Browser)	LANスイッチブレード (Fabric)	<ul> <li>上欄以外の PRIMERGYサーバ PRIMEQUESTサー バ</li> <li>・他社サーバ</li> </ul>	・ LANスイッチ ・ FCスイッチ など	<ul> <li>上欄以外の ETERNUS DXシ リーズ</li> <li>ラック</li> <li>ファシリティ機器</li> </ul>	

登録機器別の登録方法について、詳細を以下の表に示します。

\*1: Profile Managerがサポートするモデルのみ

## 関 ポイント

- ・ サポート機器の最新情報についてはWebを参照してください。
- ・ ETERNUS DXシリーズをProfile Managerから登録する際、増設DEの検出/登録は行われません。増設DEを個々に登録する場合はFacility Managerから追加してください。

. . . . . . . . . . . . . . . . . .

- SVOMのサーバリストへのサーバ登録では、BMCとしてiRMCのIPアドレスで登録されます。
   ServerView Agentをインストール後にサーバとしてSVOMに登録する際は、サーバリストから削除してください。
- ・ 監視対象機器のSNMPトラップ送信先を管理サーバに設定する手順については、監視対象機器のマニュアルを参照してください。

#### プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定

各機器の搭載先のラック名やラック内での高さ情報は、主にファシリティ管理で使用されます。ラックの状態をグラフィカルに表示した GUIから各種操作を実行できるようになります。詳しくは、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

プロファイル管理機能では、ノードリスト(搭載位置順)のツリー構成に反映されます。搭載位置情報を正しく登録することで、特定ラック内の機器だけを簡単に一覧表示できます。

## 関 ポイント

- 登録時は位置未定で登録しておき、あとから位置を指定できます。位置が指定されるまでは、ノードリスト(搭載位置順)のツリー内では、「位置不明ノード」の配下に機器が表示されます。
- ・ 登録先のラックは、[Profile Manager]画面で新規作成ができません。事前にファシリティ管理で定義してください。
- ・ サーバブレードの場合、位置を指定できません。搭載先のブレードシャーシの位置とサーバブレードのスロット位置に従って自動 的に確定します。

プロファイル管理およびファシリティ管理の機器登録の流れを以下の図に示します。
プロファイル管理とファシリティ管理の位置情報は連動しており、操作順序によって位置が確定するタイミングが異なります。図中の「推奨」で示した手順を推奨します。

詳しくは、「5.2.2.2 機器登録」を参照してください。



### 登録データ設定ツールの起動と画面説明

登録データ作成ツールは、Excel形式のファイルです。ファイルを編集して、構成情報を新規に作成したり、過去に作成した構成情報 を読み込んで修正したりします。



- ・登録データ作成ツールでは、csvファイルを出力し、出力したファイルから機器の情報を登録します。 本ツールのご使用には、Microsoft ExcelがインストールされているPCが必要です。
- ・ 作成した登録データは、システム管理者が必ず保管してください。
- 1. 登録データ作成ツールを開きます。

. . . . . . . . . . . . . . .

「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に登録データ作成ツールが格納されています。格納場所詳細は、DVD内のindexを参照してください。

Microsoft ExcelがインストールされているPCの任意のフォルダーに、登録データ作成ツールをコピーします。

コピーしたファイルをMicrosoft Excelで開くと、ボタンと構成情報一覧表が表示されます。

	(1)	ServerView 構成情報 ISM構成情	・Infrastructure ンプレート 報読み込み	e Manager ISM構成情報	(2 服保存	,	<u>u</u> ž		(6 センター	) 情報編	<u>課</u>	(t)	(8)		
→括変更 Y	¥	<u>(</u> 挿入 (3)	(4 (4	写 l) (5	除 i) <b>?</b>	?	Bort /	i.l.		FFEDAME: F存成編: Rack		(7) (9)		?	
Select	No	FacilityName	ParentName	NetAddress	Type	Sensor	SlotNo Co	ommunity	PollInterval	No	AreaNo	Units	Notes	ID	Model
Y	1	BX900S2	1 dront danie	192.168.181.100	3	0	0 pt	ublic	60	1	16	10	BX900S2	1	PRIMERGY BX900 S2
	2	-	BX900S2		-	55	0		60						
Y	3	BX920S3-1	BX900S2	192.168.181.101	1	50	1		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
	4	-	BX920S3-1			51	1		60						
	5	-	BX920S3-1			52	1		60						
(10)															

No.	項目	説明
(1)	[ISM構成情報 読み込み] ボタン	過去に作成した構成情報を読み込みます。
(2)	[ISM構成情報保存] ボタン	作成した構成情報を出力します。
		出力先:登録データ作成ツールの格納先フォルダー 出力ファイル:facility_list.csv、server_list.csv
(3)	[挿入]ボタン	行を挿入します。
		挿入する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。
(4)	[複写]ボタン	行を複写します。
		複写する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。 クリックすると、1つ上に複写した行が追加されます。
(5)	[削除]ボタン	行を削除します。
		削除する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。
(6)	[センター情報編集] ボタン	[センター情報編集] 画面を表示します。
		表示される項目については「表5.1 [センター情報編集] 画面 項目説明」参照。
(7)	[ラック情報編集] ボタン	[ラック情報編集] 画面を表示します。
		表示される項目については「表5.2 [ラック情報編集] 画面 項目説明」参照。
(8)	[センター、ラック情報保存] ボタン	作成した構成情報のうち、センター情報およびラック情報のみを出力します。
		出力先:登録データ作成ツールの格納先フォルダー 出力ファイル:facility_list.csv
(9)	[機器情報編集]ボタン	[機器情報編集]画面を表示します。 表示される項目については「表5.3 [機器情報編集]画面項目説明」参照。
(10)	構成情報一覧	機器の構成情報一覧です。
		情報の編集のほか、一覧から構成情報を出力するときの対象を選択できます。
		[Output Select] 列で「Y」と指定された行が構成情報として出力されます。

# 5.2.1 センター情報とラックの登録

Microsoft Excelが動作する環境で登録データ作成ツールを使用してセンター情報とラックを登録し、facility\_list.csvファイルを出力します。その後、[Facility Browser]画面でfacility\_list.csvファイルをインポートします。

- 登録データ作成ツールを開きます。
   「登録データ設定ツールの起動と画面説明」を参照してください。
- 2. [センター情報編集] ボタンをクリックし、センター情報を登録します。

[センター情報編集] 画面の各項目を説明します。

表中の [変更] 欄の見方は以下のとおりです。

- 「可」:初期設定値から変更可。
- 「不可」:初期設定値から変更不可。
- 「禁止」:初期設定値から変更禁止。誤って編集しないよう注意してください。

項目	変更	説明	初期値
ID	不可	IDが表示されます。	1
名称	可	センター名称が表示されます。	テンプレートに設定されている値
ベンダID	不可	ベンダーIDが表示されます。	1

表5.1 [センター情報編集] 画面 項目説明

項目	変更	説明	初期値
設置場所	設置場所 可 センター設置場所を指定します。		空白
ラック列	不可	ラック列が表示されます。	1
ラック数 可 ラック数が表示されます。		ラック数が表示されます。	
アプリURL 禁止 :		コンテナコンテキストメニューより起動するWebアプリケー ションURLが表示されます。	空白
型名	禁止	型名が表示されます。	空白
設置年月日	म	設置年月日を指定します。	
ローカルノート	म]	コメントを指定します	
[登録]ボタン -		指定した項目の値を登録します。 登録せずに終了するためには、画面右上の[×]ボタン をクリックしてください。	

3. [ラック情報編集] ボタンをクリックし、ラックを登録します。

[ラック情報編集] 画面の各項目を説明します。

表中の[変更]欄の見方は以下のとおりです。

- 「可」:初期設定値から変更可。
- 「不可」:初期設定値から変更不可。
- 「禁止」:初期設定値から変更禁止。誤って編集しないよう注意が必要。

### 表5.2 [ラック情報編集] 画面 項目説明

項目	説明	初期値
ID	IDが表示されます。	
ラック数	ラック数が表示されます。	
ラック番号	ラック番号が表示されます。	1
ユニット数	ラックのユニット数が表示されます。	
ラック名	ラック名が表示されます。	テンプレートに設定されている値
ベンダー	ベンダー名が表示されます。	Fujitsu
型名	型名が表示されます。	
設置年月日	ラック設置年月日を指定します。	
ローカルノート	コメントを指定します。	
[登録] ボタン	指定した項目の値を登録します。 登録せずに終了するためには、画面右上の[×]ボタンをクリックし てください。	

4. [機器情報編集]ボタンをクリックし、機器を登録します。

### 表5.3 [機器情報編集]画面 項目説明

項目	説明	初期値
FacilityType	登録する機器のタイプを選択します。	
ParentName	登録機器の親となる機器を選択します。	
	FacilityTypeとして以下を選択した場合のみ選択可能となります。	
	iRMC, StorageBlade, Storage, FB-Switch, CB-Switch(Fabric), CB-Switch(LAN), CB-Switch(FC), CB-Switch(Other)	
Chassis	コンバージドファブリックスイッチブレードを搭載するシャーシを選択しま す。	

項目	説明	初期値
	FacilityTypeとしてCB-Switch(Fabric)を選択し、かつParentNameとしてコン バージドファブリックスイッチを選択した場合のみ選択する必要があります。	
FacilityName	登録する機器のFacilityNameを入力します。	
Port/SlotNo	スロット番号を選択します。 親となる機器がPRIMERGY BXシリーズ、PRIMERGY CXシリーズの場合のみ選択する必要があります。	
RackNo	搭載するラック番号を選択します。	1
RackAreaN	搭載するラックの位置を選択します。	
RackNo Units	使用するU数を選択します。	
Model	モデル名称(例: PRIMERGY RX200 S8など)を入力します。	
VendorID	ベンダーIDを選択します。	
System	(任意項目)システム名称を入力します。	
ProductNo	(任意項目)型名を入力します。	
S/N	(任意項目)出荷番号を入力します。	
Date	搭載日付を選択します。	ツール起動した年月日
NetAddress	IPアドレスを入力します。	
Community	(任意項目)SNMP コミュニティ名を入力します。	
Polling	ポーリング間隔(秒)を入力します。 最小値は60となります。	60
Application	(任意項目)機器WebGUIのURLを入力します。	
Notes	(任意項目)任意の文字列を入力します。	
[登録]ボタン	指定した項目の値を登録します。 登録せずに終了するには画面右上の[x]ボタンをクリックしてください。	

- [センター、ラック情報保存]ボタンをクリックし、登録データを出力します。
   構成情報の編集後、ISMに登録するためのファイルを出力します。
   ISM用(ISM構成情報)のファイル名は、"facility\_list.csv"です。
- 6. [ISM構成情報の保存先]ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存]ボタンをクリックします。
- 7. [サーバリストの保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンをクリック します。
- 8. 出力されたファイルを確認します。

出力されたISM登録データ(facility\_list.csv)を使用して、ISMにデータを登録します。

9. ISMを起動し、[Facility Browser] 画面を表示します。

[Facility Browser] 画面については、「4.3 [Facility Browser] 画面」を参照してください。

- 10. [ファイルを開く] ボタンをクリックし、「facility\_list.csv」を選択します。
- 11. [整合性確認] ボタンをクリックします。

選択したファイルに対して、整合性が確認されます。

異常が検出されるとメッセージが表示されます。 整合性が確認されると[登録]ボタンが使用できるようになります。



異常が表示された場合は、内容に従って登録データ作成ツールのデータを修正する必要があります。修正後、登録データを 出力し直してから、再度登録してください。

12. [登録] ボタンをクリックします。

# 関 ポイント

- 各機器に設定された情報に応じて、ISMでの設定が必要な項目があります。
- ・ ISMでは各機器の情報を取得する際に、初期状態ではユーザ名/パスワードに「admin」/「admin」を使用しています。各機器の ユーザ名/パスワードが初期値から変更されている場合は、ISMにおいても機器ごとにユーザ名/パスワードを変更する必要が あります。

ISMへのデータ登録完了後、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [アカウント] と[パスワード] を設定してください。

CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレスをISMに設定する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの[プロパティ]タブ - [MAC アドレス]を設定してください。

- ・ FirstSightを使用する場合、以下の情報が設定されている必要があります。
  - PRIMERGY BXシリーズ(シャーシ)の場合
     機器プロパティの [プロパティ] タブ [モデル名]、管理ネットワークの [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニティ名]
  - 上記以外の場合
     機器プロパティの [プロパティ] タブ [モデル名]、[IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニティ名]、および、[管理OS]
     タブ [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]

機器プロパティは、[Facility Manager] 画面の [一覧] タブで表示される [ラック] 画面で設定します。 詳しくは、「表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目」を参照してください。

•••••

## 5.2.2 Profile Managerでの機器登録

### 5.2.2.1 機器検出

ここでは、新規に接続された機器類を検出し、画面に表示する手順を説明します。

対象機器がPRIMERGYサーバ本体の場合は、自動検出または手動検出の2種類の方法を利用できます。 その他の機器は手動検出を利用できます。

• 自動検出

サーバのみ利用可能な機能です。サーバをネットワークおよび電源に接続した際、BMC(iRMC)のIPアドレスがDHCPを使用して 割り当てられたことを本ソフトウェアが自動的に認識して機器を検出します。

• 手動検出

対象となる機器が固定IPアドレスの場合、画面上でIPアドレスを入力して機器を見つける方法です。対象機器には事前に固定IP アドレスを設定しておきます。 機器が検出されると、モデル名やシリアル番号などの機器情報を参照できます。目的の機器が正しく検出されたことを確認し、続けて登録処理を行います。

# 関 ポイント

- ・ 自動検出はISMと同じOS上でWindows標準のDHCPサーバサービスが動作している場合のみ利用可能です。その他の場合は手動検出を利用してください。
- ・ 自動検出を利用する際は、事前に本ソフトウェア上のDHCP設定画面で必要な設定をしてください。

- ・ ブレードシャーシ(MMB)またはストレージETERNUS DXシリーズを検出するときは、事前に各機器を直接操作して適切なIPアドレスとSNMPコミュニティを設定してください。
- ・ブレードシャーシのSNMPコミュニティは機器登録後も情報の取得に利用しますので、検出後は変更しないでください。
- ・ サーバの自動検出および手動検出にはデフォルトのiRMCアカウント(admin)が使用されます。アカウントまたはパスワードがデフォルト設定から変更されている場合は検出できません。
- ストレージETERNUS DXシリーズの検出時には、デフォルトのログインアカウント(root)が使用されます。アカウントが変更されている場合、検出できません。
- ブレードシャーシに搭載されているコネクションブレード(スイッチブレードなど)を検出し、Facility Managerへ登録することもできます。コネクションブレードはProfile Managerへの登録は行わないため、ほかの機器とは操作手順が異なります。詳細は「コネクションブレードの検出と登録」を参照してください。

#### サーバの自動検出

サーバの工場出荷時設定では、iRMCのIPアドレスは「DHCP」に設定されています。この状態でサーバをDHCPサーバが存在するネットワークに接続すると、新しいIPアドレスがDHCPサーバから割り当てられ、この際にサーバは自動的に検出されます。

iRMCのIPアドレスが固定IPアドレスの場合、DHCP設定に戻して自動検出するか、固定IPアドレスのまま手動検出します。

サーバを自動検出する手順は次のとおりです。

- 1. サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。
- 2. [ノードリスト]画面を[検出]タブに切り替え、[最新の状態に更新]ボタンをクリックします。

画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

画面上にサーバが表示されます。

		状態	機種名	權器名 / (版)	提問名 (登録(後))	BEP	位置 登録	ラック名	Unit 位置	
$\overline{\mathbf{v}}$	ø		PRIMERGY EX920 S4	SV1334MY00087	SV1384MY00087	192.168.1.61	指定	Rack=1	10-5	1

## 🕑 ポイント

iRMCのIPアドレスがDHCPサービスを使用して割り当てられた時点で、サーバが検出されます。検出されない場合は1分ほど 待ってから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

3. [機種名] 欄で目的のサーバが検出されていることを確認します。

#### サーバの手動検出

iRMCのIPアドレスを事前に固定IPアドレスに設定した状態で運用を開始する場合は、手動検出を利用します。

また、ISMと同一OS上に動作していないDHCPサーバによってIPアドレスが割り当てられているサーバを検出する場合も手動検出を利用します。

サーバを手動検出する手順は次のとおりです。

- 1. 事前にBIOS セットアップユーティリティなどでiRMCのIPアドレスを設定します。
- 2. サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。
- 3. [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。 画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

[手動検出]ダイアログボックスが表示されます。

手動検出	x
手動検出	
手動検出IPアドレス範囲:	
SNMP_%1_7r%:	
検出実行   キャンセ	L

4. サーバのIPアドレスを指定するか、目的のIPアドレスを含む範囲を指定したあと、[検出実行] ボタンをクリックします。 サーバだけを検索する場合、SNMPは利用しないため、SNMPコミュニティ名の指定は不要です。

## 🕑 ポイント

範囲指定する場合、1つのサブネット内の範囲で指定します。指定可能なIPアドレスの範囲は最大で256個となります。

- 5.「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
- 6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

画面上に検出されたサーバが表示されます。

	状態	根種名	標藝名 / (版)	4問名 (査録後)	BEP	位置 登録	ラック名	Unit 位置
ø		PRIMERGY EX920 S4	SV1334MY00087	SV1384MY00087	192.168.1.61	指定	Rack-1	10-5

# 関 ポイント

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待ってから、再度[最新の状態に更新]ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

### ブレードシャーシ(MMB)の手動検出

. . . . . . . . . . . . . . . . . . . .

ブレードシャーシに搭載されたマネジメントブレード(MMB)を検出します。MMBのIPアドレスは工場出荷時に192.168.1.10(固定)に 設定されています。接続されるネットワーク環境に合わせて適切な固定IPアドレスに変更してください。また、検出時にはSNMPを利用 した情報収集も行います。MIB情報の読み取りができるようにMMB側のコミュニティ名の設定と読み取り権限の設定も必要となります。

ブレードシャーシ登録後に搭載されたコネクションブレード(LANスイッチブレードなど)の検出とFacility Managerへの登録も可能です。手順については、「コネクションブレードの検出と登録」を参照してください。

# G 注意

- ・ブレードシャーシとMMBは同一機器として扱われます。
- ・ SNMPコミュニティは、機器登録後も情報の取得に利用するため、検出後は変更しないでください。
- .....

ブレードシャーシを手動検出する手順は次のとおりです。

- 1. シャーシの電源をオンにします。
- 2. MMBのIPアドレスおよびSNMP設定を行います。

- [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
   画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
   [手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. MMBのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して [検出実行] ボタンをクリックします。
- 5.「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
- しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
   画面上に検出されたシャーシが表示されます。

# 関 ポイント

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待ってから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

### コネクションブレードの検出と登録

ブレードシャーシ内に搭載されているコネクションブレード類を検出して、Facility Manager(ファシリティ管理機能)に登録できます。プロファイル管理機能ではコネクションブレード単体では扱わないため、登録先はFacility Managerのみとなります。

本機能は、すでにプロファイル管理機能に登録済みのブレードシャーシ(MMB)のみに実行できます。事前に「ブレードシャーシ(MMB) の手動検出」および「5.2.2.2 機器登録」を参照して登録を完了させておいてください。

コネクションブレードの登録手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面からシャーシ(MMB)のプロパティ画面を開きます。 画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」、「5.5.2 機器情報表示」を参照してください。
- プロパティ画面から[コネクションブレード表示]ボタンをクリックします。
   新しい画面が開き、コネクションブレードの一覧が表示されます。
- Facility Managerへ登録する機器をリストから選択して、[未登録機器登録] ボタンをクリックします。 複数の機器を登録する場合も、1台ずつ登録します。
   登録のためのダイアログ画面が表示されます。
- 4. 必要な項目を設定し、[登録] ボタンをクリックします。
- 5. 複数の機器を登録する場合は、手順3から手順4を繰り返します。
- 6. [閉じる] ボタンをクリックして一覧画面を閉じます。

#### CX400M1シャーシの手動検出

CX400M1シャーシは、シャーシ内に搭載されているサーバブレードが検出された時点で自動的に検出されて[ノードリスト]画面に表示されます。サーバブレードを自動検出または手動検出で検出してください。

#### ストレージETERNUS DXシリーズの手動検出

ETERNUS DXシリーズの検出にはSNMPを利用します。検出の前にETERNUS DXシリーズに適切な固定IPアドレスを設定し、SNMP コミュニティ名と読み取り権限を設定してください。

# 🌀 注意

ETERNUS DXシリーズに対しては、出荷時に設定されているログインアカウント(root)とTelnetでの通信を情報取得と制御に利用します。 これらの設定を変更する場合は、Profile Managerを使用したETERNUS DXシリーズの操作がすべて完了したあとに変更してください。

ETERNUS DXシリーズを手動検出する手順は次のとおりです。

- 1. ETERNUS DXシリーズの電源をオンにします。
- 2. IPアドレスおよびSNMP設定を行います。
- [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。 画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
   [手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. ETERNUS DXシリーズのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して[検出実行] ボタンを クリックします。
- 5.「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
- しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
   画面上に検出されたETERNUS DXシリーズが表示されます。

# 関 ポイント

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待ってから、 再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

## 5.2.2.2 機器登録

プロファイル管理を利用するときは、最初に機器を登録しておきます。このとき、各機器を識別するために、機器名を設定します。また、 自動検出した機器には固定IPアドレスに変更する処理も行われます。

# 関 ポイント

- ・機器名はほかの機器名と重ならないよう、1台ごと異なる名前にしてください。原則として登録時に付けた名前は変更できません。
- プロファイル管理に登録された機器がファシリティ管理に未登録であった場合、ファシリティ管理にも機器情報が登録されます。ただし、「プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定」の位置指定が行われた場合に限ります。

- ・ サーバブレードを登録する場合は、事前にMMBを登録するか、サーバブレードとMMBを同時に登録してください。
- ・ 登録完了時に、自動的にServerView Operations Managerにも機器名が登録されます。

### 登録時に指定する項目を示します。

機器名とIPアドレスは、登録時の必須入力項目です。そのほかの項目は、登録後に任意のタイミングで指定できます。

項目	指定後の変更	指定方法、入力可能文字など	備考
機器名(必須)	不可	文字列を入力 半角英数字およびハイフン(-)、ア ンダースコア(_) 64文字以内	機器を識別するための名称で、ISM内でほかの 機器と重複しない名称を付ける。 ServerView Operations Managerにも本名称が登 録される。 検出時点で自動的に機器名が生成されるが、登 録前に任意の名称に変更可能。
IPアドレス(必須)	不可	自動検出時のみ一覧から選択また は直接入力	サーバを自動検出した場合のみ指定する。 登録時にiRMC LANを固定IPに変更する。検出 時点で自動的にIPアドレスが割り当てられるが、 登録前であれば画面上からIPアドレスを変更す ることも可能。 指定可能なIPアドレスは、DHCP設定画面で固 定IP範囲として設定した範囲になる。
搭載先ラック名	н	別途指定済みのラック名一覧から 選択	「プロファイル管理におけるラック搭載位置の指 定」を参照。

項目	指定後の変更	指定方法、入力可能文字など	備考
搭載先ラック内位置(Unit 位置)	н	グラフィカル画面上で指定	「プロファイル管理におけるラック搭載位置の指 定」を参照。
占有ユニット数	न्	プルダウンから選択	対象機器に応じてユニット数が自動的に入力さ れる。変更が必要な場合には、プルダウンから適 切な値に変更する。
ポーリング間隔	न	60~3600の数値	ファシリティ管理で使用される。
プロダクト名	न	半角英数字およびハイフン(-)、ア ンダースコア(_) 20文字以内	ファシリティ管理で使用される。
SNMPコミュニティ	न	半角英数字およびハイフン(-)、ア ンダースコア(_) 64文字以内	ファシリティ管理で使用される
アプリケーションURL	न	128文字以内	ファシリティ管理で使用される。
ローカルノート	न	文字列を入力 全角、半角英数字およびハイフン (-)、アンダースコア(_) 64文字以内	メモ用途として自由に書き込める領域。機器の構成や購入日などを自由に書き込む。書き込んだ 内容は、プロパティ画面で参照/変更可能。ファ シリティ管理とも共有される。

ここでは、検出された機器の登録および解除の手順を説明します。

# 関 ポイント

・登録可能な機器の台数はライセンスに応じて制限されます。[検出]タブに切り替えて画面下部の[登録数表示]ボタンをクリックすると、現在の機器登録台数およびライセンスの台数が表示されます。

ライセンスの詳細は、「1.5ライセンス」を参照してください。

 PRIMERGYサーバを登録すると、iRMCに「SVISMadmin」という名前のアカウントがID番号16に作成されます。 このアカウントはISMが管理に使用するため削除しないでください。サーバの登録を解除するとアカウントは削除されます。 HWプロファイル内で任意のアカウントを作成することも可能です。この場合はアカウントがID番号15に作成され、作成したアカウントはHWプロファイルの取り外しや変更で削除されます。 また、HWプロファイルでiRMCのデフォルトアカウント(admin)を無効化することもできます。この場合、アカウントの削除ではないため、同一名称(admin)のアカウントを別途作成することはできません。

検出した機器をプロファイル管理で操作するためには、機器の登録が必要です。

機器を登録する手順は次のとおりです。

- 1. [Profile Manager]の[ノードリスト]画面右側の[検出]タブをクリックし、登録する機器が正しく検出されていることを確認します。
- 2. 機器名欄に青色で表示されている機器名をクリックします。

機器プロパティ画面が表示されます。



右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ]を実行すると異なる画面が表示されます。必ず機器名をクリック してください。

. . . . . . . . . . . . . . .

#1F5#CCF

3. 機器プロパティ画面下部の [機器名(任意指定)] および [固定IP] を変更し、[保存] ボタンをクリックします。

# 🕑 ポイント

- この時点では入力内容は確定していません。手順7の[ノード登録]ボタンのクリック時に確定します。

. . . . . . . . .

- IPアドレスはプルダウンリストからの選択、またはキー入力で直接指定が可能です。
- 4. 機器の搭載先ラックやラック内位置を指定する場合は、位置登録欄の[指定]ボタンをクリックします。

[未登録機器登録]ダイアログボックスが表示されます。

	未登録稿器登録		x
448F6: jā	VAP001001	595%: CRB,Alpha	-
占有ユニット称: 税器種形K税器タイプ>: モデル名: システム名: プロダウト名: シリアル番号(S:/fu): DYPドレス: SNMFJELニアィ名:	II _           If −/5           IF           IF	37 1 A 15 4 21 4 2 4 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1	
オージン・Tarka: アプリケーションURL(Web VKURLD): ローカルノード		2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2/-

5. [ラック名] および [占有ユニット数]を指定し、搭載位置をラックグラフィック上で指定したあと、[保存] ボタンをクリックします。



- .....
- 6. 複数の機器を同時に登録する場合は、手順1から手順5を繰り返します。
- 7. [ノードリスト]画面の機器一覧表で登録する機器のチェックボックスだけをオンにし、[ノード登録] ボタンをクリックします。 登録処理を開始します。
- 8. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

処理が完了するのを待ちます。

## 関 ポイント

登録が正常に終了すると、機器状態が管理可能になります。[検出] タブから登録した機器の表示が消え、[管理可能] タブに表 示されるようになります。

## 5.2.2.3 登録解除

装置を撤去するなど、その後のプロファイル管理機能を使用しない場合には、登録状態を解除できます。



- ・登録を解除した時点で操作履歴などの情報は失われます。登録解除した機器を再登録して利用できますが、履歴は引き継がれません。
- Facility Managerに登録された情報やSVOMの登録は、Profile Managerの登録を解除しても残ります。必要に応じて削除してくだ さい。例えば、ノード名やラック内の登録位置を変更して再登録する場合などは、ファシリティ管理においても一度機器を削除して ください。操作方法の詳細は、「4.2 [Facility Manager]画面」を参照してください。

機器の登録を解除する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面の [管理可能] タブをクリックします。

画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

2. [ノードリスト]画面の機器一覧表で、登録解除する機器の状態が「管理可能状態」であることを確認します。

## 🕑 ポイント

機器状態が「管理中状態」の場合は、事前にプロファイルの解除を行って「管理可能状態」にします。

- 3. [ノードリスト]画面の機器一覧表で登録解除する機器のチェックボックスをオンにし、[ノード登録解除]ボタンをクリックします。 登録解除処理を開始します。
- 4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

処理が完了するのを待ちます。



対象がサーバで、登録前のiRMCのIPアドレス設定がDHCPだった場合はDHCP設定に戻るため、すぐに自動検出されて [検 出] タブに表示されます。固定IPアドレスだった場合、IPアドレスは変化しません。機器は手動検出を行うまで検出されません。

## 5.2.3 Facility Managerでの機器登録

- 登録データ作成ツールを開きます。
   「登録データ設定ツールの起動と画面説明」を参照してください。
- 2. ファシリティ機器を登録します。

ファシリティ機器のデータは、テンプレートとして最大構成時の初期値が事前に入力されています。

導入する構成に合わせて各機器のNetAddress (IPアドレス)など、データを修正します。

- POD (Programmable Operation Display)の登録

分電盤、空調ユニットの操作モニタです。

[FacilityName] が「POD」の行の [Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo]、[Application] など必要な情報を入力します。

[FacilityName] は修正可能ですが、子情報として、分電盤と空調ユニットがあり、それらの情報の [ParentName] もあわせて 修正する必要があります。

- 分電盤の登録

分電盤には、サーバA系、サーバB系、空調A系、空調B系の4つの電源系統があります。

[FacilityName] が「PowerBoard」の行に[Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo] など必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「PowerBoard」の名称ですが、任意の名称に変更できます。その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

- 空調ユニットの登録

空調ユニットは、最大4台設置でき、最小構成2台(冗長構成)からの運用が可能です。テンプレートでは4台構成のため、導入構成に従い不要な情報を削除します。

a. [FacilityName] が「Cooling1」~「Cooling4」の行に空調ユニットの[Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo]など、 必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「Cooling1」~「Cooling4」の名称となっていますが、任意の名称に変更できます。 その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

b. 空調ユニットが4台設置されていない場合、不要な情報を削除します。

例えば、空調ユニット4が設置されていない場合、以下のように [FacilityName] が「Cooling4」の行と、[ParentName] が「Cooling4」の行の [FacilityName] の列を選択し、[削除] ボタンをクリックします。

1	<b>X</b> ,	1		> -					svfmt	mpl_V1.0.0	udsb -	Microsoft Ex	cel
	774	6 2	A=14 14入	ペーシレイア	708 10	7-	9 1	252	表示 :	SkyPDF	¥-4	BizLingo	
	Molt	×	MS UI Goth B / U	ic •	9 - A' A - A - Z		= :	-   % -   %	·· 学	所り返して全体 さいを結合して	吃表示す 中央 風え	a . 199 - 1	κ,
J	クリップ	R-F (		フォント		4			認識			6	<b>款进</b>
1		(	78	• C	f. Cooling	1							
1	4	AB	С	D	E	F	G	н	1	J	к	L	
•	23456788		ServerView   構成情報テン SVFIM構成領 挿入	Facility Mana パ <u>レート</u> WEI 読み込み   祥	SVFMALS TAF	1888 8/168	¥77		心清 任意	 597	1418/23		
	10 75	No. 55	FacilityName	ParentName Cooling3	NetAddress	Type 82	Sensor 37	PortNoi 3	Community	Polititerval 60	Rack No.	Rack AreaNo	Rack Ne
1	76	66	-	Cooling3		82	38	3		60	. 0	0	
	70	67	-	Cooling?	0.000.0.00	82	39	3		60	0	0	-
I	70	80	Locing	Confinet	1993.24	102				60		0	-
I	80	70	-	Coolings		112	32	4		60		Ó	-
1	81	71	+	Cooling4		82	33	4		60	0	0	
I	82	72	-	Cooling4		82	34	4		60		0	
1	83	78	-	Cooling4		82	35	4		60	. 0	0	
	84	74	*	Cooling4		82	36	4		60	0	0	
1	85	75	-	Cooling4		12	37	4		60	0	0	-
	00	78		Cooling4		12	- 21	4		60		0	-
I	0/	7/	A TO FTT	Processes.	0.00.0.00	1 12	- 279	4	n Alia	60		0	-
	00	18		The same same	10.333.0.39				poenc	60		0	_

c. 以下のダイアログボックスが表示されたら、[No.] が正しいことを確認して [OK] ボタンをクリックします。

「Cooling4」に関するデータが削除されます。

Na68-77の削除を行い	います
	-

- IF(インターフェース)コンバータの登録

IFコンバータは、2台設置されます。1台目で照明、ドア開閉(コールドアイル側、ホットアイル側、外部、機器搬入口)、火災 予兆検知、火災検知の接点状態を検出しTrapを送信します。2台目で電力系統(サーバA系、サーバB系、空調A系、空調 B系)の漏電を検出しTrapを送信します。

[FacilityName] が「Ifconverter1」および「Ifconverter2」の行の [Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo]、[Application] な ど必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「Ifconverter1」、「Ifconverter2」の名称となっていますが、任意の名称に変更できます。 その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

3. ICT機器のデータを入力します。

機器の登録方法については、「5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細」の該当する箇所を確認してください。

4. [ISM構成情報保存] ボタンをクリックし、登録データを出力します。



ファイル名は、初期状態では以下のとおりです。出力時に変更できます。

- ISM用(ISM構成情報):facility\_list.csv
- SVOM用(サーバリスト):server\_list.csv

以下に、登録データの出力方法を説明します。

- a. [ISM構成情報の保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンを クリックします。
- b. [サーバリストの保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンをク リックします。
- c. 出力されたファイルを確認します。
- 5. 登録データ作成ツールで出力したISM登録データ(facility\_list.csv)を、ISMの [Facility Browser] 画面からインポートします。

[Facility Browser] 画面については、「4.3 [Facility Browser] 画面」を参照してください。

- a. ISMを起動し、[Facility Browser] 画面を表示します。
- b. [ファイルを開く] ボタンをクリックし、「facility\_list.csv」を選択します。
- c. [整合性確認] ボタンをクリックします。 選択したファイルに対して、以下の項目の重複確認などが実行されます。

- NetAddress(IPアドレス)
- FacilityName
- ラック搭載位置(U番号)
- ブレードサーバ(BX)はスロット番号、マルチノードサーバはノード番号

異常が検出されるとメッセージが表示されます。

整合性が確認されると[登録]ボタンが使用できるようになります。

# G 注意

異常が表示された場合は、内容に従って登録データ作成ツールのデータを修正する必要があります。修正後、登録デー タを出力し直してから、再度登録してください。

d. [登録] ボタンをクリックします。



各機器に設定された情報に応じて、ISMでの設定が必要な項目があります。

- ISMでは各機器の情報を取得する際に、初期状態ではユーザ名/パスワードに「admin」/「admin」を使用しています。各 機器のユーザ名/パスワードが初期値から変更されている場合は、ISMにおいても機器ごとにユーザ名/パスワードを変更 する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [アカウント] と[パスワード] を設定してください。

CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレスをISMに設定する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [MACアドレス]を設定してください。

- FirstSightを使用する場合、以下の情報が設定されている必要があります。
  - PRIMERGY BXシリーズ(シャーシ)の場合

機器プロパティの [プロパティ] タブ - [モデル名]、管理ネットワークの [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニ ティ名]

- 上記以外の場合

機器プロパティの [プロパティ] タブ - [モデル名]、[IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニティ名]、および[管理 OS] タブ - [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]

機器プロパティは、[Facility Manager] 画面の [一覧] タブで表示される [ラック] 画面で設定します。 詳しくは、「表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目」を参照してください。

6. 登録データ作成ツールで出力したSVOM用登録データ(server\_list.csv)を、SVOMの[サーバリスト] 画面からインポートします。

SVOM用登録データ(server\_list.csv)を使用して、PRIMERGY BXシリーズ、ETERNUS DXシリーズ、コンバージドファブリック スイッチなどの各情報をSVOMへ登録します。

サーバブレードおよびPRIMERGY RXシリーズの情報はプロファイル管理機能を使用してSVOMへの登録が行われます。

[サーバリスト] 画面の詳細は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

- a. SVOMを起動し、[サーバリスト] 画面を表示します。
- b. メニューから [サーバをインポート] を選択します。
- c. [サーバをインポート] 画面で、[参照] ボタンをクリックして「server\_list.csv」を選択します。
- d. [インポート] ボタンをクリックします。

登録処理が実行され、処理が完了すると結果が画面に表示されます。

問題の有無を確認します。

### 5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細

ラックに搭載するIT機器(サーバ、ストレージ、スイッチ)のデータを、事前に決めておいたラックの搭載位置に従って登録します。 [機器情報編集]画面で機器を追加した場合は以降の入力を行う必要はありません。

- サーバの登録
  - サーバの情報は4行を登録します。それぞれの行には、CPU温度、吸気温度、消費電力、識別灯のセンサーを指定します。
  - ラックマウント型サーバの登録
  - ブレードサーバの登録(他社製ブレードサーバは個別対応となります)
  - PRIMERGY CXシリーズの登録(他社製マルチノードサーバは個別対応となります)
  - PRIMEQUEST 2000シリーズの登録
- ストレージの登録
- コンバージドファブリックスイッチの登録
- ・コンバージドファブリックスイッチブレードの登録(ブレードシャーシに搭載)
- スイッチの登録
- ・ UPSの登録
- PDU(インテリジェントタイプ)の登録

#### ラックマウント型サーバの登録

- [挿入] ボタンをクリックします。
   最初に追加される行は親機器となるため、以下の項目を入力します。
   その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:サーバ名称
  - NetAddress:IPアドレス
  - Type:機器種別(1=富士通製 or 10=他社製)
  - Sensor:CPU温度(50)
  - Port/SlotNo:0
  - PollInterval:60
  - RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
  - RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
  - RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
  - VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通 or 0=他社)
  - Model:モデル名称(例:PRIMERGY RX200 S8)
  - System:(任意項目)システム名称
  - S/N:(任意項目)出荷番号
  - ProductNo:(任意項目)型名
  - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application:(任意項目)BMCのWeb GUIのURLを入力

2. 吸気温度を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName]を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1で [FacilityName] に入力した機器名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 3. 消費電力を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)
- 4. LEDを追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:LED(53)

5. 以降、サーバを追加する場合は、手順1~4で作成した4行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックする操作を繰り 返します。このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。

[FacilityName] 、 [ParentName] 、 [NetAddress] 、 [Type] 、 [RackNo] 、 [RackAreaNo] 、 [RackNumberUnits] 、 [VendorID]、 [EquipmentDate]

その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など任意の項目に値を入力している場合、修正します。

#### ブレードサーバの登録



他社製ブレードサーバは個別対応となります。

1. ブレードシャーシを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:シャーシ名称
- NetAddress:MMBのIPアドレス
- Type:機器種別(2=PRIMERGY BX400 or 3=PRIMERGY BX900)
- Sensor:0
- Port/SlotNo:0
- PollInterval:60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通、0=その他)
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY BX900 S2)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名

- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application:(任意項目)MMBのWeb GUIのURLを入力
- 2. シャーシ消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したシャーシ名称を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. LEDを追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したシャーシ名称を指定
- Sensor:LED(53)
- 4. サーバブレードを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

- FacilityName:サーバブレード名称
- ParentName: 手順1の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
- NetAddress:IPアドレス
- Type:機器種別(1)
- Sensor:CPU温度(50)
- Port/SlotNo:ブレードシャーシのスロット番号
- PollInterval:60
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定
- VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通)
- RackNumberUnits:1
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY BX920 S4)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application:(任意項目)BMCのWeb GUIのURLを入力

5. 吸気温度を追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したサーバブレード名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 6. 消費電力を追加します。

手順5で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)

7. LEDを追加します。

手順6で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:LED(53)
- 8. 以降、同一ブレードシャーシ内のサーバブレードを追加する場合は、手順4~7で作成した4行の [FacilityName]を選択して [複写] ボタンをクリックする作業を繰り返します。

このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。

[FacilityName], [ParentName], [NetAddress], [Port/SlotNo], [EquipmentDate]

その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など任意の項目に値を入力している場合、修正します。

9. ストレージブレードを登録する場合、以下の手順で指定します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

- FacilityName:ストレージブレード名称
- ParentName: 手順1の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
- Type:機器種別(16)
- Sensor:0
- PortNo:ブレードシャーシのスロット番号
- RackNumberUnits:2
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY SX980 S2)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- 10. ファブリックスイッチブレードを登録する場合は、以下を参照して操作します。

「コンバージドファブリックスイッチの登録」「コンバージドファブリックスイッチブレードの登録」

🌀 注意

「コンバージドファブリックスイッチの登録」「コンバージドファブリックスイッチブレードの登録」に記載のないコネクションブレード は未対応です。

11. ブレードサーバを追加する場合は、手順1~9を繰り返します。

### PRIMERGY CXシリーズの登録

# 🌀 注意

他社製マルチノードサーバは個別対応となります

1. シャーシを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:シャーシ名称
- Type:機器種別(4)

- Sensor:0
- Port/SlotNo:0
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通)
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY CX400 M1)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- 2. サーバノードを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

- FacilityName:サーバノード名称
- ParentName: 手順1で [FacilityName] で入力したシャーシ名
- NetAddress:IPアドレス
- Type:機器種別(1)
- Sensor:CPU温度(50)
- Port/SlotNo:シャーシのスロット番号
- PollInterval:60
- RackNumberUnits:1
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY CX2550 M1)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application:(任意項目)BMCのWeb GUIのURLを入力
- 3. 吸気温度を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1で [FacilityName] に入力したサーバノード名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 4. 消費電力を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)
- 5. LEDを追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:LED(53)

6. 以降、同一シャーシ内のサーバノードを追加する場合は、手順2~5で作成した4行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタン をクリックする作業を繰り返します。

このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。

[FacilityName], [NetAddress], [Port/SlotNo], [EquipmentDate]

その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など、任意の項目に値を入力している場合、修正します。

7. マルチノードサーバを追加する場合は、手順1~6を繰り返します。

### PRIMEQUEST 2000シリーズの登録

1. シャーシを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:シャーシ名称
- NetAddress:MMBのIPアドレス
- Type:機器種別(5)
- Sensor:0
- Port/SlotNo:0
- PollInterval:60
- Community:SNMPで通信するためのコミュニティ名(例:public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通)
- Model:モデル名称(例:PRIMEQUEST 2800E)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application:(任意項目)MMBのWeb GUIのURLを入力
- 2. シャーシ消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したシャーシ名称を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. LEDを追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、 複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:LED(53)

#### ストレージの登録

ストレージの情報は以下の手順で登録します。

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:ストレージ名称
  - NetAddress:IPアドレス
  - Type:機器種別(18=ETERNUS DX or 26=ETERNUS NR)
  - Sensor:吸気温度(51)またはLED(53)
     LEDは、ETERNUS DX60 S2を登録する場合のみ指定します。
  - Port/SlotNo:0
  - PollInterval:60
  - Community:SNMPで通信するためのコミュニティ名(例:public)
  - RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
  - RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
  - RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
  - VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通 or 0=他社)
  - Model:モデル名称(例:ETERNUS DX100 S3)
  - System:(任意項目)システム名称
  - S/N:(任意項目)出荷番号
  - roductNo:(任意項目)型名
  - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application: (任意項目)ストレージのWeb GUIのURLを入力
- 2. 消費電力を追加します(ETERNUS DXシリーズの場合のみ)。

ETERNUS DX60 S2を登録する場合は、この手順をスキップしてください。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したストレージ名を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. LEDを追加します。

ETERNUS DX60 S2を登録する場合は、この手順をスキップしてください。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:LED(53)
- 4. ストレージを追加する場合は、手順1~3を繰り返します。
- 5. 手順1~3で追加したストレージがドライブエンクロージャーを搭載している場合は、以下の設定を行います。 [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - FacilityName:ストレージ名称(複写元ストレージ名に関連する名称が望ましい)
  - ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したストレージ名を指定
  - Type:機器種別(18)
  - Sensor:0
  - Port/SlotNo:0

- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力

ドライブエンクロージャーを追加する場合は、手順5を繰り返します。

### コンバージドファブリックスイッチの登録

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:コンバージドファブリックスイッチ名称
  - ParentName:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は空白、それ以外の場合はRootドメ インのMasterとなるコンバージドファブリックスイッチ
  - [FacilityName]を指定(Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterとする)
  - NetAddress:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合はファブリック代表仮想IPアドレス、 それ以外の場合は空白を指定
  - Type: 機器種別(20)
  - Sensor: 吸気温度(51)
  - Port/SlotNo: 0
  - PollInterval:60
  - Community:SNMPで通信するためのコミュニティ名(例:public)
  - RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
  - RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
  - RackNumberUnits 使用するU数を指定(1~50)
  - VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通)
  - Model:モデル名称(例: CFX2000R)
  - System:(任意項目)システム名称
  - S/N:(任意項目)出荷番号
  - ProductNo:(任意項目)型名
  - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application:(任意項目)コンバージドファブリックスイッチのWeb GUIのURLを入力
- 2. 消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName:手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ名を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. SwitchIDを追加します。
  - 手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。
  - FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
  - ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ名を指定

- Sensor: SwitchID (57)
- 4. コンバージドファブリックスイッチを追加する場合は、手順1~3を繰り返します。

### コンバージドファブリックスイッチブレードの登録

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:コンバージドファブリックスイッチブレード名称
  - ParentName:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は搭載されるブレードシャーシの [FacilityName]、それ以外の場合はRootドメインのMasterとなるコンバージドファブリックスイッチまたはコンバージドファブリックスイッチブレードの[FacilityName]を指定(Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterとする)
  - NetAddress:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合はファブリック代表仮想IPアドレス、 それ以外の場合は空白を指定
  - Type:機器種別(21)
  - Sensor:消費電力(55)
  - Port/SlotNo:ブレードシャーシの背面のスロット番号を指定(50=背面1段目左側、51=背面1段目右側、52=背面2段目左側、 53=背面2段目右側)
  - PollInterval:60
  - RackNo:ブレードシャーシが搭載されているRack番号を指定(1~20)
  - RackNumberUnits:1
  - VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通)
  - Model:(任意項目)モデル名称
  - System:(任意項目)システム名称
  - S/N:(任意項目)出荷番号
  - ProductNo:(任意項目)型名
  - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application: (任意項目)コンバージドファブリックスイッチブレードのWeb GUIのURLを入力
- 2. SwitchIDを追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName:手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ/コンバージドファブリックスイッチブレー ド名を指定
- Sensor:SwitchID(57)

3.コンバージドファブリックスイッチブレードを追加する場合は、手順1~2を繰り返します。

### スイッチの登録

スイッチの情報は、以下の手順で登録します。

1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:スイッチ名称
- NetAddress:IPアドレス
- Type:機器種別(15=富士通スイッチ or 17=CISCOスイッチ or 19=FCスイッチ)

- Sensor:
  - Type=15の場合、吸気温度(51)を指定、
  - Type=17/19の場合、筐体温度(54)を指定
- Port/SlotNo:0
- PollInterval:60
- Community:SNMPで通信するためのコミュニティ名(例:public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~8)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通スイッチ/FCスイッチ or 9=CISCOスイッチ)
- Model:モデル名称(例:SR-X324T2)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目)スイッチのWeb GUIのURLを入力
- 2. LEDを追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したスイッチ名を指定
- Sensor:LED(53)
- 3. 消費電力を追加します。

Type=15の場合のみ、手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したスイッチ名を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 4. スイッチを追加する場合は、手順1~3を繰り返します。

#### UPSの登録

UPSの情報は、以下の手順で登録します。

Sensor情報はご使用になる機器に応じて存在しない可能性があるため、機器の仕様を確認してください。

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:UPS名称
  - NetAddress:IPアドレス
  - Type:機器種別(31)
  - Sensor:入力電圧(20)
  - Port/SlotNo:0

- PollInterval:60
- Community:SNMPで通信するためのコミュニティ名(例:public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID:ベンダー番号を指定(2=富士電機 or 5=APC)
- Model:モデル名称(例:SMT 1500RMJ)
- System:(任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo:(任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) UPSのWeb GUIのURLを入力
- 2. 入力周波数を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName:「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したUPS名を指定
- Sensor:入力周波数(21)
- 3. 出力負荷率を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName]を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:出力負荷率(22)
- 4. 出力周波数を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:出力周波数(23)
- 5. バッテリ電圧を追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:バッテリ電圧(24)
- 6. バッテリ(周辺)温度を追加します。

手順5で追加した行の [FacilityName] を選択して[複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- Sensor:バッテリ(周辺)温度(25)
- 7. バッテリ残充電容量を追加します。
   手順6で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。
   Sensor: バッテリ残充電容量 (26)
- 8. バックアップ可能時間を追加します。

手順7で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の以下の項目を入力します。 - Sensor:バックアップ可能時間(27)

9. UPSを追加する場合は、手順1~8を繰り返します。

### PDU(インテリジェントタイプ)の登録

PDUの情報は、以下の手順で登録します。

Sensor情報はご使用になる機器に応じて存在しない可能性があるため、機器の仕様を確認してください。

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName:PDU名称
  - NetAddress:IPアドレス
  - Type: 機器種別(30)
  - Sensor:消費電力(4)
  - Port/SlotNo:0
  - PollInterval:60
  - Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
  - RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
  - RackAreaNo:RackのU位置を指定(ラックマウントタイプ:1~50、0UタイプはRackの左上=51、右上=52、左下=53、右下 =54)
  - RackNumberUnits:使用するU数を指定(ラックマウントタイプ:1~2、0Uタイプ:0)
  - VendorID:ベンダー番号を指定(5=APC)
  - Model:モデル名称(例:Switched Rack PDU)
  - System:(任意項目)システム名称
  - S/N:(任意項目)出荷番号
  - ProductNo:型名(例:AP8941)
  - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application: (任意項目) PDUのWeb GUIのURLを入力
- 2. PDUを追加する場合は、手順1を繰り返します。

## 5.2.4 アラームルールの設定

[Facility Manager] 画面で監視対象機器の異常/警告状態を表示させるため、アラームルールを設定します。

- 1. SVOMを起動し、メニューから[イベント] [アラーム設定]を選択します。
- 2. [アラームルールの管理] 画面で [追加] ボタンをクリックします。
- 3. 表示されるダイアログボックスで、[アラームルール名] に「setstatus」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
- 4. [アラームルールの管理] 画面に戻ったら、[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [サーバの割り当て] 画面が表示されたら、[すべてのサーバ]を選択して [>] ボタンをクリックします。
- 6. [選択されたサーバ] 画面に [すべてのサーバ] が表示されることを確認し、[適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
- 7. [アラーム割り当て] [個別のアラーム] 画面が表示されたら、次の操作をします。
  - a. 表示されたアラーム一覧の上で右クリックし、表示されるメニューで [リスト上のすべてのアラームにチェックを入れる] をク リックします。
  - b. [適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
- 8. [アラーム割り当て]-[アラームのタイプ] 画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。
- 9. [アクションの割り当て] 画面が表示されたら、次の操作をします。
  - a. [追加] ボタンをクリックします。
  - b. 表示される画面で [プログラム実行] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

c. 次に表示される画面で、以下を入力または選択し、[適用] ボタン、[OK] ボタンを順にクリックします。

```
[アクション名]:setstatus
[コマンド]:svfm_setstatus.bat "$_IPA" "$_SEV" "$_MIB"
[作業フォルダ]:C:¥Program Files(x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager
[スケジュール]:常に実行
```

- 10. [アクションの割り当て] 画面に戻ったら、[定義されたアクション] ダイアログボックスに「setstatus」が表示されていることを確認し、 [適用] ボタンをクリックします。
- 11. [アラームルールの管理]画面を選択し、作成したアラームルール「setstatus」の[有効] チェックボックスがオンになっていることを 確認します。

オンになっていない場合は、チェックボックスをオンにして [適用] ボタンをクリックします。

# 5.3 ファームウェア版数の確認とアップデート

メンテナンス支援機能を利用して、機器のファームウェア版数を画面に表示することや、ファームウェアのアップデートを行うことができます。

対象がサーバの場合は、Profile Managerを使ってプロファイルを適用することで、ファームウェアのアップデートも可能です。 「5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ」を参照してください。



# 関 ポイント

- ・機器登録については、「5.2機器の登録」を参照してください。
- ・ Facility Managerのラック画面については、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。
- ・ tftp設定ファイルについては、「tftp設定ファイル」を参照してください。
- ・ ログインしたアカウントの役割に応じて利用できる機能が変わります。「Administrator」の役割でログインした場合、すべての機能が 利用できます。それ以外の役割でログインした場合はファームウェア情報表示などの情報参照のみ利用できます。

- 1. メンテナンス支援機能の初期設定を行います。
  - a. [Maintenance]画面の[ファームウェアアップデート一覧] タブをクリックします。 画面については、「4.6.1 [ファームウェアアップデート一覧]画面」を参照してください。
  - b. [更新] ボタンをクリックします。管理対象装置の情報が取得されます。
  - c.「対象リポジトリ」からリポジトリを選択します。
    - 一覧が更新されます。

管理対象装置にストレージを含める場合は、続けて以下の操作をします。

- d. [共通設定] 画面を表示します。
- e. ストレージ装置に対してアカウント情報を入力します。
- f. [保存] ボタンをクリックし、アカウント情報を保存します。
- g. [ファームウェアアップデート一覧] 画面を表示します。
- h. [更新] ボタンをクリックします。

管理対象装置の情報が更新されます。

- 2. 装置のファームウェア版数を確認し、ファームウェアアップデートの対象を特定します。
  - a.「対象リポジトリ」でファームウェアアップデート対象とするリポジトリを選択します。
  - b.「ファームウェア情報一覧」に表示される情報を確認します。

	er	view							ユーザ: Admin	nistrator <u>ログ</u>	<u>P21-</u>	លរំនេ
<i>t-</i> ,	a.	リスト	管理者設	定 サーバデー !	7/201	サーバ監視	アップデート インフラ ネッ	トワーク セ	キュリティ			~117
							インフラ管理					
αę	<b>3</b> 5	インフラ	92 193									
cili	RY.	Manage	Facil	ity Browser   Pr	ofile Manage	r   Setup   Main	atenance		ServerView	Infrastructure	e Manage	r V1.2.
-1	n:	コアアップテー		カスカー発 共通制度	3							
118	hU2											
	-	21-111	#-	1970	8 U	W2494 F	0.1446 7.64-0					
	1	- @	-	4 mm -	- (100) F	7 (214)						
	M	s III (314)	×	(P (214)  P	EFCOTS N	- 12m						
74	62											
	æ	+-3500	0.84	-02.# <b>∓</b>								
	~	a.4655	~ m.s	0000980.04								
_	-											
.0	(87	9228			5	(約1:52円): 👿	late DVD 11.14.02				×	EN
3	(17	9258 	100.40	uche dan-ta	) 20ak	(劇)ボジド): 🔝	are OVD 11.14.02	2-10-74	1074(S75a))	TILLEGALS	×	EN-
3	117	129 795 CR8 R0	1招車	H立置 シャーシ CH4_001222	2091	(数)ボジドリ: <u>しい</u> マジン	ere DVD 1114.02 モデル PRIMEROV EXMO Measurement Blad	77=U7179	現代パージョン	夏新他后一步。	v 514-5	2
3	1	1208 792 CRB_R0	· 招車 ②_ 2	91 <u>2冊</u> シャーシ CH4J001782	2021- - Bisdell1	(数)(ボジド): マジン - CH4J001782	ere EVD 11.14.65 モデル PRIMERGY EX100 Management Blad EX301.53	ファールウェアター - Server Blade	- 現代5/5ジョン - \$25568.14/V.	更新使行一步。 - \$ 28683.18/V	- 5%	2
3	8	9258 795 CR8_R0	2_ 18#	H立置 シャーシ CH4J001782	p 20ph Blade II1	(銀いボジドリ: ) マジン CH4J001702	ene DVD 1114.05 モデル PRIMEROY EX100 Management Blad. EX228 53	77-L/7179 Server Blade FMC	- 39/75/5/5±> - 5.25568.14/V 8.25535.314	夏時代約7一岁3 5 29663 18/V 5 29663 18	- -	2
	8	14278 7772 CR8_R0	· 招奉 (2_ 2	11公置 シャーシ CH4J001782	P 20ph Blade II1 Disclet 15	(数)ボジドリ: 000 マジン CH4,001782	PRIMERCY DIVID 1114.05 CTA PRIMERCY DIVID Management Blad. DIVIDE 53 DIVIDE 53	77-1/7179 - Server Blade FMC BDS Server Blade		更新使行一步。 52865216/V 52865216/V 5285218/V 52855218/V 52855218/V	- - - -	7 <u>*</u>
	8	905 CR8_R0	2_ 2	9123版 シャーン CH4.J001782	31 2.021 Blade II Blade II Blade IIS	(ФО#37H) :	See GVD 111442 E7A- PPDMEROY EXUO Monascreent Blad. BX828 53	77-LOIPS - Server Blade POIC BIDS Server Blade POIC		更新使用一岁。 529053.16/V 529053.18/V 529053.18 V4.6.5.8 P2.24.0 529053.16/V 529053.18	7)4	ЖВМ 7
		94278 7725 CR8_R0	2_ 18#	R立面 シャーン CH4J001702	g. 2091 Block I1 Block IS	(ФО#57H) :	en GVD 111442 1774 PRMEROV EXUO Management Blad. BXX26 53 BXX26 53	77-67175 - Server Blade RMC BDS Server Blade RMC BDS	825063.14/V. 825063.14/V. 825063.14/V. 825063.14/V. 825063.14/V. 825063.14/V.	EBG8316/V 82808316/V 82808318 V8653 R2280 82808318 V8653 R2280 V8653 R2280	- 75/4	2E85
	993 8 0 8 0	94298 9795 CR8,R0	2 18#	H会置 シャーン CH4J001702	3 2021 Block#1 Block#5	(数1)ボ2(H) : 000 マシン CH4,001782 CH4,001782	Inte GVD 1114.03 EF7.4 PP(MEPGY EX400 Monaecternt Blad. EX328 53 EX328 53 PPSMEPGY EX400 Management Blad.	777-L/01794 - Server Blade POIC Server Blade PAIIC BUDS MINIU	825083.14/V. 825083.14/V. 825083.14/V. 825083.14/V. 825083.14/V. 825083.14 V4.65.3 R2.180 852/882	EBRANT-73 52806310/V 52806310/V 52806310/V 52806310/V 52806310/V 52806318 V4553 P2240 530/683	マーク クリループ - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	2
	8	14278 795 CRB_R0	2 2 2	912)暦 シャーン CH4.3001792	3 2021 Bladel1 Bladel5 MND MND MND	1893#274) : 100 7927 Сняцарот782 Сняцарот782	Sto DVD 111442 EFA PRMERBY EX400 Management Blad. BXX28 53 BXX28 53 PRMERBY EX400 Management Blad.	77-1/7274 Server Blade Foto Blos Server Blade Foto Blos MMB MMB MMB	38/5/5-/212 525683.14/V 5257683.14/V 5257683.14/	20063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V 520063.10/V	マーク クリーク - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	1886 2 
	8	295 CR8_R0	2 2 2	91300 299-22 CH4.001792	3 2021 Bladel1 Bladel1 Bladel5 MNB MNB MNB MNB MNB	(\$1,40170);	EVD 11140     EVD 11140	777-12/01 P/9- - Server Blade FMC BD05 Server Blade FMC BD05 MMB MMB MMB MMB MMB MMB	30/5/5-01/2 525068.14/V. 525	20063.10/V. 520	- 516-5 	1236 2
	8	225 CR8_R0	2 2	H <u>会置 シャーン</u> CH4J001790	P Block11 Block15 MMB MMB1 MMB2 CB1 CB3	(2017) 2020 2020 CH4.001782- CH4.001782- CH4.001782- CH4.001782- CH4.001782- CH4.001782-	Ste DVD 1114.02 E7.A PRIMERBY EXICO Monagement Blad. EX328 53 EX328 53 PRIMERBY EXICO Monagement Ellad. PY OB Erh Switch/IBP 10b 36/12/MI	77-2/01792 - Server Blade 8005 Server Blade 8005 MMB MMB MMB MMB LAN SW		EUROPHIC	- 514	2
		225 CR8_F0	2 2	9 <u>は3数</u> 200-シ CH4.0001792	31 2021 Black 81 Black 81 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 85 Black 81 Black 81 Blac	1891/#3749 : 105 7922 CH44.0001782- CH44.0001782- CH44.0001782- CH44.0001782- CH44.0001782-	Ste DVD 111442 E7A PRMEROY EXILO Management Biol. BXX8 53 BXX8 53 PRMEROY EXILO Management Biol. PY OB Erk Switch/BP 180b 18/15/ML PY OB Erk Switch/BP 180b 18/15/ML	277-LOIPA - Server Blade FMC BDS Server Blade FMC BDS BDS MMB MMB LAN SW LAN SW LAN SW Rock Server	30/5/1-012 525083.14/V 525083.14/V 525083.14/V 525083.14/V 525083.14/V 525083.14/V 525083.218/ 552 552 552 550 550483.24/V	2006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 52006310/V 5500 530 530 530 530 530 530 530 530 53	- 514	2005 
		22%	2 - 2 30	H2版 シャーン CH4J001782	31 2021- Blade 81 Blade 85 MMB1 MMB2 CB1 CB2 -	(\$),500 (\$),5	Inte CVD 1114.02 EF7.4 PR(MERGY EXIO Monagement Biol. EXX20 53 EXX20 53 PREMERGY EXIOD Management Eliad. PY CB Eth Switch/EDP 105b 18/12(ML RX200 57	77-LOIPA Force Blade Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc Forc		20063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 520063.10/V. 530 530 530 530 530 5500 NY0070 555463.21/V.	×	2.55 
		27%	2 - 2 30	H22版 シャーシ CH4 J00 1792	P 2021 Block#1	1803/852H3 : 200 7522 CH44,001782- CH44,001782- CH44,001782 CH44,001782 CH44,001782 CH44,001782	Ste DVD 111443 EFA PRMERoy Est00 Management Blad. EX326 53 EX326 53 PREMEROY Est00 Management Ellad. PY GB 54 Switch/EBP Kib 35/12/M. PY GB 54 Switch/EBP 160b 16/KM. RX806 57	27-LOIPS Server Blade #940 B025 Server Blade #940 B035 MMB MMB LAN SW LAN SW LAN SW LAN SW Rock Server #940 B035	90/5/1-012 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 525083.14/V. 555483.24/V. 555483.24/V. 555483.24/V.	EMP(#)1-23     S 2004210/V		7
		525 CRB_F0	2 18# 2 2 30 15	H22版 シャーン CH4,001790	P 20ph Block I1 Block I1 Block I1 WHD WHD WHD CB1 CB2 -	(\$1,4001782) CH4,4001782- CH4,4001782- CH4,4001782- CH4,4001782, CH4,400178, CH4,400	EVD 1114.02     EVD 1114.02     EVD 1114.02     PR(MERGY EXROL Monacoment Blad.     EXROL 53     EXROL 53     PREMERGY EXROL Monacoment Eliad.     PY CB Exh Switch/IBP Kib 35/12/M.     RODO 57     PREMERGEST 2000E	277-1/02792 - Server Blade FMC BJ05 Server Blade FMC BJ05 BJ05 BJ05 MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MM	100/19/15-7312/ 525043.14/V 525043.14/V 525043.14/V 525043.14 V4.65.3 F2.138 552/452 562 562 562 562 562 562 562 562 562 5	Elif(8)1-55     S206316/VL     S206316     VK553 R2240     S206316/VL     S58 R2240     S58     S5     S5     S5     VIB00 NY0070     S584232/VL     S5	- 511	7
		225 CR8_F0	2 2 2 30 15 2 1	9538 2v-2 CH4 J06 1792 Ex5005 1A0	31 2029-1 Blade 11 Blade 13 Blade 13 Bl	1893/852H) :	See CVD 1114.02 E77.4 PP[MEP30Y EX100 Monagement Blad. EX208 53 EX208 53 PPGMEP30Y EX100 Management Ellad. PY GB Erh Switch/IBP 180b 18/12/M. RX008 57 PPGMEP30Y EX300 Management Blad.	777-2472 P/2 - Server Blade Platc BIOS Server Blade Platc BIOS Server Blade MMB LAN SW LAN SW LAN SW LAN SW LAN SW BIOS BIOS BIOS Server Server BIOS Server BIOS Server BIOS Server BIOS Server BIOS Server BIOS Server Serv	10/17/1-72/2 52504514/V 52504514/V 52504514/V 52504514/V 52504514/V 52504514/V 562 562 562 562 562 565 562 565 562 565 562 562	Bitfpiri-72     Singel 16/V.     Si	- 51k	72.05

必要に応じて「対象装置」および「フィルタ」を利用して表示を絞り込みます。 詳しくは「4.6.1 [ファームウェアアップデート一覧]画面」を参照してください。 また、ファームウェア情報一覧には以下の情報が表示されます。

項目	説明
展開/収縮ボタン	ファームウェアのアップデート単位で一覧の行を展開/収縮します。
差分状態アイコン	アップデート可能なファームウェアがある場合は赤色、アップデートが不要な場合は緑 色のアイコンがそれぞれ表示されます。
ラック	ラック搭載機器の場合、収納しているラックの名称が表示されます。
搭載位置	ラック搭載機器の場合、ラック内の搭載位置(下からのユニット番号)が表示されます。
シャーシ	ブレードシャーシ搭載機器(マネジメントブレード、サーバブレード、コネクションブレード など)の場合、搭載しているシャーシの名称が表示されます。
スロット	ブレードシャーシ搭載機器の場合、搭載しているスロット位置が表示されます。
マシン	機器の固有名称です。
モデル	操作対象の機器のモデルや種類です。

項目	説明
ファームウェアタイプ	ファームウェアの種類です。 ETERNUS NRシリーズの場合、ファームウェアタイプは「NetApp」と表示されます。
現行バージョン	各機器から取得した、現在のファームウェアの版数です。
更新後バージョン	現在選択しているリポジトリに格納されているファームウェアの版数です。
グループ	SVOMで登録されているグループ情報が表示されます。

- 3. 対象がサーバの場合は、アップデート開始前にそのサーバの電源をオフにします。
- 4. ファームウェア情報一覧で、対象の装置の行頭にあるチェックボックスをオンにします。

verVi	ew							ユーザ. Admir	nistrator ログ	22E	FU
-1502	スト 管理	老設定	サーバデータ	1122	サーバ監視	アップテート インフラ ネッ	トワークセ	キュリティ		_	$\sim$
						インフラ管理					
2 >> -f	シフラ信頼	-									
lity N	fanager    I	acility B	rowser   Prof	ile Manager	Setup   Main	alenance		ServerView:	Infrastructure	e Manage	er V1
U717	アップデートー	N LINE	1 #:80g								
To be					12 L - C - C	22.4.4 DIL 2					
792	4-11	9-700	-K NNR	LA	NA197 P	CA197 AFV-9					
R	U (8ft)	P 👂 C2	R) 🔽 🗐	(SI#) E	(2) <del>(</del> )			I			
142-											
6 1	karr (	産労のみる	販売								
	-				_					_	
NI-SAG	59.			<b>91</b>	劇りボジドリ: Upd	ate DVD 11.14.02				¥	EN
NERNA	神 ラック	感動位置		91: 2021	創まりH1: [Upd マシン	ate DVD 11.14.82 モデル	7+-67179.	現代バージョン	更新能力一岁。	×	<b>EV</b>
KLENA	移 ラック ORB_RX2_	将40(白蚕 2	シャーシ CH4J001782	91: 2071	劇)ボジドリ: [Upd マジン -	are DVD 11.14.12 そうは PRIMERGY BX401 Manatement Blad.	7=67179.	現(5/5-292)	更新他/(一/): -	- 5h-	<b>E</b> 8
KLRAAT	797 777 IORB_RX2_	将40(急骤 2	シャーシ CH4J001782	Sti 2021 - Bladell1	都りボジドリ: Upd マジン CH4J001702	ere DVD 11.14.82 モデル FRIMERGY BX400 Management Blod. BX320 S3	ファームウェアウ. - Server Blade	- 現行バージョン - 6 25081 H-/V-	更新後/(一/2) - 6.20083-30/V-	- -	7
	797 0R8_RX2	将称(负责 2	->+-> CH4J001782	915 2021 Diadell1	数リボジドリ: Upd マジン - CH4J001702	상은 DVD 11.14.82 분구가 FRINERGY BX888 Management Blod. DO328 53	ファームウェアウ - Server Blade iRMC BDS		2069/1-29- 630683.05/V- 630683.05/V- 630683.05	yu-	7
	和 ラック CRB_RX2_	<i>感動位置</i> 2	シャーシ CH4J001782	94: 2021 Black II Black II	数リボジドリ: Upd マジン - CH4.001702	are DVD 11.1432 <u>T</u> 714 PRIMERGY EXAMI Management Blod. D0321 53 00321 53	ファームウェアウ. - Server Blade iRMC BIOS Server Blade		2068110/0-29- 62068110/0- 62068118 94553 R2240 62068110/0	- - -	7
	78 777 OR8_R02_	- 短載)(位置 2	->+> CH4J001782	2095 2095 Diadell1 Black115	数リボジドリ: Upd マジン - CH4.J001702 CH4.J001702	ere DVD 11.14.82 FFDNERGY EXAM Massacenere Blod. EX328 53 EX328 54	7r-67179. Server Blade iRMC BOS Server Blade iRMC	40/5/7-25/2 - 62508114/V 62508114 V 655 R2130 62508114/V 62508114	1006/07/1-25- 520083.08/ 920083.08/ 920083.08/ 920083.08/ 920083.08/ 920083.08/	- 54- -	7
	78 777 CR8_R02_	<i>感動位置</i> 2	->-> CH4J001782	Pti 2021- Diade I 1 Elisce I 5	\$19:#57Н) :  Upd 7955 Сняцео1702 Сняцео1702-	ve DVD 11.14.82 T776 PRINERGY EXAM Massacement Blod. DVS28 53 (DVS28 53	7#-6/1179 - Server Blade iRMC BROS Server Blase iRMC BROS	4805/1-1292/ 62908014/V/ 62908014/V/ 62908014 19508014/ 19508014/ V465581200	E 10081.10/V. 520081.10/V. 520081.10/V. 520081.10/V 520081.10/V 520081.10/V	- - - - -	7
	78 7>7 CR8_R02_	<u></u> 感動(広置) 2	シャーン CH4.0001782	Pt; 20ph - Diade#1 Black#1 Black#1 Black#1	89185719 : Цуд 7927 Сняцентлаг- Сняцентлаг-	We DVD 11.1432 T716 PRINERGY EXEIT Massacement Blod. D0321 53 E0321 53 FRIMERGY EXEIT Management Blod.	77-6/1279 Server Blade iRMC EROS Server Blade iRMC EROS NMB NMB	48/17/1-12/2/ 52508314/V/ 52508314 V/553172130 52508314 V/553172130 52508314 V/553172130 58270862	<ul> <li>Biology (2)</li> <li>5.30083.18/V.</li> <li>5.20083.18</li> <li>VI 553.78.2400</li> <li>5.20083.18</li> <li>VI 553.78.2400</li> <li>5.20083.18</li> <li>VI 553.78.2400</li> <li>5.20083.18</li> </ul>	- - - - -	7
	79 797 CRB_RX2_	/原都(位置) 2	シャーン CH44.0001782	2021 2021 Diadell1 Diadell1 Diadell1	都りボジドリ:   Upd マシン CH4.001702 CH4.001702-	ere DVD 11.1432 TF714 PROVERCY BX400 Management Blod. 00323 50 PROVERCY BX400 Management Blod.	77-67179 Server Blade iRMC EROS Server Blade iRMC EROS NMB NMB NMB		E 1968/1-22 - 529083.18/V 529083.18 V 555 F2 200 539083.18 V 555 F2 200 549/685 549 549/685 549 549	- - - -	7
	78 777 0R8_RX2_	<i>搭載()))</i> 2	24-> CH4,001782	Site 2001 Black 11 Black 11 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 11 Black 11 Bl	ФО#ОНО : Цен 7900 Сняден 1702- Сняден 1702- Сняден 1702-	Ve DVD 11.14.82 T776 PRIMERGY EXAM Massacement Blod. DX23 53 PRIMERGY EXAM Massacement Blod. PY CE Dis Switch/IEP 106 55/1004	77-6/1179 - Server Blade iRMC BOS Server Blade iRMC BOS NMB NMB NMB NMB NMB	48/17/1-282/ - 6.25080.14/V 6.25080.14/V 6.25080.14/V 6.25080.14/V 6.25080.14/V 6.25080.14/V 6.82/682 6.82 6.82 6.82 6.83	Elitativ (2) - - - - - - - - - - - - -	714- - - -	7
	7+7 7+7 0R8_RX2	<i>掲載</i> (企業) 2	<u>Зур-Э</u> Сни.асо1782	911 2.021-1 0 lock #1 8 lock #5 9948 99481 99481 99482 CB1 CB2	8038070) : Ции 7922 Сняден 1702- Сняден 1702- Сняден 1702- сняден 1702-	Are DVD 11.14.82 T7716 PRIVEROY DX488 Management Blod. DX59160 PRIVEROY BX488 Management Blod. PY CB bit Switch/DP 106: 56/12014. PY CB bit Switch/DP 106: 56/12014.	7r-6/1179. Server Blade (RMC EROS Server Blade (RMC EROS SANNE BLAS SM MMB NMMB NMMB NMMB NMMB NMMB NMMB N	48/57/5-5922 - 52508314/V, 52508014/V, 5	KK8//(-/2+     S30683.18/V,     S30683.18/V,     S20683.18/V,     S20	714-	7
	7:7 CRB_RX2	<i>括都位置</i> 2	<u>シャーン</u> CH4J001782	2021	<ul> <li>(1)ボジドリ: Upd</li> <li>マジン</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> </ul>	We DVD 11.14.32           1           PRIMERGY BX481 Management Blod.           D3321 53           PROMERGY BX481 Management Blod.           PY OR Eth Switch/IEP 1056 38/1204.           PY OR Eth Switch/IEP 1056 18/304.           POIDI 53	7r-6/1179. Server Blade IRMC BOS Server Blade IRMC BOS NMB NMB NMB LAN SH Flack Server	48/17/1-2922 - 525083 14/V/ 525083 14/V/ 525083 14/V 525083 14/V 525083 14/V 525083 14/V 525083 14/V 552 532 533 VIB00 NY0072 53548124/V/	(#14/4/1-25, 5.30(83.30/2, 5.20(83.30/2, 5.	- 5%- - - - - - -	7
	797 0788_RX2_	将前心面 2 33	<u>2/47-⊅</u> CH41,0001782	911 2.021 0 loce 11 0 loce 11 0 loce 15 0 loce	数11ボ21H9 : Upd マシン Сняцев 1732 Сняцев 1732 Сняцев 1732 Сняцев 1732 сняцев 1732 катогоров-то- катогоров-то-	Are DVD 11.14.82 E7.16 PRIVEROY DX488 Management Blad. DX528 53 PRIVEROY BX488 Management Blad. PY CB Eth Switch/IBP 1056 18/120M- PY CB Eth Switch/IBP 1056 18/120M- PO CB Eth Switch/IBP 1056 18/120M-	7r-6/1279- - Server Blade HANC BIOS Server Blade HANG BIOS MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MMB MM		ENCAST 10-V-     C20083 10-V-     C	74- - - -	7
	727 727 CR8_RX2	<i>昭和(広園</i> 2 33		Pite 2021 Black 11 Black 11 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 15 Black 11 Black 11 Bl	<ul> <li>(1)ボジドリ: (1)レーマジン</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>CH4.001702</li> <li>Autouopean-ta</li> </ul>	ere DVD 11.14.82 EF716 PRIVEROY BX400 Management Blad. DX20 53 PRIVEROY BX400 Management Blad. PY DE EH Switch/IEP 1056 16/10N. PY DE EH Switch/IEP 1056 16/10N. R0300 57	7#-6/11793 - Server Blade (RMC BIOS BIOS BIOS BIOS MMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB		EMMAY5-25- - 530083.88/V- 530083.88/V- 530083.88 540533.82/V- 530083.88 543 543 543 543 543 543 544 544	74- - - - - - -	7
	78 777 0RB_RX2_	<i>昭和(山東</i> 2 33	<u>シャーン</u> CH4L3001732	Pite 20ph Black II Black II Bl	873#37H) ; Црд	We DVD 11.14.82           TEP/IA           PRIMERGY EXAM Management, Blad.           DS28 53           PROMERGY EXAM Management, Blad.           PY OB EM, Switch/IEP, 106, 56/1204.           PY OB EM, Switch/IEP, 1066, 11/304.           PGIER S2           PRIMEQUEST 2001E	2r-2/12/22 - Server Blade RMC BOS BOS BOS MMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB	48/17/1-28/2 - 2908314/V 2908314/V 52908314/V 52908314/V 52908314/V 52908314/V 52908314/V 582 582 582 583 VI300 NV0972 55483124/V 55548324/V 55548324/V 55548324/V	E INVENT-25- 521083 18-V- 521083 18-V- 521083 18-V- 521083 18-V- 521083 18-V- 521083 18-V- 521083 18-V- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-V- 5310 18-12- 5310 18-V- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 5310 18-12- 12-12-12-12- 12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12- 12-12-12-12-12- 12-12-12-12-12-12- 12-12-12-12-12-12- 12-12-12-12-12-12-12- 12-12-12-12-12-12-12-12- 12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-1	- 574- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	7
	722 777 0RB_RX2.	/昭都(公置 2 38 15 1	3	Pit 20ph Block II Block II Blo	89/#5/H): Upd - 5/5/- Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22 Сняцент/22	Are DVD 11.14.82 T(7)16 PRIVERGY EXAMIN Management Blod. EX328 53 PRIVERGY EXAMIN Management Blod. PY CRE Din Switch/TEP 1056 16/1004. PV CRE DIN SWITCH/TEP 1004. PV CRE DIN SWITCH/TEP 10	7r-6/1379. - Server Blade RMC BOS Server Blade RMC SOS NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB NMB	10/17/-22/ - 25/08/114/V. 25/08/114/V. 25/08/12/V. 25/08/V. 25/08/V. 2	Elimity/(-2), - - - - - - - - - - - - -	- 374- 	7

1度に複数の対象を選択できます。ただし、モデルやファームウェアのタイプが異なる機器については、同時に選択できません。 対象を選択した時点で、モデルやファームウェアのタイプが異なる機器はグレーアウトされます。 対象を選択し直す場合は、[選択解除]ボタンをクリックし、チェックボックスをすべてオフにします。

# 🌀 注意

コンバージドファブリックについては、ファブリックを構成している装置を順番に1つずつアップデートします。冗長構成になっていない場合は、アップデート中に通信が途切れます。

- L2スイッチ(サーバ収容レイヤー2スイッチ、LANスイッチブレード)については、対象のスイッチのアップデート中に通信が 途切れます。冗長構成の環境では、冗長された装置を同時にアップデート対象としないようにご注意ください。
- PRIMEQUEST、FCスイッチブレード、ETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートには、FTPサーバを必要とします。
  - PRIMEQUESTの場合は、基本認証と匿名認証を有効にしてください。
  - FCスイッチブレード、ETERNUS DXシリーズの場合は、基本認証を有効にしてください。
- ETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートは、活性適用自動モードに対応したファームウェアのみ適用可能で す。未対応のファームウェアに対して適用を実施した場合はエラーとなります。
- ー サーバおよびMMBについては、古い版数のファームウェアにダウングレードさせることはできません。サーバおよびMMBの ファームウェアをアップデートする場合は、必ず更新後のバージョン版数が現行バージョンより新しいことを確認してから実施してください。

- Update DVD、またはFC Switchblade Firmware DVDに収録されていない機器のファームウェアアップデート作業を行う場合は、事前に必要なファイルなどをServerView Infrastructure Managerに登録する必要があります。
  - FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocksをご使用の場合、別途Cloud Ready Blocks Update Supplementイメージを入手し、インポートしてください。
  - 上記以外の場合は、以下に掲載されている「ファームウェアリポジトリの作成手順」を参照し、アップデート作業に使用するファイルを登録してください。

http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/technical/

対象装置ごとにファームウェアアップデート開始前に事前準備が必要な場合があります。公開されているファームウェアアップデート手順を確認して事前準備を実施後にファームウェアアップデート操作を行ってください。各装置のファームウェア、およびファームウェアアップデート手順書は下記よりダウンロードできます。

- PRIMERGY関連機器

PRIMERGYダウンロード検索 http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/ モデル別

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/

- PRIMEQUEST

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/download/2000/bios.html

- ネットワーク機器 レイヤー2スイッチ

https://fenics.fujitsu.com/products/download/

- ETERNUS

http://storage-system.fujitsu.com/jp/download/ ダウンロードサイトの[ファームウェア]タブを参照してください。

# 🕑 ポイント

スイッチブレード、コンバージドファブリック製品については、PRIMERGY関連機器から検索してください。

- 5. 対象の選択が完了したら、[ファームウェアアップデート開始] ボタンをクリックします。
- 6. リリースノート確認画面が表示されたら、アップデートの条件を確認します。

[別画面で表示] ボタンをクリックすると、Webブラウザでリリースノートの内容を確認できます。

			Server	/iew Infrastru	ucture Mana	ger		
い下のファームクロ	アをアップデードしま	tす。 アクデオリン						
592	「「「「「「「」」」	54-5	2021	75/2	£9%	7+-1017947	現15パーウルン	更新他バージョン
CR8 R/200-1	14	BX90052-1	Blade01	BX90052-1-01	BX824 S4	Server Blade	7.19F83.42/V4.6.5	-/V4654 R110
CIFEB_F0(200-1	14	BD090052-1	Eliade01	80390852-1-01	ED/324 S4	/IMC	7.19F83.42	-
R8, R0(200-1	14	BX90052-1	Blade01	BX90052-1-01	BX924 S4	600 S	V4554 R16.0	V4654 R118
CRB_F0/200-1	14	BX90052-1	Blade02	EX90852-1-82	E0/324 S4	Server Blade	7.12F83.38/V485	-/V4854 R118
R8, R0(200-1	14	BX90052-1	Blade02	EX90852-1-02	E0/924 S4	RMO	7.12F83.35	-
CR8_R0200-1	14	BX90052-1	Blade02	BX90052-1-02	BX824 S4	E80 S	V4554 R10.0	V4854 R118
1106 Release	e History for	PRIMERGY BOOR	\$4					
1.1.0	Initial Rel	ease Version						
COMMENT_OR1	TECAL							
8106- or fi	reware update	s always requir	e a closing	system reboot				
							18.4	



ファームウェアのアップデートをするための条件として、別の機器のファームウェア版数に依存している場合があります。その場合、その条件を満たしてから実施する必要があります。

例:MMBのファームウェアアップデートをするために、サーバブレードのiRMC/BIOSのファームウェアが特定の版数を前提としている。

- 7. [次へ] ボタンをクリックします。
- 8. 最終確認画面が表示されたら、[開始]ボタンをクリックします。

ServerView Infras	tructure 🗙
ファームウェアアップデー	トを開始します。 キャンセル

ファームウェアアップデートが開始されると、以下のダイアログボックスが表示されます。

ServerView Infrastructure Man ×
ファールウェアアップデートのタスクを開始しました。
1.00.1

ファームウェアアップデートは、タスクとしてバックグラウンドで動作します。

9. ファームウェアアップデートの結果を確認するため、[タスク一覧] 画面を表示します。

オーバリスト 智慧者能を サーバテータ イベント サーバ重視 アップテート インフラ ネットワーク セキュリティ インフラ指導 stility Manager   Facility Browser   Profile Manager   Setup   Maintenance Server View Infrastructure M. フロジョンクラクド目 - 1 タスカー類 ほりほうつ のパレーション ターヴット ステータス 連邦 原語の定義 アイレーション ターヴット ステータス 連邦 原語の定義 アイレーション ターヴット ステータス 連邦 原語の定義 アイレーション クーヴット ステータス 連邦 原語の定義 アイレーション クーヴット ステータス 2011 - 06-31 10:0617	~
インフラ協想 ISO > インフラ協想 Sility Manager   Facility Browser   Profile Manager   Setup   Maintenance ServerView Infrastructure M EXAMPLE 2017年11日1日 2017日本 201	maner VI
10 P> インフラ発達 ServerView Infrastructure M - 203377577-1-11 なびー気 #10000 203377577-1-11 なびー気 #10000 203377577-1-11 なびー気 たいして (100000 203377577-1-11 なびー気 (1000000 203377577-1-11 なびー気 (1000000 203377577-1-11 なびー気 (10000000 203377577-1-11 なびー気 (1000000000000000000000000000000000000	seamer VI
clifter Manager   Escilier Browser   Profile Manager   Setup   Maintenance Server View Infrastructure M アクレーション タンシール IIII Com スクリスト アクレーション ターグット ステークス 連載 PRAI-400 アクレーション ターグット ステークス 連載 PRAI-400 アクリーション ターグット ステークス 連載 PRAI-400 アクリーション ターグット ステークス 連載 PRAI-400 アクリーション ターグット ステークス 連載 PRAI-400	IVI ranger
	anofer at
スケーション ターヴット ステークス 道杉 同時が早期     オーゲット ステークス 道杉 同時が早期     オーケット ステークス 道杉 同時が早期     オーケット ステークス 道杉 同時が日期     オーマン・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ショ	
スカリスト アイレーション ターゲット ステータス 道道市 開始14日 アクリーション MNS S Failed 0.1 日日11日5日101日日 アクリーンロン MNS Failed 2011日 20111日 20	i: 50 ¥
ボベレーション         ターゲット         ステークス         通信         開始体現           ボット・ロットン         トリアログドはな         0/1         1014-05-31-031631         00151           ボット・ロットン         トロージット         トロージット         0/1         1014-05-31-031631         0114-05-31-031631           ボット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロット・ロ	
Innews Update MMB brokens 0/1 2184-66-31001632 Innews Update MMB Failed 2316-66-23102654 Innews Update MMB Completed 2817 23114-66-231060617	τ
Innvare Update MMB Pailed 9000 2114-06-21 102654 Innvare Update MMB Completed 9007 2114-06-21 102654 9114-06-21 102654	
Trimvare Updete (MMB )Completed #27 2014-06-29 160607	
3192.2001¥48	- 332-5-25
2017 基礎位置 519~5 7.00ト マSシ 連歩 最終更明時の 5	[9~夏田
RB_RX200-2 - BX80651A(10)2 MM82 - 425 2014-05-21.0316.43	

「タスクリスト」に、これまで実施したファームウェアアップデート操作に関する、以下の情報が表示されます。

項目	説明
オペレーション	操作内容(「Firmware Update」)が表示されます。
ターゲット	対象装置の種類です。
ステータス	タスクの状態(「In progress/Completed/Failed」)が表示されます。
進捗	「(ファームウェアアップデートが終了した装置数)/(タスクに含まれる装置数)」が表示されま す。すべての装置のアップデートが終了すると、「完了」または「失敗」のどちらかが表示され ます。タスクに含まれる装置のうち1台でも正常終了しなかったものがある場合は「失敗」が 表示されます。
開始時間	タスクを開始した時刻です。

10. タスクリストで詳細を確認したいタスクをクリックします。

「選択タスクの詳細」に、以下の情報が表示されます。

項目	説明
ラック	操作対象がラック搭載機器の場合、収納しているラックの名称が表示されます。
搭載位置	操作対象がラック搭載機器の場合、ラック内の搭載位置(下からのユニット番号)が表示され ます。操作対象によっては「-」が表示されます。
シャーシ	操作対象がブレードシャーシ搭載機器(マネジメントブレード、サーバブレード、コネクション ブレードなど)の場合、搭載しているシャーシの名称が表示されます。
スロット	操作対象がブレードシャーシ搭載機器の場合、搭載しているスロット位置が表示されます。
マシン	機器の固有名称です。
進捗	ファームウェアアップデートの処理工程の消化割合が表示される。カーソルを合わせると、 ツールチップで現在の工程名が表示されます。
最終更新時刻	最後に更新した時刻です。
エラー要因	異常が発生した場合、その要因が表示されます。

# 5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ

Profile Managerを利用して、事前に作成したプロファイルに従って以下の作業を自動的に実行できます。 最大10台まで並列に処理できるため、作業時間を短縮できます。

- ・サーバ
  - BIOS設定の変更、iRMC設定の変更、ファームウェアアップデート
  - OS、Hypervisorのインストール(内蔵アレイコントローラーのRAID構築も含む)
- ・ ETERNUS DXシリーズ
  - RAID構築、ホットスペアドライブ割当て

以下の作業は特に記載がない限り、すべてProfile Managerで実行します。



# 関 ポイント

- ・機器登録については、「5.2機器の登録」を参照してください。
- ・リポジトリの設定については、「3.2ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」を参照してください。

# 5.4.1 プロファイルの作成および管理

ここでは、プロファイルの作成および管理の手順を説明します。 プロファイルは各種合計1,000個まで作成できます。

# 関 ポイント

- プリセットのプロファイルを元に流用作成できます。詳細は、「プリセットプロファイル」を参照してください。
- 過去に作成したプロファイルを元にして、別のプロファイルを作成できます。詳細は、「プロファイルの流用作成」を参照してください。
- プロファイルは、機器が存在しない状態で、事前に作成しておくこともできます。

# 5.4.1.1 サーバ用HWプロファイルの新規作成

サーバ用のHWプロファイルにはサーバのBIOS設定、BMC(iRMC)設定、およびファームウェアアップデートの有無を指定できます。



- ・ HWプロファイル内の設定項目は個々に設定の「無効」または「有効」を指定できます。「無効」の場合は設定の変更を行わず、機器の状態を保持します。工場出荷時設定のまま使用する項目は「無効」にしておくと、設定が変更されません。
- ・ OSのインストールだけを行う場合も、HWプロファイルは必ず適用してください。適用時にハードウェア設定を全く変更する必要がなければ、すべての項目を「無効」としてください。

.....

プロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面左側の[プロファイル] - [HWプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を 実行します。

画面については、「4.4.2 [プロファイル]画面」を参照してください。

[HWプロファイル]が表示されていない場合は、[サーバ]の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] および [OSプロファイル] がツリー下に表示されます。



- 2. 画面右側のHWプロファイル初期画面で、プロファイル名とサーバ種類を入力します。
  - プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

- サーバ種類

適用対象となるサーバ種類をプルダウンから選択します。対象機器に応じてHWプロファイル内の設定項目が若干異なります。

# 関 ポイント

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ 使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. サーバ種類を選択後、設定項目を入力します。

画面は4個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
FWアップデート	ファームウェア/BIOSのアップデート有無を指定します。
BIOS	各種BIOS設定を指定します。
BMC(iRMC)	各種iRMC設定を指定します。
タブ名	設定内容
----------	----------------
プロファイル情報	プロファイルの管理情報です。

初期状態では各項目の左端のチェックボックスはオフになっています。設定を変更する場合は、チェックボックスをオンにして設 定を指定してください。項目のチェックボックスがオフの状態では設定が「無効」となり、プロファイル適用時に設定は行われません。

例:Hyper-Threadingの設定

Hyper-Threading:

C Enabled C Disabled

初期状態は左端のチェックが外れた状態です。Hyper-Threading設定を変更しないことを示しています。

Hyper-Threading:

Enabled C Disabled

Hyper-Threading設定を行う場合は、チェックボックスをオンにしたあとで設定内容を指定します。

## 関 ポイント

本機能では、BIOSセットアップユーティリティ内、Webインターフェース内で設定可能なすべての項目を設定することはできません。使用頻度の高い項目のみ設定をサポートします。設定可能な項目は、「E.1 サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照 してください。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存] ボタンをクリックします。 プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。



問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

### 5.4.1.2 OSプロファイルの新規作成

OSプロファイルではインストールするOS種別のほか、インストール先ドライブやインストール後のネットワーク設定を指定します。

OSプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面左側の[プロファイル] - [OSプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を 実行します。

画面については、「4.4.2 [プロファイル]画面」を参照してください。

[OSプロファイル] が表示されていない場合は、[サーバ] の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] および [OSプロファイル] がツリー下に表示されます。

- 2. 画面右側のOSプロファイルの初期画面で、プロファイル名とOS名を入力します。
  - プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

- OS名

インストールするOSの種類をプルダウンから選択します。



OSプロファイルにはインストール先ディスクの指定、内蔵アレイコントローラーへのアレイ構築指示、パーティションサイズ、 ネットワーク設定なども同時に実行できます。例えば、ネットワークポートのIPアドレス、サーバ名、ドメイン名、パスワードなど を指定します。設定可能な項目は、「E.2 サーバ用OSプロファイルの設定項目」を参照してください。

- プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペース のみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. OS名を選択後、設定項目を入力します。

画面は複数のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
OSインストール	OSインストール先ドライブや各種設定を指定します。OSの種類に応じて設定項目は異なります。
使用許諾契約確認	VMwareの場合のみ表示されます。OSの使用許諾に合意する場合は、画面下部にチェックします。
仮想管理ソフト登録	VMwareの場合のみ表示されます。OSインストール後に自動的にvCenterへホストを登録する場合に指定します。
個別情報	OSプロファイル適用先のサーバごとに異なる設定項目を指定します。(例:IPアドレス、ホスト 名)
プロファイル情報	プロファイルの管理情報が表示されます。また、メモを記入できます。

[個別情報] タブを開くと、初期状態では何も設定されていない状態になっています。[追加] ボタンをクリックすると、サーバ1台分の入力行が表示されて、設定の入力が可能になります。行内の項目をダブルクリックして入力を行います。

- 1	適用機器名	名前	組織名	コンピュータ名
	味道用	IA	Fujitsu	Server1
2	未適用			

[ID] 欄と[適用機器名] 欄は参照のみ可能で、入力はできません。[ID] 欄はサーバにプロファイルを適用する際に、個別情報 を指定する番号です。[適用機器名] 欄には、プロファイル適用後に機器名が表示されます。

設定入力済みの行を選択した状態で[複写]ボタンをクリックすると、新しい入力行が追加され、選択した行の内容がコピーされ ます。このときIPアドレスは既存の入力行に+1した値となります。入力行を削除する場合は、不要な行を選択して[削除]ボタン をクリックします。入力行が削除されます。

設定可能な項目の詳細は「E.2 サーバ用OSプロファイルの設定項目」を参照してください。

## 関 ポイント

個別IDは1つのOSプロファイルにつき最大100個まで作成できます。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存]ボタンをクリックします。 プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

注意

問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

### 5.4.1.3 ストレージ用HWプロファイルの新規作成

ストレージ用HWプロファイルでは、ETERNUS DXシリーズに対してRAIDの作成およびホットスペアの作成を指示します。本機能は DXシリーズで使用可能です。

# 関 ポイント

.....

- ・ RAIDを作成すると、その最大容量を利用して1個のボリュームが自動的に作成され、RAIDおよびボリュームには自動的に名前が 付けられます。それらに変更が必要な場合はプロファイル作成時に[詳細設定]で指定するか、プロファイル適用後に別途実施し てください。
- ・ プロファイル適用時、RAIDおよびホットスペアの作成は、未使用のドライブが必要な台数存在する場合にのみ行われます。すで にRAIDが構築されている場合、またはプロファイルを取り外した場合は構成を削除しません。

ストレージ用HWプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。ホットスペアも同様の手順で行います。

1. [Profile Manager]画面左側の[プロファイル] - [HWプロファイル]を右クリックし、表示されるメニューから[新しいプロファイル]を実行します。

画面については、「4.4.2 [プロファイル]画面」を参照してください。

[HWプロファイル]が表示されていない場合は、[ストレージ]の左側にある[+]をクリックすると、[HWプロファイル]がツリー下に表示されます。

- 2. 画面右側のHWプロファイルの初期画面で、プロファイル名とストレージ種類を入力します。
  - プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

- ストレージ種類

適用対象のETERNUS DXシリーズのモデル名をプルダウンから選択します。



プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ 使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. ストレージ種類を選択後、設定項目を入力します。

画面は2個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

[RAID構成]タブ:作成するアレイおよびホットスペアを指定する。

[プロファイル情報]タブ:プロファイルの管理情報。

RAID構成画面では、任意の数のアレイを指定できます。RAID構成を指定して追加する場合はRAID構成欄の下にある[追加] ボタン、追加した行を変更する場合は行を選択して[編集]ボタン、また削除する場合は行を選択して[削除]ボタンをクリックし ます。

[詳細設定]をクリックすると別のダイアログボックスが開き、[詳細設定パラメータ]を設定できます。 「E.3 ストレージ用HWプロファイルの設定項目」を参照して、必要に応じて設定項目を入力してください。

[追加] ボタンをクリックすると下図のダイアログボックスが表示されます。

上から順に値を入力し、[OK]ボタンをクリックすると、入力した内容がプロファイルに追加されます。

[詳細設定]をクリックすると別のダイアログボックスが開き、[Pre実行コマンド]と[Post実行コマンド]を設定できます。「E.3 ストレージ用HWプロファイルの設定項目」を参照して、必要に応じて設定項目を入力してください。

	ServerView Infrastructure Manager	x
RAID構成		
RAID		
ディスクインチ	*	
ディスク種別に	*	
ディスク容量	¥	
ディスク本数:	×	
	OK キャンセ	л

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

### 5.4.1.4 プロファイルの操作

### プロファイルの編集

保存されたプロファイルは、機器に適用する前であれば自由に設定内容を変更できます。

OSプロファイルは適用後であっても個別情報の未適用のIDや新規追加のIDは編集が可能です。ただし、適用後のOSプロファイルは 個別情報の内容にエラーが残った状態では保存できません。

- 1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、編集対象のプロファイル名を表示します。
- 2. プロファイル名をクリックします。

画面右側にプロファイルの内容が表示されます。

3. 画面右側のプロファイル内容を変更し、[保存]ボタンをクリックします。

変更内容を保存しない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックするか、保存せずに別の画面に移動します。

### プロファイルの流用作成

過去に作成したプロファイルを基にして、別のプロファイルを作成します。

## 関 ポイント

- ・ HWプロファイルの機器種別やOSプロファイルのOS種類を変更できません。
- ・ OSプロファイルの流用時、個別情報は引き継がれません。
- プリセットのプロファイルを基に流用作成できます。詳細は、「プリセットプロファイル」を参照してください。
- - 1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、流用元になるプロファイル名を表示します。
  - 2. プロファイル名を右クリックし、メニューから [プロファイルを流用作成]を実行します。画面右側にプロファイルの内容が表示され、[プロファイル名入力] 欄が表示されます。

3. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。 新しい名前でプロファイルが作成されます。

#### プロファイルの削除

保存されているプロファイルを削除します。

# 関 ポイント

- 適用処理中または適用済みのプロファイルは削除できません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファ イルに変更されたあとに削除できます。
- プリセットのプロファイルは削除できません。
- 1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、削除するプロファイル名を表示します。
- 2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルを削除]を実行します。

[削除確認]ダイアログボックスが表示されます。

3. [はい] ボタンをクリックします。

プロファイルが削除されます。

### プロファイルの名前変更

保存されているプロファイルの名前を変更します。



.....

- ・適用処理中または適用済みのプロファイルは名前変更ができません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファイルに変更されたあとに変更できます。
- ・ プリセットのプロファイルは名前を変更できません。
- 1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、名前を変更するプロファイル名を表示します。
- 2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルをリネーム]を実行します。
  - 名前を入力するダイアログボックスが表示されます。
- 3. 新しいプロファイルの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。 プロファイルの名前が変更されます。

### プリセットプロファイル

用途に応じたいくつかのプロファイルが事前に準備されています。これらを流用すると、効率的にプロファイルを作成できます。

## 関 ポイント

プリセットプロファイルをそのまま装置へ適用できません。流用作成機能を利用して別のプロファイルを作成したうえで適用します。

- 1. [プロファイル]画面左側のツリー内の [プリセット] の下を展開し、保存されているプリセットプロファイルを表示します。
- 2. 次の方法で目的に最も近いプロファイルを選択します。
  - プロファイル名から選択する
  - プロファイルをクリックし、右側メイン画面の [プロファイル情報] タブからメモ欄を確認する
  - プロファイル内の各設定項目を確認する
- 3. ツリー上で利用するプロファイルを右クリックし、[プロファイルを流用作成]を実行します。
- 4. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。 新しい名前でプロファイルが作成されます。

### プロファイルのエクスポート/インポート

エクスポートはISMで作成したプロファイルをXML形式のWindowsファイルとして保存する機能です。インポートは逆にXMLファイルを再びISMに読み込む機能です。

エクスポートを行う場合は、プロファイル表示/編集画面の下部に表示される[プロファイルをエクスポート]ボタンをクリックするか、ツ リー上でプロファイル名を右クリックした際に表示される[プロファイルをエクスポート]をクリックします。

インポートを行う場合は、ツリーでプロファイル以外をクリックした際にプロファイル画面の下部に表示される[プロファイルをインポート] ボタンをクリックするか、ツリー上でプロファイル名を右クリックした際に表示される[プロファイルをインポート]をクリックします。

# G 注意

- Linux用のOSプロファイルはエクスポート/インポートに対応していません。
- プリセットプロファイルもエクスポートできます。またインポートの際には画面上で指定することでプリセットとしてインポートできます。
- ・ インポートする際は同一バージョンのISMからエクスポートしたファイルを指定してください。 異なるバージョンで作成されたファイルをインポートした場合、意図しない動作となる場合があります。

#### 個別情報のエクスポート/インポート

OSプロファイルの個別情報タブの設定内容をCSV形式のWindowsファイルとして保存したり、そのファイルを読み込んだりできます。

これによりOSプロファイルの流用作成や新規作成時に既存の個別情報を引き継ぐことできます。 本機能を利用する場合は、プロファイル作成画面の[個別情報]タブ内の [CSVエクスポート] ボタン、または [CSVインポート] ボタンを クリックします。



- エクスポート時はすべての個別情報がファイルに保存されます。インポート時は既存の個別情報に追加されます。
- 異なるOS種間でCSVファイルを流用することはできません。
   例えばWindows Server 2008用のOSプロファイルからエクスポートしたCSVファイルをWindows Server 2012用のOSプロファイルで インポートすることは可能ですが、Red Hat Enterprise Linux用のOSプロファイルにインポートするとエラーになります。

## 5.4.2 プロファイル適用

ここでは、プロファイルの適用、変更、および取り外しの手順を説明します。

装置の状態を変更するためには、作成したプロファイルを装置に適用する必要があります。 サーバに対してはサーバ用のHWプロファイルとOSプロファイルの2種が適用できます。 ディスクアレイ装置ETERNUS DXシリーズに対してはストレージ用のHWプロファイルが適用できます。

次の操作を行う手順を説明します。

- ・ 管理可能状態の機器に対して、新しくプロファイルを適用する
- ・ 管理中状態の機器に対して、別のプロファイルを適用する
- ・ HWプロファイルのみ適用済みの管理中状態のサーバに対して、OSプロファイルを追加適用する



- ・ OSインストールを行うと、インストール先に指定したディスク内のデータはすべて消失します。必要なデータは事前にバックアップしてください。
- ・ファームウェア/BIOSアップデート中に電源を切断しないでください。
- ・ファームウェア/BIOSをアップデートする際は、事前に適用するファームウェアのリリースノートや添付ドキュメントを確認してください。

# 関 ポイント

- ・ SAN bootなどを利用する場合は、事前にアダプターやインストール先ディスクの設定を完了させておいてください。
- ・ OS上のネットワークポート設定は、オンボードLANの最初の1ポートのみ指定可能です。通常このポートは管理LANとして使用します。その他ポートについては、OSインストール後にOS上から別途設定してください。
- ・アレイ構築やホットスペアに組み込まれていないハードディスクが搭載されている場合のみ、アレイの構築が可能です。構築済みのアレイ構成を削除して再構築する場合は、ETERNUSのWeb GUIなどを使用して構成を削除してください。

プロファイルを適用する手順は次のとおりです。

1. 装置の状態を確認します。

対象機器がサーバの場合は以下を確認します。

- サーバの電源がオフ(電源ケーブルは接続)であること
- ローカルブートが可能なUSBメモリやDVDドライブが接続されていないこと
- BIOSがUEFIモードになっていないこと

対象機器がETERNUS DXシリーズの場合は以下を確認します。

- 電源がオンであること
- Web GUIや他の管理ソフトなどから操作中でないこと
- 2. [ノードリスト]画面の [管理可能] または [管理中] タブをクリックします。

画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

目的の対象機器が表示されます。 ツリーの選択や絞り込み機能で表示対象が限定されていて目的の機器が表示されない場合は、表示条件を変更してください。

3. [ノードリスト]画面の機器一覧表で、プロファイルを適用する機器の機器名をクリックします。

機器プロパティ画面が表示されます。

	ServerView Infr	astructure Manager	×
管理可能状態 福島ブロパティ			
+お話-お;	SVD0812145	DHC(#MC) P7912;	192.168.12 BHC0RMCI Web *
50万ル書号:	MADG012045	ENC(FINC) NAC7FL7:	90-1B-0E-01-25-45
枢椎名:	PRIMERGY EX920 53	管理LAN F7ドレス:	
種(2):	サーバブレード	0548:	
ステータスニ	管理可能	ID11-96:	
作果中操作:		2958:	
作業状況:		据教检查:	
HW7027-044	ク税	入口:)+番号:	1
L	1		*
45.X.			
707x404808	05707#{/k		05707r代以10000
	×		× ×
<b>池田道日</b> 日 FW 日 0003	5 E DHC E 05		
増しいブルーナ グル	-7~32-		條容 **).世ル

4. 機器プロパティ画面下部のプルダウンメニューから適用するプロファイル名を指定します。

OSプロファイルを適用する場合は、個別設定の番号(個別ID)も指定します。



- 対象機器に適用可能なプロファイルだけが選択できます。目的のプロファイル名が表示されない場合は、プロパティ画面で サーバ種類、ストレージ種類が正しいか確認してください。
- OSの個別IDは、1つにつき1サーバのみに指定できます。個別IDが不足していてプルダウンに表示されない場合は、プロファイル編集で個別情報を増やしてください。
- OSプロファイルだけを適用することはできません。必ずHWプロファイルを指定してください。
- メンテナンス支援機能でファームウェアアップデート中の機器は操作できません。アップデートの終了を待ってください。

5. [保存] ボタンをクリックします。

この時点では、まだプロファイル適用は開始されません。

6. [ノードリスト]画面に戻ったら、一覧画面内の適用対象機器の左端にあるチェックボックスがオンになっていること、およびプロファ イル名が正しいことを確認します。

一覧右端のチェックは、機器に対して行われる処理を示します。

### 🕑 ポイント

複数の装置に対して同時にプロファイル適用が行えます。手順1から手順5を繰り返し、対象となる装置すべてにプロファイルを 指定します。

- プロファイル適用の操作は、一度に10台を超えて行うことができます。例えば11台同時に開始した場合、1台はプロファイル 適用が待機中となり、ほかの1台の処理が完了した時点で自動的に適用が開始されます。
- DHCP設定の内容によっては、同時実行数は10台より少なくなる場合があります。

- 7. [プロファイル適用] ボタンまたは [プロファイル変更] ボタンをクリックします。
- 8. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[はい]をクリックします。

プロファイル適用が開始されます。

プロファイル適用が開始されると、機器アイコンは処理中となり、処理の進行状況が状態欄に表示されます。状態欄は自動更新 されません。必要に応じて、画面右上の[最新の状態に更新]ボタンをクリックして進行状況を確認してください。

Г		1490	10:05-0	10.89-0. /	7.12-32	HIV-Socark II.	OSTRE-ALL	m	过用项目			
		10.32	10.240	10/08/13	1701-225	HW/UZY100	05707777	~	FW	806	BMC	05
Г	10		PRIMERBY BX90.	CH4J011558								
Г	6		PRIMERGY BX92.	SV1020MD000350								
Г	16	1/8	PRIMERGY R0/80.	SVAR010108		RK null	Where 1	٤				r

### 🕑 ポイント

W.

プロファイルの内容に応じて、数分から1時間程度の処理時間が必要です。詳細は、「処理時間の目安」を参照してくださ

- [イベント履歴]画面でも処理完了を確認できます。
- プロファイル適用中に、別の機器に対してプロファイル適用を開始できます。

プロファイル適用が完了すると、機器アイコンが管理中となり、状態欄は空欄に戻ります。管理可能タブ内に表示されていた機器は管理中タブへ移動します。

適用中に問題が発生した場合は、機器アイコンがエラー状態となり、状態欄がエラーを示します。状態欄にマウスカーソルを重ねると エラー発生時の処理内容が表示されます。エラー要因を取り除いたあと、再度プロファイルを適用してください。詳細は、「B.2 プロファ イル管理に関するトラブルシューティング」を参照してください。



- エラー時はプロファイル未適用として扱われるため、装置は管理可能状態になります。ただし、OS インストール完了後の仮想管理 ソフトへの登録でエラーになった場合、OSプロファイルは正常適用完了として扱われ、装置は管理中状態となります。この場合は マニュアル操作で仮想管理ソフト登録を行ってエラー状態を解除します。詳細は、「3.6.2 仮想管理ソフトの登録」を参照してください。
- ・ OSプロファイルを利用してインストールを行ったサーバに対して、同一条件でOSを再インストールする場合は、「プロファイルの再 適用」を参照してください。
- ・運用開始後のメンテナンス目的など、HWプロファイル適用時にファームウェア/BIOSアップデート済みのサーバに対して、さらに新しい版数にアップデートする場合、「プロファイルの再適用」を参照してください。

### プロファイルの適用中止

プロファイル適用中の装置に対して強制的に適用処理を中止します。中止した装置の状態はエラーとなります。 プロファイルの適用を中止する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面の[管理可能]または[管理中]タブを開きます。 画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
- 2. [ノードリスト]画面の機器一覧表で適用を中止する機器のチェックボックスをオンにします。
- 3. 画面下部の [プロファイル適用中止] または [プロファイル変更中止] (タブに応じて異なる)をクリックします。 [ノードリスト]画面の機器一覧表の状態欄表示が「中止中」となります。

🕑 ポイント

[管理可能]および[管理中]タブの複数の装置に対してプロファイルの適用中止を行う場合は、それぞれのタブで手順2と手順 3を実行してください。

4. [最新の状態に更新]ボタンをクリックし、適用中止が完了するのを待ちます。

中止を指示したときの機器状態に応じて、中止完了まで時間がかかることがあります。

中止が完了すると状態欄が「中止完了」になります。

### プロファイルの再適用

プロファイル適用済みの装置に対して、プロファイルの一部を上書き適用できます。例えば次のような場面で行います。

- ・ OSの再インストール(OSプロファイル適用済みの装置に対して、再度同一条件でOSのインストール)
- 新しいファームウェアがリリースされたため、再度ファームウェアのアップデート



• OSプロファイルの再適用を実行すると、ディスク内のデータは完全に消失します。誤って実行しないように、実行時は操作対象 サーバの確認を含め、十分に注意してください。

- ・ファームウェア/BIOSアップデート中に電源を切断しないでください。
- ファームウェア/BIOSをアップデートする際は、事前に適用するファームウェアのリリースノートや添付ドキュメントを確認してください。

🕑 ポイント

・ 本操作の対象はサーバのみです。ETERNUS DXシリーズに対して再適用はできません。

ファームウェアアップデート指定時、すでに同一版数が適用済みの場合は上書きされません。

.....

プロファイルを再適用する手順は次のとおりです。

- [ノードリスト]画面の[管理中]タブから機器名をクリックします。 画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。 機器プロパティ画面が表示されます。
- 2. ウィンドウ内下部の[適用項目]のチェック欄で再適用したい操作のチェックボックスをオンにします。
  - FW:ファームウェア/BIOSのアップデートを再実行する。
  - BIOS:BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
  - BMC:BMC(iRMC)タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
  - OS:OSプロファイルの内容に従い、再インストールを行う。

### 🕑 ポイント

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックボックスをオンにできません。

- 3. [保存] ボタンをクリックし、プロパティ画面を閉じます。
- 4. [ノードリスト]画面の機器一覧表で対象機器のチェックボックスをオンにしている状態で [プロファイル変更] ボタンをクリックします。

プロファイルの適用が完了するのを待ちます。

#### プロファイルの解除

プロファイル適用中の機器からプロファイルを取り外し、プロファイル未適用(適用可能)の状態に戻します。ただし、実機の設定をプロファイル適用前に戻すわけではなく、原則として機器に設定された内容やインストールされたOSはプロファイル解除後もそのまま残ります。

分類が「HWプロファイル内BMC(iRMC)」の次の設定が適用前の状態に戻ります。

設定項目名	備考
[BMC(iRMC)のAdminアカウント]	プロファイルでアカウントを変更していた場合は、解除時にBMC(iRMC)の
[BMC(iRMC)のAdminパスワードを変更する]	Adminアカウントを有効に戻す。
[BMC(iRMC)のAdminパスワード]	BMC(iRMC)のAdminパスワードは、解除時にデフォルトパスワードに戻す。
[iRMCアカウント(admin権限)]	プロファイルで作成したアカウントは、解除時に削除される。
[iRMCパスワード(admin権限)]	

## 関 ポイント

. . . . . . . . . . . . . . . .

- ・ HWプロファイルかOSプロファイルの片方のみを選択して解除することはできません。
- プロファイル適用を処理中の装置は解除できません。プロファイル適用を中止してください。詳細は、「プロファイルの適用中止」を 参照してください。

プロファイルを解除する手順は次のとおりです。

- [ノードリスト]画面の[管理中]タブをクリックします。
   画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
- 2. プロファイルを解除する装置のチェックボックスをオンにします。

- 3. 画面右下の [プロファイル取り外し] ボタンをクリックします。
- 4. 確認画面で [OK] ボタンをクリックします。

プロファイルの解除が開始され、対象の装置には進行状況が表示されます。

5. [最新の状態に更新]ボタンをクリックし、装置が「管理可能」状態になるのを待ちます。

## 5.5 機器の監視・モニタリング

機器監視・モニタリングに関して、ISMには以下の機能があります。

- ・ 管理対象機器の異常発生をトップビュー画面で一括監視できる。
- ・ 機器ごとの現在のステータスや消費電力などの情報を画面で確認できる。
- 消費電力の推移を記録し、グラフなどで表示する。
   また、消費電力の上限値を設定しておき、上限を超えないようにISMで自動的に制御する。
- ・管理対象機器のログを、ISMで毎日自動的に収集し、蓄積する。 また、任意のタイミングで蓄積したログを取り出す。

### 5.5.1 機器ステータス/情報取得利用



몓 ポイント

・機器登録については、「5.2機器の登録」を参照してください。

・ Facility Managerのラック画面については、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

### 5.5.2 機器情報表示

機器プロパティ画面で、登録済みの機器または検出された機器の固有情報を参照します。また、IDランプ(識別LED)の制御、ローカルノートの編集もできます。

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .

## 関 ポイント

ブレードシャーシおよびETERNUS DXシリーズに対して、識別LED制御は利用できません。

各種操作は機器プロパティ画面から行います。 プロパティ画面を表示する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面を表示します。

詳しくは、「4.4 [Profile Manager]画面」を参照してください。

2. [ノードリスト]画面のツリーまたは[ノードリスト]画面の機器一覧表に表示されているノード名を右クリックし、表示されるメニューから [プロパティ]を実行します。

		ServerView	Infrastructure Manager		×	
機器プロパティ						
核發名:	SVDG#12345		BMC(FMC) IP7/4,2;	192.158.1.2	ENC(FMC) Web	
5月アル番号:	MADG#12345		BMC(IRMC) MAC7/FL	51 98 1B 0E #120 4	5	
根植名:	PRIMERGY BOR	158	管理LAN IPアドレス:	管理LAN IP2ドレス: 192.198.1.102		
種野に	サーバブレード		OS名:	VMware ES3 5	1 Update 1	
25-92:	管理中		コンピュータ名:	server1		
03249905			<del>7)</del> 98;			
你意识记:			杨敏位置:			
HW707+1/k	bx_fee.p	bujimp ##		1		
05707+1%:	Vitiware	参照	#91.60(05ング)状態:		<b>1</b> 2/#	
05707+0/0000	1				点灯 浦灯	
	-	2-1	1		*	
操作日時	1815	操作能ステータス	HW707246	0570774/16	057077-(A/100000	
2019-12-17 14:3847	ブロファイル通用	管理中	bo: fwup	VEWard	1	
2018-12-17 14 19:30	ノード変縁	管理可能				
2018-12-17 14:17:09	ノード検出	/- 排他出				
			仮想管理シフト製錬	通用原規取得	連目展開CSVHの あっこれん	
			2008 B 12 2 2 1 20 10	I MANAGEMENT	17767	

- 3. 以下の操作が行えます。
  - Web画面接続

[BMC(iRMC) Web] ボタンをクリックすると、新しくWebブラウザを開き、表示されているIPアドレスに対してhttpで接続します。

サーバの場合は、iRMC Webインターフェースが起動します。MMBまたはETERNUS DXシリーズの場合は、それぞれのWeb操作画面が起動します。

- 識別LED操作

IDランプ(識別LED)の状態を画面に表示する場合は、[取得] ボタンをクリックします。[点灯] ボタンまたは [消灯] ボタンで LEDの状態を操作できます。

- プロファイル参照

機器にプロファイルが適用済みの場合は、プロファイル欄の右の [参照] ボタンをクリックするとプロファイルの内容が表示されます。

- VIOMプロファイル参照

VIOMプロファイルが適用されている場合は、プロファイル欄の右の [取得] ボタンをクリックすると適用中のプロファイル名が 表示されます。

- プロファイル適用履歴表示

画面下部の[適用履歴取得]ボタンをクリックすると、過去および現在のプロファイルの適用、変更の操作履歴が表示されま す。履歴一覧からプロファイル名の部分をクリックすると、プロファイルの内容が表示されます。

- ローカルノートの編集

ローカルノートの記事を変更する場合は、記事を直接編集したあと、右の [編集] ボタンをクリックすると変更が保存されます。

- 仮想管理ソフトへの登録

画面下部の[仮想管理ソフト登録]ボタンをクリックすると、対象サーバをvCenterまたはSCVMMに登録できます。

詳しくは、「3.6.2 仮想管理ソフトの登録」を参照してください。

## 5.5.3 レポート表示利用



. . . . . . . . . . . . . . . . .

### 関 ポイント

- ・機器登録については、「5.2機器の登録」を参照してください。
- ・ Facility Managerのレポート画面については、「4.2.4 [レポート]タブ」を参照してください。

#### レポートの新規作成

- 1. Facility Managerの [レポート] タブを選択します。
- 2. [新規作成]ボタンをクリックします。
  - [レポート設定] 画面が表示されます。
- 3. 必要な情報を登録して[保存]をクリックします。

#### レポートの表示

Facility Managerの [レポート] 画面から、現在設定されているレポートを選択します。
 左位置にレポートが一覧表示されるので、表示したいレポートを選択します。
 ワークエリアで、[表示]ボタンをクリックすると、レポートがグラフで表示されます。

## 関 ポイント

選択しているレポートをcsv形式で出力することもできます。

### 5.5.4 消費電力制御(パワーキャッピング)利用

## 関 ポイント

Facility Managerに機器が表示された状態であることを確認してください。 機器登録については、「5.2 機器の登録」を参照してください。

Facility Managerの[グループー覧]タブを選択します。
 詳しくは、「4.2.3 [グループー覧]タブ」を参照してください。

- [グループー覧]から消費電力制御設定を行うグループ定義を作成します。
   ラックに対して消費電力設定を行う場合は、グループ定義の作成は不要です。
- 3. [グループー覧]から定義したグループを選択、または [一覧] からラックを選択し、最大消費電力、優先度、ポリシーなどの消費 電力制御設定を行います。

ラックまたは定義したグループの消費電力が監視され、設定した上限値を超えないようにサーバ消費電力が制限されます。

## 5.5.5 イベント履歴表示

プロファイル管理上で実行した操作およびその動作結果を、イベント履歴としてログ形式で参照できます。

[イベント履歴]画面を表示すると、操作内容が時刻順に表示されます。本画面でプロファイル適用の完了を待つような場合は、必要に応じて、[最新の状態に更新] ボタンをクリックして、イベント表示を更新してください。

1. [Profile Manager]画面を表示します。

詳しくは、「4.4 [Profile Manager]画面」を参照してください。

2. 画面左側(1)で[イベント履歴]を選択します。

[イベント履歴]画面が表示されます。

	S'ServerView						ユーザ: administrator ログアウ	it nijîrsi			
	サーバリスト 管理者設定	サーバデータ イベン	h #	- パ監視 - 7	マップデート	275	セキュリティ	へいブ			
	インフラ教理										
	Home >> インフラ管理										
	Facility Manager   Facility Be	owser   Profile Mana		ServerVsew Infrastructure Man	ager V1.20.01						
	▶ ノードリスド(統合位素)(1)	10-H8E-%					4	新の状態に更新			
	► ノードリスト(推制DD)										
an.	► 2027 (I)	MOGIN	あカレ	0.0888	10153621	作業状況	498-0				
0	▼イベント展開	2814-04-20 16:83.89	JNF0	RX20058-1	地理終了		処理が除了しました。				
	一● 全て648日	3814-04-30 10:31:09	3NFO	F0/20850-1	サーノリスト登録		ラーパリストの登録をしました。ロアドレス=*192181111;5月アル	「香寺-Chinsa」			
		2814-04-20 10:00 35	INF0	RX20058-1	ノード監修	實行開始	ノード聖録処理を開始しました。 アアドレスパ 192.111.1.2".547	PA#母="YLN.			
		2814-04-20 1628-81	INFO .		DHCP缺定·有。		和久族決定投終了しました。ロトロドリード3Pアドレスポ 12744.41	ネットワーク番ー			
		2814-04-20 16:29 34	INF0		DHCP建度·新		新規設施設持ちてしました。DHCPサーバアアドレスニ 127.0.0.1	(スコーラ名=18			
		2814-04-20 16:28:38	3NFO		データインボート		データインボートが除了しました。種類+"ServerView Suite DV	VD*			
		2814-04-20 16:28:22	3NF0		しポジドリ前間後		Liff9H時間接続了LitLた。種類="Update DVD"J(-5k)	24" 11.13.08"			
		2814-04-20 16:28:17	3NF0		し作り付着開き		しポジド所開き開始しました。種類=「Lbdate DVD"パージョン	/="11.13.00"			
		2814-04-20 16:28 33	JNF0		データインボート		データインボードを開始しました。種類="ServerView Suite DV	10*			
		2814-04-20 16:22:33	3NFO		ブロファイリレ保存		プロファイルを保存しました。プロファイル-名="1981-83/851-1"				
		2814-04-20 16:28.34	3NF0		202601201-		プロファイルヴルーブを作成しました。ヴルーブ名。『Dルー				
		2814-04-20 10:18.89	3NFO		7027101保存		プロファイルを保存しました。プロファイル名="100-10/20050-1"				

# 関 ポイント

- ・本画面では最新のイベントから最大500件を表示します。
- 特定の機器に関するプロファイル適用履歴を参照する場合は、[ノードリスト]画面の機器一覧表で機器プロパティ画面を開いて参照することもできます。

# 5.6 ログ収集機能の利用

	凡例 ISM で行う操作 ISM 以外で操作						
機器を登録	Facility Managerに機器が表示された状態。						
7	5						
自動収集の設定	Setupメニューの [ログ収集設定] 画面で収集対象機器を選択。 [適用] 実施後にServerView Log Collect and Checkerサービスを再起動。						
対象がサーバの場合、稼動しているOS/Hypervisor種類に従ってOSロ な準備を行う。							
	対象がETERNUS、FCスイッチブレードのログ収集を行う場合はFTPサーバーを 準備し、その情報を管理サーバー上で設定する						
7	5						
日々の運用	毎日自動的にログが収集される。						
7							
ログ参照時	Facility Managerの [ログ収集] 画面からログをダウンロードする。						

### ログ収集機能の監視対象と収集するログ

・ ハードウェア

ログ収集のタイミングは、定期収集(1回/日)またはログー括収集コマンド(logcollect)入力時となります。

収	集箇所		機能	収集するログ	必要な設定
PRIMERGY	MMB		ログ収集(*1)	SEL	5.6.1 ログ収集対象機器の選択(*1)
(BXシリーズ)	FCスイッチ	ニブレード	ログ収集	supportsaveコマンドの	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
				結果	5.6.6 FTPサーバ情報の登録
	LANスイッチブレード		ログ収集	show tech-supportの 結果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
	コンバーシ クスイッチ	バファブリッ ブレード	ログ収集	ログ(ファブリックを組 んだ場合、マスターに 含まれます。)	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
	サー バーブ	VMware	ログ収集	ESXi上のsyslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.3 ログ転送の設定(ホストOSが
	レード		ログ監視		VMware ESXiの場合)
					5.6.5 異常通報の設定
		Windows	ログ収集	イベントログ	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
			ログ監視		5.6.4 ロク転送の設定(ホストOSが Windowsの場合)
			異常通報		5.6.5 異常通報の設定
PRIMERGY (RX/CXシリーズ)		iRMC	ログ収集(*1)	SEL	5.6.1 ログ収集対象機器の選択(*1)

収集箇所		機能	収集するログ	必要な設定
	VMware	ログ収集 ログ監視 異常通報	ESXi上のsyslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.3 ログ転送の設定(ホストOSが VMware ESXiの場合) 5.6.5 異常通報の設定
	Windows	ログ収集 ログ監視 異常通報	イベントログ	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.4 ログ転送の設定(ホストOSが Windowsの場合) 5.6.5 異常通報の設定
LAN集約スイッチ(CFXシリーズ、SR-Xシ リーズ)		ログ収集	show tech-supportの 結果 (ファブリックを組んだ 場合、マスターに含ま れます。)	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
ストレージ (ETERNUSシリーズ)		ログ収集	export logコマンドの結 果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.6 FTPサーバ情報の登録(*2)

\*1: SEL情報を取得するために、対象の各iRMC/MMBにtelnet (port:3172)を有効にする必要があります。

\*2: ETERNUS DXシリーズのログを収集するために、対象の各ETERNUS DXシリーズにtelnet (port:23)を有効にする必要があります。

・ ソフトウェア

ログ収集のタイミングは、異常発生時となります。

ISMがインストールされているOSの以下の箇所のログを収集します。

収集箇所	機能	収集するログ	必要な設定
ServerView Agent	ログ収集(*1)	Primecollectの結果	5.6.5 異常通報の設定
ServerView Fabric Manager	ログ監視 異常通報	ログ収集コマンド (svfabcli log collectの結果)	
ServerView Infrastructure Manager	, <b>-</b>	ログファイル	
ServerView Operations Manager		cmscollectの結果	
ServerView RAID Manager	ログ収集(*1)	動作ログ (RAIDLog.xml, snapshot.xml) (*2)	

\*1: 管理サーバー上のみ収集可能です。監視対象サーバー上にインストールされている場合は収集対象外です。

\*2: ログ収集一括収集コマンドを実施した時のみ収集できます。

#### ログ収集

各ハード機器のログを定期的(1日1回)に収集する機能です。ログー括収集コマンド(logcollect)でも収集できます。収集したログは、アーカイブ後にISMの[ログ収集]画面で機器ごとにダウンロードできます。ログは最大7日分保存されます。

ServerView Agentなどソフトウェアの保守情報は各ソフトウェアの異常発生時に収集され、ログは約1時間後、ISMの[ログ収集] 画面の「Infra\_Manager」からダウンロードできます。

その場合、イベントログにIDが「100」のメッセージが出力されます。メッセージについて詳しくは、「5.6.10メッセージ一覧」を参照してください。

#### ログ監視

ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上のソフトウェアのソフト異常を監視して、ログ情報の収集や異常通報を実行する機能です。

ログ監視対象は以下のとおりです。

ー ソフトウェア

ServerView Operations Manager for Windows、ServerView Infrastructure Manager、ServerView Fabric Manager 管理サーバ 上のソフトウェア異常の場合には、異常発生ごとにログが収集されます。

ー ハードウェア

LAN、FCカードなどドライバのログ

検出した異常はイベントログにメッセージとして出力されます。 メッセージの内容と対処方法については、「5.6.10メッセージ一覧」を参照してください。

#### 異常通報

SVOMのイベントマネージャーの [アクション設定] を利用してTrapやMail通報を行う機能です。別途、異常通報の設定が必要です。詳しくは、「5.6.5 異常通報の設定」を参照してください。

# 🔓 注意

同一のIPアドレスで重複した異常が発生した場合、1時間抑止され通報およびログ収集はされません。

.....

### 5.6.1 ログ収集対象機器の選択

[ログ収集設定] 画面を使用して、ログ収集の対象とする機器を選択します。ログ収集の設定後、設定内容を反映するためにログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)の再起動が必要です。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

- 2. [Setup]画面左側の[ログ収集設定]をクリックし、画面右側でログ収集の対象とする機器を選択します。
- 3. リストからログ収集の対象となる機器のチェックボックスをオンにし、[登録] ボタンをクリックします。

監視対象機器のOS上にServerView Agents/ServerView Agentless Serviceがインストールされている場合は、[Agents] チェック ボックスをオンにします。その場合、「5.6.4 ログ転送の設定(ホストOSがWindowsの場合)」の設定は不要です。 なお、監視対象機器ではない場合、[Agents] チェックボックスをオンにする必要はありません。

<b>_</b>	が順集設定					最新の状態に更新
"	24X #BXAE					
	機器名	IPアドレス	モデル名	ホスト名	動作OS	Agents
	BX400	10.25.3.210	PRIMERGY BX400 S1	-	-	
	BX900S2	192.168.181.100	PRIMERGY BX900 S2	-	-	
	BX920S3-1	192.168.181.101	PRIMERGY BX920 S3	win	WindowsServer2012 R2 Standard (Full)	
	BX920S3_slot5	10.25.3.213	PRIMERGY BX920 S3			
	CFX2000R-1	192.168.181.200	CFX2000R	-	-	
	DX100S3	192.168.181.130	ETERNUS DX100 S3	-	-	
	FSW-CB1	192.168.181.200	PYBCFB1010	-	-	
	RX200S8-1	192.168.181.120	PRIMERGY RX200 S8			
	RX4770M1	10.21.136.203	PRIMERGY RX4770 M1			
	SR-X340TR1	10.25.3.240	SR-X	-	-	
	fc	192.168.1.4	FC-switch	-	-	
	lan	192.168.1.3		-	-	
	slot1	10.21.136.176	PRIMERGY CX2550 M1			
	slot2	10.21.136.215	PRIMERGY CX2550 M1			
		1				
	全選択全選択解除					登録



- 機器名が赤で表示されている機器はログ収集対象には設定できません。
- ServerView Agents/ServerView Agentless ServiceがOS上に動作している場合、必ず [Agents] チェックボックスをオンにしてください。[Agents] チェックボックスがオフの場合、ServerView Agents/ServerView Agentless ServiceとISMのログ収集機能の二重通報になります。

- ーサーバをログ収集対象に設定するためには、各パラメーター(IPアドレス/ログインID/パスワード/モデル名/ホスト名/ OS名)の設定が必要です。ただし、RXサーバでSEL取得のみを対象とする場合は、OSのIPアドレス/ログインID/パスワー ド/ホスト名またはOS名の設定は不要です。
- 設定方法については、「4.2 [Facility Manager] 画面」を参照してください。
- PRIMERGY BXシリーズ、LAN/コンバージドファブリック/FCスイッチブレード、集約スイッチやストレージは、ホスト名、OS 名、Agentの設定は不要です。
- ファブリックを組んでいるネットワーク機器の場合、Rootドメインマスターの機器だけが収集対象として選択できます。Rootドメインマスター以外には代表のIPが表示され、グレースケールで表示されます。
- LAN/コンバージドファブリック/FCスイッチブレードをログ収集対象とする場合には、必ず搭載しているBXサーバをログ 収集対象として登録してください。

4. OSの管理ツールの [サービス] から [ServerView LogCollect and Checker] を選択し、ServerView LogCollect and Checkerサー ビスを再起動します。

ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)が再起動すると、監視対象機器情報が反映されます。



- ログ収集設定を変更した場合には、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)の再起動が必要です。再 起動しないと、監視対象の機器のログ収集や監視ができません。
- ・監視対象にWindows OSを指定する場合、「5.6.4 ログ転送の設定(ホストOSがWindowsの場合)」の設定後にログ収集機能
   (ServerView LogCollect and Checkerサービス)の再起動が必要です。

### 5.6.2 定期ログ収集開始時刻の変更

初期設定では、毎日0:30に自動的にログが収集されますが、定期ログ収集開始時刻は変更することができます。

ここでは、定期ログ収集開始時刻を変更する手順について説明します。

1. ログ収集開始時刻設定ファイル(logcollect.conf)にてログ収集開始時刻を設定します。

以下のファイルをテキストエディタで開き、時刻(下記赤字)を修正します。 設定できる値の範囲は、00:10~23:50です。

[ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー] ¥usr¥logcollect.conf

デフォルトでは以下のフォルダーになります。

C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\u00e4usr\logcollect.conf





時刻は必ず4桁で指定してください。 例:1:30に開始する場合は、01:30と指定します。

- 一 設定時刻は現在時刻より10分以上間隔を空けてください。
   10分以内に設定した場合、ログ収集されるのが翌日になることがあります。
- 2. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動します。

## 5.6.3 ログ転送の設定(ホストOSがVMware ESXiの場合)

ホストOSがVMware ESXiの場合の設定内容を説明します。 設定にはVMware vSphere Client(以降vClientと表記)を使用します。

管理用サーバ上のvClientを使用するか、お客様でクライアント端末を準備してください。 クライアント端末には、vClientのインストールが必要です。インターネット経由でVMware社のサイトよりダウンロードし、インストールして ください。

### ログ転送の設定

- 1. vClientを起動します。
- 2. [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [詳細設定] をクリックします。



3. [syslog] 配下の [global] を選択し、[Syslog.global.logHost] に転送先 (管理用サーバ)のIPアドレスを入力して [OK] ボタンをク リックします。

〕詳細設定	
- Annotations - BufferCache - CBRC - CORC - COW	Syslog.global.defaultRotate (保持するローテーションされるログのデフォルト数。ゼロでデフォルトにリセットされます。 最小: 0 最大: 100
– Cpu – DataMover – Digest – DirentryCache – Disk – FSS	Syslog.global.defaultSize     102       ローテーション前のログのデフォルト サイズ (VB 単位)。ゼロでデフォルトにリセットされます。     最小:       最小:     0       最大:     10240
- FT - HBR - Irq - LPage - Mem	Syslog.global.logDir [] /scratch/log ログの出力先となるディレクトリのデータストア パス。NULL でデフォルトにリセットされます。併: [datastoreNam
Migrate Misc Net NPS Numa PageRetine	Syslog.global.logDrUnique ホスト名に基づき、logdrの固有のサブディレクトリにログを配置します。
Power     RdmFilter     ScratchConfig     Scsi     SvMotion     Sysion     global     topgers     User     UserVars	Syslog.global.logHost ログの出力先リモート ホスト。NULL でデフォルトにリセットされます。複数のホストがサポートされており、それ
VMFS3	UI OK キャンセル ヘルブ 他

### ログ転送用のファイアーウォール設定

- 1. vClientを起動します。
- 2. [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [セキュリティプロファイル] をクリックします。 サービスとファイアーウォールの情報が表示されたら、ファイアーウォールの [プロパティ] をクリックします。

Proving 1040 Mag 400 100-Y		1-704-1-0-630004-7 (140)	P 9998		
ハードウェア	セキュリティブロファイル				
御会性 ステータス	サービス			更新	プロパティ
TRICH SA	I/O リダイレウタ (Active Direc	tory サービス)			
70099	ネットワーク ログオン サーバ (	Active Directory サービス)			
UEX	Ibtd				
ストレージ	VENa				
ネットワーク	111 ビック ジェルト				
2 h Low (2 10/2/2	ローカル セキュリティ 認識サー	-バ (Active Directory サービス)			
A - LT - h THERE	NTP F-E				
*917-97979	SSH				
TENERS IN THE	ダイレクト コンソール UI				
電力管理	CIM サーバ				
DLO.7	ファイアウォール			更新	70/15-1
11.10	受信报费				
ライセンス機能	DHOP クライアント	68 (UDP)	すべて		
時間の構成	vSphere Client	902. 443 (TCP)	すべて		
new to http://www.co.dt	NFC	902 (TCP)	すべて		
0000000-7122	フォールトトレランス	8100, 8200 (TCP, UDP)	すべて		
1216.0-67	vMotion	8000 (TCP)	すべて		
仮想マシン記載シャットタウン	CIM SUP	427 (UDP, TCP)	すべて		
仮想マシンスワップファイルの場所	SNMPサーバ	161 (UDP)	すべて		
セキュリティブロファイル	DNSクライアント	53 (UDP)	すべて		
まてた あみかい のの時代	vSphere Web Access	80 (TCP)	すべて		
A THE LODE THE REAL	発情接続				
システムリシース創む目し	H5R	31031, 44046 (TCP)	すべて		
エージェントの思マシンの快定	DHCP クライアント	68 (UDP)	すべて		
詳細設定	NFC	902 (TCP)	すべて		
	NTP クライアント	123 (UDP)	すべて		
	maning	E14 1514 0 IDD 3000	単んて		

[ファイアウォールのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ラベル] で [syslog] チェックボックスをオンにして [OK] ボタンをクリックします。

ービスまたはクライアントにアクセ され、すべてのボートを閉じるた	スペスショニンパインは、チェックボック 「検定すると停止します。	りスを選択します。テーモンは、	ポートを開くと自り	ikié Si Jihi	
5K/k	入力ポート	出力ポート	プロトコル	デーモン	
フォールト トレランス	8100, 8200	80, 8100, 8200	TCR, UDP	該当なし	
DVFilter	2222		TCP	該当なし	
NFC	902	902	TCP	該当なし	
CIM セキュアサーバ	5989		TCP	実行中	
HER		31031, 44046	TCP	該当なし	
19/01		9	UDP	該当なし	
syslog		514, 1514	UDP, TCP	該当なし	
DVSSync	8301, 8302	8302, 8301	UDP	該当なし	
CIM サーバ	5988		TCP	実行中	
עדו-לכל ווצכצו קבליורע	2F	3260	TCP	該当なし	-
ナービスのフロパティー 全般 サービス: パッケージ情報:	SSH サーバ ess-base				
7=-(10)+(1時定	This VIB contains all of the bas	se functionality of vSphere ES	590.		
A THE THE PARTY OF					
許可された い アドレス:	すべて				
		7717	)#=.M 2	サラション	L

4. ファイアーウォールの [発信接続] に [syslog] の行が存在することを確認します。



#### ログ受信側の設定

ホストのログを管理用サーバ上で受信するために、VMware社の仮想化監視ソフトウェア VMware vCenter Server(以降vCenterと表記)のインストーラに含まれるSyslog Collectorを利用しています。以下にその設定方法を説明します。

- 1. 管理用サーバ上で、vCenterのインストーラを展開し、インストーラを実行します。
- 2. [VMware vCenterインストーラ] 画面で [VMware Syslog Collector] を選択します。



3. ターゲットフォルダのvSphere Syslog Collectorの構成を編集します。 [リポジトリディレクトリ]の [変更] ボタンをクリックします。

週	vSphere Syslog Collector
ターゲ 「次 て異	<b>ットフォルダ</b> ヘ」をクリックしてこのフォルダにインストールするか、「変更」をクリックし なるフォルダヘインストールしてください。
	vSphere Syslog Collector のインストール先: C:WProgram Files (x86)WMwareWMware Syslog Collector¥ 変更 (C)
vSpher	e Syslog Collector の構成
	リボジトリ ディレクトリ: C:¥ProgramData¥VMware¥VMware Syslog Collector¥Data¥ 変更 (H)
	ローテーション前のログ ファイルのサイズ (S): 2 MB
	(保存するためのログのローテーション (L): 8
InstallShi	eld
	< 戻る (B) 次へ (M) > キャンセル

4. ターゲットフォルダのパスを確認後、以下のように設定し、[OK] ボタンをクリックします。

## 몓 ポイント

ログ保存先のパスは[環境変数]の[SVlcc\_LOGSPATH]で確認できます。

[SVlcc\_LOGPATH]の値が「C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVlcc¥Logs」の場合、以下のようになります。

パス:C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVlcc¥Logs¥work

例:ログ保存先のパスが「C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVlcc¥Logs」の場合

虔	vSphere Syslog Collector		x
Ŗ	し在のターゲット フォルダを変更		
	ターゲットフォルダを参照します。		
	稅索 (L):		
	🚞 work 🗸	1	
	<ul> <li>フロッピー ディスク ドライブ (A:)</li> <li>ローカル ディスク (C:)</li> </ul>		]
	Program Files (x86)		
	🔲 Fujitsu		
	Plugins		
	SVIcc		
	Logs .		_
	2 DVD ドライブ (D:)		
Insta	allShield		
	ОК	キャンセル	,

5. ローテーション前のログサイズを以下のように設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

[ローテーション前のログファイルのサイズ]:2MB

[保存するためのログのローテーション]:80

퀑	vSphere Syslog Collector
<b>ターゲ</b> : 「次/ て異	<b>ットフォルダ</b> い」をクリックしてこのフォルダにインストールするか、「変更」をクリックし なるフォルダヘインストールしてください。
	vSphere Syslog Collector のインストール先: C:¥Program Files (x86)¥WMware¥WMware Syslog Collector¥ 変更 (C)
vSphere	e Syslog Collector の構成
	リボジトリ ディレクトリ: C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥Server View Suite¥Plugins¥5Vicc¥Logs¥work¥ 変更 (H)
	ローテーション前のログ ファイルのサイズ (5): 2 MB 保存するためのログのローテーション (L): 80
InstallShie	ld
	< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

6. セットアップタイプで [スタンドアロンインストール]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

劇	vSphere Syslog Collector
セット	<b>アップタイプ</b>
	ズに最も適したセットアップタイプを選択してください。
•2	タンドアロン インストール (5)
1	vSphere Syslog Collector をこのマシンにインストールします。
ov	<b>Mware vCenter Server の行ンストール (Y)</b>
1	VMware vCenter Server の統合インストール。
InstallShi	eld <戻る(10) 次へ(10) > キャンセル

7. ポートの設定は初期値のままで、[次へ] ボタンをクリックします。

岁 vSphere Syslog Collector	×
vSphere Syslog Collector のポートの設定 vSphere Syslog Collector サーバのボートを指定します。	
vSphere Syslog Collector サーバのボート(S):  514 「TCP プロトコル (T) 「UDP プロトコル (U)	
vSphere Syslog Collector サーバの SSL ポート(⊵): 「I514 ▼ セキュアな接続 (E) (SSL)	
InstallShield <戻る(B) 次へ	(N) > キャンセル

8. vSphere Syslog CollectorのIDは、インフラ管理VMの仮想マシンに割り当てたIPアドレスを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。

遢	vSphe	re Syslog Coll	ector	×
vSphere S vSphere	yslog Collector の ID Syslog Collector の識別名を	達択します。		
vSphere 定します。	Syslog Collector がネットワー ,	ウ上でどのように議制	されるのかを指	
10.24.7	6.135		~	
Instal/Shield -		< 戻る (B)	)次へ (N) >	キャンセル

9. [インストール]をクリックします。

インストールが完了します。

Syslog Collectorの詳細については、VMware社が公開しているvCenterのインストールガイドを参照してください。

### 5.6.4 ログ転送の設定(ホストOSがWindowsの場合)

監視対象のOSがWindowsの場合の設定は以下のとおりです。

## 🔓 注意

監視対象OS上の異常監視をしない場合には、本設定は不要です。

#### ログ受信側の設定(インストール後1回のみ行う設定)

ホスト上のイベントログを、ISMで管理しているOSへ転送するための設定を行います。

本設定は、SVlccをインストール後1回のみ行ってください。

1. WinRMを設定します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

#### winrm quickconfig

以下のメッセージが表示された場合は、WinRMは、設定済です。手順2に進みます。

```
WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
このコンピューター上でのリモート管理には、WinRM が既に設定されています。
```

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

```
WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
WinRMは、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。
次の変更を行う必要があります:
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう
LocalAccountTokenFilterPolicyを構成してください。
変更しますか [y/n]? y
```

以下のメッセージが表示されます。

WinRMはリモート管理用に更新されました。

ローカルユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicyを構成しました。

2. サービスのスタートアップモードを変更します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

wecutil qc

3. 以下のメッセージが表示されるので、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

サービスのスタートアップモードは Delay-Start に変更されます。続行しますか ( Y- はい、または N- いいえ)?

以下のメッセージが表示されます。

Windowsイベントコレクターサービスの構成は成功しました。

#### ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するごとに行う設定)

ホスト上のイベントログを、ISMで管理しているOSへ転送するための設定を行います。

本設定は、監視対象サーバを増やすごとに行ってください。なお、設定には以下の情報が必要です。

- ・ 監視対象サーバのIPアドレス(本手順では「1.2.3.4」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのコンピュータ名(本手順では「MY-PC1」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのログインID(本手順では「Administrator」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのパスワード(本手順では「Password1」として説明します。)
- 1. リモートイベント監視用のサブスクリプションを作成します。

以下のフォルダーにサブスクリプション作成用の設定ファイル(サンプル)をコピーした後、ファイル名を変更(X.X.X.XをIPアドレ スに変更)してください。

変更前(サンプルの格納先とサンプルの設定ファイル)

[ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー]¥usr¥Event-X.X.X.X.xml

変更後(コピー先と変更後のファイル)

[ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー]¥usr¥event¥Event-1.2.3.4.xm]

2. サブスクリプション作成用の設定ファイルを修正します。

手順1でコピー、リネームしたEvent-1.2.3.4.xmlをテキストエディタで開き、3行目と32行目を以下のように修正します。

- 3行目

変更前:<SubscriptionId>Event-X.X.X.X</SubscriptionId>

変更後:<SubscriptionId>Event-1.2.3.4</SubscriptionId>

- 32行目

変更前:<Address>X.X.X.X</Address>

変更後:<Address>1.2.3.4</Address>

### 🕑 ポイント

Event-1.2.3.4の設定は、以降の手順で使用するため必要に応じてメモしてください。

3. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

wecutil cs <sup>"</sup>[ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー]¥usr¥event¥Event-1.2.3.4.xml<sup>"</sup>/cun:[監視対象サーバのコンピューター名]¥[監視対象サーバのログインID] /cup:[監視対象サーバのパスワード]

例:

wecutil cs "C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\Plugins\SVlcc\usr\event\Event-1.2.3.4.xml" /cun: MY-PC1\Administrator /cup:Password1

監視対象サーバをTrustedHostに登録します。
 Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

winrm get winrm/config/client

5. 表示された結果のTrustedHostsの設定を控えます。

以下は、IPアドレス「1.1.1.」と「2.2.2」が登録されている場合の例です。

```
Client
NetworkDelayms = 5000
URLPrefix = wsman
AllowUnencrypted = false
Auth
Basic = true
Digest = true
Kerberos = true
Negotiate = true
Certificate = true
CredSSP = false
DefaultPorts
HTTP = 5985
HTTPS = 5986
TrustedHosts = 1.1.1.1,2.2.2.2
```

6. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

以下は、現在の設定にIPアドレス「1.2.3.4」を追加する場合の例です。カンマ区切りで今回追加するIPアドレスを含めて設定します。 設定値は手順2でメモしたAddressになります。

winrm set winrm/config/client @{TrustedHosts="1.1.1.1.1.2.2,2.2,1.2.3.4"}

7. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

設定値は手順2でメモしたSubscriptionIdになります。

wecutil rs Event-1.2.3.4

上記設定を監視対象サーバの台数分、行ってください。

#### 監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)

監視対象サーバにリモートデスクトップで接続し、以下の設定を行います。

1. Event Log ReadersグループにAdministratorを追加します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

net localgroup "Event Log Readers" Administrator /add

追加されると、以下のメッセージが表示されます。

コマンドは正常に終了しました



すでに設定済の場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。

システム エラー 1378 が発生しました。 指定されたアカウント名は既にグループのメンバーです。

2. WinRMを設定します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

winrm quickconfig

以下のメッセージが表示された場合は、WinRMは、設定済です。手順3に進みます。

出力されるメッセージは、OSにより異なります。

- Windows Server 2012の場合

WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。 このコンピューター上でのリモート管理には、WinRM が既に設定されています。

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。 WinRMは、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。 次の変更を行う必要があります: ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicyを構成してください。 変更しますか [y/n]? y

以下のメッセージが表示されます。

WinRMはリモート管理用に更新されました。 ローカルユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicyを構成しました。

- Windows Server 2008 R2の場合

WinRM は既にこのコンピューター上で要求を受信するように設定されています。 WinRM には既にこのコンピューター上でのリモート管理が設定されています。

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

WinRM は既にこのコンピューター上で要求を受信するように設定されています。 WinRM は、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように 設定されていません。 次の変更を行う必要があります: このコンピューター上のあらゆる IP への WS-Man 要求を受け付けるため、 HTTP://\* 上に WinRM リスナーを作成します。 WinRM ファイアウォールの例外を有効にします。 ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicy を構成してください。

変更しますか [y/n]?

以下のメッセージが表示されれば、WinRMの設定は完了です。

WinRM はリモート管理用に更新されました。

このコンピューター上のあらゆる IP への WS-Man 要求を受け付けるため、 HTTP://\* 上に WinRM リスナーを作成しました。 WinRM ファイアウォールの例外を有効にしました。 ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicy を構成しました。

3. サービスのスタートアップモードを変更します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

wecutil qc

4. 以下のメッセージが表示されるので、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

サービスのスタートアップモードは Delay-Start に変更されます。続行しますか (Y- はい、または N- いいえ)?

以下のメッセージが表示されます。

Windowsイベントコレクターサービスの構成は成功しました。

5. ログ転送用のファイアーウォールを設定します。

監視対象の各サーバで、Windowsファイアーウォールを有効にして運用する場合は、ログ転送のために以下のポートを開放します。

ネットワークトラフィックの名前	サーバポート
リモートイベントのログ管理(RPC)	TCPの動的ポート、EventLog(Windows イベントログサービス)
リモートイベントのログ管理(RPC- EPMAP)	RPCのエンドポイントマッパー

- a. 監視対象の各サーバで [コントロールパネル] [システムとセキュリティ] [Windows ファイアウォール] を選択して表示される画面で、左側の [詳細設定] をクリックします。
- b. [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] 画面左側の [受信の規則] をクリックします。
- c. 受信の規則が表示されたら、[リモートイベントのログ管理(RPC)]を選択し、右クリックして表示されるメニューで [規則の有効化]をクリックします。
- d. [リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)]を選択し、右クリックして表示されるメニューで [規則の有効化] をクリックします。

設定が完了すると、[リモートイベントのログ管理(RPC)]、[リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)]の左端のチェックボックスがオンになり、緑色で表示されます。

#### ログ受信側でのログ転送確認

上記の監視対象サーバ側の設定完了後に、ログ受信側にて設定を行います。

1. ログ受信側でAdministrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

指定する値は、「ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するごとに行う設定)」の手順2でメモしたSubscriptionIdになります。

wecutil gr Event-1.2.3.4

```
以下のような結果が表示されます。
```

2箇所の「RunTimeStatus」が、「Active」になっていて、「LastError」が「0」ならば、設定は完了です。

```
Subscription: Event-1.2.3.4

RunTimeStatus: Active

LastError: 0

EventSources:

1.2.3.4

RunTimeStatus: Active

LastError: 0
```

上記のような結果が得られなかった場合、次の設定を見直してください。

「ログ受信側の設定(インストール後1回のみ行う設定)」

「ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するごとに行う設定)」 「監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)」の手順1~4 以下の設定を監視対象サーバごとに実施します。 「ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するごとに行う設定)」 「監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)」 「ログ受信側でのログ転送確認」

2. 監視対象サーバの設定がすべて終了したら、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。

## 5.6.5 異常通報の設定

異常通報先の設定手順を説明します。

SVOMのイベントマネージャーの [アラーム設定] 画面で、通報先とアクション (Trap、Mailなど)を設定することで、ログ収集機能が検出した異常を通知できます。

ここでは、ServerView Event ManagerのTrapとMail通知の設定を説明します。設定内容について詳しくは、ServerView Event Manager のマニュアルを参照してください。

### SVOMの設定

- 1. 管理用サーバでSVOMを起動し、メニューから[イベント管理] [アラーム設定]を選択します。
- 2. ServerView Event Managerマニュアルの「アラーム設定」に従って、アラームルールを作成します。
- 3. [サーバーの割り当て]には、ISMがインストールされている管理サーバを設定します。
- 4. [アラームの割り当て] では、以下のルールを選択します。
  - Driver Monitoring error event
  - Driver Monitoring information event
  - Driver Monitoring warning event
- 5. [アクションの割り当て]の[追加]ボタンをクリックし、メールとアラーム転送(Trap)をそれぞれ作成します。

### 🕑 ポイント

Trapを設定する場合、[アラーム転送設定] タブの [転送モード] で [パススルー] と[透過] のチェックボックスをオンにします。

- 6. 必要に応じて [フィルタルール/共通の設定] を設定します。
- 7. [アラームルール] 画面で、作成したアラームルールの [有効] チェックボックスがオンになっていることと、その設定内容を確認します。

#### SNMPサービスの設定

ログ収集機能を使用するためには、SNMPサービスの設定が必要です。 管理用サーバと通報先サーバのトラップの設定を行います。 SNMPサービスのインストールについては、SVOMのインストールガイドを参照してください。

1. OSの管理ツールの [サービス] から [SNMP Service] を右クリックして表示されるメニューで [プロパティ] をクリックします。

[プロパティ] 画面が表示されます。

2. [トラップ] タブをクリックし、[コミュニティ名] に管理用サーバと通報先のサーバがトラップ受信可能な名称を設定し、[トラップ送信 先] に管理用サーバのIPアドレスと送信先サーバのIPアドレスを追加します。

(ローカル コンピューター) SNMP Service のプロパティ
全般 ログオン 回復 エージェント トラップ セキュリティ 依存職係
SNMP サービスは、TCP/IP プロトコルと IPX/SPX プロトコルを介したネットワー ク管理を可能にします。トラップが必要な場合は、1 つ以上のコミュニティ名を悟定 しなばればなりません。トラップの送信先は、ホスト名、IP アドレス、または IPX ア ドレスのいずれかです。
コミュニティ名(():
public ~ 一死に追加(上)
一覧から削除(民)
トラップ送信先(工):
192.168.10.20
追加(D) 編集(E) 削除(M)
And the second s
<u>SNMP</u> の详細を表示します
OK キャンセル 適用(A)

- 3. [セキュリティ] タブをクリックし、手順2で設定したコミュニティ名を設定し、管理用サーバと送信先サーバのSNMPパケットを受け 付けるように、送信先のIPアドレスを追加します。
- 4. [適用] ボタンをクリックします。

# 5.6.6 FTPサーバ情報の登録

監視対象が以下の場合に、FTPサーバの設定が必要です。

- ・ ETERNUS DXシリーズ
- ・ FCスイッチブレード

FTPサーバは、ISMがインストールされているOS上に設定します。

また、収集対象機器がFTPサーバーとは異なるネットワークに存在する場合、ルータを設定するなど各ネットワークで通信可能な状態 にしてください。

「3.1.7 FTPサーバの設定(OS)」を参照し、FTPサーバをインストールしたあと、FTPサーバ情報をログ収集機能に登録します。

- ・ FTPサーバのIPアドレス(\*1)
- ・ FTPサーバへのログインID (\*2)
- ・ FTPサーバへのログインパスワード(\*3)
  - \*1: IPv4のみサポート。

\*2:「FTPサーバのインストール」の手順20で、アクセスを許可した管理者権限のあるユーザー名を指定。

\*3: 設定した情報は暗号化して保存。

FTPサーバ情報の登録には、コマンドラインツール「setftpinfo」を使用します。

setftpinfoの仕様は次のとおりです。

入力形式

#<環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥bin¥setftpinfo <オプション>

オプション

-i:対話形式で、FTPサーバのIPアドレス、ログインID、パスワードを暗号化し、ファイルへ出力する。

-c: 設定した情報が正しいか確認する。

### 終了ステータス

0:正常終了

1: 異常終了

## 몓 ポイント

- コマンドの実行には、WindowsのAdministrators権限が必要です。Administrators権限以外で実行すると、終了ステータスが不定になります。
- ・ ツールの実行後、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動すると情報が登録されます。登録後に FTPサーバのIPアドレス、ID、パスワードを変更した場合、登録し直す必要があります。

#### 使用例

1. FTPサーバのIPアドレスとログイン情報を設定します。

```
#〈環境変数「SVIcc_INSTALLPATH」〉¥bin¥setftpinfo - i
Input FTP IPv4 address: 192.168.1.2
Input Login ID: Administrator
Input Login PASSWORD: ******
```

情報を暗号化したファイルが、<環境変数「SVlcc\_INSTALLPATH」>¥local¥ftpinfoファイルに出力されます。

2. 設定した情報が正しいかチェックします。

# <環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥bin¥setftpinfo -c

次のどちらかのメッセージが表示されます。

- 設定した情報が正しい場合

Successful execution of the command.

- 設定した情報が正しくない場合

```
Failed to execute the command
```

設定した情報が正しくない場合、FTPサーバの設定や、手順1で設定した内容を確認し、設定し直します。

3. ログ収集機能を再起動します。

OSの管理ツールの[サービス]から[ServerView LogCollect and Checker]を選択し、再起動します。

手順1で出力されたファイルを使用して、ログ収集機能にFTPサーバ情報が登録されます。

### 5.6.7 通知メッセージ

通知メッセージは、以下の形式で通報されます。

・メール

Driver Monitoring <エラーレベル>event at server <機器名>: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID> <故障箇所> <通報メッセー ジ> time\_of\_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュータ名/ホスト名> • Trap

SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.1 = STRING: <機器名> SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.2 = INTEGER: <異常が発生した時刻(UTC)> SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.5 = STRING: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID> <故障箇所> <通報メッセージ> time\_of\_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュータ名/ホスト名>

#### 表5.4 通知メッセージ(Trap)項目説明

項目	説明
機器名	異常が発生した機器名。
	Infra_Managerの場合は管理仮想マシンで発生した異常を示す。
エラーレベル	システムに対する影響度。
イベントID	異常の採番番号。
故障箇所	故障している箇所。
通報メッセージ	ログ収集が検知して出力する通知メッセージ。
time_of_occurrence	異常が発生した時刻。(*1)
hostname	コンピュータ名/ホスト名。

\*1: イベントログまたはESXiのログから先頭の日付・時刻だけ抜き出したもの。ダウンロードしてきたPRIMERGY BXシリーズのサーバブレード、PRIMERGY RXシリーズのESXiのログや管理用サーバ上のイベントログから実際に出力されたドライバ/ソフトウェアのログを参照する場合、この時刻をキーに探す。

### 5.6.8 異常発生時の対処

ログ収集機能が通知する異常メッセージは、以下のようにハードウェア(サーバ上に搭載されているPCIカードなど)とISMがインストールされたOS上のソフトウェア(SVOM、ISMなど)に分けられます。



ハードウェアの異常とソフトウェアの異常の対処方法は、以下のとおりです。

・ハードウェアの異常(ファイバーチャネルカード/コンバージドネットワークアダプター/内蔵LAN/SCSIデバイス)

ログ収集が通報した場合もServerView Agentsと同様の対処を行います。

故障箇所は、TrapまたはMail情報の [通知メッセージ] にあるバス情報 (xxxx:xx:xx.x) / デバイス名 (vmnicX、vmhbaなど)から 特定します。

・ISMがインストールされているOS上のソフトウェア異常

Trap/Mail情報の[故障箇所]に表示される内容が、異常が発生しているソフトウェアです。

必要に応じて、[ログ収集] 画面の「Infra\_Manager」から各ソフトウェアのログを収集して対処します。詳しくは、「5.6.9 ログのダウン ロード」を参照してください。

## 5.6.9 ログのダウンロード

[ログ収集]画面では、ログ収集の対象とする機器を選択し、収集したログをダウンロードできます。

1. [Facility Manager]-[ログ収集]をクリックします。

詳しくは、「4.2 [Facility Manager]画面」を参照してください。

2. 対象の機器を右クリックし、表示されるメニューで[ログダウンロード]をクリックします。

0052         192.168.181.100         PRIMERGY BX900 S2         ログダウンロード         無           2058-1         102.168.181.101         PHIMERGY BX020 S8         WindowsServer2012 R2 Stan         無           0058-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200 S8         MindowsServer2012 R2 Stan         無           770M1         102.138.203         PRIMERGY RX4770 M1          無           X340TR1         102.53.240         SR-X           無           192.168.1.4         FC-switch          無           無           1         102.138.176         PRIMERGY CX2550 M1	K300S2         192.168.181.100         PRIMERGY EX300 S2         ログダウンロード         WindowsServer2012 R2 Stan         無           K020S8-1         192.168.181.101         PRIMERGY EX200 S8         WindowsServer2012 R2 Stan         無           K200S8-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200 S8         MindowsServer2012 R2 Stan         無           K4770M1         102.1.36.208         PRIMERGY RX4770 M1         MindowsServer2012 R2 Stan         無           R-X340TR1         1025.3240         SR-X         MindowsServer2012 R2 Stan         無           192.168.1.4         FC-switch         無         無           ot1         102.1.36.176         PRIMERGY CX2550 M1         MindowsServer2012 R2 Stan         無           ot1         127.0.0.1         -         Infra_Management         -         -	69-0	TPアドレス	モデル名	ホスト名	動作のS	Agent
2058-1         102.168.181.101         PHIMERGY BX020.58         WindowsServer2012 P2.51an         ##           0058-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200.58         ##         ##           770M1         102.136.203         PRIMERGY RX4770 M1         ##         ##           X340TR1         102.58.240         SR-X         ##         ##           192.168.1.4         FC-switch         ##         ##           1         10.21.36.206         PRIMERGY CX2550 M1         ##         ##           1         10.21.36.176         PRIMERGY CX2550 M1         ##         ##           1         127.0.1         -         Infra_Management         -         -	XU2USS-1         192.168.181.101         PHIMEHAY EXU2U S3         UD9000EP         WindowsServer2012 H2 Stan         ##           X200S8-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200 S8           ##           X4770M1         10.21.136.203         PRIMERGY RX4770 M1          ##           R-X340TR1         10.25.3.240         SR-X          ##           192.168.1.4         FC-switch          ##           1011         10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1          ##           1011         10.21.036.176         PRIMERGY CX2550 M1          ##           1011         10.21.036.176         PRIMERGY CX2550 M1          ##	X900S2	192.168.181.100	PRIMERGY BX900 S2			#
0058-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200.88         end         mmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmm	RX20088-1         192.168.181.120         PRIMERGY RX200 S8         end         mmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmmm	BX92088-1	192.168.181.101	PRIMERGY BX920 S8		WindowsServer2012 R2 Stan	<b></b> #
770M1         10.21.136.203         PRIMERGY RX4770 M1         ##           X340TR1         10.25.3.240         SR-X         ##           192.168.1.4         FC-switch         ##           1         10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1         ##           127.00.1         -         Infra_Management         -         -	XX4770M1         10.21.136.203         PRIMERGY RX4770 M1         media         media           SR-X340TR1         10.25.3240         SR-X         media         media           c         192.168.1.4         FC-switch         media         media           oloc1         10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1         media         media           oloc1         127.0.0.1         -         Infra_Management         -         -	RX200S8-1	192.168.181.120	PRIMERGY RX200 S8			無
X340TR1         10.25.3.240         SR-X         media         media	SR-X340TR1         10.25.3.240         SR-X         Image: second secon	RX4770M1	10.21.136.203	PRIMERGY RX4770 M1			無
192.168.1.4         FC-switch         無           1         10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1         無           127.0.0.1         -         Infra_Management         -	Information         Information         Information         Image: Information	SR-X340TR1	10.25.3.240	SR-X			無
10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1         ##           127.0.0.1         -         Infra_Management         -         -	slot1         10.21.136.176         PRIMERGY CX2550 M1         #           -         127.0.0.1         -         Infra_Management         -         -	fc	192.168.1.4	FC-switch			無
127.0.0.1 - Infra_Management	- 127.0.0.1 - Infra_Management	elot1	10.21.136.176	PRIMERGY CX2550 M1			無
		-	127.0.0.1	-	Infra_Management	-	- 1
					-		

3. ダウンロード画面が表示されたら、収集するログの[選択]チェックボックスをオンにして、[ダウンロード]ボタンをクリックします。

	ログ収集			
アーカイブー覧:				
No	選択	File Name		
1		BX900S2_192.168.181.100_201411261901zip		
2		BX900S2_192.168.181.100_201411241606zip		
3		BX900S2_192.168.181.100_201411231606zip		
- 4		BX900S2_192.168.181.100_201411221606zip		
		キャンセル ダウンロード		

選択したログがローカルPCにダウンロードされます。

# 関 ポイント

ソフトウェアの保守情報は、ISMの [ログ収集] 画面の「Infra\_Manager」からダウンロードできます。

### 5.6.9.1 収集したログ

ログ収集機能で収集したログは、機器ごとにアーカイブされ、[ログ収集]画面からダウンロードできます。

ハードウェア機器(PRIMERGY BX系、RX系、ETERNUS DX系、スイッチ系)や、管理用サーバ上のソフトウェアに異常が発生して詳細を確認する場合、[ログ収集] 画面から対象機器のログをダウンロードして確認します。

ダウンロード方法については、「5.6.9 ログのダウンロード」を参照してください。

ダウンロードしたログは、以下のファイル名およびフォルダー構成で格納されています。

### PRIMERGY RX/CXシリーズ(SEL)

フォルダー名		説明
<枝	&器名>_ <irmcのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</irmcのipアドレス>	
	sel.txt	SEL情報
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

#### PRIMERGY RX/CXシリーズ上のOSログ(VMware)

フォルダー名		説明
<彬	&器名>_OS_ <irmcのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</irmcのipアドレス>	
	syslog.log	ESXiのログ

### PRIMERGY RX/CXシリーズ上のOSログ(Windows)

	フォルダー名	説明
<樽	幾器名>_OS_ <irmcのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</irmcのipアドレス>	
	sys_event.log	Windowsイベントビューアーのシステムのログ

### PRIMERGY BX 400/900

	フォルダー名	説明
<枝	幾器名>_ <mmbのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</mmbのipアドレス>	
	Dump_Post_Mortem.txt	不具合発生時の情報
	Dump_System_Information.txt	システム情報
	SEL_for_Management_Blade.txt	MMBのログ情報
	SEL_for_Server_Blade.txt	シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードのログ情報
	Server_Blade_Configuration_Status.txt	シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードの情報
	System_Configuration_Status.txt	シャーシ、およびシャーシに搭載されているすべてのMMB・スイッチ ブレードの情報

### サーバーブレード上のOSログ(VMware)

	フォルダー名	説明
<	幾器名>_OS_<サーバーブレードのiRMCのIPアドレス _<収集した時刻>	
	syslog.log	OSのログ

### サーバーブレード上のOSログ(Windows)

	フォルダー名	説明
<	機器名>_OS_<サーバーブレードのiRMCのIPアドレス _<収集した時刻>	
	sys_event.log	OSのログ

### LANスイッチブレード/コンバージドファブリックスイッチブレード

	フォルダー名	説明
< <sup>桃</sup> 刻	幾器名>_<各スイッチブレードのIPアドレス>_<収集した時 >	
	show_tech.txt	ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す情報show tech-support コマンドの結果
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

## FCスイッチブレード

	フォルダー名	説明
<機器名>_ <fcスイッチブレードのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</fcスイッチブレードのipアドレス>		
	supportsave/	ログー括収集コマンドの結果
	telnet_inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

### ETERNUS DXシリーズ

フォルダー名		説明
<機器名>_ <eternusのipアドレス>_&lt;収集した時刻&gt;</eternusのipアドレス>		
	log_dump_ <eternusのip>/</eternusのip>	export logコマンドの結果
	telnet_log.txt	ログ収集時のコンソールログ
	telnet-inlog.log	ログ収集時の接続情報のログ

### SR-X/CFXシリーズ

	フォルダー名	説明
<柞	幾器名>_<スイッチのIPアドレス>_<収集した時刻>	
	show_tech.txt	ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す情報show tech-support コマンドの結果
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

### ServerView Agent

フォルダー名	説明
SVAgent_<収集した時刻>	
	primecollect結果

### ServerView RAID Manager

フォルダー名	説明
SVRAID_<収集した時刻>	
	<ul> <li>RAIDLog.xml (C: ¥ Program Files ¥ Fujitsu ¥ ServerView Suite ¥RAID Manager¥web¥public)</li> <li>snapshot.xml (C: ¥Program Files ¥Fujitsu ¥ ServerView Suite¥RAID Manager¥bin)</li> </ul>
	・ イベントログ (アプリケーションのログ、csv形式) applog.csv
## ServerView Operation Manager

フォルダー名	説明
SVOM_<収集した時刻>	
	cmscollect.batの結果

### ServerView Infrastructure Manager

	フォルダー名	説明
SV	/ISM_<収集した時刻>	
		<ul> <li>C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism ¥Manager¥svfm_log*</li> </ul>
		<ul> <li>C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism ¥Manager¥logs¥</li> </ul>
		<ul> <li>C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism ¥log¥</li> </ul>
		<ul> <li>C:\U00e4Windows\U00e4System32\U00e4LogFiles\U00e4*.log</li> </ul>

#### ServerView Fabric Manager

フォルダー名	説明
SVFAB_<収集した時刻>	
	svfabcli log collectの結果

## 5.6.10 メッセージー覧

ログ収集機能によってイベントログに表示されるメッセージの一覧は以下のとおりです。

以下の形式で記載しています。

## <ID><ソース>:メッセージ

対処方法について記載しています。

## <62><SVIcc>PM child process abnormal end [%1:%2](%3) %3のプロセスが異常終了しました。

「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にSVlccのログを採取してシステム管理者に相談してください。

# <226><SVIcc> Failed to read (<環境変数(SVIcc\_INSTALLPATH)>local/ftpinfo) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3

FTPサーバの情報が登録されていません。 「5.6.6 FTPサーバ情報の登録」を参照し、設定を見直してください。

## <226><SVIcc> Failed to read (<環境変数(SVIcc\_INSTALLPATH)>tool¥config¥common ¥crb\_connection\_setup.ini) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3

ログ収集に必要な設定ファイルの読み込みに失敗しました。登録機器の構成やログ収集機能の設定を見直してください。 それでも改善しない場合には、「SVIcc調査資料収集コマンド」を参考にSVIccのログを採取してシステム管理者に相談してください。

## <7603><SVIcc> Failed to read server\_list.txt. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。

## <7605><SVIcc> Failed to decode the *machine* password. ret =n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数、 machineは機器名)

「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

#### <7607><SVIcc> Failed to get ExitCode. ret=n err\_no=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「ログ収集機能の監視対象と収集するログ」の表の「必要な設定」を参考に機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施して ください。

それでも改善しない場合は、「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

#### <7611><SVIcc> Wait timeout exceeded. ret =n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

同時に出力される下記の<7612>で機器を特定し、「ログ収集機能の監視対象と収集するログ」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。

<7612><SVIcc> Logcollect command failed. ret =n machine=n IP=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数) s1:ログ取得に失敗した機器名

## s2:ログ取得に失敗した機器のIP

「ログ収集機能の監視対象と収集するログ」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度 実施してください。

### <7622><SVIcc> Failed to read logcollect.conf. ret=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

#### <7627><SVIcc> ftpinfo read error. ret=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「5.6.6 FTPサーバ情報の登録」を参考にFTP情報の登録を行った後、再度実施してください。

#### <7634><SVIcc> There is no log collection target. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。

#### <7635><SVIcc> Command execution failed. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「SVIcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

#### <7639><SVIcc> Logcollect forced termination. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

ログ収集コマンドが強制的に終了されました。必要に応じて再度実施してください。

#### <11000~32999><SVIcc>

「5.6.8 異常発生時の対処」を参照して対処してください。

## 5.6.11 ログ関連コマンド

ログ関連のコマンドを説明します。

#### SVIcc調査資料収集コマンド

getosvlccコマンドは、SVlccの障害発生時の調査資料として、以下の情報を1つの圧縮ファイルにまとめて出力します。

- アプリケーションパッケージのインストール状況
- ファイル/モジュール一覧情報
- 設定ファイル
- 内部ログ
- トレースファイルなど

#### 入力形式

output\_filename には、圧縮した調査資料の出力先ファイルをフルパスで指定します。

# getosvlcc output\_filename

#### オプション

なし。



コマンドの実行には、WindowsのAdministrators権限が必要です。Administrators権限以外で実行すると、終了ステータスが不定にな ります。

## ログー括収集コマンド

logcollectコマンドは、SVlccが監視している対象機器のログを一括で収集します。ログは圧縮されて格納されます。

本コマンドの実行には、Administrator権限が必要です。

#### 入力形式

[ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー]¥bin¥logcollect [-o "出力パス"]

## オプション

[-o "出力パス"]

収集したログは、指定した出力先にログ収集対象機器ごとに保存されます。ログのフォーマットについては、「5.6.9.1 収集したログ」 を参照してください。



\_\_\_\_\_

- 出力パスは絶対パスで指定して、""(ダブルクォート)で括ってください。

- 出力パスは存在するフォルダーのパスを指定してください。

#### 使用方法

本コマンドを使用するには、事前にログ収集対象を設定しておく必要があります。設定方法については、「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」を参照してください。

. . . . . . . . . . . . . . . . . . . .

実行後、以下のように標準出力に進捗状況や異常発生時のメッセージなどが出力されます。

SVIcc: I 7600 logcollect command start. \*\*\*\*\*\* Log Collect <ログ収集完了数>/<ログ収集対象総数> finished \*\*\*\*\*

ログ収集完了時には、以下のメッセージが出力されます。

SVIcc: I 7600 logcollect logcollect completed.

# 🌀 注意

ログ収集を二重に起動させることはできないため、定期ログ収集中には同時に実施できません。前のログ収集が完了してから実施 してください。

#### 異常メッセージ(標準出力/イベントログ)

フォーマット:

SVIcc: 〈異常レベル〉〈エラー番号〉 〈メッセージ〉

## 異常レベル:

- ー W:警告メッセージ
- ー E:異常メッセージ

エラー番号	メッセージ	意味	対処
7601	標準出力: SVlcc: E 7601 logcollect Invalid option. LINE=n (nは10進の整数)	無効な引数が指定されました。	実行した引数を見直してください。 [-o "出力パス"]になります。
7602 7610 7616 7617 7620 7626 7632 7633 7640	標準出力: SVlcc: E 76xx logcollect Command failed. LINE=n (nは10進の整数、xxは左に記載のエ ラー番号)	ログ収集時に異常したのでコ マンドが異常終了しました。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
7603	標準出力: SVlcc: E 7603 logcollect server_list.txt read error.ret=n, LINE=n (nは10進の整数) イベントログ: Failed to read server_list.txt.FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	ログ収集対象機器情報の読み 込みに失敗しました。	「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」 を参考にログ収集対象機器を登 録してから再度実施してください。
7605	標準出力: SVlcc: E 7605 logcollect Failed to decode the password. ret=n, machine=n, File_No=n, line=n イベントログ: Failed to decode the <i>machine</i> password. ret =n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数 machineは機器名)	ログ収集対象機器情報の読み 込みに失敗しました。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
7607	イベントログ: Failed to get ExitCode. ret=n err_no=n FileNo=n LineNo=n	ログ収集時の戻り値の取得に 失敗しました。	「ログ収集機能の監視対象と収集 するログ」の表の「必要な設定」を 参考に機器の設定や機器の状態 を見直してから再度実施してくだ さい。 それでも改善しない場合は、 「SVIcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
7611	標準出力: SVlcc: W 7611 logcollect Wait timeout LINE=n イベントログ: Wait timeout exceeded. ret =n FileNo=n LineNo=n	ログ取得がタイムアウトしまし た。	同時に出力される下記の「7612」 で機器を特定し、「ログ収集機能 の監視対象と収集するログ」の表 の「必要な設定」を参考に失敗し た機器の設定や機器の状態を見 直してから再度実施してください。
7612	標準出力: SVlcc: W 7612 logcollect Logcollect	対象のログ収集に失敗しまし た。	「ログ収集機能の監視対象と収集 するログ」の表の「必要な設定」を

エラー番号	メッセージ	意味	対処
	failed. ret =n machine=s1 IP=s2 FileNo=n LineNo=n		参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実
	イベントログ: Logcollect command failed. ret =n machine=n IP=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数) s1:ログ取得に失敗した機器名 s2:ログ取得に失敗した機器のIP		施してください。
7622	標準出力: SVlcc: E 7622 logcollect conf file read error. ret=n File_No=n, LINE=n (nは10進の整数)	ログ収集に必要な設定ファイ ルの読み込みに失敗しまし た。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
	イベントログ: Failed to read logcollect.conf. ret=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)		
7623	標準出力: SVlcc: W 7623 logcollect logcollect.conf parameter error. value=n, ret=n, File_No=n, LINE=n (nは10進の整数)	ログ収集に必要な設定ファイ ルから情報の取得に失敗しま した。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
7627	標準出力: SVlcc: E 7627 logcollect FTP information read error. ret=n, File_No=n, LINE=n (nは10進の整数)	ログ取得に必要なFTPの情報 の取得に失敗しました。	「5.6.6 FTPサーバ情報の登録」を 参考にFTP情報の登録を行った 後、再度実施してください。
	イベントログ: ftpinfo read error. ret=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)		
7631	標準出力: SVlcc: E 7631 logcollect logcollect command is running now. LINE=n This command can not be multiple (nは10進の整数)	ログ収集コマンドが二重に起 動しています。	ログ収集コマンドは二重起動でき ません。初めに実行したログ収集 コマンドが終了してから実行してく ださい。
7634	標準出力: SVlcc: E 7634 logcollect There is no log collection target.	ログ収集対象機器が存在しま せん。	「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」 を参考にログ収集対象機器を登 録してから再度実施してください。
	イベントログ: There is no log collection target. FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)		
7635	イベントログ: Command execution failed. FileNo=n LineNo=n	ログ収集コマンドが異常終了 しました。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を 参考にログ収集機能のログを採取 してシステム管理者に相談してく ださい。
7639	標準出力: SVlcc: W 7639 logcollect logcollect forced termination.	ログ収集コマンドが強制終了 されました。	ログ収集コマンドが強制的に終了 されました。必要に応じて再度実 施してください。
	イベントログ : Logcollect forced termination. FileNo=n LineNo=n		

## ログ保存先変更コマンド

svlccsetlogpathコマンドは、SVlccが収集するログの保存先を変更します。

本コマンドの実行には、Administrator権限が必要です。 ログの保存先フォルダーは、本コマンドを実行する前に作成してください。

#### 入力形式

svlccsetlogpath.bat

#### オプション

なし

#### 使用方法

1. コマンドを実行すると、ログの保存先を指定する画面が表示されます。

### Current set path :C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\Logs\ ###
Please specify the log collection path.
[Example : C:\Log\SVlcc\_Logs\]

2. ログの保存先をフルパスで入力します。



- パスの指定は""(ダブルクォーテーション)で括らないでください。
- svlccsetlogpath.bat 実行後、再度svlccsetlogpath.batを実行する場合、コマンドプロンプトを新規で立ち上げ直してから実行してください。元のコマンドプロンプトで再実行した場合、「Current set path」に古いパスが表示されます。

「Successful execution of the command.」のメッセージが出力されれば設定は完了です。

出力されたメッセージの「Set path」にログの保存先として設定したパスが表示されます。

3. ログの保存先として設定したパスを確認後、「ServerView Infrastructure Manager Service」と「ServerView LogCollect and Checker」のサービスを再起動します。

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .



再起動時、他の操作はしないでください。

 管理サーバのホストOSまたは監視対象サーバのホストOSがVMwareの場合にはsyslog collectorのリポジトリディレクトリを変 更します。

下記のURLを参照し、syslog collectorのリポジトリディレクトリを変更してください。

 $http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US\&cmd=displayKC\&externalId=2021652$ 

syslog collectorのリポジトリディレクトリは、以下を指定してください。

[ログ収集場所のフォルダ]¥work

例:ログ収集場所のフォルダが「D:¥temp¥Logs」の場合

「%PROGRAMDATA%¥VMware¥VMware Syslog Collector¥vmconfig-syslog.xml」を下記のように修正します。

修正前

<defaultDataPath>C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\Logs\work\/defaultDataPath>

修正後

ファイルの修正後、設定を反映させるため、syslog collectorの再起動が必要です。



本コマンドを実行したあとにログの保存先が変更になります。今までに採取したログは、元の保存先に残ります。

#### 異常メッセージ(標準出力)

No.	メッセージ	意味	対処
1	標準出力: ERROR : Specified path is not exist.	入力されたパスが存在しませ ん。	存在するパスを指定し直してください。
2	標準出力: ERROR : Length of specified path exceeds 185 characters.	入力パスの長さが185文字を 超えています。	パスの長さが185文字を超えないパスを指定し 直してください。
3	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(reg query) rtn=n (nは10進の整数)	レジストリの参照に失敗しました。	「SVIcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。
4	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(reg add) rtn=n (nは10進の整数)	レジストリの設定に失敗しました。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。
5	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(setx) rtn=n (nは10進の整数)	環境変数の設定に失敗しまし た。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。
6	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR archive) rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しま した。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。
7	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR Infra_Management) rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しま した。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。
8	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR work)rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しました。	「SVlcc調査資料収集コマンド」を参考にログ収 集機能のログを採取してシステム管理者に相談 してください。

# 5.7 管理

## 5.7.1 機器のグループ管理

プロファイル管理に登録された機器はグループ単位で分けて管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成して機器を所属させておくことで、管理が容易になります。

以下の操作は、Profile Managerの[ノードリスト]画面で行います。画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。

## 関 ポイント

グループを利用した機器表示はノードリスト(種類別)画面で利用できます。ノードリスト(収容位置別)画面ではグループごとの表示は できません。

## グループの作成

任意の名称のグループを作成します。



グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数 作成できます。同一階層内には同一名のグループは作成できません。

1. [ノードリスト]画面のツリーで [グループ]を右クリックまたは既存のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [新しいグループ]を実行します。

グループ作成のダイアログボックスが表示されます。

ServerView Infrastructure Manager	x
名前	
サブグループの作版: 日 - 4 200-72 田 - 4 Group1 - 4 Group2	
ОК <del>*</del> +>\_Uh	

- 2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。
- 3. ダイアログボックス中央部の [サブグループの作成] 欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。

4. [OK] ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

## グループへの機器登録

作成したグループに機器を登録します。

# 関 ポイント

1台の機器を複数のグループに所属させることも可能です。

グループに機器を登録する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーでグループに登録する機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループヘコピー] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

グループのツリーで登録先グループをクリックし、選択状態にしたあと[OK] ボタンをクリックします。
 機器がグループに登録されます。

## 所属グループの移動

すでにグループに所属している機器を別のグループに移動します。 機器を別のグループに移動する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーで移動元のグループの配下を展開します。
- 移動させる機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。
   ダイアログボックスが表示されます。
- 3. グループのツリーで移動先グループをクリックし、選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。 機器が選択したグループに移動します。

## グループからの削除

すでにグループに所属している機器をグループから削除します。機器自体は削除されません。 機器をグループから削除する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーで所属先のグループの配下を展開します。
- 2. 削除する機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループから削除] を実行します。確認のためのダイアログボックスが表示されます。
- 3. [はい] ボタンをクリックします。

グループから機器が削除されます。

## グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。グループ名を変更する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループをリネーム] を実行します。 新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。
- 2. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

グループ名が変更されます。

## グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属している機器やグループも移動します。



移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。 ダイアログボックスが表示されます。
- 2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。 グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

## 🕑 ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

## グループヘコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

# 関 ポイント

コピー先に同一グループ名が存在する場合は、コピー元のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。 ダイアログボックスが表示されます。
- 2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。 グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

## 🕑 ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

## グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

## 関 ポイント

グループを削除する場合は、グループに登録されている機器や下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面のツリーで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループを削除] を実行します。 ダイアログボックスが表示されます。
- 削除するグループが正しいことを確認したあと[はい]ボタンをクリックします。
   選択したグループが削除されます。

## 5.7.2 プロファイルのグループ管理

保存したHWプロファイル、OSプロファイルはグループ単位で管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成 してプロファイルを所属させておくことで、管理が容易になります。

ここでの操作は、[プロファイル]画面で行います。画面については、「4.4.2 [プロファイル]画面」を参照してください。



グループ内ではHWプロファイルおよびOSプロファイルが混在して存在します。種類別に分けて管理する場合は、グループ配下に「HW」 または「OS」のようにさらに別のグループを作成してください。

## グループの作成

任意の名称のグループを作成します。



グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数 作成できます。同一階層内には同一名のグループを作成できません。

グループを作成する手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアでグループを右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ]を実行、または既存 のグループ名を右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ]を実行します。

グループ作成のダイアログボックスが表示されます。

ServerView Infrastructure Manager	¢
名前	
	1
E Group1	
BB GIOLDS	
OK キャンセル	

2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。

3. ダイアログボックス中央部の [サブグループの作成] 欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。

4. [OK] ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

## グループへのプロファイル登録

作成したグループにプロファイルを登録します。



.....

- グループに登録したあともプロファイルは元の場所に存在します。グループ配下に別のプロファイルが作成されるわけではなく、両者は同一のプロファイルです。
- ・1つのプロファイルを複数のグループに所属させることもできます。
- .....

グループにプロファイルを登録する手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアでグループに登録するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ コピー]を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで登録先グループをクリックして選択状態にしたあと[OK] ボタンをクリックします。 プロファイルがグループに登録されます。

## 所属グループの移動

すでにグループに所属しているプロファイルを別のグループに移動します。プロファイルを別のグループに移動する手順は次のとおりです。

- 1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアで移動元のグループの配下を展開します。
- 2. 移動するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。 ダイアログボックスが表示されます。
- 3. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと[OK] ボタンをクリックします。 プロファイルが選択したグループに移動します。

## グループからの削除

すでにグループに所属しているプロファイルをグループから削除します。プロファイル自体は削除されません。 プロファイルをグループから削除する手順は次のとおりです。

- 1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアで所属先のグループの配下を展開します。
- 削除するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで [グループから削除] を実行します。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
- 3. [はい] ボタンをクリックします。

グループからプロファイルが削除されます。

## グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。 グループ名を変更する手順は次のとおりです。

- 1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループをリネーム]を実行します。
- 2. 新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。

3. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。 グループ名が変更されます。

## グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属しているプロファイルやグループも移動します。

# 関 ポイント

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下のプロファイルは1個のグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへ移動]を実行 します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと[OK]ボタンをクリックします。 グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

## 몓 ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

## グループヘコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

## P ポイント

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下のプロファイルは1個のグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー]を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。

グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

## 몓 ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

## グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

## 🕑 ポイント

グループを削除する場合は、グループに登録されているプロファイルや下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループを削除] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

削除するグループが正しいことを確認したあと[はい]ボタンをクリックします。
 選択したグループが削除されます。

# 第6章 保守関連操作

# 6.1 サービスの起動と停止

ISMには以下のサービスが含まれます。

- ServerView Infrastructure Manager Service
- · ServerView LogCollect and Checker
- · SVHLCM Service

また、以下の関連サービスが存在します。

- ・ ServerView Profile Manager Service (PMSをインストールした場合)
- PXE Services (SVIMをインストールした場合)
- ・ TFTP Service (SVIMをインストールした場合)

[コントロールパネル]の[管理ツール]から上記サービスの起動、停止、再起動が行えます。データベースのバックアップまたはリストアを実施する場合など、必要に応じてサービスを操作してください。



- ServerView Infrastructure Manager Serviceの起動直後にブラウザから操作すると「サーバとの通信に失敗しました。」と表示されます。しばらく待ってから操作してください。
- ・ SVHLCM Serviceのログオンアカウントには、ISMインストール時に作成されるSQLサーバ上のデータベースSVhlcmDBへのアク セス権限が付与されている必要があります。

# 6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア

ここでは、ISMデータベースおよび設定ファイルのバックアップ、リストア手順を説明します。 バックアップデータは、トラブル復旧時に必要です。定期的にバックアップすることを推奨します。



ISM V1.2で取得したバックアップデータをISM V1.3にリストアすることはできません。

## 6.2.1 バックアップ

コマンドラインツール「ISMDBBackup.bat」を使用して、ISMデータベースおよび設定ファイルをバックアップします。

- 1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2. 「ISMDBBackup.bat」がインストールされたフォルダーに移動します。

cd <ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Tools

3. 「ISMDBBackup.bat」にパラメーターとして "2" を付けて実行します

ISMDBBackup.bat 2

以下のフォルダーにISMデータベースおよび設定ファイルが保存されます。

<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Sqldb

4. 「ISMDBBackup.bat」のインストール先と同じフォルダー内に、エラーチェック用のログファイル (ISMDBBackup.log) が作成されます。

## 6.2.2 リストア

コマンドラインツール「ISMDBRestore.bat」を使用して、同一バージョンのISMで取得したバックアップからデータベースおよび設定ファ イルをリストアできます。

- 1. 動作中のサービス(ServerView Infrastructure Manager ServiceおよびServerView LogCollect and Checker)を停止させます。
- 2. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 3. 「ISMDBRestore.bat」がインストールされたフォルダーに移動します。

cd <ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Tools

4. 「ISMDBRestore.bat」を実行します。

ツールから、バックアップファイル (SvfmDBData.bakなど)が配置されているパスと、メンテナンス支援機能のバックアップデータのファイル名の入力を要求されます。

## 関 ポイント

メンテナンス支援機能のバックアップデータのファイルとは、前述のパス内に存在する、「hlcmbkup\_(年月日)\_(時分秒).cab」の ファイルです。複数存在する場合があります。通常は、作成日時が最新のファイルを指定してください。

- 5. 「ISMDBRestore.bat」のインストール先と同じフォルダー内に、エラーチェック用のログファイル(ISMDBRestore.log)が作成されます。
- 6. ServerView Infrastructure Manager Service、ServerView LogCollect and CheckerおよびServerView Hardware Life Cycle Manager (SVHLCM Service)を起動します。
- 7. 後処理手順としてバックアップ用のコマンドラインツール「ISMDBBackup.bat」を実行し、新しいフルバックアップを作成します。

ISMDBBackup.bat 2

# 6.3 ログ情報

トラブル発生時には、以下の手順でログを保存します。

#### ISMのログ

ISMでは、以下のフォルダーにログを保存しています。

トラブルが発生したときには、以下のフォルダーおよびファイルを保存してください。

```
<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥logs¥
<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥log¥
[System Drive]¥Windows¥System32¥LogFiles¥*.log
<ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥lib¥
profileenginehome¥ProfileEngine¥log
```

#### メンテナンス支援機能に関連するトラブルの場合

上記ISMのログファイルに加え、以下のコマンドで出力されるログも保存してください。

トラブル発生時には、以下の手順でログを保存します。

- 1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2. メンテナンス支援機能のログ出力フォルダーを作成します。

mkdir <出力フォルダー名> (例: mkdir C:¥work)

3. メンテナンス支援機能のコマンドラインツール「cmdhlcm.ps1」がインストールされたフォルダーに移動します。

cd <ServerViewインストールフォルダー>¥ServerView Suite¥plugins¥svhlcm¥bin

4.「cmdhlcm.ps1」を、以下のオプションを指定して実行します。

PowerShell -ExecutionPolicy RemoteSigned -Command "& {./cmdhlcm.ps1 logcollect -d <出力フォルダー名> }"

指定したフォルダーにメンテナンス支援機能のログファイルが保存されます。

ファイル名は、以下のとおりです。

hlcmlog\_(年月日)\_(時分秒).cab (例: hlcmlog\_20141121\_213141.cab)

## ログ収集機能に関するトラブルの場合

以下のコマンドで出力されるログも保存してください。

1. ログ収集機能のログ出力フォルダーを作成します。

mkdir <出力フォルダー名>(例: mkdir C:¥temp¥dump)

2. コマンドプロンプトを開き、ログ収集機能のログ採取コマンド「getosvlcc」を実行します。

引数には出力先ファイルをフルパスで指定します。

getosvlcc C:¥temp¥dump¥lcc\_dump\_(年月日)\_(時分)

指定したフォルダーに出力されたログを保存してください。

# 6.4 機器の保守後の操作

管理対象の機器が故障して機器の交換や保守部品交換を行った場合、ISMに機器登録したときの情報と実機の情報が異なる可能性があります。

機器の交換などを行った場合は、以下の操作を実施してください。

• Profile Managerに登録されているサーバの場合

Profile Manager上でサーバ保守後操作([保守管理(ノード交換)]ボタン)を行います。 詳しくは、「6.4.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作」を参照してください。

・ Profile Managerに登録されていないサーバ/Facility Managerに登録されている機器の場合

保守後の機器の情報(シリアル番号やMACアドレスなど)を確認します。

情報が異なる場合はGUIから該当する情報を修正します。 詳しくは、「4.2 [Facility Manager]画面」を参照してください。

# 関 ポイント

- ブレードシャーシ(MMBやスイッチブレードの保守交換ではなく、シャーシ全体)やETERNUSを全体的に新しい機器と交換した場合は、別の機器への入替えとして扱います。登録済みの機器を削除して新しく機器登録を行ってください。
   ブレードシャーシの場合はシャーシ内に内蔵される機器もすべて再登録してください。
- CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレスをISMに設定する必要があります。ISMへのデータ登録完了後、CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの[プロパティ]タブ [MACアドレス]を設定してください。

## 6.4.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作

ハードウェア故障が原因で対象サーバ内の部品やサーバ本体を交換した場合は、交換内容に応じて機器の実際の状態とプロファイル管理との整合性を取る作業が必要になります。

サーバ保守後に行う主な作業は次のとおりです。

・ 交換が原因で変化したハードウェア情報の取り込み

例:機器のシリアル番号やiRMC LANのMACアドレスが変化した場合に登録情報を更新

・ 交換後のサーバに対し、以前のプロファイル内容の再適用

例:システムボードの交換が原因でBIOS設定がデフォルト値に戻った場合のHWプロファイル再適用、またはハードディスクの交換が原因でデータが消失した場合のOS再インストール

# 関 ポイント

- ・ 装置保守または装置交換を完了して問題が解決したあとで本操作を実行します。

・ここでの操作はプロファイル適用済みのサーバが対象となります。プロファイル適用前の機器に対して保守を行う場合は、ノード登 録解除を実行してから保守を行い、保守後に再度ノード登録してください。

・ シャーシ(MMB)およびストレージについては、保守時にProfile Manager上での操作は不要です。

サーバ保守後の操作手順は次のとおりです。

- 1. [ノードリスト]画面を表示します。 詳しくは、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
- 2. [ノードリスト]画面の [管理中] タブをクリックします。

対象のサーバが表示されます。

- 3. [ノードリスト]画面の機器一覧表の左端にあるチェックボックスをオンにします。
- 4. 画面下部の [保守管理(ノード交換)] ボタンをクリックします。

交換処理画面が表示されます。画面の上半分にはサーバの情報が表示され、画面の下半分で操作を行います。

19) 装置業際は本美絶			
● 下記の装置情報に置き	換之面		
供器名	褪種名	5月7月番号	BM
	de la companya de la		
C Strength and the state of	2 2 119 H A		
<ul> <li>下記の新規検出装置と </li> </ul>	X 祭 9 0		

5. 交換後の装置を選択します。

装置の状態に応じて、以下aからcのどれかが自動選択されています。

a. [装置交換は未実施]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部部品を交換した場合な どが対象になります。

b. [下記の装置情報に置き換える]

登録されている機器情報と一部情報が異なるサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部の部品(シス テムボードなど)を交換した場合などが対象になります。

c. [下記の新規検出装置と交換する]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在しない場合に選択されます。サーバ全体を別のサーバに交換した場合などが対象になります。

## 🕑 ポイント

実際の保守作業と、上記aからcの選択が異なる場合は、保守後の機器が正しく動作しているか、またネットワークに正しく接続されているかなどをチェックしてください。

6. 手順5でcが選択されている場合は、交換後のサーバを一覧から選択します。 iRMCのIPアドレスを固定IPに設定済みの場合は [手動検索] ボタンでサーバを検出します。 なお、手順5でaまたはbが選択されている場合は、この手順は不要です。次の手順に進んでください。

# 関 ポイント

- .....
- 異なるモデルのサーバと交換した場合は本操作で交換後のサーバを指定できません。サーバを登録解除したあと、サーバ を新規に機器登録してプロファイルを適用します。
- ー サーバブレードの場合は、交換後のブレードが異なるスロットや異なるシャーシに搭載すると交換として扱われないため、保 守後操作は実行できません。新規にサーバを登録するか、元の位置に搭載しなおしてください。
- 7. プロファイル再適用の範囲を指定します。

FW、BIOS、BMCまたはOSの中から再適用が必要な項目をチェックし、不要な項目のチェックを外します。

- FW:ファームウェア/BIOSのアップデートを再実行する。
- BIOS:BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- BMC:BMC(iRMC)タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- OS:OSプロファイルの内容に従い、再インストールする。

# 関 ポイント

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックできません。

事象別の再適用範囲の例は次のとおりです。構成や状況に応じて適切な処理を行ってください。

実施した保守操作	プロファイル再適用指示
故障したサーバを撤去し、新しいサーバと交換、内蔵ディスクは引継ぎ	FW、BIOS、BMCを再適用する。
サーバ内のシステムボードを交換	FW、BIOS、BMCを再適用する。
サーバ内の各種部品(CPU、DIMM、PCIカード類)を交換	プロファイル再適用は不要。
アレイ構成の場合に、ディスクドライブを1台だけ交換	プロファイル再適用は不要。
アレイ構成ではない場合に、ディスクドライブを交換	<b>OS</b> を再適用する。

8. [実行] ボタンをクリックします。

```
プロファイルの再適用処理が開始します。サーバの状態はプロファイル適用中となります。
```

9. [最新の情報に更新] ボタンをクリックし、処理が完了するのを待ちます。

# 6.5 機器の撤去

不要になった機器を撤去する際は、以下の手順でFacility Manager、Profile Manager、SVOMのサーバリストのそれぞれから機器の登録を削除します。

# 関 ポイント

登録を削除するとその機器に対する作業履歴なども削除されます	。登録を削除する前に、必要に応じて情報の退避などを行ってくだ
さい。	

- Profile Managerに登録されているとき
  - 1. Profile Managerの[ノードリスト]画面で対象機器の状態を確認し、HWプロファイル、OSプロファイルが適用されている場合 は、プロファイルの取り外しを行います。

詳しくは、「プロファイルの解除」を参照してください。

2. Profile Managerの[ノードリスト]画面から[ノード登録解除]を実行します。

詳しくは、「5.2.2.3 登録解除」を参照してください。

3. Facility Managerの[ラック]画面から対象機器を削除します。

詳しくは、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

- Facility Managerに登録されているとき
  - 1. ログ収集の対象機器の場合は、[Setup]画面の左側で[ログ収集設定]をクリックし、機器を対象外に設定して[登録]をクリックし、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。

詳しくは、「5.6.1 ログ収集対象機器の選択」を参照してください。

2. Facility Managerの[ラック] 画面から対象機器を削除します。

詳しくは、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

サーバリストに登録されているとき

SVOMのサーバリスト画面から対象機器を削除します。 「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

# 付録A メッセージー覧

操作中に表示されるメッセージの一覧を、メッセージの重要度とメッセージID順に示します。メッセージの重要度には、「情報」、「警告」、「エラー」の3種類があります。

# A.1 メッセージの見方

表示されるIDとメッセージ、およびその際の説明や対処を以下のとおり記載します。

## ID:メッセージ

説明・対処を記載します。

# A.2 情報メッセージ

重要度が「情報」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、情報を提供する目的で表示されます。

## A.2.1 11xxx

## 112xx

## 11200:ファームウェアアップデートを行う必要が無い装置に対して選択が行われました。

差分のある版数の装置を選択してください。

## 11201:版数が取得できない装置に対して選択が行われました。

リポジトリに対象装置のファームウェアが存在しません。リポジトリの内容を確認してください。

## 11202:現行版数が取得できていない装置に対して選択が行われました。

[更新] ボタンをクリックして現行版数を取得してください。

## 11220:ファームウェアアップデート対象外の装置です。

「監視対象装置ごとに実施可能なメンテナンス支援機能」を参照し、ファームウェアアップデート対象となっている装置を選択してください。

## A.2.2 15xxx

#### 154xx

15401:Start exporting firmware files to an FTP server.

対処は不要です。

## A.2.3 16xxx

### 160xx

## 16000:Success to update firmware.

対処は不要です。

## 16001:Start copy firmware to TFTP directory from repository directory.

対処は不要です。

## 16002:Start updating firmware.

対処は不要です。

## 16003:Start check firmware update.

対処は不要です。

## 161XX

## 16100:Success to update firmware.

対処は不要です。

## 16101:Start getting information of PRIMEQUEST.

対処は不要です。

## 16102:Start updating firmware MMB.

対処は不要です。

## 16103:Start updating firmware BMC.

対処は不要です。

## 16104:Start updating firmware BIOS.

対処は不要です。

## 162xx

## 16200:Success to update the firmware.

対処は不要です。

## 16201:Success to cancel the firmware update.

対処は不要です。

## 164xx

## 16400:Preparing firmware update.

対処は不要です。

## 16401:Start updating firmware.

対処は不要です。

## 16402:Success to update firmware.

対処は不要です。

## 166xx

## 16600:Success to update firmware.

対処は不要です。

## 16601:Start updating firmware.

対処は不要です。

## 168xx

#### 16800:Success to update firmware.

対処は不要です。

#### 16801:Start updating firmware.

対処は不要です。

## A.3 警告メッセージ

重要度が「警告」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、警告を提供する目的で表示されます。

## A.3.1 31xxx

### 312xx

#### 31201: <ラック搭載位置情報> FCスイッチブレードのアカウント情報に未入力の項目があります。

FCスイッチブレードのアカウント情報を確認してください。

## 31202: <ラック搭載位置情報> ストレージのアカウント情報に未入力の項目があります。

ストレージのアカウント情報を確認してください。

### 31204: <ラック搭載位置情報> 上記のストレージのパスワードが一致しません。

パスワードが再入力の値と一致しませんでした。2つの欄のパスワードが一致するように再入力してください。

## 31205: <ラック搭載位置情報>

## 上記のFCスイッチブレードのユーザ名の文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

## 31206: <ラック搭載位置情報> 上記のFCスイッチブレードのパスワードの文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

## 31207:<ラック搭載位置情報>

### 上記のストレージのユーザ名の文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

## 31208: <ラック搭載位置情報>

## 上記のストレージのパスワードの文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

## 31209: <ラック搭載位置情報> 上記のFCスイッチブレードのパスワードが一致しません。

パスワードが再入力の値と一致しませんでした。2つの欄のパスワードが一致するように再入力してください。

#### 31210: <ラック搭載位置情報> 上記のFCスイッチブレードのユーザ名に使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

## 31211: <ラック搭載位置情報> 上記のストレージのユーザ名に使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

## 31212: <ラック搭載位置情報>

## 上記のFCスイッチブレードのパスワードに使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

## 31213: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのパスワードに使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

## A.3.2 35xxx

## 354xx

## 35401: Request has already running.

情報更新処理、またはファームウェアアップデートはすでに実行中です。処理が完了するまでしばらくお待ちください。

## 35402: Firmware update is running.

ファームウェアアップデートが実施中のため情報の更新が行えません。ファームウェアアップデート完了後に再度実施してください。

#### 35403: Refresh information is running.

情報更新処理が実施中のためファームウェアアップデートが行えません。情報更新処理完了後に再度実施してください。

## A.3.3 36xxx

#### 362xx

#### 36200: Failed to access Profile Manager.

プロファイル管理機能へのアクセスに失敗しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

#### 36201: Failed to get information from Profile Manager.

プロファイル管理機能からの情報取得に失敗しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

#### 36202: No firmware has been updated.

ファームウェアがアップデートされませんでした。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

## 36211: An internal error occurred on the command of Profile Manager.

プロファイル管理機能のコマンドで内部エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

### 36212: An invalid parameter was specified to the command of Profile Manager.

不正なパラメーターを検出しました。選択されたサーバについて、SVOMに登録されたBMCのIPアドレスやISMに登録されたリポ ジトリの情報が正しいことを確認してください。

#### 36213: A connection error occurred on the command of Profile Manager.

プロファイル管理機能のコマンドで接続エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

#### 36214: An internal error occurred on the service process of Profile Manager.

プロファイル管理機能のサービスプロセスで内部エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

#### 36220: The selected server is not registered on the Profile Manager.

選択されたサーバはプロファイル管理機能に登録されていません。ISMとSVOMにおけるターゲットサーバのBMCのIPアドレスが 正しいことを確認してください。

#### 36221: The selected machine was not identified as a server by Profile Manager.

選択された装置はプロファイル管理機能でサーバとして認識されていません。ISMとSVOMにおけるターゲットサーバのBMCのIP アドレスが正しいことを確認してください。

#### 36223: Profile Manager has already executed other task for the specified server.

プロファイル管理機能によって指定されたサーバについて、ほかのタスクがすでに実行されています。タスクが終了し、サーバの電源がオフであることを確認したあと、再度実行してください。

#### 36224: The task of Data Import is running on Profile Manager.

プロファイル管理機能のデータインポートのタスクが動作中です。タスクが終了したあとに操作を実行してください。

### 36225: Firmware update process has already been running on the specified server.

指定したサーバではファームウェアのアップデートがすでに実行されています。必要な場合はしばらくしてから再度、操作を実行してください。

#### 36226: No repository path was registered on the Profile Manager.

プロファイル管理機能にリポジトリのパスが登録されていません。「3.2ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」を参照 してリポジトリを登録してください。

#### 36227: It is over the maximum number which can perform firmware update of servers simultaneously.

サーバのファームウェアアップデートの同時に実行可能な最大数を超えました。しばらくしてから再度、操作を実行してください。

#### 36228: The specified firmware repository was not found.

指定されたファームウェアのリポジトリが見つかりません。「3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」を参照してリポジトリを登録してください。

#### 36229: A process which obtains TFTP root path failed on the Profile Manager.

プロファイル管理機能のTFTPルートパスを持つプロセスでエラーが発生しました。TFTPサービスとISMのサービスを再起動してください。

#### 36230: Timeout error occurred on the firmware update process.

ファームウェアのアップデート処理がタイムアウトしました。ISMが正常に動作しているかを確認してください。

#### 36237: BMC (iRMC) account error occurred.

BMC(iRMC)アカウントのエラーが発生しました。サーバのBMC (iRMC)のアカウント設定が正しいことを確認してください。

#### 36238: A connection error occurred with BMC (iRMC) the target server.

サーバのBMC (iRMC)との接続でエラーが発生しました。BMC (iRMC)と正常にネットワークが接続されていることを確認してください。

#### 36239: An IPMI I/O error occurred.

IPMI I/Oエラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

## 36240: An IPMI command error occurred.

IPMIのコマンドでエラーが発生しました。サーバでエラーが発生していないかを確認してください。

#### 36241: DHCP service error occurred.

DHCPサービスでエラーが発生しました。ISMのサービスを再起動してください。

#### 36242: DHCP scope/sub-net error occurred.

DHCPのスコープ/サブネットのエラーが発生しました。ISMのDHCP設定が正しいことを確認してください。

#### 36243: An internal XML file error occurred after the firmware update process.

ファームウェアのアップデート処理後に内部XMLファイルのエラーが発生しました。プロファイル管理機能が正常に動作していることを確認してください。

#### 36247: The IP address for PXE boot was not able to be acquired.

PXEブート用のIPアドレスの取得に失敗しました。しばらくしてから再度、操作を実行してください。

### 36248: The specified sever was not found.

指定されたサーバが見つかりません。プロファイル管理機能の対象サーバのMACアドレスが登録されていることを確認してください。

#### 36249: The MAC address for the admin-LAN port was not able to be acquired.

管理LANポートのMACアドレスの取得に失敗しました。サーバでエラーが発生していないかを確認してください。

#### 36250: The specified server is not power off.

指定されたサーバの電源がオフになっていません。サーバの電源がオフになっていることを確認したあと、再度操作を実行してください。

#### 36254: A fatal error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能で重大なエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

#### 36255: A general error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

## 36256: A system service error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でシステムサービスエラーが発生しました。ディスク容量、フォルダーの権限を確認してください。

#### 36257: A timeout error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でタイムアウトエラーが発生しました。対象サーバのステータスを確認してください。

#### 36258: Boot timeout error occurred at the PXE boot.

PXEブートでブートタイムアウトエラーが発生しました。サーバのPXE設定が正しいことを確認してください。

#### 36259: Firmware update error occurred.

ファームウェアアップデートエラーが発生しました。対象サーバと正常にネットワークが接続されていることを確認してください。

#### 36260: Time synchronization error occurred.

時刻同期エラーが発生しました。対象サーバとの時刻同期設定が正しいことを確認してください。

#### 36263: A profile format error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でプロファイルフォーマットエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

#### 36264: A profile access error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でプロファイルアクセスエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

#### 36265: TFTP root path error occurred.

TFTPルートパスのエラーが発生しました。TFTPサービスが正しくインストールされていることを確認してください。

#### 36266: Work file/folder access error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能で作業ファイル・フォルダーへのアクセスに失敗しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

#### 36267: Onetime PXE Boot timeout error occurred.

OneTime PXEブート設定のタイムアウトエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

#### 36268: PXE service request error occurred.

PXEサービスのリクエストエラーが発生しました。PXEサービスが正常に動作していることを確認してください。

#### 36269: Infrastructure setting file error occurred.

Infrastructureファイルエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

### 36270: Multiple Job API error occurred.

多重指定のAPIジョブエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

## 364xx

#### 36400: Failed to upload firmware file. File size is too large.

ファームウェアファイルが異常です。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

#### 36401: Failed to get events from ServerView Fabric Manager.

SVFABからの情報取得に失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。 また、「SVFAB設定ファイル」を参照し設定が正しいことを確認してください。

#### 36402: Failed to start firmware update via ServerView Fabric Manager.

SVFABへのファームウェアアップデート指示が失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。また、「SVFAB 設定ファイル」を参照し設定が正しいことを確認してください。

#### 36403: Failed to update firmware.

ファームウェアのアップデートに失敗しています。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

#### 36404: Failed to update firmware because of time out.

SVFABとの通信タイムアウトが原因でファームウェアアップデートの結果を受信できていません。SVFABを使用してファームウェア アップデートの結果を確認してください。

## A.4 エラーメッセージ

重要度が「エラー」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、異常が発生した場合に原因を示す目的で表示されます。

## A.4.1 51xxx

### 512xx

## 51200: リポジトリの取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51201: ファームウェアアップデート一覧の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51202: ファームウェアアップデート一覧の更新時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51203: タスク情報一覧の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

### 51204: タスク情報一覧の更新時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51205: タスク詳細情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51206: リリースノート情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

## 51207: ファームウェアアップデート時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

#### 51208: システムプロパティーファイルの取得に失敗しました。

システムプロパティーファイルの読み込みに失敗しています。インストール環境が破損している可能性があります。プログラムを再 インストールしてください。

## 51209: 言語ファイルの取得に失敗しました。

言語ファイルの読み込みに失敗しています。インストール環境が破損している可能性があります。プログラムを再インストールして ください。

### 51210: リポジトリの取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

リポジトリの取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

### 51211: ファームウェアアップデート一覧の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

ファームウェアアップデート一覧の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

## 51212: ファームウェアアップデート一覧の更新に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

ファームウェアアップデート一覧の更新に、<メッセージID>が原因で失敗しています。 <メッセージID>の内容を確認してください。

## 51213: タスク情報一覧の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

タスク情報一覧の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

## 51214: タスク情報一覧の更新に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

タスク情報一覧の更新に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

### 51215: タスク詳細情報の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

タスク詳細情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

## 51216: リリースノート情報の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

リリースノート情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

## 51217: ファームウェアアップデートに失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

ファームウェアアップデートに、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

#### 51218: URL作成時に例外エラーが発生しました。

リリースノート格納先のファイルパスをURL形式に変換するときに例外エラーが発生しています。 システム管理者に連絡してください。

## 51219: アカウント情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

### 51220: アカウント情報の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

アカウント情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

### 51221: アカウント情報の保存時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

#### 51222: アカウント情報の保存に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

アカウント情報の保存に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

## A.4.2 52xxx

#### 520xxx

## 52000: レジストリの参照に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度インストールしてください。

## 52001: システム上に古いバージョンを検出しました。 古いバージョンを削除してから新しいバージョンをインストールしてください。

古いバージョンを削除してから新しいバージョンをインストールしてください。

52002: ServerView Infrastructure Managerがインストールされていません。 ServerView Infrastructure Managerのインストール後にServerView Hardware Life Cycle Managerのインストー ルを実行してください。

ServerView Infrastructure Managerのインストール後にServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールを実行してください。

52003: ServerView Operations Managerのインストールフォルダパスの取得に失敗しました。

ServerView Operations Managerが正しくインストールされていることを確認してください。

52004: ServerView Life Cycle Managerのインストールに失敗しました。 一度アンインストールし、環境が正しいことを確認した後、再度インストールを実行してください。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52005: ServerView Hardware Life Cycle Managerのサービス(SVHLCMService)の停止に失敗しました。

サービスを停止してから、再度実行してください。

## 52006: ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールフォルダパスの取得に失敗しました。

システム管理者に連絡してください。

52007: ServerView Hardware Life Cycle Managerのアップデートに失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アップデートインストールを実行してください。

52008: インストーラの多重起動のチェックに失敗しました。

インストーラがほかに起動していないことを確認し、再度実行してください。

## 52009: インストーラが既に起動しているため、処理を中断します。

すでに起動しているインストーラを使用して作業を継続してください。

## 52010: DBの作成に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52011: DBの削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

### 52012: DBバックアップ情報の追加に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52013: DBバックアップ情報の削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

## 52014: SVHLCMServiceのサービス登録に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52016: SVHLCMServiceのサービス登録削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

#### 52017: ServerViewDB.iniファイルのコピーに失敗しました。

ServerView Operations Managerが正しくインストールされていることを確認してください。

#### 52018: Keytoolの実行に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52019: コンピュータ名の取得に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52020: servicesファイルへのポート情報の書込みに失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

## 52021: SQL Serverが見つかりませんでした。

SQL Serverがインストールされていることを確認してください。

## 52022: フォルダの削除に失敗しました。

インストールフォルダーおよびその配下のフォルダー、ファイルを削除してください。

## A.4.3 55xxx

#### 550xx

#### 55030: communication error with target server. (%s)

HLCMサービスとの通信に失敗しました。HLCMサービスが起動していること、ネットワークの状態、ファイアーウォールの設定などを確認してください。

### 55034: communication error with target server. (%s)

HLCMサービスとの通信に失敗しました。HLCMサービスが起動していること、ネットワークの状態、ファイアーウォールの設定などを確認してください。

## 552xx

## 55200: SVHLCM is not in running status.

メンテナンス支援機能サービスの起動がまだ完了していません。 しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。

#### 55201: target server connection failed.

内部通信エラーが発生しました。しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。それでも改善されない場合は、メンテナンス支援機能サービスを再起動してください。

#### 554xx

## 55400: SVHLCM is not in running status.

```
メンテナンス支援機能サービスの起動がまだ完了していません。
しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。
```

#### 55401: Illegal request data. %s

内部通信でエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。

#### 55403: Failed to access database.

データベースのアクセスに失敗しました。SQL Server のサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認 してください。

#### 55404: Timeout occurred while waiting for the process has finished.

装置の情報取得中にタイムアウトが発生しました。装置が正常に動作していることを確認してください。

#### 55405: Interruption occurred. SVHLCM Service might have stopped.

処理が中断されました。メンテナンス支援機能サービスが停止された可能性があります。メンテナンス支援機能のサービスの状態 を確認してください。

#### 55406 Failed to add data to database. %s

データベースへのデータ登録中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損して いないことを確認してください。

### 55407: Failed to get data from database. %s

データベースから情報取得中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

## 55410~55424: Failed to get <データ名> data from database.

データベースから<データ名>の情報取得中にエラーが発生しました。SQL Server のサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

#### 55430: Failed to set data to database.

データベースへのデータ登録中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損して いないことを確認してください。

#### 55435: Failed to get information from NetApp(%s).

NetApp装置から情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置に対してSSH接続可能な状態になっていることを確認してください。

#### 55440: Failed to get information from Management Software(%s).

管理ソフトウェアから情報が取得できませんでした。SVOM、ファシリティ管理機能、プロファイル管理機能が正しく動作していること を確認してください。

また、SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

#### 55441: Failed to get information (%s) from SVFAB.

SVFABからの情報取得に失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。 また、「SVFAB設定ファイル」を参照し設定が正しいことを確認してください。 %sがSVFABに登録されていることを確認してください。また、%sが登録されている場合はステータスが正常であることを確認してく ださい。

#### 55442: Failed to get information from MMB(%s).

MMBから情報が取得できませんでした。ファシリティ管理機能、およびSVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていること を確認してください。また、管理サーバからMMBに対してSSH接続可能な状態になっていることを確認してください。

#### 55443: Failed to get information from iRMC(%s).

サーバから情報が取得できませんでした。ファシリティ管理機能、プロファイル管理機能、SVOMで対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置のiRMCに対してSSH接続可能な状態になっていることを確認してください。

#### 55444: Failed to get information from Firmware Repository Path(%s).

リポジトリ情報取得に失敗しています。「3.2ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」を参照し、リポジトリを登録し直してください。

#### 55445: Failed to get information from Storage(%s).

ストレージ装置から情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。 また、管理サーバから対象装置に対して共通設定画面で入力したアカウント情報でSSH接続可能な状態になっていることを確認 してください。

#### 55446: Failed to get information from PRIMEQUEST(%s).

PRIMEQUESTから情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。 また、管理サーバから対象装置に対してSVOMに設定されているコミュニティ名でSNMPアクセス可能な状態になっていることを確認してください。

#### 55447: Failed to get firmware from repository.

システム管理者に連絡してください。

#### 55448: Failed to get FTP parameter.

[Setup]画面でFTPサーバIPアドレス、ユーザ名、パスワードを設定してください。

#### 55449: Failed to export firmware file because of deleting.

しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。

#### 55450: Failed to connect FTP server.

管理サーバからFTPサーバに対して、FTP接続が行えるか確認してください。

#### 55451: Failed to export firmware file to FTP server.

FTPサーバの状態を確認してください。

#### 55452: Failed to get information for update command.

アップデートに必要な情報の取得に失敗しました。対象装置のログインアカウント情報、FTPサーバのログイン情報が正しく設定されているか確認してください。

## A.4.4 56xxx

#### 560xx

## 56001: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

### 56005: Failed to connect MMB.

MMBに接続できません。管理サーバからMMBに対してSSH接続できる状態になっていることを確認してください。

#### 56006: Failed to get information of SNMP.

MMBに対するSNMP接続ができません。管理サーバからMMBに対してSNMP接続ができる状態になっていることを確認してください。

## 56007: Failed to get status of MMB that has been expected.

MMBの状態取得に失敗しました。すでにMMBがファームウェアアップデート中の可能性がありますので状態を確認してください。

#### 56008: Failed to start firmware update.

ファームウェアアップデートの開始に失敗しています。システム管理者に連絡してください。

#### 56010: Failed to export the firmware.

ファームウェアの転送に失敗しています。TFTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

#### 561XX

#### 56101: An invalid parameter was specified to the command.

パラメーターが不正です。PRIMEQUESTのアカウント情報が設定されているか確認してください。

#### 56102: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

#### 56104: Failed to connect MMB.

PRIMEQUESTのMMBに接続できません。管理サーバからPRIMEQUESTのMMBに対してSSH接続できる状態になっていることを確認してください。

#### 56107: Can not firmware update because of power restoration policy is Always ON.

電源ポリシーがAlways ONのため、ファームウェアアップデートが行えません。電源ポリシーを変更してください。

#### 56109: Failed to start firmware updating because permission denied.

ファームウェアアップデート権限がないため、ファームウェアアップデートに失敗しました。ユーザ名を確認してください。

#### 56113: Failed to start firmware updating because of FTP server does not respond.

FTPサーバからの応答がありません。FTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

### 56117: Failed to get update status.

システム管理者に連絡してください。

### 56118: Failed to firmware update.

システム管理者に連絡してください。

#### 56119: Timeout error occurred on the firmware update process.

システム管理者に連絡してください。

### 564xx

## 56400: Failed to read firmware file.

ファームウェアファイルの読み込みに失敗しています。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

#### 56401: Failed to get events from ServerView Fabric Manager. Exception has occurred.

システム管理者に連絡してください。

## 56402: Failed to start firmware update via ServerView Fabric Manager. Exception has occurred.

システム管理者に連絡してください。

#### 566xx

#### 56602: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

#### 56604: Failed to connect STORAGE.

ストレージに接続できません。管理サーバからストレージに対してSSH接続できる状態になっていることを確認してください。また、 共通設定画面でユーザ名、パスワードが正しいことを確認してください。

#### 56605: Failed to change maintenance mode.

メンテナンスモードの移行に失敗しました。共通設定画面で入力したユーザ名が、メンテナンス権限であるか確認してください。メ ンテナンスモードの場合は、ノーマルモードに移行してから再度実行してください。

#### 56606: Failed to import firmware because of time out.

ファームウェアの転送に失敗しました。システム管理者に連絡してください。

#### 56607: Failed to import firmware.

FTPサーバからの応答がありません。FTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

#### 56609: Failed to update firmware because of firmware cannot be downgraded.

ファームウェアのダウングレードが行えません。更新後版数を確認してください。

#### 56610: Failed to update firmware.

システム管理者に連絡してください。

#### 56611: Catch Interrupted Exception.

SSHでストレージに接続できる状態になってから、「apply firmware -application-type hot-continue」コマンドを実行し、メンテナンス モードからノーマルモードに移行してください。

#### 56612: Failed to change normal mode.

システム管理者に連絡してください。

#### 568xx

## 56802: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

#### 56805: Failed to get file name.

システム管理者に連絡してください。

## 56806: Failed to disconnect FTP servers.

FTPサーバからの切断に失敗しました。FTP サーバが正しく稼働していることを確認してください。

#### 56807: Failed to get firmware name.

ファームウェア情報の転送に失敗しました。FTP サービスが正しく起動されていること、管理サーバ、およびファームウェアアップ デート対象装置から接続可能なことを確認してください。

### 56808: Failed to connect MMB.

MMBに接続できません。管理サーバからMMBに対してSSH接続できる状態になっていることを確認してください。

#### 56809: Failed to ConsoleRedirection.

システム管理者に連絡してください。

### 56811: Failed to login FCSW.

共通設定画面でユーザ名、パスワードが正しいことを確認してください。

#### 56812: Failed to update firmware because of time out.

システム管理者に連絡してください。

## 56813: Failed to update firmware.

アップデートに失敗しました。FCスイッチブレードから、FTPサーバに接続できるか確認してください。

#### 56814: Failed to update firmware because of permission denied.

アップデート用の権限ではないため、ファームウェアアップデートに失敗しました。共通設定画面でユーザ名、パスワードを変更してください。

## A.4.5 58xxx

#### 588xx

#### 58801: Failed to read settings files.

内部処理で設定ファイルの読み込みに失敗しています。 システム管理者に連絡してください。

#### 58802: Failed to load interface library for ServerView Fabric Manager.

内部処理でSVFAB連携モジュールのライブラリの読み込みに失敗しています。 システム管理者に連絡してください。

## A.4.6 75xxx

## 754xx

## 75400: Internal error has occurred.

内部処理エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

## A.4.7 95xxx

#### 954xx

#### 95400: Internal error has occurred. Message Not Found.

内部処理エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

# A.5 システムログに出力されるメッセージ

## システムログに出力されるメッセージの見方

表示されるIDとメッセージ、およびその際の説明や対処を以下のとおり記載します。

### ID<ソース>:メッセージ

説明・対処を記載します。

## A.5.1 情報メッセージ
### 100<SVHLCM>: SVHLCM starting

メンテナンス支援機能サービスが起動処理を開始しました。

#### 101<SVHLCM>: SVHLCM started

メンテナンス支援機能サービスが正常に起動しました。

### 102<SVHLCM>: SVHLCM stopping

メンテナンス支援機能サービスが停止処理を開始しました。

#### 103<SVHLCM>: SVHLCM stopped

メンテナンス支援機能サービスが正常に停止しました。

### A.5.2 警告メッセージ

システムログに出力される警告メッセージはありません。

### A.5.3 エラーメッセージ

#### 700<SVHLCM>: SVHLCM start failed (error code: %d)

メンテナンス支援機能サービスの起動に失敗しました。 しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。問題が解消されない場合はシステム管理者へ連絡してください。

# 付録B トラブルシューティング

# B.1 メンテナンス支援機能に関するトラブルシューティング

メンテナンス支援機能の操作時に問題が発生した場合の対処方法を、操作の種類ごとに示します。

エラーメッセージが表示される場合は、メッセージの内容に従い適切な処置を行ってください。

#### サービスの起動

#### 事象:SVHLCM Service が起動しない。

#### 想定原因/対処

ー サービスのログオンアカウントに、メンテナンス支援機能が使用する SQL サーバ上のデータベースへの sysadmin ロールが 付与されていることを確認してください。

メンテナンス支援機能が使用するデータベース名は SvhlcmDB、および SvpmDB となります。

#### リポジトリ選択

#### 事象:リポジトリの選択肢が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」を参照し、リポジトリを登録してください。

#### ファームウェアアップデート一覧表示画面表示

#### 事象:一覧のテーブルに何も表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「対象リポジトリ」でリポジトリを選択してください。
- SVOMの[サーバリスト]機能で機器が登録されているか確認してください。

#### 事象:特定の機器の情報が表示されない。機器が認識されない。

#### 想定原因/対処

- サポート対象の機器であるかどうか確認してください。
- SVOMの[サーバリスト]機能で機器が登録されているか確認してください。

#### 事象:更新後版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 選択しているリポジトリに対応するファームウェアが入っているか確認してください。

#### 事象:MMBのファームウェア現行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「5.2 機器の登録」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- ー 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。

#### 事象:ラックの情報が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「5.2機器の登録」に従って、ファシリティ管理機能でラック情報が登録されていることを確認してください。

#### 事象:サーバ(iRMC/BIOSファームウェア)のファームウェア現行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「5.2機器の登録」に従ってプロファイル管理機能で対象装置が管理されていることを確認してください。
- iRMC(BMC)のssh機能が無効化されていないか確認してください。
- 管理サーバからiRMCに対してプロファイル管理機能で設定したアカウント情報でssh 接続可能なことを確認してください。

#### 事象:L2スイッチ、コンバージドファブリックスイッチ、またはコンバージドファブリックスイッチブレードのファームウェア現 行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- SVOMに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- SVFABに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しく認識できていることを確認してください。
- 「SVFAB設定ファイル」に従って、SVFABの通信ポート番号の設定と、ISMメンテナンス支援機能の定義ファイルが正しく 設定されていることを確認してください。

#### 事象:コンバージドファブリックスイッチブレードのスロット、または、コンバージドファブリックスイッチのラック/搭載位置が 表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「5.2 機器の登録」に従って、ファシリティ管理機能で、コンバージドファブリックスイッチの設定(Fabric ID/DomainID/Switch ID)が正しく行われていることを確認してください。

#### 事象:ETERNUS DXシリーズの現行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 共通設定画面のアカウントの設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、共通設定画面で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。

#### 事象: PRIMEQUESTの現行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、SVOMで設定したコミュニティ名でSNMP接続可能なことを確認してください。

#### 事象: FCスイッチブレードの現行版数が表示されない。

#### 想定原因/対処

- 「5.2 機器の登録」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。

#### 事象: ETERNUS NRシリーズの現行版数が表示されない。

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 「5.2機器の登録」に従ってファシリティ管理機能で対象装置のアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。
- 対象装置が7-modeで動作していることを確認してください。
- 対象装置に対して、ユーザ、または他の管理ソフトウェアなどがssh接続していないことを確認してください。ETERNUS NR シリーズは、7-modeの場合、ssh接続できるセッション数は1つとなっています。

#### ファームウェアアップデート

### 事象:MMBのアップデートができない。アップデートが失敗する。

#### 想定原因/対処

- 「tftp設定ファイル」に従って、TFTPのIPが設定ファイルに定義されていることを確認してください。
- 「5.2機器の登録」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。

#### 事象:サーバ(iRMC/BIOS)のアップデートができない。アップデートが失敗する。

#### 想定原因/対処

- サーバの電源がOFFになっていることを確認してください。
- プロファイル管理機能で検出/管理されていることを確認してください。
- プロファイル管理機能の設定ができているか確認してください(特にPXEブート関連の設定や構成)。
- 選択しているリポジトリに収録されたファームウェアの版数が、サーバ(iRMC/BIOS)のファームウェアの版数より新しいこと を確認してください。メンテナンス支援機能では古い版数のファームウェアにダウングレードさせることはできません。
- ISMのサポート対象の機器(モデル)であるか確認してください。

# 事象:L2スイッチ、コンバージドファブリックスイッチ、またはコンバージドファブリックスイッチブレードのアップデートができない。アップデートが失敗する。

#### 想定原因/対処

- SVFABのサービスが動作していることを確認してください。
- SVFABに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しく認識できていることを確認してください。
- SVFABの通信ポート番号の設定と、ISMメンテナンス支援機能の定義ファイルが正しく設定されていることを確認してください。
- 『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management インストールガイド』に従ってFTPサーバのインストー ルが実施されていることを確認してください。
- 『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management 取扱説明書』に従ってFTPサーバへのログインアカウント登録が実施されていることを確認してください。

#### ETERNUS DXシリーズのアップデートができない。アップデートが失敗する。

#### 想定原因/対処

- 共通設定画面のアカウント設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、共通設定画面で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「3.3 FTPサーバの設定(ISM)」で設定したFTPサーバに対してftp接続可能なことを確認 してください。

#### PRIMEQUESTのアップデートができない。アップデートが失敗する。

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「3.3 FTPサーバの設定(ISM)」で設定したFTPサーバに対してftp接続可能なことを確認 してください。この際、匿名でアクセス可能なことを確認してください。

### FCスイッチブレードのアップデートができない。アップデートが失敗する。

#### 想定原因/対処

- 共通設定画面のアカウント設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、共通設定画面で設定したアカウント情報でssh接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「3.3 FTPサーバの設定(ISM)」で設定したFTPサーバに対してftp接続可能なことを確認 してください。

# B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング

プロファイル管理の操作時に期待通りに動作しない場合は、該当する事象を参照して問題を検出してください。 エラーメッセージが表示される場合は、メッセージの内容に従い適切な処置を行ってください。

#### 機器検出/登録

#### 事象:サーバが自動検出されない

#### 想定原因/対処

- [最新の状態に更新]ボタンがクリックされないと新しく検出された機器は表示されません。[最新の状態に更新]ボタンをク リックしてください。
- ー ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合があります。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認してください。タブは[全て]または[検出]を選択してください。
- 電源ケーブルが接続されているか、電源が供給されているかを確認してください。
- LANケーブルがiRMC Management LANコネクターに正しく接続されているか確認してください。
- ネットワーク、電源の接続直後の場合は検出されていない可能性があります。1分ほど待ってから[最新の状態に更新]ボタンをクリックしてください。
- 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCPになっていないと自動検出されません。DHCPに設定するか、手動検出を行ってください。
- DHCP設定が正しく設定されているか確認してください。
- DHCPサービスが管理サーバ上で動作していることを確認してください。
- DHCPで割り当てられるIPアドレスが不足していると新しく接続されたサーバは自動検出されません。DHCP設定画面でIP アドレス範囲が十分であるか確認してください。また、DHCPでIPアドレスを利用中の機器が多数接続されていないか確認 してください。
- 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント(admin)が変更されていると検出されません。アカウントが削除されていたり、パス ワードが変更されていたりする場合は元に戻してください。
- 対象サーバがすでに登録済みではないか確認してください。
- 検出しようとするサーバがサポートされているか確認してください。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合があります。
- 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されません。対象機器上で正しい 値であるか確認してください。

#### 事象:手動検出で機器が検出されない(サーバ/MMB/ETERNUS共通)

- [最新の状態に更新]ボタンがクリックされないと新しく検出された機器は表示されません。[最新の状態に更新]ボタンをク リックしてください。
- 手動検出開始から、実際に機器が検出されるまでに時間がかかる場合があります。特に検出範囲を広く指定した場合は時間を要します。1分ほど待ってから再度[最新の状態に更新]ボタンをクリックしてください。

- ー ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合があります。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認してください。タブは[全て]または[検出]を選択してください。
- 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント(admin)を変更していると検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻してください。
- 対象サーバがすでに登録済みではないか確認してください。
- 検出しようとするサーバがサポートされているか確認してください。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合があります。
- 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されません。対象機器上で正しい 値であるか確認してください。

#### 事象:手動検出で機器が検出されない(サーバ固有)

#### 想定原因/対処

- サーバに電源ケーブルが接続されていて、電源が供給されていることを確認してください。サーバブレードの場合はシャーシの電源をオンにしてくだささい。
- iRMC LANコネクターに正しくケーブルが接続されていることを確認してください。
- ケーブル接続直後やDHCPから固定IPアドレスに変えた直後は、サーバが検出可能になるまでに多少時間を要するため、
   1分ほど待ってから手動検出を行ってください。
- 対象サーバのIPアドレス設定が正しいか、ネットワークが正常に動作しているかを確認してください。例えば、Webブラウザ から「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCP設定になっている場合は、該当IPアドレスを指定しても手動検出されません。
- 検出しようとするサーバのIPアドレスがすでに本ソフトで登録中の別装置と重複している場合は手動検出されません。
- 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント(admin)を変更していると検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻してください。
- PRIMEQUESTは検出時にSNMPを利用します。SNMP設定が正しく行われているか確認してください。手動検出時に正しいコミュニティ名が入力されているか確認してください。

#### 事象:手動検出で機器が検出されない(ブレード(MMB)固有)

#### 想定原因/対処

- シャーシに電源が供給されていないと検出できません。電源状態を確認してください。
- LANケーブルがMMBに接続されていて、MMBのIPアドレスが正しく設定されていることを確認してください。例えば、Web ブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- SNMP設定を利用して検出するため、MMBに対するSNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行ってください。また手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力しておきます。

#### 事象:手動検出で機器が検出されない(ストレージETERNUS固有)

- ETERNUSの電源がオンになっていない場合は検出されません。電源をオンにした状態で検索を行ってください。
- LANケーブルがCMのMNTポートに正しく接続されていて、IPアドレスが正しく設定されていることを確認してください。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- SNMP設定を利用して検出するため、ETERNUSに対するSNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行ってください。
   い。また手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力してください。
- 管理者用のデフォルトログインアカウント(root)を変更していると検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻してください。

#### 事象:CX400 M1シャーシが手動検出されない

#### 想定原因/対処

- CX400 M1は搭載されているサーバブレードを検出した際に自動的に検出されます。サーバブレードの検出を行ってください。

#### 事象:ブレードシャーシに搭載されているコネクションブレードが検出されない

#### 想定原因/対処

- コネクションブレードはノード一覧画面には表示されません。シャーシ(MMB)のプロパティ画面内では表示されるのみで、 Facility Managerが登録先となります。
- MMBからSNMPによる情報取得は行えません。シャーシ(MMB)登録後にSNMP設定やネットワーク設定が変更されていないか確認してください。

#### 事象:過去に検出した機器が一覧に表示されない

#### 想定原因/対処

- OSやサービスを再起動すると、以前の検出情報は消去されます。再度検出を行ってください。
- 自動検出されたサーバは、ネットワークの切断などが原因で通信できない状態が続くと検出画面から消失します。装置状態やネットワークの状態を確認してください。

#### 事象:搭載位置を指定するための登録ボタンがクリックできない

#### 想定原因/対処

 ファシリティ管理に該当装置と位置情報がすでに登録されている場合は指定できません。ファシリティ管理上で登録を削除 するか、目的の位置に変更してください。

#### 事象:搭載位置を指定する際にラック選択のプルダウンで目的のラックが表示されない

#### 想定原因/対処

- ラックの登録はファシリティ管理で行います。ファシリティ管理で登録したあとに位置指定してください。

#### 事象:搭載位置を指定する際にラックの絵が表示されない

#### 想定原因/対処

サーバブレードを登録しようとしています。サーバブレードの位置情報は搭載先のシャーシ情報から自動的に決定されるため、位置は指定しません。

#### 事象:搭載先として指定すべき位置にすでに別の装置が存在している

#### 想定原因/対処

- 選択したラック名が正しいことを確認してください。
- 誤って別の装置を登録している場合はファシリティ管理で登録情報を変更してください。
- 登録解除した装置の位置情報が残っている場合はファシリティ管理で登録情報を削除してください。

#### 事象:登録時に「ノード登録が成功しましたが、サーバリストの登録に失敗しました」のメッセージが表示される

#### 想定原因/対処

- ノード登録は正常に完了しましたが、SVOMのサーバリストへの登録がエラーとなっています。サーバリストの登録状態を確認し必要に応じて修正してください。

例えば、登録しようとする機器のIPアドレスが、すでにサーバリストに別の機器として登録済みの場合、IPアドレスが重複するためエラーになります。

#### 事象:登録時に「指定された固定IPアドレスが機器情報に存在します」と表示される

#### 想定原因/対処

- Facility Managerに同一機器が異なる情報で登録されている場合は登録がエラーになります。また登録しようとする装置と同一のシリアル番号やMACアドレスが別の装置で誤って登録されていてもエラーとなります。

Facility Managerの登録内容に誤りがないか確認してください。

#### プロファイル操作/適用

#### 事象:プロファイル適用の画面で目的のプロファイルがプルダウンに表示されない

#### 想定原因/対処

- プロファイルにエラーが残った状態で保存されています。プロファイルにエラーが残っていても保存できますが、プロファイル ル適用はできません。プロファイルを編集してエラーがない状態で保存してください。
- 一対象装置と異なるサーバ種類でプロファイルが保存されています。RXシリーズ用として作成したプロファイルはBXサーバへは適用できません。逆にBXシリーズ用プロファイルはRXサーバへは適用できません。プロファイルと装置が一致しているか確認してください。

#### 事象:プロファイル適用の画面でOSプロファイルの個別IDがプルダウンに表示されない

#### 想定原因/対処

- 個別IDが作成されていない場合は、プロファイルを編集して個別IDを登録してください。
- 個別IDは複数のサーバに割り当てることはできません。すでに目的の個別IDがほかのサーバに適用済みの場合は、別の 個別IDを追加作成します。

#### 事象:プロファイル適用ボタンクリック後に「データインポート適用が正常に行われていません」と表示される

#### 想定原因/対処

- 必要なDVDデータをインポート後に、インポート画面で[適用]を実行します。
- Profile Managerの[ノードリスト]画面で[最新の状態に更新]ボタンをクリック後に、プロファイル適用を実行します。

#### 事象:サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる

- ー サーバの電源がオフになっているか確認してください。サーバへのプロファイル適用時は電源をオフにします。サーバブレードの場合は、シャーシへの搭載直後はインベントリブート機能により、自動的に電源がオンされたあと、しばらくして電源がオフされます。インベントリブートが完了してからプロファイルを適用してください。
- サーバの電源ケーブルが接続され、電源が供給されていることを確認してください。サーバブレードの場合はシャーシの電源もオンされていることを確認してください。
- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。例えばiRMC Webユーザーインターフェースで対象サーバにログインできるか確認してください。
- プロファイル適用動作設定が正しく行われているか確認してください。リポジトリ(共有フォルダー)に対して、指定したアカウントでアクセスできることを確認してください。
- データのインポートが行われているか確認してください。Update DVDのインポートは必須です。また、リポジトリフォルダー 名などを変更した場合は再度インポートが必要です。データインポート実行画面で [適用] ボタンをクリックして正常に動作 するか確認してください。
- サーバのBIOS設定でPXEブート設定が利用可能になっているかを確認してください。
- SVIMのインストール手順を確認し、インストール中の選択操作に誤りの可能性がある場合は、SVIMを再インストールしてみます。
- DHCP設定画面でスコープ設定を行ってください。登録したスコープが無効になっている場合は有効化します。

#### 事象:サーバへのOSプロファイル適用がエラーになる

#### 想定原因/対処

- 上欄「サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる」の記載項目を確認してください。
- SVIMインストール時にPXEサーバの設定や、アカウントの設定が正しく行われたかを確認してください。
- WindowsまたはVMwareをインストールする場合は、データインポートで目的のOSインストールメディアからのインポートが 完了していることを確認してください。また、リポジトリフォルダー名などを変更した場合は再度インポートが必要です。デー タインポート実行画面で [適用] ボタンをクリックして正常に動作するか確認してください。
- Linuxをインストールする場合は、FTPサーバに目的のOSインストールメディアが格納されていることを確認してください。また、FTPサーバ内のフォルダー名が目的のOS種類に合致しているか確認してください。
- プロファイル内でインストール先ディスクが正しく設定されているか確認してください。また適用先サーバに指定したディスク アレイコントローラーや、指定したハードディスクの台数が正しく搭載されていることを確認してください。
- アレイコントローラーやハードディスクが搭載されていても、ハードウェア故障などで正しく認識できない場合はエラーになります。アレイコントローラーのBIOSユーティリティなどを利用して状態を確認してください。
- VMwareインストール後に、自動的にvCenter登録が行われる設定の場合は、vCenter登録に失敗した場合にエラー終了状態になります。vCenterの状態や設定を確認したあと、vCenterへの手動登録を行ってください。
- インストールしたServerView Installation Managerの版数が対象サーバやOSをサポートしているか確認してください。
- 対象サーバ上でServerView Installation Managerを実行して動作を確認してください。

#### 事象:OSプロファイル適用後、対象サーバがWindowsのインストール途中で停止する

#### 想定原因/対処

- ライセンス許諾画面、またはプロダクトキー入力画面で停止する場合は、ISMの動作仕様となります。
   画面表示に従ってインストールを続けてください。
- 言語選択やCore/Fullなどの選択画面で停止する場合は、以下のような不整合が発生している可能性があります。
  - OSプロファイルで指定した言語がインポートしたOSインストールメディアと異なっている
  - 入力したプロダクトキーが選択したOSのものではない

プロファイルの内容とインポートメディアをチェックしてください。

#### 事象:OSプロファイル適用後、ドメインに参加できていない

#### 想定原因/対処

- OSプロファイルの個別設定の入力が正しくなくてもOSインストールが完了するとプロファイル適用は正常終了します。OS上でドメイン設定を行ってください。
- ドメインコントローラーの設定が正しくないなどの理由でドメインに参加できない場合も、OSインストールが完了するとプロファ イル適用は正常終了します。原因を取り除いたあと、OS上でドメイン設定を行ってください。

#### 事象:ETERNUSへのHWプロファイル適用がエラーになる

- 装置の電源がオンになっていることを確認してください。
- ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- プロファイル内で指定したディスクドライブの種類と、ETERNUSに搭載されているディスクドライブの種類が一致しているか 確認してください。
- プロファイル内で指定したディスクドライブ台数がETERNUSで未使用状態になっているか確認してください。特に一度プロファイル適用後に適用解除して、再度同一プロファイルを適用しようとした場合には、プロファイル適用解除時にアレイ構成が削除されないため、2回目にはディスク台数が不足してエラーになる可能性があります。

- 別のETERNUS管理ソフトやWeb GUIが動作していないか確認してください。ほかの操作と重なっている場合はプロファイル適用がエラーになる場合があるため、終了させておきます。
- デフォルトのログインアカウントまたはパスワードを変更している場合、プロファイル適用はできません。
- telnet接続を無効化している場合、プロファイルの適用はできません。

#### 事象:ファームウェアアップデートがエラーになる/正常終了するが期待通りにアップデートされない

#### 想定原因/対処

- インポートしたUpdate DVD版数が正しいか確認してください。
- 対象サーバ上でUpdate DVDを起動させて動作を確認してみてください。

#### 事象: VIOMプロファイル操作時にエラーになる

#### 想定原因/対処

- VIOMがインストールされているか確認してください。
- 対象サーバがSVOMのサーバリストに登録されているか確認してください。

#### セットアップ

#### 事象:DHCP設定が有効にならない

#### 想定原因/対処

- 管理サーバ上でDHCPサービスが動作していることを確認してください。管理サーバ以外のDHCPサーバを利用する場合、 DHCP設定は不要です。

#### 事象:データインポート実行画面で [インポート開始] がエラーになる

#### 想定原因/対処

- インポート元ドライブに正しいDVDがセットされていることを確認してください。
- 管理サーバ上のドライブにDVDがセットされていることを確認してください。プロファイル管理にリモートで接続している場合 は間違えて端末側にセットしていないか確認してください。
- インポート先リポジトリパスが正しく指定されているか確認してください。正しくない場合はプロファイル適用動作設定で変更してください。
- インポート先のディスクの空き容量が十分であるか確認してください。また書き込み禁止になっていないか確認してください。
- インポート元DVDで読み取り不良が発生している可能性があります。別のDVDがある場合は交換してください。またはディスクの空き領域などにファイルをコピーしてください。

#### 事象:データインポート実行画面で [適用] がエラーになる

- データインポートの処理結果一覧でステータスが「完了」と表示されていることを確認してください。エラーになっている場合 はインポートを再実行してください。
- 必要なデータがすべてインポートされていない可能性があります。Update DVDのインポートは必須です。
- リポジトリの共有設定、アクセス権限設定が正しいか確認してください。リポジトリのフォルダーを変更した場合は新しいフォ ルダーにデータが格納されていない可能性があります。過去にインポートが完了していても、再度インポートを実行してくだ さい。
- プロファイル適用動作設定で必要な項目が正しく設定されているか確認してください。
- PXEサービスが動作していない場合はエラーになります。PXEサービスがインストールされていない場合は、SVIMを再インストールしてください。
- PMSがインストールされていない場合はエラーになります。正しくインストールされていることを確認してください。

#### 事象:データインポート実行画面のリポジトリー覧から「削除」を実行した際にエラーになる。

#### 想定原因/対処

削除しようとするデータをインポートしたあと、リポジトリフォルダーが変更されました。[プロファイル適用動作設定]画面で一時的にインポート時のフォルダーに戻したあとに削除を実行してください。

#### 事象: [仮想管理ソフト設定]画面でvCenterの登録情報を入力後、[通信テスト] をクリックするとエラーが表示される。

#### 想定原因/対処

- vCenterが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認してください。入力したパラメーターを使って vCenterにログインできることを確認してください。
- ポート番号が正しく設定されていること、ファイアーウォールなどが原因で通信がブロックされていないことを確認してください。
- Java 6以前がインストールされており、かつISMインストール時に環境変数%JAVAHOME%が設定されていた場合、vCenter テストが正しく動作しない場合があります。環境変数を削除した状態でISMを再インストールしてください。

事象: [仮想管理ソフト設定]画面でSCVMMの登録情報を入力後、[通信テスト] をクリックするとエラーが表示される。

#### 想定原因/対処

- SCVMMが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認してください。入力したパラメーターを使って SCVMMにログインできることを確認してください。
- 管理サーバにインストールしたSCVMMコンソールの種類と、接続しているSCVMMサーバの種類が異なる場合は、正常に 動作しないことがあります。
- Active Directoryへの参加や設定が正しく行われていることを確認してください。

#### その他

#### 事象:仮想管理ソフトへの登録がエラーになる。

#### 想定原因/対処

- 一登録先サーバが正常に動作していることを確認してください。また、[仮想管理ソフト設定]画面の登録内容が正しいことを確認してください。
   画面内の[通信テスト]ボタンをクリックし、通信テストが成功することを確認してください。
- 登録対象のサーバの状態を確認してください。OSが正しく稼動していることを確認してください。
- 登録対象サーバ、登録先サーバおよび管理サーバそれぞれでファイアーウォールが正しく設定されていることを確認してください。
- 登録対象サーバが異常な状態となっている可能性があります。SCVMMに登録失敗したあとは復旧のために対象サーバの 再起動が必要になる場合があります。

#### 事象:画面操作を行うと、「サーバとの通信に失敗しました」のメッセージが表示される。

#### 想定原因/対処

ServerView Infrastructure Managerサービス、またはその他のServerView関連サービスが起動していない可能性があります。サービスの状態を確認してください。

#### 事象:画面上に意味不明の英語文字列が多数表示されて画面が正しく表示されない。

#### 想定原因/対処

- Javaのセキュリティチェック「安全でない可能性があるコンポーネントの実行をブロックしますか。」に対してブロックするを選択すると正しく動作しません。一度Webブラウザを閉じ、ブロックしないを選択してください。

#### 事象:プロファイルの再適用操作を行う際、目的の操作にチェックが付けられない。

#### 想定原因/対処

- HWプロファイルのうち、有効な設定が1つも存在していないカテゴリー(FW、BMCまたは BIOS)についてはチェックを付けられません。
- OSプロファイルが適用されていない状態では、OSにチェックを付けられません。

#### 事象:保守管理(ノード交換)実行時、交換後のサーバが画面に表示されない。

#### 想定原因/対処

- 装置を接続した直後は検出できない場合があります。1分ほど待ってから再度保守管理(ノード交換)を行ってください。
- 交換元に指定したサーバが正しいか確認する。誤って別のサーバを指定していないか確認してください。
- 交換後のサーバが正しくネットワークに接続されていることを確認してください。
- 交換後のサーバに電源が供給されていることを確認してください。
- 交換後にサーバのiRMCのIPアドレスがDHCPになっているか確認してください。固定IPで利用する場合は手動検出を行ってください。

#### 事象:保守管理(ノード交換)実行時、交換後の装置が表示されるが、選択できない。

- 交換元に指定したサーバが正しいか確認してください。
- - 交換前のサーバと交換後のサーバが同一モデルであるか確認してください。
   異なるモデルの場合、保守管理(ノード交換)はできません。

# 付録C アンインストール

アンインストールの順番は、ISMを行ったあとに、続けてPMS、SVIM、SVOMの順番で行います。 また、必要に応じてSQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardをアンインストールします。



- ・ Administrator権限のアカウントで作業を行ってください。
- SVOMのアンインストール後に再度SVOMをインストールしても、ISMは動作できません。SVOMのアンインストール時には、ISMも 必ずアンインストールしてください。

 ISMをアンインストールすると、管理対象装置や操作履歴を記録したデータベースの内容が消去されます。データベースの内容 を保存しておき、再インストール後に引き継ぐような場合は、「6.2.1 バックアップ」の手順に従って、事前にバックアップを行ってください。 ISMをアンインストールすると、以下のフォルダーに保存されたバックアップデータも削除されます。アンインストールを実行する前 に、必ずこのフォルダーを退避してください。

C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Sqldb

・アンインストールは、SQLServerへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントで実施してください。

1. [コントロールパネル] で、[プログラムと機能]を選択します。

2. [FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager] を選択して、アンインストールします。

몓 ポイント

<インストールフォルダー>¥GUI¥lib¥jersey-bundle-1.13.jarが削除されないまま再起動が促される場合があります。再起動でき ない場合は、SVOMのサービスを停止してからISMのアンインストールを実施してください。

3. VMware ESXi上の仮想マシンを管理している場合、[サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector]サービス(\*)を停止します。

\*: ESXiの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。

- 4. [コントロールパネル] で、[プログラムと機能]を選択します。
- 5. [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checker] を選択して、アンインストールを実行します。

このとき、ログ監視対象サーバの設定も削除されます。

### 몓 ポイント

ISMをアンインストールしても、収集したログやリポジトリは削除されません。必要に応じて手動で削除してください。

ログは、「2.1 ログの保存容量の決定」で決定した場所に、以下のフォーマットで保存されています。

[ログ保存先ディレクトリ]\_backup\_MM-DD-YYYY-HHMMSS

- 6. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] を選択します。
- 7. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager] を選択して、アンインストールを実行します。

このとき、ISMデータベースも削除されます。

8. PMSをアンインストールします。

Fujitsu ServerView Profile Manager Serviceをアンインストールします。

9. SVIMをアンインストールします。

以下の3つのプログラムをアンインストールします。

- Fujitsu ServerView Installation Manager PXE Server
- Fujitsu ServerView Installation Manager Data Packages
- Fujitsu ServerView Installation Manager
- 10. SVOMをアンインストールします。

アンインストール手順は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

- 11. 必要に応じて、SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardをアンインストールします。
  - a. [コントロールパネル] で、[プログラムと機能] を選択します。
  - b. [Microsoft SQL Server 2008 R2] または [Microsoft SQL Server 2012] を選択して、ダブルクリックします。
  - c. ダイアログボックスで、[削除]を選択します。



# 付録D SVIMの再インストール

OSプロファイルの適用により、管理対象サーバへOSをインストールする際は、インストールされているSVIMが利用されます。 次の例のような場合にはSVIMの再インストールを行ってください。

- ・新しいモデルのPRIMERGYサーバを増設する際、すでにインストール済みのSVIMが新モデルに対応していない
- ・新しいOSをインストールする際、すでにインストール済みのSVIMが新OSに対応していない
- ・既存モデルにOSを再インストールする際、最新のSVIMを使って新しいデバイスドライバをインストールしたい

# 🌀 注意

新モデルや新OSを扱う場合は、SVIMだけでなくISMのバージョンアップが必要になる場合もあります。 最新のサポート情報については、本製品のウェブサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

SVIMの再インストール手順は以下のとおりとなります。将来的なSVIMのバージョンアップにより手順が変わる場合も考えられます。 SVIMの取扱説明書もあわせて参照してください。

- 1. ISMでプロファイル適用やファームウェアアップデートが実行中でないことを確認します。
- 2. PMSおよびSVIMをアンインストールします。 「付録Cアンインストール」の手順8および手順9を参照してください。
- 3. 「3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール」の手順を参照し、PMSとSVIMをインストールします。
- 4. 管理サーバを再起動します。

# 付録E プロファイル設定項目

# E.1 サーバ用HWプロファイルの設定項目

HWプロファイル中で設定可能な項目を記載します。サーバ種類に応じて一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定を行ってください。

HWプロファイル内の設定項目は、個別に有効/無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した 項目は変更されません。

各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照してください。

### ファームウェアタブ

項目名	意味	設定値
Motherboard BIOS版数	サーバのシステムボードのBIOS、iRMCファームウェ	最新版を適用=アップデートを行う
Motherboard iRMC版数 アレイコントローラ版数	アおよび、サーバに搭載されているアレイコントロー ラーのファームウェアをアップデートするかどうかを指 定する。	🌀 注意
	オンボードRAIDのEmbedded MegaRAIDは本設定対象にならない。	本設定は個別に指定できない。設定を有 効にした場合は、左記すべての対象に対
	複数のアレイコントローラーが搭載されている場合は すべてが対象になる。個別の指定はできない。	してアップデートが行われる。

#### BIOSタブ

	項目名	意味	設定値
Ну	per-threading	<b>CPUのHyper Threading Technology</b> 動作を指定する。 本機能を持たない <b>CPU</b> を搭載している場合、本設定 は意味を持たない。	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする
Ex	ecute Disable Bit	CPUのExecute Disable Bit動作を指定する。本機能 はXD(eXecute Disable)ビットまたはNX(No eXecute)ビットとも呼ばれる。	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする
Int	tel Virtualization Technology	CPUの仮想化支援機能の動作を指定する。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
Int	tel (R) VT-d	CPUのVirtualization Technology for Directed I/O機 能動作を指定する。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
Po	wer Technology	CPUの電源管理動作を設定する。	Energy Efficient=省電力に最適化された動 作をする Custom=追加設定項目により詳細動作を設 定する Disabled=電源管理機能を無効にする
	Enhanced SpeedStep	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な 項目。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
		<b>B</b> 作を指定する。	
	Turbo Mode	Enhanced SpeedStepがEnabledの場合のみ設定可能な項目。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
		CPUのTurbo Boost Technology動作を指定する。	

	項目名	意味	設定値
		本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定 にかかわらず無効になる。	
D	DR Performance	メモリモジュールは異なる速度(周波数)で動作す る。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速に なるほど省電力になる。使用可能なメモリ速度は、取 り付けられているメモリモジュールの構成に応じて異 なる。	Low-Voltage optimized=低電圧で可能な 最も高速な設定 Energy optimized=省電力で可能な最も低 速な設定 Performance optimized=最高のパフォーマ ンスを得るために可能な最も高速な設定
N	JMA	NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用 有無を指定する。 マルチプロセッサ構成ではない場合は意味を持たな い。 本設定はBX920 S4, BX924 S4, RX200 S8, RX300 S8, RX2520 M1のBIOS 1.3.0, iRMCファーム7.19F 以降が適用された装置でのみサポートされる。それ 以外の装置では本設定自体を無効化しておく必要 がある。	Enabled=NUMA機能を有効にする Disabled=NUMA機能を無効にする
O	nboard SAS/SATA (SCU)	オンボードSAS/SATAストレージコントローラーユニッ ト(SCU)の動作を指定する。	Enabled=SCUを有効にする Disabled=SCUを無効にする
	SAS/SATA OpROM	Onboard SAS/SATA (SCU)がEnabledの場合のみ 設定可能な項目。 SAS/SATAコントローラーのOption ROM動作を指定 する。	Enabled=Option ROMを有効にする Disabled=Option ROMを無効にする
	SAS/SATA Driver	SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ設定可能 な項目。 SAS/SATAコントローラーのOption ROMの種類を指 定する。	LSI MegaRAID=Embedded MegaRAID用Option ROMを使用する Intel RSTe=Intel RSTe用Option ROMを使 用する
Sy (1	nc RTC with Mgmt. Blade ナーバブレードのみ)	Real Time Clockをマネジメントブレードと同期させる かを指定する。	Enabled=同期する Disabled=同期しない
	Adjust Date/Time	<ul> <li>プロファイル適用時に、サーバの時刻を管理サーバの時刻を基準にして変更する。</li> <li>Sync RTC with Mgmt BladeがDisabledの場合のみ設定可能。</li> <li>道言注意</li> <li>本項目はサーバのBIOSセットアップユーティリティの設定項目ではありません。</li> <li>BIOS設定を変更するのではなく、対象サーバの時刻(RTC)をプロファイル適用時に一度だけ変更する機能であり、すべてのBXシリーズで使用可能です。</li> </ul>	Local Time=管理サーバのタイムゾーン設 定に応じた時刻を指定する UTC=管理サーバのタイムゾーン設定から UTCに変換した時刻を指定する
La	unch Slot X OpROM	各PCIスロットに搭載されたオプションカードの拡張 ROM実行を指定する。 プロファイルでは多くのスロットに対して指定できる が、実機上に存在しないスロットに対しては設定を行 わないこと。	Enabled=拡張ROMを実行する Disabled=拡張ROMを実行しない

BMC(iRMC)タブ

項目名	意味	設定値
POSTエラー時の動作	サーバ起動時にエラーが発生した場合の対応動作 を設定する。	起動継続=エラーが発生しても、起動処理 を続ける 起動停止=エラーが発生すると、キー入力 があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定	AC電源入力が切断されたあと、電源復旧した際の 電源動作を設定する。	電源断前の状態に戻す=電源切断発生時 の状態を保持する(切断時にサーバが電源 ON中だった場合は電源投入する。電源OFF 中だった場合は電源投入しない) 電源投入しない=常に電源OFFになる 電源投入する=常に電源ONになる
電力制御	<ul> <li>サーバの省電力動作や静音動作に関する設定を行う。</li> <li> <b>ご</b>注意   BIOS設定で、Enhanced SpeedStepを無効に設定した場合、本制御も無効になる。</li></ul>	OSによるコントロール=OSの制御に従う 省電力動作=消費電力を抑えることを優先 した動作となる (スケジュール)=プロファイル管理では設 定できない (電力制限)=プロファイル管理では設定で きない
ファンテストの実行 (ラックサーバのみ)	定期的なファンの診断を行うかどうかを設定する。	指定時刻に実行する=毎日指定した時刻 にテストを行う 実行しない=ファンテストを行わない
ファンテスト時刻	ファンテストを実行する場合に有効になる。ファンテ ストの開始時刻を指定する。	00:00から23:59までの時刻を入力する。
対象とする	ソフトウォッチドッグを設定するかどうかを指定する。	(チェックあり)=設定を行う (チェックなし)=設定を行わない
ソフトウォッチドッグを有効に する	OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを 指定する。	(チェックあり)=通信監視を行う (チェックなし)=通信監視を行わない
動作	通信が行えない場合の動作を指定する。	継続稼動=特に何も行わない リセット=サーバの再起動を行う パワーサイクル=一度サーバを電源OFFし たあと、電源ONを行う
タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えて通信がない場合に通信 できないと判断する。	1~100分までの数値を指定する。
対象とする	Bootウォッチドッグを設定するかどうかを指定する。	(チェックあり)=設定を行う (チェックなし)=設定を行わない
Bootウォッチドッグを有効に する	POST終了後からOS起動までの時間を監視するかど うかを指定する。	(チェックあり)=時間監視を行う (チェックなし)=時間監視を行わない
動作	指定した時間内にOSが起動しない場合の動作を指 定する。	継続稼動=特に何も行わない リセット=サーバの再起動を行う パワーサイクル=一度サーバを電源OFFし たあと、電源ONを行う
タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えてOSが起動しない場合に 異常と判断する。	1~100分までの数値を指定する。
BMC(iRMC)のAdminアカウント	BMC(iRMC)のAdminアカウントの設定(有効/無 効)を指定する。	有効にする 無効にする
BMC(iRMC)のAdminパス ワードを変更する	BMC(iRMC)のAdminアカウントが「有効にする」の 場合のみ設定可能な項目。	(チェックあり)=変更を行う (チェックなし)=変更を行わない
BMC(iRMC)のAdmin パスワード	BMC(iRMC)のAdminアカウントのパスワードを指定 する。	20文字以内の半角文字で入力する。 記号の扱いなどについてはサーバ本体の取 扱説明書を参照する。

	項目名	意味	設定値
	パスワード確認入力	BMC(iRMC)のAdminパスワードのチェック用。同じ パスワードを入力する。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。
対	象とする	Administratorを追加作成するかどうかを指定する。	(チェックあり)=作成を行う (チェックなし)=作成を行わない
	BMC(iRMC)アカウント (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成す る際にアカウント名を指定する。アカウントはID=15に 作成される。	16文字以内の半角文字で入力する。 記号の扱いなどについてはサーバ本体の取 扱説明書を参照する。
	BMC(iRMC)パスワード (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成す る際にパスワードを指定する。	20文字以内の半角文字で入力する。 記号の扱いなどについてはサーバ本体の取 扱説明書を参照する。
	パスワード確認入力	iRMCパスワードのチェック用。同じパスワードを入力 する。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。

### プロファイル情報タブ

項目名	意味	設定値
作成日時	プロファイルを最初に保存した日時が表示される。 流用作成の場合は流用後に最初に保存した日時にな る。	参照のみ
最終更新日時	プロファイルを最後に保存した日時が表示される。	参照のみ
最終適用日時	プロファイルをサーバに適用した日時が表示される。 教サーバに対して複数回の適用を行った場合は最後 に適用した日時が表示される。	参照のみ
最終適用ノード	プロファイル適用先サーバの機器名が表示される。複数サーバに対して適用した場合は最後に適用したサーバの機器名が表示される。	参照のみ
適用中ノード数	プロファイルを適用中のサーバの台数が表示される。 適用中サーバに別のプロファイルが適用された場合や サーバの登録解除を行った場合は台数が減少する。	参照のみ
個別情報定義数	OSプロファイル内に作成されている個別プロファイルの	参照のみ
(OSプロファイルのみ)	数が表示される。	
状態	プロファイルの作業状態が表示される。	参照のみ
XE	プロファイルに対する注釈などを記入する。プロファイ ル適用後は編集禁止となる。	半角文字、全角文字256文字まで記入可 能。

# E.2 サーバ用OSプロファイルの設定項目

OSプロファイル中で設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくてもOSのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、OSのデフォルトの設定が適用されます。

# E.2.1 Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用プロファイル

### OSインストールタブ

項目名	意味	設定値
インストールのタイプ	OSをCoreインストール、フルインストールのどちらでイン ストールするかを指定する。	画面から選択する。

項目名	意味	設定値
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択する。	画面から選択する。 Microsoft社メディアを選択した場合は、さ らにプロダクトキーの入力が必要。
アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先 として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラーを使用する
既存アレイ構成を利用する	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリューム を使用する。	(選択時)=既存のアレイ構成を使用する
アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用する。	(選択時)=アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、 RAIDレベル、RAIDに組み込むディスク の台数を画面から選択する。
アレイコントローラを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
ボリューム1	•	
ボリュームラベル	ボリューム名を指定する。	ボリューム名文字列を入力する。
ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択する。	常にNTFSとなる。
パーティションサイズ(自動 /指定)	パーティションのサイズを指定する。	自動=自動的に適切なサイズでパーティ ションを作成する 指定=入力したサイズでパーティションを 作成する
クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを 利用するかどうかを指定する。	する=クイックフォーマットを行う しない=通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)
利用形態	パーティションの用途を指定する。	常にBoot、OSとなる。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定する。	プルダウンから選択する。
地域と言語	地域と言語を指定する。	プルダウンから選択する。
キーボード	キーボードの言語や種類を指定する。	プルダウンから選択する。
画面解像度	OSインストール直後の画面解像度を指定する。	プルダウンから選択する。 例:600×480、800×600、1024×768、 1280×1024
リフレッシュレート	OSインストール直後のディスプレイのリフレッシュレート を指定する。	プルダウンから選択する。
画面の色数	OSインストール直後の画面の表示色数をビット数で指定する。	プルダウンから選択する。
SNMP	-	
SNMPサービスをインストー ルする	SNMPサービスをインストールするかどうかを指定する。	(チェックあり)=SNMPサービスをインス トールする
SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を 指定する。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定 を行う。
	ļ	【省略可】
SNMPセキュリティ設定	受け付けるSNMPコミュニティ名とその権利を指定する。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定 を行う。
		【省略可】

	項目名	意味	設定値
	認証トラップを送信する	未知のホストまたはコミュニティからのSNMP要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定する。	(チェックあり)=認証トラップを送信する (チェックなし)=認証トラップを送信しな い
	デフォルトのホストから SNMPパケットを受け取る	LocalhostからのSNMPパケットを受け付けるかどうかを 指定する。	(チェックあり)=SNMPパケットを受け付け る (チェックなし)=SNMPパケットを受け付 けない
	SNMPパケットを受け付ける ホスト名	SNMPパケットを受け付けるホスト名を指定する。	ホスト名を記載する。 【省略可】
	SNMP設定エージェント	管理者の名前と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
	サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定する。	任意のサービスをチェックする。
IJ=	Eートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指定する。	(チェックあり)=リモートデスクトップを有 効にする (チェックなし)=リモートデスクトップを無 効にする
リ= (1 の	モートアシスタンス インストール形態がFullの場合 み)	リモートアシスタンスの利用可否を指定する。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定す る。
フ	アイアウォール設定	対象サーバをSCVMMへ登録する際に必要となるファ イアーウォールの例外を作成する。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になる。 • Windows Management Instrumentation(WMI) • ファイルとプリンターの共有	本設定はV1.3では使用できません。 チェック有無にかかわらず、ファイアー ウォールの例外は作成されない。 V1.2ではチェックありの場合に例外が作 成される。
追加アプリケーション			
	Java Runtime Environment ServerViewエージェント ServerViewアップデート エージェント	Java Runtime Environment (JRE)、ServerViewエージェ ント、ServerViewアップデートエージェントをインストール するかどうかを指定する。 JREはOS種類がFullの場合のみインストールされる。	(チェックあり)=アプリケーションをインス トールする(*1)
	DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指定する。	(チェックあり)=アプリケーションをインス トールする(*1)
	ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを 指定する。	(チェックあり)=アプリケーションをインス トールする(*1)

\*1:「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。

### 個別情報タブ

項目名	意味	設定値
名前	使用者の名前を入力する。	名前の文字列を入力する。
組織名	使用者の組織名を入力する。	組織名の文字列を入力する。
コンピュータ名	ネットワーク上で識別するための名称を入力する。	コンピュータ名文字列を入力する。
Administratorパスワード	パスワードを入力する。	パスワード文字列を入力する。
参加先	ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを 選択する。	プルダウンから選択する。

	項目名	意味	設定値
Workgroup/Domain名		ワークグループまたはドメインの名前を指定する。	文字列を入力する。 日本語には対応していない。 Workgroupの場合、アルファベットは大文 字で入力する。
	ドメインユーザ名	ドメインの場合、ドメインユーザー名を入力する。	文字列を入力する。
	ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力する。	文字列を入力する。
DHCP有効		管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択する。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定する
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定する。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定する。	プルダウンから選択する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定する。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力 する。
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバのIPアドレスを指定する。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力 する。 【省略可】
	DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、ドメイン名を指定する。	ドメイン名文字列を入力する。 【省略可】

### プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「E.1 サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

## E.2.2 VMware ESXi 5.1/VMware ESXi 5.5用プロファイル

### OSインストールタブ~仮想管理ソフト登録タブ

	項目名	意味	設定値
<i>P</i>	レイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラーをOSインストール 先として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラーを使用する
	既存アレイ構成を利用する	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュー ムを使用する。	(選択時)=既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して 使用する。	(選択時)=アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAID レベル、RAIDに組み込むディスクの台数 を画面から選択する。
P	レイコントローラを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール 先として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラー以外を使 用する 加えて、使用するドライブの種類を画面か ら選択する。
キ	ーボード	キーボードの言語や種類を指定する。	プルダウンから選択する。
V. T	Mの標準ネットワークでセット ップ	ポートグループを利用して標準ネットワークを作成する。	(チェックあり)=標準ネットワークを作成す る
使	用するVLAN ID	VLAN IDを入力する。VLANを使用しない場合は0を入力する。	VLAN IDを入力する。
使 ま	用許諾契約書の条項に同意し す	画面に表示されている使用許諾契約書の内容を確認 する。	(チェックあり)=使用許諾契約書に同意する (チェックなし)=使用許諾契約書に同意しない

項目名		意味	設定値	
OSインストール後、仮想管理ソフトに登録する		ESXiのインストールが完了したあと、続けてvCenterへ 自動的に登録するかどうかを指定する。 プロファイル適用済みになったあとから、任意のタイミ ングでの登録も可能。	(チェックあり)=登録する (チェックなし)=登録しない	
登録先		登録先のvCenterとフォルダー/クラスタを指定。	事前に[Setup] - [仮想管理ソフト設定]画面 に登録した登録先から選択。	

### 個別情報タブ

項目名		意味	設定値	
rootパスワード		パスワードを入力する。	パスワード文字列を入力する。	
DNSからホスト名を取得		DNSから取得したホスト名を利用するかどうかを指定 する。 (チェックあり)=DNSから取得する (チェックなし)=プロファイルで任意 ト名を指定する		
ホスト名		DNSからホスト名を取得しない場合に任意のホスト名を指定する。	「Aを相足りる」 ホスト名を入力する。 (チェックあり)ー <b>DHCP</b> を利用する	
DHCP有効		管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定 するか、DHCPを使用するかを選択する。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定する	
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定する。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。	
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定す る。	プルダウンから選択する。	
デフォルトゲートウェイ		DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定する。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力 する。	
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで 指定する。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力 する。 【省略可】	

### プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「E.1 サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

# E.2.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル

### OSインストールタブ

項目名		意味	設定値
インストールのタイプ		OSを32bit、64bitのどちらのタイプでインストールするか を指定する。	画面から選択する。
アレイコントローラを使用する		サーバ内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラーを使用する
	既存アレイ構成を利用する	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを 使用する。	(選択時)=既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用する。	(選択時)=アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAID レベル、RAIDに組み込むディスクの台数を 画面から選択する。
アレイコントローラを使用しない		アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先 として使用する場合に選択する。	(選択時)=アレイコントローラー以外を使用 する

項目名		意味	設定値	
			設定値           加えて、使用するドライブの種類を画面から 選択する。           (チェックあり) = パーティションを作成する (チェックなし) = パーティションを作成しな ハ           ブルダウンから選択する           列:ext2,ext3,ext4           数値を10進数で入力する。           (チェックあり) = 指定のパーティションに余っ と容量を割り当てて容量を拡大           (チェックあり) = 指定のパーティションに余っ と容量を割り当てて容量を拡大           (チェックなし) = 指定した容量でパーティ ションを作成           ブルダウンから選択する。           ブルダウンから選択する。           (チェックなし) = ローカルタイムを使用           (チェックなし) = ローカルタイムを使用           (チェックなし) = ローカルタイムを使用           (チェックなし) = インストールする。           (チェックなし) = インストールする           (チェックなし) = インストールしない           パッケージ名を文字列で入力する。           (チェックの有無を指定する。           (*1) (*2)           解像度をプルダウンから選択する。           (*1) (*2)           デングウンから以下を選択する。           (*1) (*2)           アルダウンから以下を選択する。           (*1) (*2)           アルダウンから選択する。           (*1) (*2)           アルダウンから以下を選択する。           (*1) (*2)           アルダウンから以下を選択する。           (*1)           チェックの有無を指定する。           (*1)           チェックの有無を指定する。           (*1)           チェックの有無を指定する。           (*1)           チェックシャットのより、たのより、	
バ	パーティション	下記の項目をプロファイル作成画面に表示された/boot、/ var等の各マウントポイントに対して指定する。		
	(各マウントポイント左の チェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成 するかどうかを指定する。	(チェックあり)=パーティションを作成する (チェックなし)=パーティションを作成しな い	
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定する	プルダウンから選択する 例: ext2, ext3, ext4	
	サイズ	パーティションの容量を指定する。	数値を10進数で入力する。	
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当て るかどうかを指定する。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを 作成する場合は、本指定は行わない。	(チェックあり)=指定のパーティションに余っ た容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし)=指定した容量でパーティ ションを作成	
	語	言語を指定する。	プルダウンから選択する。	
キ	ーボード	キーボード種類を指定する。	プルダウンから選択する。	
タ	イムゾーン	タイムゾーンを指定する。	プルダウンから選択する。	
システムクロックでUTCを使用		システムクロックとして使用する時刻の種類を指定する。	(チェックあり)=UTCを使用 (チェックなし)=ローカルタイムを使用	
パッケージ選択の初期値		インストールするパッケージとして画面に表示されるパッ ケージグループと個別パッケージの初期選択を変更す る。	最小=必要最小限のパッケージ すべて=すべてのパッケージ デフォルト=推奨パッケージ	
パッケージグループ		インストールするパッケージグループを指定する。	(チェックあり)=インストールする (チェックなし)=インストールしない	
個別パッケージ		インストールするパッケージ名を個別に指定する。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行当たり1パッケージで複数行の記述が可 能。	
X Window Systemの設定		X Window関連設定を行うかどうかを指定する。	チェックの有無を指定する。 (*1)(*2)	
直	面の色数	X Windowの画面の色数を指定する。	色数をプルダウンから選択する。 (*1)(*2)	
直	面解像度	X Windowの画面の解像度を指定する。	解像度をプルダウンから選択する。 (*1)(*2)	
デ	フォルトデスクトップ	デフォルトで使用するデスクトップの種類を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 GNOME, KDE, None(*1)	
システムのブート時にX Window Systemを起動		ブート後にX Windowを起動するかどうかを指定する。	チェックの有無を指定する。 (*1)	
SE Linux		SE Linuxの使用有無を指定する。	プルダウンで以下からから選択する。 Permissive, Enforcing, Disabled	
シャドウパスワードの使用		シャドウパスワードを使用するかどうかを指定する。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない(*3)	
MD5の使用		パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定する。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない	
nscdの有効		Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定する。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない	

\*1: X Windowの使用にあたっては、各設定間の不整合はプロファイルではチェックされません。 例えば、「デフォルトデスクトップ」と「システムのブート時にX Window Systemを起動」の間では、適切な設定を行ってください。 また、使用するデスクトップに応じて必要なパッケージを選択してください。 代表的な設定例を以下に示します。

項目名	使用する画面モード		
	テキストモードのみ使用	GNOMEを使用	
X Window Systemの設定	チェックなし	チェックあり	
画面の色数	24	24	
画面解像度	800×600	800×600	
デフォルトデスクトップ	None	GNOME	
システムのブート時にX Window Systemを起動	チェックなし	チェックあり	
パッケージグループ/個別パッケージ	特になし	・ デスクトップ	
		• 汎用デスクトップ	
		・ X Window System など	

\*2: ISM V1.3では、「X Window Systemの設定」は、その他のX Window関連の設定に影響されません。「画面の色数」、「画面解 像度」は、プロファイル設定に関わらずデフォルト設定でインストールされます。

\*3:「シャドウパスワード」は、プロファイル設定に関わらず常に有効になります。

#### 個別設定タブ

項目名		意味	設定値	
rootパスワード		パスワードを入力する。	パスワード文字列を入力する。	
DNSからホスト名を取得		DNSから取得したホスト名を利用するかどうかを指定する。	(チェックあり)=DNSから取得する (チェックなし)=プロファイルで任意のホス ト名を指定する	
	ホスト名 DNSからホスト名を取得しない場合に、任意のホスト名を 指定する。		ホスト名を入力する。	
DHCP有効		管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定す るか、DHCPを使用するかを選択する。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定する	
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定する。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。	
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定する。	プルダウンから選択する。	
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定 する。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力 する。	
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指 定する。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で指定 する。 【省略可】	

# E.3 ストレージ用HWプロファイルの設定項目

ETERNUS DXシリーズ用のHWプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能な項目が 異なる場合があります。

### E.3.1 RAID構成タブ

RAID構成

項目名	意味	設定値	
RAIDレベル	構築するディスクアレイのRAIDレベルを指定する。	プルダウンから以下を選択する。	
		RAID1, RAID5, RAID6, RAID1+0	
		その他のRAIDレベルは未サポート。	
ディスクインチ ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(ドラ		プルダウンから以下を選択する。	
	イブ外形サイズ)を指定する。	2.5 Inch, 3.5 Inch	
ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(イン ターフェース種類)を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクイン チに応じて選択可能な種別は異なる。	
		SAS, NL-SAS, SSD, SED	
ディスク容量 ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(ディ スク容量)を指定する。		プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じ て選択可能な容量は異なる。	
		300GB、450GB、1TBほか	
ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスクドライブ台数を指定 する。	プルダウンから台数を選択する。 選択したRAIDレベルに応じて選択可能な 台数は異なる。	

# 関 ポイント

アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

### ホットスペア

項目名	意味	設定値
ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ドラ イブ外形サイズ)を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(イン ターフェース種類)を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクイン チに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS. NL-SAS, SSD, SED
ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ディ スク容量)を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応 じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ディスク本数	作成するホットスペアディスクの台数を指定する。	プルダウンから台数を選択する。

. . . . .

. . . . . . . . .

. . . . . . . . . . . . . . . . .

# 関 ポイント

ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

### プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「E.1 サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

### 詳細設定ボタンについて

プロファイル作成画面には、2箇所に[詳細設定] ボタンが用意されています。クリックすると新しいウィンドウが開き、下表の3種のパラ メーターを入力できます。クリックする[詳細設定] ボタンに応じて設定可能項目は異なります。

入力項目名	意味
Pre実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア構築)の実行前にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 記述内容については対象装置のCLIユーザガイドを参照してください。 特別な要求がない場合は空欄にしておきます。
Post実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア構築)の完了後にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 記述内容については対象装置のCLIユーザガイドを参照してください。 特別な要求がない場合は空欄にしておきます。
詳細設定パラメータ	プロファイルに記述する各RAID構成に対して、より詳細な設定を指定する場合にパラメーターを記述します。 使用可能なパラメーターは下表のとおりで、1パラメーター1行で記述します。

### 表E.1 詳細設定パラメータの記述方法

パラメータ名	記述例	意味
GN	GN="Group Name"	RAIDグループの名前を指定します。
VN1	VN1="Volume Name1"	1個目のVolumeの名前を指定します。
VS1	VS1=10240	1個目のVolumeのサイズをMBで指定します。 VS2以降が存在しない場合は"max"を指定するとRAIDグループの全容量が 割り当てられます。ETERNUS DX60 S2では"max"は指定できません。
VN2, VN3, VN4	VN2="Volume Name2"	2個目~4個目のVolumeの名前を指定します。
VS2, VS3, VS4	VS2=8192	2個目~4個目のVolumeのサイズを指定します。 VS2~4で指定した数のVolumeが作成されます。最後のVolumeに対して は"max"を指定するとRAIDグループの残り全容量が割り当てられます。 ETERNUS DX60 S2では"max"は指定できません。
HDD	HDD="004,005"	RAID Groupに割り当てるディスクドライブの番号を指定します。 指定フォーマットは対象装置のCLIユーザガイドの解説に従います。
СМ	CM=1	RAID Groupの担当CM番号を指定します。

# 付録F プロファイル管理機能の補足情報

ここでは、プロファイル管理機能を利用するうえで留意していただきたい内容を説明します。

## F.1 プロファイル利用時の留意事項

プロファイルを利用する場合の留意事項は次のとおりです。

- プロファイル適用状態の機器に対して、プロファイル管理機能を使用せずに直接ハードウェアやOSの設定を変更した場合は、その変更を検知できません。このため、プロファイル内容と機器状態には差異が生じます。
- プロファイル適用済み機器に対して別のプロファイルを適用する場合は、新旧プロファイル間に差分がある部分のみ設定が適用 されます。差分の有無はカテゴリーごとに判断されます。カテゴリーはFWアップ、BIOS、iRMC、OSの4種に分けられます。
- 例えば、新旧プロファイルでBIOS設定が完全に同一の場合はBIOS設定の更新は行われません。新旧プロファイルでiRMC設定 が1項目でも変更されていた場合は、すべてのiRMC設定の更新が行われます。同一設定の場合においても更新を行いたい場合 は、機器プロパティ画面でプロファイル名を指定する際に、「適用項目」のチェックボックスにチェックを入れます。
- ・ HWプロファイルとOSプロファイルは独立して管理されますが、対象サーバへの適用に関しては次のルールがあります。
  - HWプロファイルとOSプロファイルを同時に適用できる
  - HWプロファイルとOSプロファイルは個別に変更できる
  - 最初にHWプロファイルのみ適用し、あとからOSプロファイルを適用できる
  - HWプロファイルが適用されていない状態で、OSプロファイルのみの適用はできない

## F.2 登録済み機器情報の変更に関して

登録済み機器情報の変更を説明します。

#### HWプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

機器へ適用済みのプロファイルをそのまま編集することはできません。

機器へ適用済みのプロファイルを流用作成し、別のプロファイルとして保存して機器へ適用します。

変更するパラメーターのみを有効にしたプロファイルを適用しても、機器の設定は同じ結果になりますが、過去に適用したすべての設定が最新プロファイルに記述されなくなるため、適用済みプロファイルを流用作成することを推奨します。

### 関 ポイント

ETERNUSに対しては、プロファイルの上書き適用はできません。一度プロファイルを取り外したあとで再度適用してください。また、

プロファイル取り外しではRAID構成を消去できないので、必要に応じてRAID構成の削除が必要です。

#### OSプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

OSプロファイルの適用時には、必ずインストール先ドライブのデータが消去されます。インストール済みOSの構成を残したまま設定だけを変更することには対応していません。

OSの言語設定やIPアドレスなどプロファイルに記述したパラメーターを変更する場合、ディスク内のデータが消失しても構わないときは、OSプロファイルを流用作成するか新規作成して適用(変更)できます。

インストール済みのOS環境をそのまま利用する場合は、OS上で直接変更してください。

#### 機器名の変更

機器名は変更できません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度別名で登録してください。

#### iRMC固定IPアドレスの変更

iRMCマネジメントLANのIPアドレスは変更できません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度新しいIPアドレスで登録してください。

#### 位置情報の変更

登録した搭載位置情報をプロファイル管理からは変更できません。変更が必要な場合は、ファシリティ管理から行ってください。

#### コミュニティ名の変更

MMBやETERNUSの手動検出時に指定したコミュニティ名を機器登録後に変更すると、正しい動作ができなくなることがあります。 コミュニティ名の変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあとに変更し、再度登録してください。

# F.3 リポジトリフォルダーの変更

ここでは、ディスク容量不足などが原因で、リポジトリとして使用するドライブやフォルダーを変更する場合の操作手順を説明します。

1. ISMで何らかの処理が行われている場合は、処理の終了を待ちます。

例えば、以下の処理が対象となります。

- OSプロファイル、HWプロファイルの適用または取外し
- メンテナンス支援機能を使用したファームウェアのアップデート
- DVDのインポートやその適用処理

### 🕑 ポイント

念のため、処理終了を確認したあとは、ISM関連サービスを停止させておくことを推奨します。

2. リポジトリ移動先のフォルダーを作成し、旧リポジトリの中のファイルをすべてコピーします。

## 믿 ポイント

リポジトリフォルダー変更後に必要なDVDを再度インポートする場合、コピーは不要です。

ただし、変更前後でインポートの内容に相違がある場合には、[データインポート実行] 画面および [リポジトリー覧] 画面の表示 とリポジトリの内容に不整合が生じます。

- 3. ISM関連サービスを停止させていた場合は、サービスを開始させます。
- 4. 旧リポジトリの共有設定を解除し、新リポジトリに対してファイル共有設定を行います。
- 5. [Setup]画面の左側で [プロファイル適用動作設定] をクリックし、設定を変更します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

6. [Setup]画面の左側で [データインポート実行] をクリックし、[適用] を実施します。